

食品栄養科学科シラバス
(講義概要)

平成 30 年度
(2018 年度)

大阪市立大学生活科学部

○科目ナンバリングの見方

桁目	1	2	3	4	5	6	7	8	9
項目	提供学部	提供学科等	科目分野			学習段階	対象学年	分野内連番	
共通	H:生科	X:3学科共通	FIR:初年次教育			1:基礎・入門レベル (概論, 予備知識なしで受講可能)	1:1年次以上	0	1
食品	H:生科	A:食品	R:必修 (Required) E:選択 (Elective) FIR:初年次教育 ACA:卒業論文・卒論関係	1: 管栄必修 2: 管栄必修+ 教免(家庭) 3: 教免(栄) 4: その他	L:講義 E:実験 P:実習 F:臨地実習 S:セミナー	1:基礎・入門レベル (概論, 予備知識なしで受講可能) 2:応用・中級レベル (専門科目のI, 予備知識必要) 3:発展・上級レベル (専門科目のII, 中級レベルの科目の知識が必要) 4:高度・難関レベル (卒論や高度な選択専門科目など, 総合的な知識, 学力が必要)	1:1年次以上 2:2年次以上 3:3年次以上 4:4年次以上	0 : 1 :	
QOL	H:生科	Q:QOL	<中核科目> LEC:講義 PRA:演習 <関連科目> R:必修 (Required) E:選択 (Elective) FN:食品提供科目 (Food Nutrition) EN:居住提供科目 (environment) WE:人福提供科目 (welfare)				1:基礎・入門レベル (概論, 予備知識なしで受講可能) 2:応用・中級レベル (専門科目のI, 予備知識必要) 3:発展・上級レベル (専門科目のII, 中級レベルの科目の知識が必要) 4:高度・難関レベル (卒論や高度な選択専門科目など, 総合的な知識, 学力が必要)	1:1年次以上 2:2年次以上 3:3年次以上 4:4年次以上	0 : 1 :
教職	K:教職関係	H:生科提供 K:教職科目	M:家庭経営学 C:被服学 F:食物学 H:住居学 N:保育学 PRA:教育実習 SEM:実践演習 GUI:ガイダンス	科目名英訳の略		1:基礎・入門レベル (概論, 予備知識なしで受講可能) 2:応用・中級レベル (専門科目のI, 予備知識必要) 3:発展・上級レベル (専門科目のII, 中級レベルの科目の知識が必要) 4:高度・難関レベル (卒論や高度な選択専門科目など, 総合的な知識, 学力が必要)	1:1年次以上 2:2年次以上 3:3年次以上 4:4年次以上	0 : 1 :	

食品栄養科学科シラバス目次

ページ	授 業 科 目	担当者	科目No.
1	食品基礎化学	増田	H A R 4 L 1 1 0 1
2	食品有機化学	増田	H A R 1 L 1 1 0 1
3	解剖生理学	羽生	H A R 1 L 2 2 0 1
4	生化学 I	市川	H A R 1 L 2 2 0 2
6	生化学 II	佐伯	H A R 1 L 2 2 0 3
7	栄養生理学	佐伯	H A R 1 L 3 3 0 1
8	分子栄養学	(山地)	H A E 1 L 3 3 0 1
9	微生物学	金・中台	H A R 2 L 1 1 0 1
10	食品栄養科学概論	全教員	H A F I R 1 1 0 1
11	食品機能化学	増田	H A R 2 L 2 2 0 1
12	調理科学	(山下)	H A E 1 L 2 2 0 1
13	食品衛生学	中台・古澤	H A E 2 L 2 2 0 1
14	公衆衛生学	中台・(米本)	H A R 1 L 1 1 0 2
15	病態生理学	羽生	H A R 1 L 2 2 0 4
16	生体防御学	中台	H A E 1 L 2 2 0 2
17	社会保健学	(那須)・(木村)・(久藤)	H A E 1 L 2 2 0 3
18	栄養生命情報学	金	H A E 2 L 2 2 0 2
19	食品学	(栢野)	H A R 2 L 2 2 0 2
20	食品プロセス科学	小島	H A R 4 L 2 2 0 1
21	調理学実習	(山口静)	H A R 2 P 2 2 0 1
23	応用栄養学 I	福村	H A R 2 L 1 1 0 2
24	応用栄養学 II	福村	H A R 2 L 3 3 0 1
25	応用栄養学 III	小島	H A R 2 L 3 3 0 2
26	応用栄養学実習	福村	H A R 2 P 3 3 0 1
27	栄養教育プログラミング論	早見・(宇佐見)	H A R 1 L 3 3 0 2
28	栄養教育カウンセリング論	上田由・早見	H A E 1 L 3 3 0 2
29	栄養教育論実習 I	早見・(宇佐見)	H A E 1 P 3 3 0 1
30	栄養教育論実習 II	早見・(金田)	H A E 1 P 3 3 0 2
31	食品栄養情報学	古澤・早見	H A E 1 L 2 2 0 4

ページ	授 業 科 目	担当者	科目No.
32	臨床栄養学Ⅰ	羽生	H A R 2 L 3 3 0 3
33	臨床栄養学Ⅱ	安井	H A R 2 L 3 3 0 4
34	臨床栄養学実習	安井・(竹山)・(萩原)	H A E 1 P 3 3 0 3
35	臨床栄養アセスメント実習	安井	H A E 1 F 4 4 0 1
36	臨床栄養ベッドサイド実習	安井	H A E 1 F 4 4 0 2
37	病態栄養学Ⅰ	小島	H A R 2 L 2 2 0 3
38	病態栄養学Ⅱ	安井	H A R 2 L 3 3 0 5
39	公衆栄養学Ⅰ	由田	H A R 1 L 3 3 0 3
40	公衆栄養学Ⅱ	由田・(荒井)	H A E 2 L 3 3 0 1
41	公衆栄養学実習Ⅰ	由田・福村	H A E 2 P 3 3 0 1
42	公衆栄養学実習Ⅱ	由田・(諸岡)	H A E 1 P 3 3 0 4
43	公衆栄養臨地実習	由田・福村	H A E 1 F 4 4 0 3
44	給食経営管理論Ⅰ	(尾立)	H A E 1 L 3 3 0 3
45	給食経営管理論Ⅱ	上田由・(萩)	H A R 1 L 3 3 0 4
46	給食経営管理実習	上田由	H A E 1 P 3 3 0 5
47	給食経営管理臨地実習	上田由	H A E 1 F 3 3 0 1
48	学校栄養教育論	上田由・小島 福村・早見・ (森)・(宮本)	H A E 3 L 3 3 0 1
49	学校栄養教育実践論	(藤本)・(日下) (森)・(永井)	H A E 3 L 3 3 0 2
50	微生物学実験	金	H A R 1 E 3 3 0 1
51	解剖生理学実験	羽生・佐伯・金	H A R 1 E 3 3 0 2
52	生化学実験	市川	H A R 1 E 3 3 0 3
54	公衆衛生学実験	中台・西川	H A R 1 E 3 3 0 4
55	食品学実験	増田	H A R 2 E 3 3 0 1
56	食品衛生学実験	古澤	H A R 2 E 3 3 0 2
57	食品加工学実験	(秋山)	H A R 1 E 3 3 0 5
58	栄養科学実験	小島	H A R 2 E 3 3 0 3
59	栄養生理学実験	佐伯・金	H A R 2 E 3 3 0 4
60	総合演習	福村・由田・小島 上田由・安井・早見	H A E 1 S 4 4 0 1

教職関係科目シラバス目次

ページ	授 業 科 目	担当者	科目No.
61	家庭科教育法Ⅰ	(北村)	K H H O M 2 2 0 1
62	家庭科教育法Ⅱ	(北村)	K H H O M 2 2 0 2
63	家庭科教育法Ⅲ	(吉井)	K H H O M 2 2 0 3
64	家庭科教育法Ⅳ	(吉井)	K H H O M 2 2 0 4
65	生徒指導論	(松本訓)	K H S T U 2 2 0 1
66	被服学概論	(村田)	K H C C S 2 2 0 1
67	被服構成学	(村田)	K H C C C 2 2 0 1
68	食物学Ⅰ	市川	K H F F S 1 1 0 1
69	食物学Ⅱ	(的場)	K H F F S 1 1 0 2
70	調理実習	小島・(佐伯)	K H F F P 2 2 0 1
71	住居学概論	永村・森・小伊藤	K H H I H 1 1 0 1
72	保育学	(堀)	K H N C S 2 2 0 1
73	学校栄養教育実習	上田由・他 文学部教員	K K P R A 4 4 0 3
74	教職実践演習(栄養教諭)	小島・上田由・他 文学部教員	K K S E M 4 4 0 2
75	教育実習事前事後指導(栄養教諭)	上田由・他 文学部教員	K H P R A 4 4 0 4

QOLプロモーター養成関係科目シラバス目次

ページ	授 業 科 目	担当者	科目No.
77	QOLプロモーション	所・西川・清水・堀口 早見・小池・鶴川	H Q L E C 1 1 0 1
78	QOLプロモーション演習Ⅰ	所・小池・西川・早見	H Q P R A 1 1 0 1
79	QOLプロモーション演習Ⅱ	所・小池・西川・早見	H Q P R A 2 2 0 1

上記以外の関連科目シラバスは

QOLプロモーション履修者に別途配付する。



食品栄養科学科シラバス

科目名：食品基礎化学（平成29年度以降入学者対象）

英語表記：Foundation of Chemistry for Food Science

担当教員：増田 俊哉

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：1年後期

科目ナンバリング：HAR4L1101

当学科・コース学生以外の受講：可（要相談）

授業の到達目標：食品成分を理解するに当たって必要な物質科学の基礎事項を学ぶ。

科目の主題：高等学校の化学を修得していることを前提に、食品成分の理解につながる有機化学の基礎事項を講義し、次期食品有機化学の講義に繋げる。

授業内容・授業計画：テキストにしたがって、スライドを用いて講義する。

回	テーマ	概要
1	講義の説明	講義の意義，学修方法，評価方法，予習レポートの書き方
2	一般化学の復習	結合と電気陰性度
3	電子構造と結合	軌道の混成
4	酸と塩基-1	一般化学の範囲の酸塩基の概念を有機化合物まで拡張
5	酸と塩基-2	有機化学反応を考える上での酸塩基概念
6	アルカン-1	構造，IUPAC命名，性質
7	アルカン-2	立体配置，立体配座
8	立体異性体-1	構造異性体，立体異性体，エナンチオマー
9	立体異性体-2	E, Z, R, S 命名
10	アルケン-1	構造，IUPAC命名，性質
11	アルケン-2	求電子付加反応
12	アルキン	構造と反応
13	非局在化	非局在化，共鳴
14	芳香族性	芳香族の性質と反応
15	ハロゲン化アルキル	置換，脱離反応の紹介

事前・事後学習の内容：事前にテキストを読み1章単位で予習レポートを作成すること。

事後は確認テストに向けて章内，章末問題を解いておくこと。

（教員室前の解答集を参考にできます。）

評価方法：予習レポート，確認テスト結果等を総合的に評価する。

教材：ブルース有機化学概説第3版（大船ら訳，化学同人）（必ず購入持参のこと）

受講生へのコメント：この講義は，次期以降の食品有機化学，食品機能化学につながる必修講義です。

化学の苦手な人は，推薦参考書を併せて勉強することを薦めます。

備考：推薦参考書 一般化学（芝原，斉藤著，化学同人）

科目名：食品有機化学

英語表記：Food Organic Chemistry/Organic Chemistry

担当教員：増田^{マスダ}俊哉^{トシヤ}

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：2年前期

科目ナンバリング：HAR1L1101

当学科・コース学生以外の受講：可（但し、40名以内まで。また食品基礎化学未履修者は不可）

授業の到達目標：本講義は、食品学、栄養学を学ぶ上で必須で、かつ食品成分に密接に関係する有機化合物を念頭におきながら、有機化学・生物化学の基礎事項を講義する。

科目の主題：本講義では、まず有機化学の基礎となる有機化合物群の構造、結合、命名法と有機化学反応の特徴などを説明して行く。

授業内容・授業計画：講義は基本的に教科書に沿ってスライドまたは板書で講義します。

回	テーマ	概要
1	続ハロゲン化アルキル-1	SN1, SN2反応
2	続ハロゲン化アルキル-2	E1, E2反応
3	アルコール, エーテル類	性質と求核置換, 脱離反応
4	構造決定-1	MSとIR
5	構造決定-2	NMR
6	カルボン酸	性質と反応
7	カルボン酸誘導体	性質と反応
8	アルデヒド	性質と反応
9	ケトン	性質と反応
10	カルボニル α 位の反応	アルドール型反応（縮合反応）
11	糖質	単糖の化学
12	糖質	オリゴ糖の化学
13	タンパク質	アミノ酸の化学
14	タンパク質	ペプチド・タンパク質の化学
15	脂質	中性脂肪, リン脂質の化学

事前・事後学習の内容：事前学習は章単位の予習レポートを作成してください。事後学習は、テキストの章内、章末問題を解いておいてください。（教員室前にある解答集を参考にしてください）

評価方法：予習レポートと確認テストで評価します。

教材：ブルース 有機化学概説第3版（化学同人）。

受講生へのコメント：この食品有機化学は、食品基礎化学及び共通教育の化学系科目の内容を復習しながら、次年度の食品機能化学につなげる講義です。

備考：

科目名：解剖生理学

英語表記：Anatomy and Physiology

担当教員：羽生 ^{ハフ} ^{ダイキ} 大記

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・2年前期

科目ナンバリング：HAR1L2201

当学科・コース学生以外の受講：可（但し、履修者が40名を超える場合は受講できない）

授業の到達目標：解剖学及び生理学は医学の基礎中の基礎学問である。正常人体の形態と機能を有機的に結び付けて学習し、病気を理解する上で欠くべからざる基礎的学識を習得する。

科目の主題：消化器系、循環器系など、基本的に1時間ごとに1器官系完結で進める。

授業内容・授業計画：教科書

回	テーマ	概要
1	解剖学、生理学の基礎	解剖、生理の用語、基本的事象の概説
2	細胞と組織	人体細胞の基本的構造と機能
3	皮膚と膜	各種器官系の解剖と生理機能の概説
4	血液系	各種器官系の解剖と生理機能の概説
5	循環器系	各種器官系の解剖と生理機能の概説
6	呼吸器系	各種器官系の解剖と生理機能の概説
7	消化器系	各種器官系の解剖と生理機能の概説
8	泌尿器系	各種器官系の解剖と生理機能の概説
9	内分泌系	各種器官系の解剖と生理機能の概説
10	生殖器系	各種器官系の解剖と生理機能の概説
11	筋・骨格系	各種器官系の解剖と生理機能の概説
12	神経系	各種器官系の解剖と生理機能の概説
13	感覚器系	各種器官系の解剖と生理機能の概説
14	免疫系	各種器官系の解剖と生理機能の概説
15	臓器連関	各臓器系連関の理解と学力確認

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：主にテスト（出席率、理解度を問うレポートも考慮する場合もあり）

教材：履修前に公表するので、授業開始日に間に合うよう購入して下さい。

受講生へのコメント：解剖と生理は、医学知識の初めの第1歩です。臨床系の授業に比べて退屈かもしれませんが、国家試験にも重要な部分を占めるので、しっかり履修してください。

備考：

科目名：生化学 I

英語表記：Biochemistry I

担当教員：市川 直樹

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・2年前期

科目ナンバリング：HAR1L2202

当学科・コース学生以外の受講：可（但し、履修者が40名を超える場合は受講できない）

授業の到達目標：人の体の健康は細胞の中で行われるためさまざまな化学反応の進行（すなわち代謝）によって維持されている。この講義では、このような代謝の過程と、人体を構成する高分子の構造、機能を理解することを目的とする。

科目の主題：この講義では、まず、生化学の基礎となる細胞と生体高分子（タンパク質、核酸、脂質など）の構造、性質について学ぶ。つづいて、人の体に備わる代謝経路のうち、エネルギー産生系（解糖系、酸化的リン酸化系）をとりあげ、説明する。

授業内容・授業計画：テーマごとに作成したプリントを使用して説明する。

回	テーマ	概要
1	生化学とは	生化学で学ぶ内容、体と食べ物を作る高分子、代謝（同化と異化）など
2	細胞の構造	真核細胞と原核細胞、オルガネラ（細胞内小器官）の種類と機能、他
3	アミノ酸	アミノ酸とは（ α アミノ酸、DL異性体）、タンパク質を構成する20種類のアミノ酸の構造と性質、必須アミノ酸、うま味を示すアミノ酸、他
4	タンパク質	タンパク質の構造（ペプチド結合、一次構造～四次構造、 α ヘリックス、 β シート）、タンパク質の高次構造形成に必要な「弱い」結合など
5	核酸の構造（ヌクレオチド）	ヌクレオチドの構造、プリン塩基とピリミジン塩基、ATPもヌクレオチド、うま味を示すヌクレオチド、プリン体の代謝と疾病、他
6	核酸の構造（DNAとRNA）	リン酸ジエステル結合、DNAとRNAの構造、シャルガフの法則、ヌクレオソームと染色体、発がん物質とDNA、がん遺伝子、他
7	核酸の基本的な性質	核酸の紫外線吸収特性、DNAの変性とアニール、濃色効果、 T_m 、ハイブリダイゼーション、他
8	脂質	飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸の構造と融点の違い、脂質の構造（トリアシルグリセロール、ろう、リン脂質）、他
9	リン脂質と生体膜	生体膜の構成成分、コレステロールの生理的役割、生体膜を介した物質輸送（能動輸送、促進拡散）と小腸でのグルコース吸収のしくみ、など
10	エネルギー代謝の基礎	エネルギーの元になる栄養素、ATP回路、ATPを使って行われる生命活動、骨格筋の構造と収縮の仕組み、など
11	ATP合成の仕組み	ATPを作る2つの仕組み（解糖系と酸化的リン酸化）、高エネルギーリン酸結合の転移反応とクレアチンリン酸、2つのATP合成系の使い分け、他

1 2	解糖系 (その1)	グルコースの細胞内への捕捉、解糖を行う10段階の化学反応、解糖系の駆動に必要な補酵素とビタミン、他
1 3	解糖系 (その2)	NAD ⁺ を補酵素とする糖の酸化、「基質レベルのリン酸化」とは何か?、2つのNAD ⁺ 再生経路、他
1 4	T C A回路	糖をTCA回路へ送るために必要な補酵素とビタミン、チオエステル結合とクエン酸合成、TCA回路- 脱水素による酸化、基質レベルのリン酸化、他
1 5	電子伝達系と試験	ミトコンドリアの構造、電子伝達系と化学浸透圧説、ATP合成酵素、などと試験

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：定期試験で評価する。

教材：【参考書】「シンプル生化学」（南江堂）、コーン・スタンプ「生化学」（東京化学同人）、レーニンジャー「新生化学」（廣川書店）、ボルティモア・ダーネル「分子細胞生物学」（東京化学同人）、リップニコットシリーズ イラストレイテッド生化学（丸善株式会社）などを参考にしてください（図書館にあります）。

受講生へのコメント：栄養素の体の中での働きを理解するのに生化学の知識はとても重要です。しっかり勉強しましょう。

科目名：生化学 II

英語表記：Biochemistry II

担当教員：佐伯^{サエキ} 茂^{シゲル}

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成 30 年度・2 年後期

科目ナンバリング：HAR1L2203

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：生化学は食品栄養学の根幹をなす、非常に重要な学問です。食品や栄養素の生理作用を理解する上で、様々な疾患の発症原因を考える上で、生化学の知識は必須です。生化学 II では、生化学 I に引き続き、生体内の巧妙な代謝機構について学びます。

科目の主題：生化学 I、生化学 II、栄養生理、学分子栄養学の講義は、内容の連続した授業です。生化学 II では、糖質代謝、脂質代謝、窒素代謝、について学びます。

授業内容・授業計画：教科書と補助のプリントを用いて説明する。

回	テーマ	概要
1	糖質代謝1	糖新生
2	糖質代謝2	グリコーゲンの代謝
3	糖質代謝3	単糖と二糖の代謝
4	糖質代謝4	ペントースリン酸経路
5	糖質代謝5	運動との関わり
6	脂質代謝1	食事由来脂質の代謝
7	脂質代謝2	脂肪酸とトリアシルグリセロールの代謝
8	脂質代謝3	リポ蛋白質代謝
9	脂質代謝4	コレステロール代謝
10	脂質代謝5	ステロイド代謝
11	蛋白質代謝1	蛋白質の分解
12	蛋白質代謝2	アミノ酸の異化
13	蛋白質代謝3	蛋白質の代謝回転
14	窒素代謝4	アミノ酸と糖質代謝
15	総括	これまでの授業内容を総括し、確認テストを実施する

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：主として定期試験で評価するが、レポート・出席態度・出席状況も加味して総合評価する。

教材：リップンコットシリーズ イラストレイテッド生化学（丸善株式会社）

マッキー生化学（化学同人）

分子栄養学、金本龍平編（化学同人）

生活習慣病の分子生物学（三共出版）

ワトソン・組換え DNA の分子生物学（丸善株式会社）

分子細胞生物学（東京化学同人）

受講生へのコメント：暗記するのではなく、理解して下さい。

科目名：栄養生理学

英語表記：Nutrition and Metabolism

担当教員：佐伯 茂^{サエキ シンゲル}

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・3年前期

科目ナンバリング：HAR1L3301

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：本講義では、栄養素の生体内での代謝と機能を総合的に理解することを目的とする。

科目の主題：生化学Ⅰ、生化学Ⅱ、栄養生理学、分子栄養学の講義は、内容の連続した授業です。本講義では、栄養素の生体内での代謝、生体に対する機能とそのメカニズムを学ぶ。

授業内容・授業計画：テキストに沿って行い、必要に応じてプリントを配布する。

回	テーマ	概要
1	糖質1	糖質の消化・吸収、
2	糖質2	グルコース代謝、血糖値のホメオスタシス
3	糖質3	炭水化物による遺伝子発現
4	脂質1	脂質の消化・吸収
5	脂質2	コレステロールの吸収
6	脂質3	核内転写因子によるコレステロール・脂質代謝調節
7	蛋白質1	蛋白質の消化・吸収
8	蛋白質2	蛋白質の栄養価
9	蛋白質3	蛋白質摂取による情報伝達
10	ビタミン	ビタミンの代謝
11	ミネラル	ミネラルの代謝
12	肥満1	肥満と肥満症、メタボリック症候群と内臓脂肪蓄積
13	肥満2	ディポサイトカイン、脂肪細胞の分化と肥大、遺伝子多型
14	摂食調節	満腹中枢と摂食中枢、神経内分泌系による摂食制御
15	総括	これまでの授業内容を総括し、確認テストを実施する

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：主として定期試験で評価するが、レポート・出席態度・出席状況も加味して総合評価する。

教材：リップンコットシリーズ イラストレイテッド生化学（丸善株式会社）

マッキー生化学（化学同人）

分子栄養学、金本龍平編（化学同人）

生活習慣病の分子生物学（三共出版）

ワトソン・組換えDNAの分子生物学（丸善株式会社）

分子細胞生物学（東京化学同人）

受講生へのコメント：

備考：生化学Ⅰ、生化学Ⅱ、栄養生理学、分子栄養学の講義は、内容の連続した授業です。また、食品学、食品機能化学もしっかり学習してください。

科目名：分子栄養学

英語表記：Molecular and Biochemical Nutrition

担当教員：(山^{ヤマジ}地^{リョウイチ} 亮一)

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・3年後期

科目ナンバリング：HAE1L3301

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：分子生物学の発達により、生命科学は急速な進歩を遂げ、栄養学も大きく変化しようとしている。本講義では、最新栄養学を理解するための分子生物学と分子栄養学を学ぶ。

科目の主題：生化学Ⅰ、生化学Ⅱ、栄養生理学、分子栄養学の4講義は、内容の連続した講義です。分子栄養学を理解するには、生化学Ⅰ、生化学Ⅱ、栄養生理学を充分理解していることが求められます。

授業内容・授業計画：テキストや補助プリントを用いて説明する。

回	テーマ	概要
1	細胞	細胞の構造と機能
2	タンパク質	タンパク質の構造と機能
3	DNA	DNAの構造と機能
4	染色体	染色体の構造と機能
5	DNAからタンパク質1	転写・翻訳・スプライシング
6	DNAからタンパク質2	タンパク質の合成・分解
7	遺伝子発現1	遺伝子発現の調節
8	遺伝子発現2	遺伝子発現の転写後調節
9	細胞膜1	細胞膜の構造
10	細胞膜2	膜輸送
11	細胞内輸送1	輸送機構1
12	細胞内輸送2	輸送機構2
13	細胞内シグナル伝達1	伝達機構1
14	細胞内シグナル伝達2	伝達機構2
15	総括	総括

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：レポート、試験、出席状況などにより総合的に判断する。

教材：Essential 細胞生物学（南江堂）

分子細胞生物学（東京化学同人）

ワトソン・組換え DNA の分子生物学（丸善株式会社）

受講生へのコメント：

備考：

科目名：微生物学

英語表記：Introductory Microbiology

担当教員：金 東浩・中台 枝里子

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・2年前期

科目ナンバリング：HAR2L1101

当学科・コース学生以外の受講：可（但し、履修者が40名を超える場合は受講できない）

授業の到達目標：食と健康の専門家たる管理栄養士は、病原微生物に関する知識と対策、摂取した細菌や体内に常在する細菌叢が健康に影響する機構を理解しておく必要がある。また、有用な微生物群を用いて古くから製造されてきた様々な発酵食品についての知識も求められる。これら、「健康と食と微生物」の基礎知識を修得する。

科目の主題：微生物の分類、形態、生理を学び発酵食品の製造における微生物の役割を理解できるようにする。さらに、プロバイオティクスなど体内で有益な効果をもたらす細菌や常在菌が健康に与える影響についても学修する。次に一般的な感染症、食中毒に関わる病原微生物について、その検査法、疫学、病原機構、予防を系統的に学ぶ。

授業内容・授業計画：講義は基本的に教科書に沿って行い、必要に応じてプリントを配布する。

回	テーマ	概要
1	生命誕生の歴史	生命誕生の歴史を解説し、生命体としての微生物の位置付けについて解説する
2	微生物学のアウトライン	微生物学の概念や研究方法がどう発達してきたかについて解説する
3	細菌	細菌について解説する
4	ウイルス	ウイルスについて解説する
5	真菌、原虫	真菌、原虫について解説する
6	微生物の生理	微生物の生育と代謝について解説する
7	発酵食品関連微生物	発酵食品の製造に関わる微生物の種類とその製造過程について解説する
8	分子生物学における微生物	分子生物学における微生物の利用と応用について解説する
9	微生物の感染	微生物の感染による主な感染症について解説する
10	滅菌と消毒	微生物の感染に対する滅菌と消毒について解説する
11	感染症の予防と化学療法	感染症の予防法と対策について解説する
12	食中毒を引き起こす細菌	食中毒を引き起こす細菌の詳しい性質とその予防について解説する
13	食中毒を引き起こすウイルスや寄生虫など	食中毒を引き起こすウイルスや寄生虫などの詳しい性質とその予防について解説する
14	免疫学入門 I	細菌に関連した免疫学の初歩を解説する
15	免疫学入門 II	ウイルスや真菌、寄生虫などに関連した免疫学の初歩を解説する

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：定期試験

教材：微生物学、南嶋 洋一・吉田 眞一・永淵 正法、医学書院

受講生へのコメント：この講義を通じて、微生物を生活の中で身近に感じることができるよう学習してください。

備考：

科目名：食品栄養科学概論

英語表記：Introduction to Food and Nutritional Science

担当教員：中台 枝里子・佐伯 茂・増田 俊哉・西川 禎一・羽生 大記・由田 克士
市川 直樹・古澤 直人・小島 明子・金 東浩・上田 由喜子・安井 洋子
福村 智恵・早見 直美

授業形態：講義及び演習

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・1年前期

科目ナンバリング：HAFIR1101

当学科・コース学生以外の受講：可（但し、履修者が40名を超える場合は受講できない）

授業の到達目標：受講生が自らの考えを体系的かつ理論的に示すことを通じて、大学での学びの基盤となる力を身につけたことを主目的としている。また、与えられたテーマについて、受講生自らが考え、まとめ、適切かつ効果的に伝えることができることを目標とする。

- 科目の主題：1. 自分の意見や考え等を適切に表現できる
2. 与えられたテーマについて、受講生各自が自分なりに考え、まとめ、伝えることができる
3. 考察のために必要な資料・情報を、図書館やデータベース等を利用して自分で見つけ出すことができる
4. 学んだことを必要な資料・情報等を盛り込みながらレポートとして報告することができる
5. 自分の意見や考えを効果的にプレゼンテーションすることができる

授業内容・授業計画：講義

回	概要
1	OPAC 文献検索講習
2	「生命科学としての食品栄養科学」について考える
3	研究倫理、実験ノート作成のための基礎知識
4	レポート作成のための基礎知識
5	「これからの食品栄養科学に求められるもの」について考える
6	グループ別にテーマ設定・調査
7	調査・レポート作成実践
8	レポート作成実践
9	レポート作成まとめ
10	専門職としての「管理栄養士」のすがた
11	グループ別にテーマ設定・調査
12	調査・発表資料作成
13	プレゼンテーション実践1
14	プレゼンテーション実践2
15	総括

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：レポート 40%

プレゼンテーション 40%

参加態度等 20%

教材：適宜、指示する。

受講生へのコメント：

備考：

科 目 名 : 食品機能化学 (平成29年度入学生以降)

英 語 表 記 : Food Chemistry

担 当 教 員 : 増田 俊哉
マスタ トシヤ

授 業 形 態 : 講 義

単 位 数 : 2 単 位

開 講 年 度 ・ 学 期 : 平 成 30 年 度 ・ 2 年 後 期

科 目 ナンバリング : HAR2L2201

当 学 科 ・ コー ス 学 生 以 外 の 受 講 : 可 (但 し、履 修 者 が 40 名 を 超 え る 場 合 は 受 講 で き な い)

授 業 の 到 達 目 標 : 食 品 に 特 徴 的 な 含 有 成 分 を 中 心 に、そ の 化 学 構 造 や 性 質、ま た 食 品 特 有 な 成 分 間 反 応 な ど を 理 解 さ せ る。

科 目 の 主 題 : 食 品 基 礎 化 学、食 品 有 機 化 学 を 修 得 し て い る こ と を 前 提 に、さ ら に 複 雑 な 食 品 成 分 の 構 造 や 性 質、化 学 反 応 を 説 明 す る。

授 業 内 容 ・ 授 業 計 画 : テ キ ス ト に し た が い、主 に ス ラ イ ド で 講 義 す る。

回	テ ー マ	概 要
1	受講あたって	食品とは。食品成分表と成分分析法
2	主成分I	食品中の水分
3	主成分II	糖誘導体と多糖類
4	主成分III	油脂の性質、食品の主要タンパク質の性質
5	微量成分I	ビタミン、ミネラル
6	微量成分II	色素成分
7	微量成分III	呈味成分
8	微量成分IV	香気成分
9	食品成分の変化I	脂質の酸化
10	食品成分の変化II	酸化防止
11	食品成分の変化III	非酵素的着色反応
12	食品成分の変化IV	アミノカルボニル反応、香気生成、カラメリゼーション
13	食品成分の変化V	酵素による色・味・香の変化
14	食品の物性変化I	多糖の変化
15	食品の物性変化II	脂肪の乳化

事 前 ・ 事 後 学 習 : 授 業 中 に 指 示 す る。な お、次 の 授 業 の 分 の テ キ ス ト は 事 前 に 読 ん で お く の が 望 ま し い。

評 価 方 法 : 修 得 確 認 試 験 の 結 果 に 毎 回 の 小 テ ス ト (ク イ ズ) の 提 出 状 況 を 加 味 し て 総 合 評 価 す る。

教 材 : 教 科 書 : 新 訂 食 品 の 機 能 化 学 (宮 澤、五 十 嵐、ア イ ケ イ コー ボ)

参 考 書 : N E X T 食 品 学 総 論 第 3 版 (辻 ら 編、講 談 社) [管 理 栄 養 士 国 家 試 験 自 習 用]
ブ ル ー ス 有 機 化 学 概 説 第 3 版 (大 船 ら 訳、化 学 同 人)

受 講 生 へ の コ メ ン ト : こ の 講 義 は、食 品 学 と も 連 携 し た 講 義 で す。必 ず 修 得 の こ と。

備 考 :

科目名：調理科学

英語表記：Cooking Science

担当教員：(山下 ヤマシタ マチコ 満智子)

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・2年（平成23年度以降入学者）後期

科目ナンバリング：HAE1L2201

当学科・コース学生以外の受講：可（但し、履修者が40名を超える場合は受講できない）

授業の到達目標：「所変われば品変わる」ように、食材が同じでも、民族、地域、風土の違い、また調理法の違いによっては全く異なる料理ができあがる。調理はカルチャーであり、サイエンスでもある。食材の栄養特性を引き出すため、また食材のおいしさを引き出すため、あるいは消化吸収されやすくするための技術について、その基本となる科学的裏付けを学ぶ。高齢者・咀嚼・嚥下困難者にもおいしくて安全な食べ物を提供できる科学的基礎を学習する。

科目の主題：調理の目的、加熱調理操作（焼く、炊く・蒸す、煮る・ゆでる、揚げる・炒める、電子レンジ加熱）、非加熱調理操作（洗浄、浸漬、切る、砕く、混ぜる、和える、など）、食材の調理科学、調理機器、調理と環境との関わりなどについて学ぶ。

授業内容・授業計画：講義を主とし、必要に応じてプリントを配布する。

回	テーマ	概要
1	食調理の概念	調理の意義と目的。調理と調理科学
2	調理における熱移動I	熱容量
3	調理における熱移動II	熱伝導
4	調理操作I	焼く、炊く・蒸す、煮る・ゆでる、揚げる・炒める
5	調理操作II	電子レンジ加熱洗浄、浸漬、切る、砕く、混ぜる、和える
6	調味操作の基礎I	調味料の拡散、フレーバーリリース
7	調味操作の基礎II	調味料・香気成分と食品構成要素との相互作用
8	食品の調理特性I	米、小麦、イモ類、豆類、野菜類の調理特性
9	食品の調理特性II	肉の調理特性、魚の調理特性
10	食品の調理特性III	卵の調理特性、牛乳の調理特性
11	咀嚼・嚥下困難者食	咀嚼・嚥下と食品のテクスチャー
12	調理機器と器具	熱源、調理器具
13	調理と環境	食の安全と調理、調理と環境問題
14	和食の歴史と文化	食の安全と調理、調理と環境問題
15	総括	これまでの授業内容を総括し、確認テストを実施する

事前・事後学習の内容：毎回の授業時に指示する。

評価方法：試験

教材：「調理学」（新スタンダード利用・食物シリーズ6）東京化学同人

受講生へのコメント：食品プロセス科学、食品学などに関連づけて学習してほしい。

備考：参考書 日本化学会編「身近な現象の化学 Part 2 台所の化学」（培風館）、川端晶子「調理のサイエンス」（柴田書店）、Peter Barham 渡辺正・久村典子訳「料理のわざを科学する」（丸善）

（オフィスアワー） 随時

科目名：食品衛生学

英語表記：Food Hygiene

担当教員：中台 ^{ナカダイ} 枝里子・古澤 ^{フルサワ} 直人 ^{ナオト}

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・2年後期

科目ナンバリング：HAE2L2201

当学科・コース学生以外の受講：可（但し、履修者が40名を超える場合は受講できない）

授業の到達目標：食品の美味しさや栄養あるいは生理調節機能の探求と利用は、その前提条件である安全性が確保されて初めて可能になる。食と健康の専門家として管理栄養士に求められる「食の安全性」確保のための基礎知識を修得する。

科目の主題：食材や食品を、生産・加工・保存・流通・調理する諸過程に存在するリスクについて詳細に説明し、どうすれば管理栄養士として安全な食べ物を確保することができるのか、その理論と方法を理解できるようにする。

授業内容・授業計画：講義は基本的に教科書に沿って行い、必要に応じてプリントを配布する。講義中に適宜問題を提供し、グループ討議による問題解決を課す。

回	テーマ	概要
1	食品衛生と法令	食品衛生行政と食品衛生法の概要
2	食品と微生物	食品に有効利用される微生物
3	食品の変質	食品の腐敗変敗
4	食品の保存	食品の保存方法とその原理
5	食中毒（1）	食中毒の定義、概要、発生状況
6	食中毒（2）	細菌性食中毒
7	食中毒（3）	ウイルス性食中毒、寄生虫による食中毒、自然毒などによる食中毒
8	食中毒（4）	食中毒の原因調査および統計的手法
9	有害物質による汚染（1）	農薬、飼料添加物
10	有害物質による汚染（2）	その他の有害物質
11	食品添加物（1）	食品添加物の役割
12	食品添加物（2）	食品添加物の安全性
13	食品衛生対策（1）	HACCPシステムの概要
14	食品衛生対策（2）	実践的な食品衛生管理
15	総括	まとめ

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：授業中の質疑応答および試験により評価する。

教材：「栄養科学イラストレイテッド 食品衛生学」田崎達明編 羊土社

受講生へのコメント：安全な食事の提供は管理栄養士の重要な責務ですが、実際には病院や学校で多くの食中毒患者が発生しています。安全であってこそその機能性食品であり栄養指導です。食を介した健康被害の予防に必要な知識を修得してください。

備考：

科 目 名 : 公衆衛生学

英 語 表 記 : Public Health

担当教員 : 中台 ^{ナカダイ} 枝里子・(米本 ^{ヨネモト} 直裕 ^{ナオヒロ})

授 業 形 態 : 講 義

単 位 数 : 2 単 位

開講年度・学期 : 平成30年度・1 年後期(平成23年度以降入学者)

科目ナンバリング : HAR1L1102

当学科・コース学生以外の受講 : 可(但し、履修者が40名を超える場合は受講できない)

授業の到達目標 : 人々の疾病を予防し健康の増進を図る公衆衛生学の実践は、社会の組織的な努力を通じて行われる。この組織的責任の一端を担う管理栄養士として必要な疫学的思考方法についての理解を深め、感染症対策や生活習慣病に対する健康管理の施策について学ぶ。

科目の主題 : 公衆衛生の目標を理解し、管理栄養士が果たすべき役割を俯瞰的に考察する。そして、その使命を果たすために必要な疫学的思考を習得する。

授業内容・授業計画 : 講義は基本的に教科書に沿って行い、必要に応じてプリントを配布する。講義中に適宜問題を提供し、グループ討議による問題解決を課す。

回	テ ー マ	概 要
1	公衆衛生学概論	健康、QOL、公衆衛生の概念
2	環境と健康	環境が健康に与える影響
3	統計資料	健康、疾病、行動に関わる統計資料
4	疫学入門	疫学の概念、疫学指標
5	記述疫学	記述疫学の手法
6	分析疫学(1)	コホート研究の手法
7	分析疫学(2)	症例対照研究の手法
8	実験疫学	介入研究の手法
9	スクリーニング	スクリーニングの意義と有効性、精度
10	疫学研究と倫理	インフォームド・コンセント、倫理
11	主要疾患の疫学と対策(1)	概論、がんの現状とその対策
12	主要疾患の疫学と対策(2)	循環器、代謝疾患の現状とその対策
13	主要疾患の疫学と対策(3)	精神・神経疾患の現状とその対策
14	主要疾患の疫学と対策(4)	感染症の現状とその対策
15	まとめ	総括

事前・事後学習の内容 : 毎回の授業で指示する。

評 価 方 法 : 授業中の質疑応答および試験により評価する。

教 材 : 「社会・環境と健康」南江堂

受講生へのコメント : 集団を対象に健康の増進を図る公衆衛生という大局的視点から管理栄養士の役割と使命を理解することが、細分化された専門家になる前の土台を固めることとなります。衛生行政などの公衆衛生学各論については社会保健学で講義されます。

備 考 :

科目名：病態生理学

英語表記：Medical Pathology of Disease

担当教員：羽生 ^{ハブ} ^{ダイキ} 大記

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・2年後期

科目ナンバリング：HARIL2204

当学科・コース学生以外の受講：可（但し、履修者が40名を超える場合は受講できない）

授業の到達目標：各器官系の代表的疾患の病態と治療法の現況を学ぶ

科目の主題：臨床現場で遭遇する頻度の高い疾患に関して、病状、病態を理解出来るようにし、わが国で標準的に行われている治療法に関して概説する。

授業内容・授業計画：教科書

回	テーマ	概要
1	消化器系疾患	代表的疾患の病態と標準的治療の概説（消化管疾患）
2	消化器系疾患	代表的疾患の病態と標準的治療の概説（肝胆膵疾患）
3	代謝系疾患	代表的疾患の病態と標準的治療の概説
4	血液系疾患	代表的疾患の病態と標準的治療の概説
5	循環器系疾患	代表的疾患の病態と標準的治療の概説（虚血性心疾患）
6	循環器系疾患	代表的疾患の病態と標準的治療の概説（その他の循環器疾患）
7	呼吸器系疾患	代表的疾患の病態と標準的治療の概説
8	内分泌系疾患	代表的疾患の病態と標準的治療の概説
9	腎泌尿器系疾患	代表的疾患の病態と標準的治療の概説
10	脳・神経系疾患	代表的疾患の病態と標準的治療の概説（脳血管障害）
11	脳・神経系疾患	代表的疾患の病態と標準的治療の概説（神経変性性疾患）
12	感染症	代表的疾患の病態と標準的治療の概説
13	アレルギー・自己免疫性疾患性疾患	代表的疾患の病態と標準的治療の概説
14	悪性腫瘍	代表的疾患の病態と標準的治療の概説
15	診断・治療総論	診断・治療総論と学力確認

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：主にテスト（出席率、理解度を問うレポートも考慮する場合もあり）

教材：履修前に公表するので、授業開始日に間に合うように購入しておいて下さい。

受講生へのコメント：common diseases の病態を理解することを目的にしています。

備考：

科 目 名 : 生体防御学

英語表記 : Host Defense

担当教員 : 中台 ^{ナカダイ} 枝里子 ^{エリコ}

授業形態 : 講 義

単 位 数 : 2 単位

開講年度・学期 : 平成30年度・2 年前期(平成23年度以降入学者)

科目ナンバリング : HAE1L2202

当学科・コース学生以外の受講 : 可 (但し、履修者が40名を超える場合は受講できない)

授業の到達目標 : 栄養状態が患者の治癒力に大きな影響を及ぼすことが明らかにされてきた。また、現代社会ではアレルギーや自己免疫による難病に悩む人々が数多く見られ、その食事療法において管理栄養士が果たすべき役割も大きくなっている。これらの事象の基礎を理解するために私達の体を防御する機構について、基本的な知識を修得する。

科目の主題 : 我々の体は、皮膚や粘膜で外界からの微生物等の直接的な侵入を防ぎ、それでも侵入してきた場合には自然免疫系が直ちに対応し排除する。自然免疫だけでは対応しきれないときには、適応免疫系を立ち上げ、これを制圧する。本講義では、このような生体防御機構の基本的知識を学び、感染症や癌あるいはアレルギー疾患における生体防御機構の働き、あるいは人のライフスタイルや食品成分が生体防御に及ぼす影響について考察を試みる。

授業内容・授業計画 : 講義は基本的に教科書に沿って行い、必要に応じてプリントを配布する。講義中に適宜問題を提供し、グループ討議による問題解決を課す。

回	テ ー マ	概 要
1	免疫系全体の枠組み (1)	基本的な生体防御機構の概論
2	免疫系全体の枠組み (2)	免疫系の成り立ち
3	感染に対する生体防御 (1)	感染免疫の流れ
4	感染に対する生体防御 (2)	自然免疫の機序
5	感染に対する生体防御 (3)	獲得免疫 (液性免疫)
6	感染に対する生体防御 (4)	獲得免疫 (細胞性免疫)
7	感染に対する生体防御 (5)	免疫系の制御
8	感染に対する生体防御 (6)	感染部位や病原微生物の種類によって異なる免疫のはたらき
9	免疫不全	生体防御機構が正常に機能しない場合に起こる疾患
10	自己免疫	生体防御機構が自身の体に対し反応し始めた場合に起こる疾患
11	アレルギー疾患	アレルギー疾患の成因など
12	個体の識別と移植	輸血と血液型、移植
13	がんと免疫	免疫監視機構、腫瘍抗原、免疫療法
14	食と免疫	食が生体防御機能に及ぼす影響
15	まとめ	まとめ

事前・事後学習の内容 : 毎回の授業で指示する。

評価方法 : 授業中の質疑応答および試験により評価する。

教 材 : 「シンプル免疫学」南江堂

受講生へのコメント : 栄養不足による疾患が少なくなったわが国では、むしろ栄養状態を調整することで生体防御機能を健全に保つことに重心が移りつつあります。その意味では、生体防御学は実践栄養学の理論的根拠の一部とも言えるでしょう。

備 考 :

科目名：社会保健学

科目英文名: System of Social health

担当者：(那須 潤子) (久藤 麻子) (木村 尚史)

種別：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・2年前期集中

科目ナンバリング：HAE1L2203

当学科学生以外の受講：可（但し、履修者が40名を超える場合は受講できない）

講義の目的：管理栄養士として理解しておかなければならない、社会保障の概念、社会保健に関わるさまざまな制度と関連法規について学ぶ。

講義の概要：保健・医療・福祉・介護に関わる概念や制度ならびに関連する法規について、分野ごとに講義をすすめる。

講義方法：講義は基本的に教科書に沿って行い、必要に応じてプリントを配布する。

講義中に適宜問題を提供し、レポートを課すこともある。

授業内容

回	テーマ	概要
1	社会保障の概念	社会保健学で取り扱う内容、社会保障の定義と歴史、公衆衛生と社会保障
2	保健・医療・福祉における行政の仕組み	国、都道府県、市町村の役割、地方自治のしくみ
3	医療制度	医療制度、医療法、医療従事者、医療費、医薬分業
4	社会保険・福祉制度	社会福祉、社会福祉施設、障害者福祉、在宅ケア・訪問介護、福祉関連法規
5	地域保健・母子保健Ⅰ	地域保健活動、保健所、市町村保健センター事者
6	地域保健・母子保健Ⅱ	母子保健事業、母子健康手帳、乳幼児健康診査、育児指導、
7	地域保健・母子保健Ⅲ	新生児マススクリーニング、健やか親子21、少子化対策
8	学校保健	学校保健の概要、学校保健従事者、児童生徒の健康、学校保健対策
9	成人保健Ⅰ	生活習慣病、特定健康診査・特定保健指導
10	成人保健Ⅱ	たばこ対策、アルコール対策
11	高齢者保健・介護Ⅰ	介護予防、地域包括支援センター、要介護認定とケアマネジメント、
12	高齢者保健・介護Ⅱ	介護保険法、高齢者の医療の確保に関する法律
13	産業保健	労働と健康、職業と健康障害、労働災害、産業保健従事者、労働安全衛生対策 健康診断
14	感染症	感染症法、主要な感染症、検疫と予防接種
15	国際保健	我が国の国際協力専門機関、国際的な国際協力専門機関、乳幼児栄養改善

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：出席状況、授業中の質疑応答および試験により評価する。

教科書等：「公衆衛生学」化学同人

備考：

受講生へのコメント：保健・医療・福祉・介護に関わる制度は、実社会のあらゆる場面で必ず関わりを持つことから、この際に十分な理解をしておくことが大切である。

科 目 名：栄養生命情報学

英 語 表 記：Practice in Informatics for Nutrition and Human Life

担 当 教 員：金 東浩

授 業 形 態：講 義・演 習

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・2年前期

科目ナンバリング：HAE2L2202

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：現代の情報化社会において、様々な情報を有効に活用できる能力は必修である。本講義は各種の栄養と生命に関する情報の収集・処理・利用・管理について理解し、栄養生命情報を有効に活用する能力の修得を目的とする。

科目の主題：各種の栄養生命情報を有効に活用する為には、情報処理方法の理解が先決である。本講義では、最初に基本的な統計学を修得し、統計処理アプリケーションを用いたデータ解析を演習する。また、解析した結果を有効に発信する為に配布用アプリケーションや発表用アプリケーションの利用方法を修得・演習する。次に、インターネットを用いて各種の栄養生命情報を収集・情報処理を行い、結果を発表することにより、情報活用の全段階を演習する。最後に、各種の栄養生命情報の管理方法と個人情報の取り扱い方法などの情報倫理に関して理解する。

授業内容・授業計画：講義は資料・プリントを配布し行い、参考図書を紹介する。

回	テ ー マ	概 要
1	栄養生命情報学の概要	本講義・実習の概要
2	基本統計学 I	情報処理方法に基礎知識
3	基本統計学 II	統計アプリケーションの利用方法
4	基本統計学 III	各種アプリケーションの利用方法
5	統計学演習 I	各種統計検定方法の実習
6	統計学演習 II	各種統計検定方法の実習
7	統計学演習 III	各種統計検定方法の実習
8	統計学演習 IV	各種統計検定方法の実習
9	栄養生命情報の収集 I	各種情報データベースの紹介
10	栄養生命情報の収集 II	各種情報データベースの利用方法
11	情報処理 I	情報の加工
12	情報処理 II	配布用資料の作製
13	情報処理 III	発表用のプレゼンテーション作製
14	プレゼンテーション	発表と討論
15	情報管理と情報倫理	情報の管理と倫理について

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：講義・演習中作成したデータファイル及び発表・討論の能力により評価する。

教 材：参考図書は、縄田和満：Excel による統計入門、朝倉書店、
永田靖：入門統計解析法、日科技連出版社、
伊東俊彦：情報リテラシーの応用、近代科学社がある。

受講生へのコメント：パソコンは無知。扱う人間が有知ならば、賢くなれるだろう。

備 考：

科目名：食品学

英語表記：Food Materials Science

担当教員：(栢野^{カヤノ} 新市^{シンイチ})

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・2年後期(平成23年度以降入学者)

科目ナンバリング：HAR2L2202

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：様々な食品の分類とそれぞれの特徴、および含有成分について学び、あわせて個々の食品が持つ生体調節機能についても理解を深める。

科目の主題：食品は、生命を維持するための栄養機能（一次機能）、味や香りなどを感じさせる嗜好機能（二次機能）、および健康を増進する生体調節機能（三次機能）を有している。この講義では様々な食品素材の特徴とともに、これらの機能を発現する含有成分について解説し、食品に関する全般的な知識を身につける。

講義方法：講義は基本的に教科書に沿って行い、必要に応じてプリントを配布する。

授業内容

週	テーマ	概要
1	植物性食品 (1)	穀類
2	植物性食品 (2)	雑穀類、いも類
3	植物性食品 (3)	豆類、種実類
4	植物性食品 (4)	野菜類
5	植物性食品 (5)	果実類、キノコ類、藻類
6	動物性食品 (1)	食肉類
7	動物性食品 (2)	牛乳
8	動物性食品 (3)	卵
9	動物性食品 (4)	魚介類
10	その他の食品 (1)	調味料
11	その他の食品 (2)	香辛料、嗜好飲料
12	その他の食品 (3)	油脂食品
13	その他の食品 (4)	発酵食品
14	食品の表示 (1)	食品表示制度
15	食品の表示 (2)	健康食品

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：試験および受講態度を基準に総合的に評価する。

教材：小西洋太郎、辻英明、渡邊浩幸、細谷圭助編：NEXT食品学各論（第3版）（講談社サイエンティフィック）

備考：食品機能化学、調理科学など関連づけて学習してほしい。

科 目 名：食品プロセス科学

英語表記：Science of Food Processing

担当教員：小島 明子

授業形態：講 義

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・2年後期

科目ナンバリング：HAR4L2201

当学科・コース学生以外の受講：可（但し、履修者が40名を超える場合は受講できない）

授業の到達目標：食品成分による生活習慣病の予防効果とその作用メカニズム、食品成分の相互作用について解説し、食品成分の機能性を深く理解することを目的とする。

科目の主題：食品の機能性のなかでも三次機能（生体調節機能）に焦点をあて、食品成分における生体への効果およびその作用メカニズムについて解説する。また、食品成分の相互作用についても学習する。さらに、機能性食品成分の探索研究を紹介する。

授業内容・授業計画：随時プリントを配付する。

回	テ ー マ	概 要
1	食品の機能 I	食品の機能（一次機能）
2	食品の機能 II	食品の機能（二次機能、三次機能）
3	酸化ストレス I	活性酸素種、フリーラジカル、酸化ストレス
4	酸化ストレス II	活性酸素種産生系システム
5	酸化ストレス III	活性酸素種消去系システム
6	酸化ストレス IV	酸化ストレスのバイオマーカー
7	疾病と酸化ストレス I	生活習慣病（肥満、動脈硬化）と酸化ストレス
8	疾病と酸化ストレス II	生活習慣病（ガン）と酸化ストレス
9	疾病と酸化ストレス III	生活習慣病（肝疾患）と酸化ストレス
10	食品成分の機能性 I	生活習慣病(ガン)を予防する食品成分とその作用メカニズム
11	食品成分の機能性 II	生活習慣病(肥満)を予防する食品成分とその作用メカニズム
12	食品成分の機能性 III	生活習慣病(肝疾患)を予防する食品成分とその作用メカニズム
13	食品成分の機能性 IV	食品成分の相互作用
14	機能性食品成分の探索研究 I	機能性食品成分の評価系について- <i>in vitro</i> 実験系
15	機能性食品成分の探索研究 II	機能性食品成分の評価系について- <i>in vivo</i> 実験系

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：主として定期試験で評価する。

教 材：教科書は用いないが参考書は紹介する。

受講生へのコメント：食品学、栄養学、病態生理学などの分野と深い関連性があります。

備 考：

科目名：調理学実習

英語表記：Food Preparation

担当教員：(山口 ^{ヤマグチ} ^{シズエ} 静枝)

授業形態：実習

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・2年（平成23年度以降入学者）後期

科目ナンバリング：HAR2P2201

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：日本料理、西洋料理、中国料理などの調理を通して、衛生管理、および調理素材である食品の選択法、調理方法、配膳法について調理の基礎を実習するとともに、個々の食品の調理特性について学ぶ。

科目の主題：本実習では、衛生管理、調理器具の種類と取り扱い方、計量、計測法について実習した後、日本料理、西洋料理、中国料理の調理実習を行い、試食をする。

授業内容・授業計画：毎回実習前に必要事項について講義を行い、その後に実習を行う。

回	テーマ	概要
1	日本料理	和食について、炊飯の理論、一番出汁の取り方、野菜のゆで方、洗いゴマの扱い、煎茶の入れ方を学ぶ
2	日本料理	調味の基本、直火で白飯を炊く、実技テスト（だし巻き卵）、白玉粉の扱いなどの調理実習
3	日本料理	箸使い、調理器具の扱い、配ぜん、試食と評価
4	中国料理	中国料理の献立構成、中国料理の読みと意味、中国料理の食材、上湯の取り方、卵の起泡性（高麗、蒸しカステラ）などを学ぶ
5	中国料理	揚げ物、野菜の切り方、蒸し物の扱い、香辛料の使い方などの調理実習
6	中国料理	中国料理のテーブルセッティング、中国茶の入れ方、試食と評価
7	西洋料理	西洋料理の献立構成、牛肉の煮込み（圧力鍋の扱い）、ブラウンルウ、ドウの形成、卵の蒸し料理法などを学ぶ
8	西洋料理	ポタージュスープ、パンの発酵、カラメル、実技テスト（野菜切り方・千切り）などの調理実習
9	西洋料理	洋食器の種類、テーブルセッティング、試食と評価
10	精進料理	精進料理について、典座心得、精進出汁、醤油味御飯の調味と炊き方、天ぷらの揚げ方、あえ物などを学ぶ
11	精進料理	実技テスト（薄焼き卵）、でんぷんの寄せもの（ごま豆腐）、精進揚げ、擬き料理、つくね芋を扱った調理実習
12	精進料理	天ぷらの盛り付け、敷紙の扱い、配ぜん、食事作法、試食と評価
13	西洋料理	コンソメスープの灰汁の引き方（卵白の作用）、魚の三枚おろし、ホワイトソース、シューの調理性などを学ぶ
14	西洋料理	コンソメスープ、実技テスト（魚・三枚おろし）、ムニエル、コキール、シュークリームなどの調理実習
15	西洋料理	テーブルセッティング、西洋料理のテーブルマナー、廃棄率の算出、試食と評価

16	中國料理	中國材料乾物の扱い、中国料理の特殊な食材湯菜、炒菜、溜菜、粥の炊き方、芋の素揚げなどを学ぶ
17	中國料理	前菜四種、抜糸、乾物を戻す、特殊な中國食材を用いた調理実習
18	中國料理	大皿に前菜四種を盛り付けた出来栄えの班ごとの比較、試食と評価
19	日本料理	乾物(戻し方、煮方)、すし飯の炊飯、蒸し物、あえ物、小麦粉調理(饅頭生地、グルテンの形成)について学ぶ
20	日本料理	巻きずしをきれいに巻く、葉ランの扱い、野菜のゆで方と調味、混合一番だし、和え衣などの調理実習
21	日本料理	盛り付けの工夫、配ぜん、試食と評価
22	クリスマス料理	貝の下処理、ピラフ(米を炒める)、肉料理(オープン焼き)、バター <small>の調理性、ゲル素材(ゼラチン)について学ぶ</small>
23	クリスマス料理	カナッペ、ローストチキン、鶏さばき方、バターケーキ、パンチなどの調理実習
24	クリスマス料理	パーティー料理のセッティング、試食と評価
25	正月料理	行事食(行事食の意義、正月料理のいわれなど)、白みその仕込み、雑煮の地域性などを学ぶ
26	正月料理	祝い肴三種、口取り、焼き物、煮物、酢の物、実技テスト(野菜切り方・飾り包丁)、重詰め <small>の仕方などの調理実習</small>
27	正月料理	箸袋を折る、正月料理のしつらい、試食と評価
28	祝膳	赤飯、小豆の炊き方、塩味飯の調味、刺身(切り方・あしらい)、和え物、ゲル素材(寒天)などを学ぶ
29	祝膳	炊きおこわ、造りの盛り付け、実技テスト(野菜切り方・かつら剥き)などの調理実習
30	祝膳	ハレの日のしつらい、試食と評価

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：実習態度、実技テスト、レポート、小テストにより評価する。

教材：調理-基礎と応用- 高木節子、加田静子編、朝倉書店

受講生へのコメント：実技テストに向けた事前の練習をするとともに、本調理学実習で行う各料理の基礎を学んだ後は、日常的に調理する機会を増やし、完全に習得してください。また、本実習では大量調理を見据えた食材管理、計量法、衛生管理の基礎もあわせて実習します。給食経営管理実習、臨床栄養学実習などの基礎としても位置づけられていることを意識して実習に臨んでください。さらに、食文化についても興味関心をもってください。

備考：

科 目 名：応用栄養学 I

英 語 表 記：Applied Nutrition I

担 当 教 員：福村 智恵

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2 単位

開講年度・学期：平成30年度・1 年後期

科目ナンバリング：HAR2L1102

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：健康者を主たる対象としたライフステージ別の栄養問題を取り扱うために必要な基本的な知識や考え方を習得する。

科目の主題：実践的な栄養学に関わる最初の授業であることから、必要に応じ具体的な事例の検討や簡単な課題にも取り組む。

授業内容・授業計画：主として教科書と資料プリントで講義を進める。

回	テーマ	授業内容（キーワード）
1	応用栄養学の概要	応用栄養学の位置づけ
2	栄養評価の基礎 1	身体計測値からの評価
3	栄養評価の基礎 2	栄養・食事調査データの解析法
4	栄養評価の基礎 3	栄養・食事調査データからの評価
5	栄養評価の基礎 4	バイオマーカーからの評価
6	栄養評価の基礎 5	食環境の評価
7	日本人の食事摂取基準（2015年版）の基礎 1	栄養素必要量の科学的根拠（出納法）
8	日本人の食事摂取基準（2015年版）の基礎 2	栄養素必要量の科学的根拠（要因加算法・その他）
9	日本人の食事摂取基準（2015年版）の概要 1	エネルギーの食事摂取基準の考え方
10	日本人の食事摂取基準（2015年版）の概要 2	たんぱく質、脂質、炭水化物の食事摂取基準の考え方
11	日本人の食事摂取基準（2015年版）の概要 3	多量ミネラルの食事摂取基準の考え方
12	日本人の食事摂取基準（2015年版）の概要 4	微量ミネラルの食事摂取基準の考え方
13	日本人の食事摂取基準（2015年版）の概要 5	ビタミンの食事摂取基準の考え方
14	ライフステージ別の栄養・食事計画作成の基礎 1	ライフステージや対象者の状況に応じた栄養・食事計画の作成
15	ライフステージ別の栄養・食事計画作成の基礎 2	栄養・食事計画のための事前・事後評価とモニタリング

事前・事後学習の内容：毎回の授業時に指示する。

評価方法：定期試験。レポート（課題）や小テストを考慮することもある。

教材：渡邊令子・伊藤節子・瀧本秀美編「応用栄養学」（南江堂）

厚生労働省策定「日本人の食事摂取基準（2015年版）」（第一出版）

日本食品成分表2018（七訂）（医歯薬出版）

由田克士・石田裕美編「食事摂取基準による栄養管理・給食管理」（建帛社）

受講生へのコメント：この講義で得られる知識は、以降の前の関連専門教科の基礎となるため、十分な学習と理解が求められる

備考：

科目名：応用栄養学Ⅱ

英語表記：Applied Nutrition II

担当教員：福村 智恵

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・3年前期

科目ナンバリング：HAR2L3301

当学科・コース学生以外の受講：可（但し、履修者が40名を超える場合は受講できない）

授業の到達目標：各ライフステージにおける栄養状態の評価・判定に必要な基礎知識を学び、その栄養管理における基本的な考え方を習得する。

科目の主題：出生、発育にともなう生理的な変化や栄養状態の特徴を理解し、各ライフステージにおける栄養状態の評価・判定に必要な基礎知識を学び、その栄養管理における基本的な考え方を習得する。さらに、妊娠・授乳など諸身体活動にともなう生理的な変化や栄養状態の特徴と、それらに対する栄養管理の考え方についても学習する。

授業内容・授業計画：主として教科書と資料プリントで講義を進める。

回	テーマ	授業内容（キーワード）
1	妊娠期の栄養1	妊娠期の生理的特徴（妊娠・分娩・産褥）
2	妊娠期の栄養2	妊娠期の栄養アセスメント
3	妊娠期の栄養3	妊娠期の病態・疾患、栄養ケアのあり方
4	授乳期の栄養1	授乳期の生理的特徴
5	授乳期の栄養2	授乳期の栄養アセスメント
6	授乳期の栄養3	授乳期の病態・疾患、栄養ケアのあり方
7	新生児期・乳児期の栄養1	新生児期・乳児期の生理的特徴、
8	新生児期・乳児期の栄養2	新生児期・乳児期の栄養アセスメント
9	新生児期・乳児期の栄養3	新生児期・乳児期の病態・疾患、栄養補給法、 乳児期の栄養素摂取基準、栄養ケアのあり方
10	幼児期の栄養1	幼児期の身体的特徴
11	幼児期の栄養2	幼児期の栄養アセスメント
12	幼児期の栄養3	幼児期の病態・疾患・生活習慣、栄養ケアのあり方
13	学童期・思春期の栄養1	学童期・思春期の身体的特徴、栄養状態の変化
14	学童期・思春期の栄養2	学童期・思春期の栄養状態の変化、栄養アセスメント
15	学童期・思春期の栄養3	学童期・思春期の病態・疾患・生活習慣、栄養ケアのあり方

事前・事後学習の内容：毎回の授業時に指示する。

評価方法：定期試験。レポートや小テストを考慮することもある。

教材：渡邊令子・伊藤節子・瀧本秀美編「応用栄養学」（南江堂）

厚生労働省策定「日本人の食事摂取基準（2015年版）」（第一出版）

日本食品成分表2018（七訂）（医歯薬出版）

由田克士・石田裕美編「食事摂取基準による栄養管理・給食管理」（建帛社）

受講生へのコメント：各ライフステージにおける特徴を理解し、栄養士・管理栄養士としてきちんと対応ができるように、しっかり学習してください。

備考：

科目名：応用栄養学Ⅲ

英語表記：Applied Nutrition Ⅲ

担当教員：小島 明子

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・3年後期

科目ナンバリング：HAR2L3302

当学科・コース学生以外の受講：可（但し、履修者が40名を超える場合は受講できない）

授業の到達目標：各ライフステージにおける栄養状態の評価・判定に必要な基礎知識を学び、その栄養管理における基本的な考え方を習得する。

科目の主題：加齢にともなう生理的な変化や栄養状態の特徴を理解し、各ライフステージにおける栄養状態の評価・判定に必要な基礎知識を学び、その栄養管理における基本的な考え方を習得する。さらに、各種労作や運動など諸身体活動にともなう生理的な変化や栄養状態の特徴と、それらに対する栄養管理の考え方についても学習する。

授業内容・授業計画：主として教科書と資料プリントで講義を進める。

回	テーマ	概要
1	成人期の栄養 I	成人期の特性、生活習慣、食生活
2	成人期の栄養 II	成人期の病態・疾患（生活習慣病）
3	成人期の栄養 III	成人期の病態・疾患（その他の疾病）
4	成人期の栄養 IV	栄養アセスメント、栄養ケアのあり方
5	更年期（閉経期）の栄養 I	更年期の生理、更年期の病態・疾患
6	更年期（閉経期）の栄養 II	栄養アセスメント、栄養ケアのあり方
7	高齢期の栄養 I	高齢期の特徴、加齢にともなう生理的変化と精神的変化
8	高齢期の栄養 II	高齢期の病態・疾患
9	高齢期の栄養 III	栄養アセスメント、栄養ケアのあり方
10	運動・スポーツと栄養 I	運動・スポーツによる生理効果
11	運動・スポーツと栄養 II	生活習慣病予防と運動、運動と QOL 改善
12	環境と栄養 I	ストレス応答と栄養
13	環境と栄養 II	生体リズムと栄養
14	環境と栄養 III	特殊環境と栄養
15	口腔機能と栄養	歯の欠損や咀嚼・嚥下障害などの口腔機能障害における栄養ケアのあり方

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：主として定期試験で評価する。

教材：戸谷誠之・藤田美明・伊藤節子編「応用栄養学」（南江堂）

受講生へのコメント：

備考：

科目名：応用栄養学実習

英語表記：Practice of Applied Nutrition

担当教員：福村 智恵

授業形態：実習

単位数：1単位

開講年度・学期：平成30年度・3年後期

科目ナンバリング：HAR2P3301

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：各ライフステージにおける一連の栄養管理のあり方と、食事摂取基準に基づいた栄養管理の基本を習得する。

科目の主題：応用栄養学および関連講義で学んだ各ライフステージにおける栄養管理のあり方の実際を習得する。

授業内容・授業計画：実習プリントで実習を進める。

回	テーマ	授業内容（キーワード）
1	妊娠期の栄養管理	事例を基にした栄養管理演習
2	授乳期の栄養管理	事例を基にした栄養管理演習
3	新生児期の栄養管理	調乳の実際とその評価
4	乳児期の栄養管理 1	離乳初期の調理実習とその評価
5	乳児期の栄養管理 2	離乳中期の調理実習とその評価
6	乳児期の栄養管理 3	離乳後期の調理実習とその評価
7	幼児期の栄養管理 1	事例を基にした栄養管理演習
8	幼児期の栄養管理 2	食物アレルギー除去食の献立作成および調理実習とその評価
9	学童期の栄養管理	事例を基にした栄養管理演習
10	思春期の栄養管理	事例を基にした栄養管理演習
11	成人期の栄養管理	事例を基にした栄養管理演習
12	更年期の栄養管理	事例を基にした栄養管理演習
13	高齢期の栄養管理 1	事例を基にした栄養管理演習
14	高齢期の栄養管理 2	高齢期の食事、咀嚼・嚥下障害時の食事の調理実習
15	総括	全体のまとめ

事前・事後学習の内容：毎回の授業時に指示する。

評価方法：実習態度およびレポート等によって総合的に評価する。

教材：厚生労働省策定「日本人の食事摂取基準（2015年版）」（第一出版）

日本食品成分表 2018（七訂）（医歯薬出版）

由田克士・石田裕美編「食事摂取基準による栄養管理・給食管理」（建帛社）

「ベーシックデータ」（女子栄養大学出版）

受講生へのコメント：事例を基にした演習や献立作成・調理実習を通して、ライフステージの栄養管理の特徴を学びます。実習費（材料費）が必要になります。実習時に説明します。

備考：

科目名：栄養教育プログラミング論

科目英文名: Programming for Nutrition Education

担当者：早見 直美・(宇佐見 美佳)

種別：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・3年前期

科目ナンバリング：HAR1L3302

当学科学生以外の受講：可（但し、履修者が40名を超える場合は受講できない）

講義の目的: 社会構造の変化に伴い人々の食生活は大きく変容し、21世紀をむかえた今、人々の栄養素摂取状況は、過剰栄養と低栄養の二極化を呈している。このことをふまえ、生活習慣病蔓延の主要な要因となっている誤った食行動を是正し、健康的な食習慣形成をめざす栄養教育の方法論を学修する。

講義の概要: 私たちの食行動は、知識や態度、信念、実際的な食行動関連スキル（食品選択・調理スキルなど）や社会資源の活用、周囲の人々の態度や行動さらには、社会・生活環境に影響をうけることが明らかになっている。そこで、栄養教育を実施するにあたり基幹となる3つの領域に重点をおいて学修する。1つは、行動科学理論を健康・栄養教育に適用したニーズアセスメントからプログラミングの方法論。1つは、教育方法論に基づいたプログラム・指導案の作成。そして、栄養教育プログラムの実施において重要な栄養教育手法となる栄養カウンセリングの基礎について学修する。

授業内容・授業計画：教科書に基づき講義し、随時、課題を提供し受講生の主体的な学習を促す。

回	テーマ	概要
1	“食べる”とは？	人間の営みとしての食を多面的に考える
2	行動科学理論Ⅰ	ヘルスプロモーションの考え方、行動科学理論とは
3	教育学を基礎とする健康教育	健康教育プランニング、健康教育論の栄養教育への適用
4	行動科学理論Ⅱ	プリシードプロシードモデル
5	行動科学理論Ⅲ	知識、態度、スキルの獲得と環境との関わり
6	行動科学理論Ⅳ	行動科学理論とモデル
7	行動科学理論Ⅴ	健康な食行動の実践を促す学習によりセルフコントロールへ
8	栄養カウンセリングⅠ	心理カウンセリング・栄養カウンセリングの理論
9	栄養カウンセリングⅡ	栄養カウンセリングの実際
10	栄養教育マネジメントⅠ	栄養アセスメント、栄養教育プランニング
11	栄養教育マネジメントⅡ	栄養教育プランニング、フィードバック
12	栄養教育プランニングⅠ	プログラム・カリキュラム・指導案の作成
13	栄養教育プランニングⅡ	プログラム・カリキュラム・指導案の作成
14	栄養教育の評価Ⅰ	評価デザイン
15	栄養教育の評価Ⅱ	評価の種類・方法・フィードバック

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：随時、レポート作成、小テストを行い、学習内容別習熟度を評価する
期末定期試験により、総合的な習熟度を評価する

教材：「エッセンシャル栄養教育論」春木敏編著（医歯薬出版）

受講生へのコメント：食の現状をメディア情報などから収集することも大切です。「日本人の食事事情ノート」を各自で作り、毎授業時に“1分ニュース”を発表し、情報交換をしましょう。

備考：参考図書 「健康行動理論の基礎」松本千明 医歯薬出版
「栄養指導のためのヘルスカウンセリング」宗像恒次 医歯薬出版
NEXTシリーズ「食生活論」「栄養カウンセリング論」（講談社）

科 目 名：栄養教育カウンセリング論

科目英文名：Counseling for Nutrition Education

担 当 者：ウエダ ユキコ ハヤマナオミ
上田由喜子・早見直美

種 別：講 義

単 位 数：2 単位

開講年度・学期：平成 30 年度・3 年後期

科目ナンバリング：HAE1L3302

当学科学生以外の受講：可（但し、履修者が40名を超える場合は受講できない）

講義の目的：栄養教育は、管理栄養士・栄養士にとって専門性を発揮して行う業務そのものである。行動科学理論に基づいた技法を用い、ライフステージ別の栄養教育を実際に即して学習することにより、管理栄養士としての使命感および職業観を育む。

講義の概要：ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育のあり方や方法について解説する。ライフステージ別に課題を捉え、課題解決の目標設定、解決策（行動変容）の模索および有効性の追究というプロセスを考察する。

講義方法：テキストにしたがい、主にスライドで講義する。

授 業 内 容

回	テーマ	概 要
1	栄養教育と教材	栄養教育に活用する基礎知識と教材
2	妊娠・授乳期の栄養教育 I	妊娠・授乳期の栄養教育
3	妊娠・授乳期の栄養教育 II	妊娠・授乳期の栄養教育プランニング
4	乳幼児期の栄養教育 I	乳幼児期の栄養教育
5	乳幼児期の栄養教育 II	乳幼児期の栄養教育プランニング
6	学童期の栄養教育 I	学童期の栄養教育、学童期の栄養教育プランニング
7	学童期の栄養教育 II	食に関する指導の実施と評価
8	思春期の栄養教育 I	思春期の栄養教育、中・高生の栄養教育プランニング
9	思春期の栄養教育 II	ボディイメージとメディアリテラシー
10	成人期の栄養教育 I	成人期の栄養教育、成人期の栄養教育プランニング
11	高齢者の栄養教育 I	高齢期の栄養教育の特性、高齢者の栄養教育プランニング
12	高齢者の栄養教育 II	介護保険制度と栄養教育
13	傷病者の栄養教育	障病者の栄養教育、傷病者の栄養教育プランニング
14	障がい者の栄養教育	障がい者の栄養教育、障がい者の養教育プランニング
15	アスリートの栄養教育	アスリートの特性と栄養教育、アスリートの栄養教育プランニング

事前・事後指導：授業中に指示する。なお、毎回、事前にテキストは読んでおくのが望ましい。

評 価 方 法：主として定期試験で評価する。

教 科 書 等：「エッセンシャル栄養教育論」春木敏編著（医歯薬出版）

備 考：

（担当者からの一言）：実践応用編です。知識から実践へとライフステージ別に考えていきましょう。

科目名：栄養教育論実習Ⅰ

科目英文名: Practice of Nutrition Education Ⅰ

担当者：早見 直美・(宇佐見 美佳)

種別：実習

単位数：1単位

開講年度・学期：平成30年度・3年後期

科目ナンバリング：HAE1P3301

当学科学生以外の受講：不可

実習の目的：栄養教育は、一連のマネジメントサイクルに則ってすすめる。行動科学理論や健康教育論を適用した栄養・食行動・食生活アセスメントを実施し、行動科学からみた食行動の成り立ちをふまえ、健康的な食習慣形成を図る栄養教育プログラムの立案・計画を実習する。

実習の概要：健康・栄養上の問題点を特定するために食行動診断の演習として日常生活における問題行動を分析するために栄養アセスメントを行う。質問紙を作成し、キャンパスで栄養・食生活調査を実施し、データの収集、分析、考察を行う。得られた結果から問題行動の要因分析を行い、教育方法を検討し健康・栄養教育プログラムの企画・立案および指導案を作成する。

授業内容・授業計画：個人またはグループによる学習者主体の参加型学習とし、段階的に企画された課題により実習する。

回	テーマ	概要
1	ニーズアセスメント	ニーズアセスメントの方法
2	質問紙の設計Ⅰ	青年期を対象とする質問紙作成
3	質問紙の設計Ⅱ	青年期を対象とする質問紙作成
4	調査の準備	データ収集(調査・データ処理・集計・分析分担)の準備
5	調査データ解析Ⅰ	統計ソフトを使用したデータ解析(単純集計・記述統計)
6	調査データ解析Ⅱ	統計ソフトを使用したデータ解析(有意差検定)
7	調査のまとめⅠ	考察・プレゼンテーション準備(パワーポイント作成)
8	調査のまとめⅡ	考察・プレゼンテーション準備(パワーポイント作成)
9	調査報告Ⅰ	栄養アセスメントのプレゼンテーション
10	調査報告Ⅱ	栄養アセスメントのプレゼンテーション
11	栄養教育の体験Ⅰ	楽しく学ぶ食生活教育(朝食学習)
12	栄養教育の体験Ⅱ	楽しく学ぶ食生活教育(食品表示を読む)
13	栄養教育プログラムの立案Ⅰ	行動科学理論に基づく栄養教育プログラムの立案・青年期の栄養教育企画
14	栄養教育プログラムの立案Ⅱ	プログラム・カリキュラム・指導案の作成、評価デザイン
15	栄養教育の教材・媒体	教材の紹介、フードモデルの活用法

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：食行動・食生活アセスメントと栄養教育プランニングのレポートにより評価する
実習における活動状況を総合的に成績評価に反映する

教材：「エッセンシャル栄養教育論」春木敏編著(医歯薬出版)、プリント教材

参考図書：「健康教育・ヘルスプロモーションの評価」武藤孝司、福渡靖 篠原出版

「チェンジング・フォー・グッド」ジェイムス・オー・プロチャスカ他著 中村正和監訳法研

受講生へのコメント：質問紙作成から調査、結果集計、分析、報告という一連の栄養アセスメントを実習し、人々の食生活を観察し、問題行動改善の糸口をみつけるワークから実力をつけます。グループのコミュニケーションをよくとって、取り組みましょう。

備考：

科目名：栄養教育論実習Ⅱ

英語表記：Practice of Nutrition Education 2

担当者：早見 直美・(金田 直子)

種別：実習

単位数：1単位

開講年度・学期：平成30年度・3年後期

科目ナンバリング：HAE1P3302

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：個人を対象とする栄養教育と食環境への働きかけをとおして、人々の健康的な食行動を形成し、健康の保持増進へと展開する栄養教育をシミュレーションし、その実際を学ぶ。

科目の主題：学校保健，母子保健，地域保健，産業保健，福祉栄養における栄養教育場面を設定し，栄養教育の実施において必要となる栄養カウンセリング技法を用いた個別栄養教育実習，さまざまな集団栄養教育を想定して栄養教育プログラムの計画，立案，により適切な教材や教育媒体を作成する。また，栄養教育シミュレーション，集団指導におけるコミュニケーション・プレゼンテーションスキルを高めるよう体験学習をする。

授業内容・授業計画：個人またはグループによる学習者主体の参加型学習とし，段階的に企画された課題により実習する。

回	テーマ	概要
1	個別栄養カウンセリングⅠ	栄養カウンセリングの理論と方法，栄養評価
2	個別栄養カウンセリングⅡ	問診票作成，栄養アセスメント用紙作成
3	個別栄養カウンセリングⅢ	個別指導カウンセリングデモンストレーション
4	個別栄養カウンセリングⅣ	個別指導プランニング
5	個別栄養カウンセリングⅤ	指導教材作成
6	個別栄養カウンセリングⅥ	指導教材を用いた練習
7	個別栄養カウンセリングⅦ	個別栄養教育の実際
8	集団栄養教育Ⅰ	テーマ（乳児・幼児・学童・青年・壮年・高齢期）設定
9	集団栄養教育Ⅱ	集団栄養教育デモンストレーション
10	集団栄養教育Ⅲ	栄養アセスメントのプレゼンテーション
11	集団栄養教育Ⅳ	行動科学理論に基づく栄養教育プログラムの立案
12	集団栄養教育Ⅴ	行動科学理論に基づく栄養教育プログラムの立案
13	集団栄養教育Ⅵ	指導教材作成
14	集団栄養教育Ⅶ	指導教材を用いた練習
15	集団栄養教育Ⅷ	集団栄養教育の実際

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：課題別レポート作成により評価する

実習における活動状況を成績評価に反映する

教材：「エッセンシャル栄養教育論」春木敏編著（医歯薬出版），プリント教材

受講生へのコメント：栄養教育の専門家としてシミュレーションするなかで，自身の生活習慣病リスクを軽減する行動変容にトライしよう。

備考：参考図書 「健康行動理論 実践編」松本千明 医歯薬出版

「Exercise 栄養指導」隅倉治子他編著 南江堂

「ライフスキルを育む食生活教育」JKYB研究会編 東山書房

科目名：食品栄養情報学

英語表記：Food Nutritional Information Science

担当教員：古澤 直人・早見 直美

授業形態：講義（演習）

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・2年後期

科目ナンバリング：HAE1L2204

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：栄養教育論におけるニーズアセスメントや教育の評価および実験研究に役立つ情報収集・解析法を習得する。

科目の主題：健康と栄養教育に関する実用的な情報の収集・処理を行う。次いで、研究結果等で得られたDATAの統計解析とビジュアル化を演習する。

授業内容・授業計画：基本事項と例題を教授した後、演習問題を取り組ませ、最終的にレポートとして提出させる。

回	テーマ	概要
1	情報収集法	各種情報の収集法の習得
2	調査票設計の基本	調査票作成方法の習得と留意点の理解
3	調査データ解析の基本1	データの種類の理解と調査票設計への反映方法の習得
4	調査データ解析の基本1	調査解析に必要な基本的統計手法の理解
5	調査データ解析演習	実際のデータを用いた解析演習
6	実験計画法の基礎と実践1	基本統計量
7	実験計画法の基礎と実践2	z-検定
8	実験計画法の基礎と実践3	t-検定
9	実験計画法の基礎と実践4	F-検定
10	実験計画法の基礎と実践5	棄却検定
11	実験計画法の基礎と実践6	相関と回帰分析
12	実験計画法の基礎と実践7	分散分析：一元配置法
13	実験計画法の基礎と実践8	分散分析：二元配置法
14	実験計画法の基礎と実践9	共分散分析
15	結果のビジュアル化	わかりやすいプレゼンテーション

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：主に試験

教材：資料配布

受講生へのコメント：

備考：

科目名：臨床栄養学Ⅰ

英語表記：Clinical Nutrition I

担当教員：羽生 大記

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・3年前期

科目ナンバリング：HAR2L3303

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：各器官系の代表的疾患に対する栄養学的評価法、治療法を学ぶ。講義の概要：管理栄養士として遭遇する頻度の高い疾患に関して、的確に栄養アセスメントを行い、各種疾患の病態に応じた栄養学的治療を処方出来る能力を養う。

科目の主題：

授業内容・授業計画：教科書

回	テーマ	概要
1	消化器系疾患	代表的疾患の栄養学的病態と栄養学的治療（消化管疾患）
2	消化器系疾患	代表的疾患の栄養学的病態と栄養学的治療（肝胆膵疾患）
3	代謝系疾患	代表的疾患の栄養学的病態と栄養学的治療
4	血液系疾患	代表的疾患の栄養学的病態と栄養学的治療
5	循環器系疾患	代表的疾患の栄養学的病態と栄養学的治療（虚血性心疾患）
6	循環器系疾患	代表的疾患の栄養学的病態と栄養学的治療（その他の循環器疾患）
7	呼吸器系疾患	代表的疾患の栄養学的病態と栄養学的治療
8	内分泌系疾患	代表的疾患の栄養学的病態と栄養学的治療
9	腎泌尿器系疾患	代表的疾患の栄養学的病態と栄養学的治療
10	脳・神経系疾患	代表的疾患の栄養学的病態と栄養学的治療（脳血管障害）
11	脳・神経系疾患	代表的疾患の栄養学的病態と栄養学的治療（神経変性性疾患）
12	感染症	代表的疾患の栄養学的病態と栄養学的治療
13	アレルギー・自己免疫性疾患	代表的疾患の栄養学的病態と栄養学的治療
14	悪性腫瘍	代表的疾患の栄養学的病態と栄養学的治療
15	栄養治療総論	栄養学的治療のまとめと学力確認

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：主にテスト（出席率、理解度を問うレポートも考慮する場合もあり）

教材：履修前に公表するので、授業開始日に間に合うように購入しておいて下さい。

受講生へのコメント：管理栄養士として遭遇する頻度の高い疾患に関しての栄養学的病態と治療を習得します。

備考：

科目名：臨床栄養学Ⅱ

英語表記：Clinical Nutrition II

担当教員：安井^{ヤスイ} 洋子^{ヨウコ}

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・3年前期

科目ナンバリング：HAR2L3304

当学科・コース学生以外の受講：可（但し、履修者が40名を超える場合は受講できない）

授業の到達目標：臨床栄養学Ⅰ、病態栄養学Ⅰで学んだことの理解をさらに深めるために、実践に必要な知識や技術を修得するための食事療法の考え方と実際を学ぶ。

科目の主題：本講義では、栄養状態および病態の評価をするために最も重要でかつ必要な臨床検査値について述べる。疾患の原因、診断、治療方法、特に栄養管理の介入について学習する。

授業内容・授業計画：教科書・随時プリントを配付し、主にスライドで講義する。

回	テーマ	概要
1	欠乏症	やせ、ビタミン・ミネラル欠乏
2	消化器疾患Ⅰ	口腔, 食道, 胃, 十二指腸
3	消化器疾患Ⅱ	便秘, 過敏性腸症候群, たんぱく漏出胃腸症
4	肝・胆・膵Ⅰ	胆石, 膵臓
5	消化器疾患Ⅲ	炎症性腸疾患
6	肝・胆・膵Ⅱ	肝炎, 脂肪肝
7	肝・胆・膵Ⅲ	NAFLD/NASH, 肝硬変
8	代謝・内分泌Ⅰ	糖尿病①診断, 治療法
9	代謝・内分泌Ⅱ	糖尿病②栄養管理, 運動療法
10	代謝・内分泌Ⅲ	肥満症, メタボリックシンドローム
11	代謝・内分泌Ⅳ	脂質異常症, 甲状腺, クッシング症候群
12	循環器Ⅰ	高血圧, 動脈硬化
13	循環器Ⅱ	狭心症, 心筋梗塞
14	脳疾患・臨床栄養に関して	脳卒中, 嚥下障害, 医療制度
15	まとめ	まとめ

事前・事後学習：毎回の授業で指示する。なお、次の授業に関しては事前に教科書を読んでおくのが望ましい。

評価方法：主として授業態度、定期試験で評価する。

教材：医歯薬出版株式会社「エッセンシャル臨床栄養学 第8版」

医歯薬出版株式会社, 奈良信雄 著「栄養アセスメントに役立つ 臨床検査値の読み方、考え方、ケーススタディー」

受講生へのコメント：栄養生化学、栄養生理学、病態栄養学Ⅰなどの基礎的な知識も関連しますので、臨床栄養学Ⅱを学習するまでに、十分に理解しておいてください。

備考：

科目名：臨床栄養学実習

英語表記：Practice of Clinical Nutrition

担当教員：安井^{ヤスイ} 洋子・（竹山^{タケヤマ} 育子）・（萩原^{ハギハラ} 喜代美^{キヨミ}）

授業形態：実習

単位数：1単位

開講年度・学期：平成30年度・3年後期（集中）

科目ナンバリング：HAE1P3303

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：糖尿病、腎臓病、腎疾患など、各病態に対する栄養管理について、食事計画、献立作成、調理実習、症例のアセスメントをすることによって、治療食、ケアの実際を理解する。治療用特殊食品（病者用食品）の栄養成分、特徴を理解し、調理法の工夫、効果的な利用法を考え、経腸栄養剤の特性についても知識を深める。

科目の主題：実際の献立を作成することを通して臨床栄養管理の重要性を学び、治療用特殊食品の特徴や利用法についても実習する。症例のアセスメント、ケアプラン作成をし、栄養マネジメントについて理解する。

授業内容・授業計画：献立を作成し、調理実習で各疾患の食事の特性を学ぶ。

回	テーマ	概要
1	各疾患の献立作成	糖尿病、腎臓病の栄養と献立作成, 展開の注意点と説明
2	献立作成の注意点	「糖尿病食事療法のための食品交換表」の使い方
3	献立作成	食品構成表を使って糖尿病食の献立作成, 糖尿病食の調理実習の説明
4	糖尿病食の調理実習	糖尿病食の調理実習
5	糖尿病食の調理実習	糖尿病食の評価および特殊食品の試食
6	交換表の使い方	腎臓病交換表の使い方, 腎臓病の調理実習の説明
7	腎臓病食の調理実習	腎臓病食の調理実習
8	腎臓病食の調理実習	腎臓病食の評価および特殊食品の試食
9	献立作成	腎臓病献立作成
10	栄養診断	ケアプランの作成, 栄養ケアの記録・栄養ケアプロセスについて理解する
11	栄養診断・症例検討	ケアプランの作成, 栄養ケアの記録・栄養ケアプロセスについて理解する
12	症例検討	各種疾患の症例検討を行う
13	在宅栄養の現状	在宅の栄養管理と在宅の宅配食の試食
14	静脈栄養・特殊食品	静脈栄養、特殊食品、経静脈栄養剤等の知識を深め試飲、評価する
15	まとめ	まとめ

事前・事後学習：毎回の授業で指示する。

評価方法：各自提出した課題、小テスト、実習の取り組み態度などを評価する。

教材：「ベーシックデータ」女子栄養大学出版 「日本食品標準成分表2015」医歯薬出版
「糖尿病食事療法のための食品交換表」第7版日本糖尿病協会・文光堂

受講生へのコメント：病態別治療食献立作成には、何を重要視しなければいけないのか、何が必要なのかを理解しましょう。臨床栄養学を十分に復習して授業に望みましょう。

備考：

科目名：臨床栄養アセスメント実習

英語表記：Training in Clinical Nutrition Assessment

担当教員：安井^{ヤスイ} 洋子^{ヨウコ}

授業形態：実習

単位数：1単位

開講年度・学期：平成30年度・4年前期または後期（集中）

科目ナンバリング：HAE1F4401

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：臨床に携わる管理栄養士が栄養サポートの一員として活動するため、さらに医療・介護保険制度の連携と栄養ケアマネジメントの中でその役割を担うために必要な知識と技術を理解し、それらを修得する。

科目の主題：疾病者の病態や栄養状態に基づいた適正な栄養管理のあり方について学ぶ。

授業内容・授業計画：病院での臨地実習

テーマ	予定回数	概要
医療施設の概要と管理栄養士の役割	3	実習施設の概要を整理して栄養管理室の位置付けとその役割について理解する。さらに、管理栄養士の役割とその活動形態について理解する。
栄養アセスメント	3	症例の栄養アセスメントと栄養治療法について学ぶ。
栄養指導	3	栄養食事指導（集団指導、個人指導）の実際を知る。接遇
栄養管理記録	3	栄養管理記録を作成する（SOAP）。
栄養部門業務	2	実習施設の取り組み。

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：レポート、実習中の姿勢、実習後の報告等を評価する。

教材：教科書は用いないが、参考書は紹介する。また、プリントで資料を配布する。

受講生へのコメント：実際の医療現場における管理栄養士の役割と位置付けを理解して、管理栄養士がどのような活動を行っているのかを学習し、自身の今後に活用できるよう考えをまとめること。また、自分の考えを述べることができ実習内容を理解するため、今まで習ってきた授業内容等を十分に理解し、知識力をつけておくこと。

備考：

科 目 名 : 臨床栄養ベッドサイド実習

英 語 表 記 : Bedside Training in Clinical Nutrition

担 当 教 員 : 安井 洋子

授 業 形 態 : 実 習

単 位 数 : 1 単 位

開講年度・学期 : 平成30年度・4年前期または後期 (集中)

科目ナンバリング : HAE1F4402

当学科・コース学生以外の受講 : 不可

授業の到達目標 : 入院患者の治療方針などについてのカンファレンスや回診への同行、ベッドサイドに訪問し、
対象患者のアセスメント、栄養評価と栄養補給方法など栄養管理について学ぶ。

科目の主題 : ベッドサイド実習を通して、チーム医療や管理栄養士の役割について理解する。

授業内容・授業計画 : 病院での臨地実習

テ ー マ	予定回数	概 要
ベッドサイド訪問技	6	患者情報の収集、面接技法、接遇
栄養補給法の実際	3	栄養補給法と内容について
ベッドサイドでの栄養教育	6	指導用媒体の選択および作成、指導記録の作成 (NSTでの管理栄養士の位置づけ)

事前・事後学習の内容 : 毎回の授業で指示する。

評価方法 : レポート、実習中の姿勢、実習後の報告等を評価する。

教 材 : 教科書は用いないが、参考書を紹介する。また関係する資料をプリントし配布する。

備 考 :

受講生へのコメント : 患者さんとの接遇やコミュニケーション技法、カルテの見方を学習する。

実際に栄養介入するため、患者背景を把握する。

自分の考えを述べることができ実習内容を理解するため、今まで習ってきた授業内容等を十分に理解し、知識力をつけておくこと。

備 考 :

科目名：病態栄養学 I

英語表記：Pathological Nutrition I

担当教員：小島 明子

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・2年後期

科目ナンバリング：HAR2L2203

当学科・コース学生以外の受講：可（但し、履修者が40名を超える場合は受講できない）

授業の到達目標：臨床に携わる管理栄養士が栄養サポートの一員として活動するため、さらに保健・医療・介護制度の連携とケアマネジメントの中でその役割を担うために必要な知識と技術を理解することを学ぶ。

科目の主題：臨床栄養学では、対象者の病態や栄養状態を栄養管理によって改善し、疾患の予防や治療を効果的に行うことができるようにすることが重要なことである。病態栄養学 I では、臨床栄養学の基礎となる栄養管理およびそのマネジメントに必要な事項について学習する。

授業内容・授業計画：随時プリントを配付する。

回	テーマ	概要
1	臨床栄養学の基礎	臨床栄養学の意義と目的
2	医療と臨床栄養 I	医療における栄養マネジメントの意義と目的
3	医療と臨床栄養 II	栄養サポートチーム、クリティカル・パス
4	医療と臨床栄養 III	生命倫理と人権、守秘義務
5	栄養評価 I	栄養状態評価判定の意義と方法
6	栄養評価 II	食事・栄養摂取量調査方法、病態時の栄養評価
7	栄養評価 III	身体兆候による評価
8	栄養評価 IV	臨床症状と栄養障害
9	栄養評価 V	栄養必要量の算定（推定）
10	臨床検査 I	臨床検査の意義と内容
11	臨床検査 II	臨床検査値
12	臨床検査 III	臨床検査値を用いた評価方法
13	栄養補給法 I	栄養補給法の種類、経口栄養法
14	栄養補給法 II	経腸栄養法
15	栄養補給法 III	経静脈栄養法

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：主として定期試験で評価する。

教科書等：医歯薬出版株式会社「管理栄養士課程におけるモデルコアカリキュラム準拠第4巻 臨床栄養学 基礎」

受講生へのコメント：臨床栄養学では、今までの食事療法の実践だけではなく、栄養管理および遂行するための高度な知識と技術も必要とされます。まずは、臨床栄養学の基礎をしっかりと理解して下さい。

備考：

科目名：病態栄養学Ⅱ

英語表記：Pathological Nutrition Ⅱ

担当教員：安井 洋子

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度3年・後期

科目ナンバリング：HAR2L3305

当学科・コース学生以外の受講：可

講義の目的：臨床栄養学Ⅰ、病態栄養学Ⅰで学んだことの理解をさらに深めるため、また、臨床現場で遭遇する頻度の高い疾患に対する栄養学的治療の基本、栄養指導やNSTで取り上げられる症例に対する対処法など実践的な知識を学ぶ。

講義の概要：本講義では、栄養状態および病態の評価をするために最も重要でかつ必要な臨床検査値について述べる。疾患の原因、診断、治療方法、特に栄養管理の介入について学習する。

授業内容・授業計画：教科書・随時プリント配布

回	テーマ	概要
1	免疫・アレルギー疾患	免疫不全, アレルギー
2	免疫・感染症疾患	自己免疫疾患, 感染症
3	呼吸器疾患	COPD, 気管支喘息, 肺炎
4	腎臓疾患Ⅰ	CKD・糸球体腎炎
5	腎臓疾患Ⅱ	ネフローゼ, 糖尿病性腎症, 尿路結石
6	腎臓疾患Ⅲ	腎不全, 透析
7	血液疾患	貧血, 出血性疾患
8	骨・関節疾患	骨粗鬆症
9	筋・関節疾患	サルコペニア, 膝関節症, ロコモティブシンドローム
10	高齢者疾患	高齢者の特異性, PEM 褥瘡
11	乳幼児・小児の疾患	先天性代謝異常, 児肥満など
12	妊産婦の疾患	妊娠高血圧症候群, 妊娠糖尿病, 摂食障害
13	がんの栄養管理	がん
14	手術・周術期患者の管理	術前・術後・周術期の栄養
15	まとめ	まとめ

事前・事後学習：毎回の授業で指示する。なお、次の授業に関しては事前に教科書を読んでおくのが望ましい。

評価方法：主として授業態度、定期試験で評価する。

教材：医歯薬出版株式会社「エッセンシャル臨床栄養学 第8版」。

：医歯薬出版株式会社, 奈良信雄 著「栄養アセスメントに役立つ 臨床検査値の読み方、考え方、ケーススタディー」

受講生へのコメント：様々な病態に対し適切な栄養管理を提供するため、栄養生化学、栄養生理学、病態栄養学Ⅰ、臨床栄養学Ⅰなどの基礎的な知識も関連しますので、病態栄養学Ⅱを学習するまでに、十分に理解しておいてください。

備考：

科目名：公衆栄養学Ⅰ

英語表記：Public Health Nutrition I

担当教員：由田 克士

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・3年前期

科目ナンバリング：HAR1L3303

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：公衆栄養学は、地域・職域等の社会集団における健康と栄養問題に関する領域を扱う学問であり、人々の健康の維持・増進、疾病の予防を主目的としている。そのため、人々を取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析・評価・判定をし、栄養関連サービスを総合的にマネジメントするための理論と方法を習得する。

科目の主題：公衆栄養学Ⅰでは、公衆栄養学の基本的な概念と公衆栄養活動、わが国の健康・栄養問題の現状と課題及び施策、栄養疫学、さらに集団を対象とした日本人の食事摂取基準（2015年版）の活用などについても学習する。

授業内容・授業計画：主として教科書、資料プリント、プレゼンテーションを用いて講義を進め、必要に応じて課題について意見発表を求めて考察を深める。

	内容	キーワード
1	公衆栄養学の概念と公衆栄養活動	公衆、人間集団、予防
2	公衆栄養活動を理解するための基礎知識	行政機関、保健所、管理栄養士
3	わが国の健康・栄養問題の現状と課題①	高齢化社会、健康寿命、死因別死亡率
4	わが国の健康・栄養問題の現状と課題②	食事内容の変化、栄養素等摂取量の変化、食品群別摂取量の変化
5	わが国の健康・栄養問題の現状と課題③	食料自給率、食品流通、食品ロス
6	わが国の健康・栄養施策①	栄養士法、調理師法、食品衛生法
7	わが国の健康・栄養施策②	母子保健、産業保健、健康増進法
8	わが国の健康・栄養施策③	学校給食法、食育推進、地域保健法
9	わが国の健康・栄養施策④	食生活指針、食事バランスガイド、特定健康診査、特定保健指導
10	わが国の健康・栄養施策⑤	健康日本21（第2次）
11	栄養疫学①	疫学の定義、疫学分野、疫学の目的
12	栄養疫学②	曝露、研究デザイン
13	栄養疫学③	相対危険と寄与危険、相対危険、バイアス
14	公衆栄養分野における日本人の食事摂取基準の活用	集団を対象とした食事摂取基準の活用、集団を対象とした食事改善
15	公衆栄養施策の検討	公衆栄養施策、国レベル、自治体レベル

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：主として定期試験（レポートや小テストを考慮することもある。）

教材：由田克士、押野榮司編「カレント公衆栄養学」（建帛社）

厚生労働省策定「日本人の食事摂取基準（2015年版）」（第一出版）

日本食品成分表2018（七訂）（医歯薬出版）

受講生へのコメント：公衆栄養学が取り扱う範囲の広さと、集団に対する影響の大きさについて理解を深めよう。

備考：

科目名：公衆栄養学Ⅱ

英語表記：Public Health Nutrition II

担当教員：由田 克士・（荒井 裕介）

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・3年後期

科目ナンバリング：HAE2L3301

当学科・コース学生以外の受講：不可（但し、履修者が40名を超えない範囲でQOLプロモーター認定のため受講することは認める。）

授業の到達目標：公衆栄養学Ⅱでは、公衆栄養マネジメントや公衆栄養プログラムの展開について理解を深める。また、諸外国における健康・栄養問題を理解するとともに、これらに対応するため実施されている施策などを学ぶ。さらに、産業栄養活動、災害時の危機管理など、身近で具体的な公衆栄養活動の実際についても取り扱う。

科目の主題：公衆栄養学Ⅰや関連の専門科目で得られた知識をもとに、行政機関や産業保健分野において展開されている具体的な内容を取り扱う。

授業内容・授業計画：主として教科書と資料プリントで講義を進め、必要に応じて課題について意見発表を求めて考察を深める。

	内容	キーワード
1	公衆栄養マネジメント	マネジメント、PDCAサイクル
2	公衆栄養アセスメント	社会ニーズの把握、調査方法
3	公衆栄養プログラムの目標設定	情報のまとめ方、集団の代表性、情報項目
4	公衆栄養プログラムの展開	住民参加、関連機関、社会資源
5	栄養・食事調査法	調査法の種類、適切な方法選択、精度管理
6	国民健康・栄養調査	計画、モニタリング、評価
7	公衆栄養プログラムの評価と事例の検討	評価の種類、評価のデザイン
8	諸外国の健康・栄養問題の状況と課題および健康・栄養施策（1）	国際的な栄養行政組織、諸外国の公衆栄養関連計画、諸外国における食事摂取基準
9	諸外国の健康・栄養問題の状況と課題および健康・栄養施策（2）	世界の人口問題、世界の飢餓人口、世界の肥満人口、世界の平均寿命
10	公衆栄養学の視点から見た災害時の栄養・食生活（1）	震災対策のフェーズ、栄養・食生活支援の原則、要支援者への対応
11	公衆栄養学の視点から見た災害時の栄養・食生活（2）	東日本大震災からの教訓、避難者からの意見、飲料水・食料の備蓄・確保
12	産業栄養活動	勤労者の健康づくり、トータル・ヘルス・プロモーションプラン、産業栄養
13	食品表示制度の概要	食品表示法、共通ルール、機能性表示食品
14	公衆栄養学に関する最近の話題	国民健康・栄養調査成績、日本食品標準成分表、食事摂取基準、科学的根拠
15	公衆栄養学のまとめ	栄養改善、疾病予防、健康増進

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：主として定期試験（レポートや小テストを考慮することもある。）

教材：由田克士、押野榮司編「カレント公衆栄養学」（建帛社）

日本食品成分表2018（七訂）（医歯薬出版）

受講生へのコメント：公衆栄養に関わる具体的な取り組みを理解し、次年度の公衆栄養臨地実習（保健所実習）に備えてください。

備考：

科目名：公衆栄養学実習 I

英語表記：Practice of Public Health Nutrition I

担当教員：由田 克士・福村 智恵

授業形態：実習

単位数：1単位

開講年度・学期：平成30年度・3年前期

科目ナンバリング：HAE2P3301

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：集団の栄養状態や健康に関連する情報の収集・分析・評価・判定方法の実際を学び、適切な公衆栄養活動に結び付けるための基礎能力の習得を目指す。この実習においては、公衆栄養分野で用いられる非侵襲的な栄養アセスメント方法、個人や集団における栄養素等摂取量の把握とその評価方法、食習慣・生活習慣の把握方法について取り扱う。また、得られたデータを処理し、プレゼンテーションを行うまでの一連の手技を修得し理解を深める。

科目の主題：栄養調査手法の理解、栄養調査（秤量記録法と目安量記録法の併用、食物摂取頻度調査法と身体活動レベルの把握、食事調査方法の特徴や限界の比較、日本人の食事摂取基準等を基準とした評価とフィードバック方法について取り扱う。なお、必要に応じ、小グループを編成し、実習を展開する。

授業内容・授業計画：配付プリントで実習を進め、専用ソフト等を用いてデータの処理と分析、プレゼンを行う。

	内容	キーワード
1	実習で取り扱う内容の説明	実習概要、取り扱う範囲
2	栄養・食事調査手法の理解と実際①	食物摂取頻度調査法（簡易版・詳細版）
3	栄養・食事調査手法の理解と実際②	食事記録法（秤量記録法と目安量記録法）
4	栄養・食事調査手法の理解と実際③	24時間思い出し法
5	公衆栄養分野で用いられる非侵襲的なアセスメント①	身長、体重、腹囲、体脂肪率の測定
6	公衆栄養分野で用いられる非侵襲的なアセスメント②	BMI、下腿周囲長、データの設定法
7	身体活動レベルの把握	質問紙法による身体活動レベルの把握
8	関連追加調査の実施	食習慣、生活習慣、身体活動、疾病状況
9	調査データの入力	入力仕様の作成、データ入力
10	栄養調査データの集計	栄養調査システムの活用、データ出力
11	データの取りまとめとデータセットの作成	データ項目の確認、入力仕様に基づく整理
12	データ解析（仮説の検証）	統計解析、客観的
13	発表要旨の作成	要点整理、客観的、適切な表現
14	プレゼンテーションの作成	視覚、理解度、簡潔
15	プレゼンテーションとディスカッション	ディスカッション、質疑応答、整理

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：実習中の姿勢・態度、レポート

教材：由田克士、押野榮司編「カレント公衆栄養学」（建帛社）

厚生労働省策定「日本人の食事摂取基準（2015年版）」（第一出版）

日本食品成分表2018（七訂）（医歯薬出版）

受講生へのコメント：この授業は、自分自身の健康状態や食生活を客観的に評価するよい機会ともなりません。

備考：

科目名：公衆栄養学実習Ⅱ

英語表記：Practice of Public Health Nutrition Ⅱ

担当教員：由田 克士・（諸岡 歩）

授業形態：実習

単位数：1単位

開講年度・学期：平成30年度・3年後期

科目ナンバリング：HAE1P3304

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：集団における健康・栄養問題について、それを取り巻く諸因子との関わりの中で分析・評価し、実際の公衆栄養プログラムを計画・実施へとつなげていくための一連の知識や技能を習得することを目的とする。

科目の主題：公衆栄養行政の実践方法、特に「健康日本21」を地域で実践していくプロセスについて実習を通して理解を深める。また、保健・医療・福祉・介護等の分野における栄養関連サービスを利用して各集団の健康・栄養状況にあった栄養改善プログラムを作成することを学ぶ。さらに栄養関連サービスや各種社会資源の提供時におけるコミュニケーション管理の実践方法について実習により学ぶ。

授業内容・授業計画：実習プリントで実習を進める。

	内容	キーワード
1	実習で取り扱う内容の説明	実習概要、取り扱う範囲
2	行政管理栄養士に求められる役割	行政管理栄養士の業務指針
3	実際に地域で展開された施策の検討	栄養施策、保健所、市区町村
4	市区町村における対人業務を想定した対応の検討①	現状の把握、客観的評価
5	市区町村における対人業務を想定した対応の検討②	対応策の検討、目標設定
6	市区町村における対人業務を想定した対応の検討③	報告書の作成、プレゼンテーション
7	市区町村における公衆栄養施策の立案①	現状の把握、客観的評価
8	市区町村における公衆栄養施策の立案②	関係者からの意見収集と分析
9	市区町村における公衆栄養施策の立案③	取り組み内容の検討、目標設定
10	市区町村における公衆栄養施策の立案④	報告書の作成、プレゼンテーション
11	公衆栄養プログラムの作成①	分野・テーマごとの状況把握
12	公衆栄養プログラムの作成②	国・都道府県におけるデータ分析
13	公衆栄養プログラムの作成③	連携機関、予算、評価方法
14	公衆栄養プログラムの作成④	計画書の作成
15	公衆栄養プログラムの検証	ディスカッション、質疑応答、整理

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：実習中の姿勢・態度、レポート

教材：由田克士、押野榮司編「カレント公衆栄養学」（建帛社）

厚生労働省策定「日本人の食事摂取基準（2015年版）」（第一出版）

受講生へのコメント：公衆栄養活動の一端を具体的に実習し理解を深めます。次年度の公衆栄養臨地実習（保健所実習）で求められるスキルを獲得してください。

備考：

科目名：公衆栄養臨地実習

英語表記：Public Health Center Practice

担当教員：由田 克士・福村 智恵

授業形態：実習

単位数：1単位

開講年度・学期：平成30年度・4年通年（集中）

科目ナンバリング：HAE1F4403

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：公衆栄養の臨地実習は、管理栄養士養成関連科目の中でも、地域の健康・栄養改善を実践的、かつ総括的に実習する重要な科目である。公衆栄養臨地実習の主目的は、学内の公衆栄養学の講義と実習で学んだ内容を、公衆栄養の現場において習得することにある。

科目の主題：大阪市保健所および市内の保健福祉センターにおいて、地域の健康・栄養改善について学内の学習で修得した知識を基礎に、栄養コントロールによる健康の維持・増進、疾病の予防対策について公衆栄養の実践を修得する。また、その学習効果を高めるために少人数での実習とし、実習前の準備や実習前後の指導を行う。

授業内容・授業計画：臨地実習指導者と科目担当者の両方からの指導を受けて実習する。実習内容は、実習期間中における実習先の事業計画を考慮して実習前に決定する。このため、取り扱う内容や順序が異なる場合がある。

	内容	キーワード
1	学内における実習前指導	実習概要、取り扱う範囲
2	実習施設による地域の健康・栄養状況の概要説明	健康、栄養、統計データ、行政施策
3	公衆栄養活動の実際①	妊婦に対する栄養・食生活支援
4	公衆栄養活動の実際②	乳児に対する栄養・食生活支援
5	公衆栄養活動の実際③	幼児に対する栄養・食生活支援
6	公衆栄養活動の実際④	母子に対する栄養・食生活支援
7	公衆栄養活動の実際⑤	成人に対する栄養・食生活支援
8	公衆栄養活動の実際⑥	高齢者に対する栄養・食生活支援
9	公衆栄養活動の実際⑦	食育活動
10	公衆栄養活動の実際⑧	人材（ボランティア）の育成と支援
11	公衆栄養活動の実際⑨	食環境の改善
12	公衆栄養活動の実際⑨	公衆栄養活動に関連する地域連携
13	公衆栄養業務の実際⑩	公衆栄養活動に関連する他職種連携
14	公衆栄養活動の整理	実習内容の整理
15	学内における実習後指導・反省会・総括	ディスカッション、プレゼンテーション、知識の平均化

事前・事後学習の内容：その都度指示する。

評価方法：レポート、実習態度

教材：多門隆子他編著「公衆栄養学実習（学外編）」（南山堂）

由田克士、押野榮司編「カレント公衆栄養学」（建帛社）

受講生へのコメント：実際の公衆栄養の現場において管理栄養士がどのような活動を行っているのかを自身で体験し、地域保健における管理栄養士の立ち位置と役割を学んで下さい。

備考：

科目名：給食経営管理論 I

英語表記：Feeding Service Management I

担当教員：(尾立 ^{オダチ} ^{ジュンコ} 純子)

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・3年前期

科目ナンバリング：HAE1L3303

当学科・コース学生以外の受講：可（但し、履修者が40名を超える場合は受講できない）

授業の到達目標：給食経営にはいろいろな管理項目があるが、管理栄養士は特定給食現場ではあらゆる知識と管理技能が必要とされる。現場は勿論、管理する立場としての理論を習得する。

科目の主題：給食の概念を理解するとともに、効率の良い給食経営の概念を学ぶ。さらに、マーケティングの原理、危機管理等管理項目等についての理論と応用力は、卒業後、即役に立つ管理栄養士には必要である。

授業内容・授業計画：講義

回	テーマ	概要
1	給食の概念	給食の歴史、意義
2	法的根拠	栄養士、管理栄養士の法的根拠、健康増進法他
3	各特定給食の特徴I	病院施設での概要、給食のあり方
4	各特定給食の特徴II	福祉施設での概要、給食のあり方
5	各特定給食の特徴III	学校給食での概要、給食のあり方
6	食品管理	食品の保管、流通、品質管理、必要資源の効率的運用、発注方法
7	栄養管理I	特定給食施設での栄養管理の決定の方法
8	栄養管理II	食品構成表の作り方
9	経営管理	損益分岐点、ABC分析の実際
10	衛生管理I	大量調理における衛生について
11	衛生管理II	大量調理衛生管理マニュアルについて
12	設備管理	設備、機器等についての理解や使用方法
13	人事管理	人事管理の実際
14	事務管理	各種帳票の書き方、栄養管理報告書の書き方
15	実際の現場	DVDの視聴他

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：主として定期試験で評価する。

教材：富岡和夫編著 「エッセンシャル給食経営管理論 4版」 (医歯薬出版)

受講生へのコメント：大量給食をイメージしたときに、必ず原点は少量調理です。普段何気なく食べている料理にも、栄養士の目で見えることを常に心がけ、家でも調理をして下さい。

備考：

科目名：給食経営管理論Ⅱ

科目英文名：Feeding Service Management Ⅱ

担当者：上田 由喜子・(萩 真希)

種別：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・3年後期

科目ナンバリング：HAR1L3304

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：給食経営管理論Ⅰで学んだことを基礎として、給食を実際に1日100食以上作る実習前の理論を学ぶ。大量調理実施に向けての準備のための試作実習も含む。

科目の主題：給食を食べる対象者を決め、栄養目標量、食品構成を決め、献立作成をする。献立が嗜好に合うかどうか、試作をして決定する。食材料管理、生産管理、作業管理、衛生管理、原価管理から帳簿作成まで実際の現場で働けるための理論を学ぶ。

授業内容・授業計画：テキストにしたがい、講義および演習とする。

回	テーマ	概要
1	給食経営管理の概念	栄養政策と給食
2	栄養・食事管理Ⅰ	栄養計画について
3	栄養・食事管理Ⅱ	新調理システムの実際について
4	栄養・食事管理Ⅲ	厨房レイアウトおよび大量調理機器から立案する献立計画
5	栄養・食事管理Ⅳ	栄養教育計画と一体化した献立案のプレゼンテーション (GW)
6	食事計画Ⅰ	栄養・食事計画の実施 (試作)
7	食事計画Ⅱ	栄養・食事計画の評価と改善
8	品質管理	給食の品質の標準化
9	食材料管理	食材料の保管・在庫、食材料管理の評価
10	安全・衛生管理	安全・衛生管理の実際、事故・災害時対策
11	生産 (調理) 管理	生産計画の作成、大量調理の特性と配膳・配食の精度
12	施設・設備管理	施設・設備管理と省エネ
13	会計・原価管理Ⅰ	損益分岐点分析、ABC分析
14	会計・原価管理Ⅱ	コスト管理と喫食における食環境
15	評価・改善	評価・改善のための各種調査法

事前・事後指導：授業中に指示する。演習テーマについては、事前学習をしておくのが望ましい。

評価方法：授業中に課した内容の提出状況と定期試験により評価する。

教科書等：富岡和夫編著「給食経営管理論 給食のトータルマネジメント 3版」(医歯薬出版)

藤原政嘉・田中俊治・赤尾正編「給食経営管理実習ワークブック 第2版」(みらい)

参考図書：厚生労働省策定「日本人の食事摂取基準 (2015年版)」(第一出版)、

最新日本食品成分表 (医歯薬出版)

受講生へのコメント：この講義は、給食経営管理実習と連携しています。

備考：

科目名：給食経営管理実習

科目英文名：Practice in Feeding Service Management

担当者：^{ウエダ ユキコ}上田 由喜子

種 別：実 習

単 位 数：1 単位

開講年度・学期：平成30年度・3 年後期（集中）

科目ナンバリング：HAE1P3305

当学科学生以外の受講：不可

授業の到達目標：給食経営管理論Ⅰ、Ⅱで学んだことを踏まえて、給食運営を行い、実習を通じて栄養管理、安全管理、経営管理に対する理解を深め、給食経営管理臨地実習に向けて基礎的スキルを習得する。

科目の主題：給食経営管理論Ⅱで立てた計画に則り、給食経営管理の業務と運営を実施する。管理栄養士、栄養士、調理員、次管理栄養士に分かれ、実習中にすべての役割を経験する。実習後は実習内容の評価と省察を行う。

授業内容・授業計画：実習書（プリント）を配布する。

授業計画：実習の授業なので、予定が変更されることがある。

回	テーマ	概 要
1	ガイダンス	実習の意義・進め方、安全と衛生管理、役割分担と試作準備
2	実習計画	各班による試作と献立および衛生管理の検討
3	給食の運営-1	品質および食材管理（検収、保管、調理前の準備と点検）
4	給食の運営-2	和食の生産管理（大量調理機器を利用した調理作業の実施）
5	給食の運営-3	和食の提供管理（配膳作業）と評価（栄養管理と品質管理）
6	給食の運営-4	品質および食材管理（検収、保管、調理前の準備と点検）
7	給食の運営-5	洋食の生産管理（大量調理機器を利用した調理作業の実施）
8	給食の運営-6	洋食の提供管理（配膳作業）と評価（栄養管理と品質管理）
9	給食の運営-7	品質および食材管理（検収、保管、調理前の準備と点検）
10	給食の運営-8	中華の生産管理（大量調理機器を利用した調理作業の実施）
11	給食の運営-9	中華の提供管理（配膳作業）と評価（栄養管理と品質管理）
12	給食の運営-10	品質および食材管理（検収、保管、調理前の準備と点検）
13	給食の運営-11	軽食メニューの生産管理（大量調理機器を利用した調理作業の実施）
14	給食の運営-12	軽食メニューの提供管理（配膳作業）と評価（栄養管理と品質管理）
15	総括	実習内容の総合評価と省察

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：実習への取り組みとレポート内容

教材：実習書（プリント配付）

受講生へのコメント：体調管理と、給食経営管理臨地実習に備え基礎的スキルを習得して下さい。

備 考：

科目名：給食経営管理臨地実習

英語表記：Practical Workshops in Food Service Management

担当教員：上田 由喜子

授業形態：実習

単位数：1単位

開講年度・学期：平成30年度・3年後期（集中）

科目ナンバリング：HAE1F3301

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：多数の人々に食事を供給する給食活動のマネジメントについて、栄養士業務の現場に臨み、実際の経営管理業務を学ぶ。給食経営管理の講義で学んだ基礎理論を踏まえながら、給食運営業務の流れや関連する資源の状況を理解し、給食運営のマネジメントに関する栄養士業務の実際を学ぶ。

科目の主題：小学校、病院、介護老人保健施設または事業所において、臨地実習指導者と科目担当者の両方からの指導を受けて進める。臨地実習は、その学習効果を高めるために少人数での実習とする。また、実習前の事前指導と実習終了後の報告会を実施する。

授業内容・授業計画：各実習施設の計画にそって行う。

回	テーマ	概要
1	臨地実習	各実習施設における給食の意義と給食経営管理の実際を体得
2	臨地実習	
3	臨地実習	
4	臨地実習	
5	臨地実習	
6	臨地実習	
7	臨地実習	
8	臨地実習	
9	臨地実習	
10	臨地実習	
11	臨地実習	
12	臨地実習	
13	臨地実習	
14	臨地実習	
15	臨地実習	

事前・事後学習の内容：

事前学習：学内担当者から、臨地実習にあたっての心構えと実習の目的および実習内容等について、実習施設の担当者から、実習現場の実際と実習に臨む上での諸注意等をふまえた講義を受ける。

事後学習：各実習施設での報告会と討議、実習プロセスの省察

評価方法：実習態度、レポート

教材：プリント配布

受講生へのコメント：体調に気をつけ、実習を欠席することのないようにして下さい。管理栄養士の業務の一つである給食経営管理の理解を深めるとともに、社会人としての素養を身につけましょう。

備考：

科目名：学校栄養教育論

英語表記：School Health and Nutrition Education

担当教員：上田 由喜子・小島 明子・福村 智恵・早見 直美・(森 恵利)・(宮本 郷子)

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・3年前期（平成24年度以降入学者）

科目ナンバリング：HAE3L3301

当学科・コース学生以外の受講：可（但し、履修者が40名を超える場合は受講できない）

授業の到達目標：発育発達期にある児童生徒が健康的な生活習慣なかでも、食習慣の形成ができるよう、学校教育における食育の推進を図るために必要な基礎事項を学習する。

科目の主題：国民の栄養をめぐる現状と課題から児童生徒の食生活における現状と課題に言及する。

児童生徒の身体的特徴と、健康に関連する栄養上の課題について説明する。

児童生徒の食生活をめぐる家庭、学校、地域の役割を検討し、学校教育における「食に関する指導」、栄養教諭の職務の位置付けと役割を学習する。

教諭の考える食に関する指導とは学校給食の意義と役割、現状と課題について学習する。

教科学習における「食に関する指導」の企画および授業案作成について学習する。

授業内容・授業計画：主として資料プリントによる講義および課題について意見交換し、考察を深める。

回	テーマ	概要
1	栄養に関わる現状と課題-1	学校保健統計からみた児童・生徒の栄養課題（担当：小島明子）
2	栄養に関わる現状と課題-2	児童・生徒の個別の栄養課題と生活習慣病（担当：小島明子）
3	栄養に関わる現状と課題-3	食物アレルギーの発症機序とその対策（担当：福村智恵）
4	栄養に関わる現状と課題-4	思春期に増加する食行動の現代的課題と社会的要因（担当：早見直美）
5	学校給食摂取基準	学校給食摂取基準と日本人の食事摂取基準（2015年版）（担当：福村智恵）
6	学校給食の実際	望ましい学校給食の実施に向けて-意義・役割-（担当：森恵利）
7	栄養教諭の役割-1	児童生徒の食に関する指導・管理に係る法令、諸制度（担当：早見直美）
8	栄養教諭の役割-2	栄養教諭の職務内容と役割および使命、食育推進と評価（担当：早見直美）
9	食に関する指導の実際-1	学校における「食に関する指導」の現状と課題（担当：上田由喜子）
10	食に関する指導の実際-2	教科学習における「食に関する指導」のありかたと企画（担当：上田由喜子）
11	食に関する指導の実際-3	「食に関する指導」の全体計画及び年間指導計画と評価（担当：上田由喜子）
12	食に関する指導の実際-4	「食に関する指導」の構想と心得（担当：上田由喜子）
13	食に関する指導の実際-5	教科などにおける「食に関する指導」の指導案作成（担当：上田由喜子）
14	食に関する指導の実際-6	学校教育における食育の意義－教諭と栄養教諭の連携（担当：宮本郷子）
15	食に関する指導の実際-7	子どもの食に関する意識と教諭が考える“食に関する指導”（担当：宮本郷子）

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：授業態度とレポート。

教材：プリント配布

受講生へのコメント：給食活動と食に関する指導による学校栄養について学習します。「学校給食」「食に関する指導」に関連する情報サーチを積極的にし、具体的なイメージをもって受講しましょう。

備考：

科 目 名：学校栄養教育実践論

英語表記：Practical School Nutrition Education

担当教員：(藤本 勇二)・(日下 豊子)・(森 恵利)・(永井 淳子)

授業形態：講 義

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・3年前期（集中）

科目ナンバリング：HAE3L3302

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：発育発達のめざましい児童生徒を対象として、健康的な食習慣形成を目標とする小中学校における栄養教育の実践法を学修する。

科目の主題：次世代を担う児童生徒が、こころとからだを育む健康的な食生活管理を実現することを目的とする学校健康教育における「食に関する指導」の実践方法を学修する。

学校給食や教科学習における食に関する指導の実践を学修する。

授業内容・授業計画：講義を中心としつつ、随時、演習課題を提供し受講生の主体的な学習法を用いる。

回	テーマ	概 要
1	学校給食活動と食育-1	小学校における給食活動と「食に関する指導」(森 恵利)
2	学校給食活動と食育-2	給食活動と「食に関する指導」－献立管理を中心として－(森 恵利)
3	学校における食育実践-1	3つの誤解から生まれる食育のイメージ(藤本勇二)
4	学校における食育実践-2	「食に関する指導」の授業の作り方(藤本勇二)
5	学校における食育実践-3	食育にワークショップを取り入れることの良さ(藤本勇二)
6	学校における食育実践-4	教科書の活用とこれからの食育の目指すもの(藤本勇二)
7	学校教育活動と食育-1	小学校における日々の「食に関する指導」(永井 淳子)
8	学校教育活動と食育-2	栽培活動・給食の時間・家庭と連携する食育(永井 淳子)
9	授業づくりの方法と実践-1	特別活動(学級活動)における「食に関する指導」の有り方(日下 豊子)
10	授業づくりの方法と実践-2	特別活動(学級活動)における「食に関する指導」の方法(日下 豊子)
11	授業づくりの方法と実践-3	教科学習と「食に関する指導」との関連性(日下 豊子)
12	授業づくりの方法と実践-4	担任教諭と栄養教諭の連携、及び役割(日下 豊子)
13	授業づくりの方法と実践-5	「食に関する指導」の模擬授業における教材の作成(日下 豊子)
14	授業づくりの方法と実践-6	「食に関する指導」の模擬授業(日下 豊子)
15	授業づくりの方法と実践-7	「食に関する指導」の模擬授業と評価(日下 豊子)

事前・事後学習の内容：毎回の授業時に指示する。

評価方法：演習課題とレポート

教 材：プリント教材

受講生へのコメント：学校栄養教育の意義と楽しさ、そして難しさを伝えます。児童生徒の声から教室や廊下、給食室、校庭での食育の様子を運びます。

備 考：

科 目 名：微生物学実験

英 語 表 記：Experiments in Microbiology

担 当 教 員：金 東浩

授 業 形 態：実 験

単 位 数：1 単位

開講年度・学期：平成30年度・3 年前期

科目ナンバリング：HARIE3301

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：微生物を安全に取扱うための基本的な操作方法を学習します。

科目の主題：微生物を安全に取扱うために必要な設備、機器、器具などの種類や使用方法について学習します。本実験では、身の周りの微生物を培養し、観察することにより、微生物実験の基本操作法を学びます。また、大腸菌とプラスミドを使った組換えDNA実験を行うことにより、微生物を用いた分子生物学の基礎を学習します。

授業内容・授業計画：微生物実験の基本操作法、組換えDNA実験の概要、プラスミドDNAの精製法を講義により学習し、微生物の取扱い方を実際の実験を通じて習得します。

回	テ ー マ	概 要
1	微生物学実験の概要	本実験の概要
2	微生物学実験の基本操作 I	無菌操作、滅菌、消毒
3	微生物学実験の基本操作 II	培地の種類、組成、調製
4	微生物学実験の基本操作 II	微生物の培養、分離、保存
5	身の周りの微生物の培養と観察 I	床、土、河川、トイレ、厨房
6	身の周りの微生物の培養と観察 II	食材
7	納豆菌の培養と納豆作り I	納豆菌の培養
8	納豆菌の培養と納豆作り II	納豆菌を用いた納豆作り
9	乳酸菌の培養とヨーグルト作り I	乳酸菌の培養
10	乳酸菌の培養とヨーグルト作り II	乳酸菌を用いたヨーグルト作り
11	納豆菌からゲノム DNA の抽出	納豆菌からゲノム DNA の抽出
12	遺伝子組換え実験 I	微生物を用いた遺伝子組換えDNA実験の概要
13	遺伝子組換え実験 II	プラスミドDNAの導入
14	遺伝子組換え実験 III	プラスミドDNAの抽出
15	本実験の総括	本実験の総括

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評 価 方 法：出席率、実験態度、レポート

教 材：プリント教材

受講生へのコメント：微生物は、目に見えない非常に小さい生き物ですが、人間に病気を起こせるものから人間の役に立つものまでいろいろな種類が存在しています。微生物の取扱い方を学ぶのは、微生物を有効に活用するために非常に重要です。

備 考：参考書 ビジュアル微生物学、小田紘著、ヌーベルヒロカワ
微生物学、南嶋 洋一・吉田 眞一・永淵 正法、医学書院
微生物学実験マニュアル、安藤昭一、技報堂出版

科目名：解剖生理学実験

英語表記：Experiments in Anatomical Physiology

担当教員：羽生 大記・佐伯 茂・金 東浩

授業形態：実験

単位数：1単位

開講年度・学期：平成30年度・3年後期

科目ナンバリング：HAR1E3302

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：動物実験、人体模型を使ったシュミレーション、実際の人体系統解剖の観察を通じて、2年次に習得した解剖学の理解を深める。

科目の主題：動物実験は糖質に関するもの。人体模型を使ったシュミレーション、実際の人体解剖の観察は、阿倍野学舎で行う。

授業内容・授業計画：動物実験、人体模型を使った解剖法を理解、医学部における系統解剖実習への参加

回	テーマ	概要
1	実験動物解剖生理学の概要	本実験の概要
2	実験動物解剖のデモンストレーション	解剖のデモンストレーション
3	実験動物の解剖 I	麻酔、採血、循環器系
4	実験動物の解剖 II	消化器系、呼吸器系
5	実験動物の解剖 III	内分泌系、泌尿器系、運動器系
6	生体ファントムを使用した演習の概要	演習の概要説明
7	生体ファントムを使用した演習 I	心音、呼吸音実習
8	生体ファントムを使用した演習 II	採血実習
9	生体ファントムを使用した演習 III	腹部超音波実習
10	生体ファントムを使用した演習 IV	AED講習
11	系統解剖実習の概要説明	系統解剖の概要説明
12	系統解剖実習 I	消化器系の解剖
13	系統解剖実習 II	循環器系、呼吸器系の解剖
14	系統解剖実習 III	骨・筋肉系の解剖
15	系統解剖実習 IV	中枢神経系の解剖

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：理解度を問うレポート

教材：プリントなど

受講生へのコメント：解剖、生理の総仕上げとして、動物、人体の解剖を経験していただきます。人体解剖への参加は、医療に携わる人にとって貴重な経験になると思います。

備考：

科 目 名：生化学実験

英 語 表 記：Experiments in Biochemistry

担 当 教 員：市川 直樹

授 業 形 態：実 験

単 位 数：1 単位

開講年度・学期：平成30年度・3 年前期

科目ナンバリング：HAR1E3303

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：本実験では、体を構成する重要な高分子であるタンパク質（特に酵素）について、その分離、分析の手法を体験する。

科目の主題：タンパク質の分離手法として、冷却遠心機を用いたオルガネラの分離、透析、カラムクロマトグラフィーなどを行う。またエネルギー代謝に関わる代表的な酵素を用いて、酵素の活性測定法の基礎（酵素量（unit）と比活性の測定、活性調節について）を学ぶ。

授業内容・授業計画：授業の最初にその日に行う実験の説明をする。実験は4人1組にて行う。実験終了後、グループごとに面接を行い、データを元にその日行った実験の考察を行う。項目ごとに設定した設問について、各自で調べ、後日提出するレポートで報告して頂く。

回	テ ー マ	概 要
1	実験の準備と無機リン酸の検量線（1）	この授業の内容の説明をする。また、実験器具、試薬の適切な扱い方、実験で出た廃棄物の分別、回収などについて説明する。
2	実験の準備と無機リン酸の検量線（2）	本実験で使用する緩衝液や試薬の調製、器具の洗浄を行う。
3	実験の準備と無機リン酸の検量線（3）	ATPaseの活性測定に用いる無機リン酸の検量線（アレン法による）を作成する。
4	オルガネラの遠心分画（1）	この実験の方法と注意する点を説明する。
5	オルガネラの遠心分画（2）	ウシ心筋をホモジナイズし、冷却遠心機を用いてミトコンドリアと細胞質の分画を行う。
6	オルガネラの遠心分画（3）	得られたミトコンドリア画分と細胞質画分のタンパク含量をローリー法により測定する。
7	指標酵素の測定（1）	この実験の方法と注意する点を説明する。また、データ整理の方法（グラフの書き方、酵素量と比活性の定義、計算法など）を説明する。
8	指標酵素の測定（2）	ミトコンドリアの指標酵素である F_1F_0 -ATPaseの測定を行う。各画分の比活性の計算をして比較する。同酵素の活性調節機構を考察する。
9	指標酵素の測定（3）	細胞質ゾルの乳酸脱水素酵素（LDH）の活性測定を行う。また各画分の比活性を計算して比較する。
10	透析とミオグロビンの吸収曲線（1）	この実験の方法と注意点を説明する。
11	透析とミオグロビンの吸収曲線（2）	後でクロマトグラフィーに使用する細胞質サンプルの緩衝液を透析により交換する（オーバーナイト）。

1 2	透析とミオグロビンの吸収曲線 (3)	細胞質画分に含まれるミオグロビンの酸素型と還元型のスペクトルを測定し、比較する。
1 3	イオン交換クロマトグラフィー (1)	クロマトグラフィーの種類と原理について説明する。この実験の方法と注意点を説明する。
1 4	イオン交換クロマトグラフィー (2)	イオン交換クロマトグラフィーによって、細胞質画分から乳酸脱水素酵素の分離を試みる。分離した乳酸脱水素酵素の比活性の上昇を確かめる。
1 5	イオン交換クロマトグラフィー (3)	レポートの作成について説明する。後かたづけ、実験器具の収納、実験室の清掃を行う。

事前・事後学習の内容：毎回の授業で班ごとに面接を行い指示する。

評価方法：レポートで評価する。

教材：プリントを配布する。参考書：レーニンジャー「新生物化学」（廣川書店）（図書館にあります。エネルギー代謝を中心に書かれており、レポート作成の参考にオススメです）。

受講生へのコメント：生化学実験で扱う生物材料は傷みやすい“なまもの”です。したがって、時間は自由になりやすく、帰りが遅くなる場合のあることをご承知おきください。

科目名：公衆衛生学実験

英語表記：Experiments in Public Health

担当教員：中台 ^{ナカダイ} 枝里子・西川 ^{ニシカワ} 禎一 ^{ヨシカズ}

授業形態：実験

単位数：1単位

開講年度・学期：平成30年度・3年前期

科目ナンバリング：HAR1E3304

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：人および環境からの検査材料の採取および取り扱い方法と病原細菌の培養検査方法に関する基礎技術を修得する。

科目の主題：経口感染症の流行に際しては食品取り扱い従事者や保菌者による汚染も主要な原因の一つとなっている。感染症予防のための公衆衛生活動について理解を深めるため、糞便や手指などヒト由来の検査材料あるいは河川水や海水など環境由来の試料中の病原細菌検査方法を習得し、実験を通じてその感染経路や対策を考察する。

授業内容・授業計画：実習・実験

回	テーマ	概要
1	検査材料の細菌学的取り扱い方法（1）	検査材料の細菌学的取り扱い方法の基本を学ぶ。
2	検査材料の細菌学的取り扱い方法（2）	検査材料の採取方法や保管方法を学ぶ。
3	手指の一般生菌数測定と洗浄消毒による削減効果の検証（1）	正しい手指洗浄方法と消毒薬の殺菌効果について学ぶ。
4	手指の一般生菌数測定と洗浄消毒による削減効果の検証（2）	手指洗浄と消毒薬の殺菌効果を培養法により検証する。培地などを作製し、培養を開始する。
5	手指の一般生菌数測定と洗浄消毒による削減効果の検証（3）	手指洗浄と消毒薬の殺菌効果を培養法により検証する。比較判定を行う。
6	河川水などの衛生指標菌検査（1）	菌数測定の手法について学ぶ。
7	河川水などの衛生指標菌検査（2）	様々な菌の確定試験の手法について学ぶ。
8	河川水などの衛生指標菌検査（3）	様々な菌の血清型検査などの手法について学ぶ。
9	河川水などの衛生指標菌検査（4）	環境サンプルの採取方法とその培養検査方法を学ぶ。サンプルの採取と培養を行う。
10	河川水などの衛生指標菌検査（5）	糞便汚染指標菌について菌数測定（MPN法）を行う。
11	河川水などの衛生指標菌検査（6）	糞便汚染指標菌について確定試験を行う。
12	糞便試料の検査（1）	糞便試料の取り扱いや培養検査方法を学ぶ。培養を行う。
13	糞便試料の検査（2）	菌数測定などを行う。
14	糞便試料の検査（3）	確定試験などを行う。
15	総括	実験班ごとに報告を行い、まとめと講評を行う。

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：実験終了後、班毎に報告させ、その後各人にレポートを提出させる。

教材：実験マニュアルのプリント配布

受講生へのコメント：安全な食事の提供は管理栄養士の重要な責務ですが、実際には病院や学校で多くの食中毒患者が発生しています。本実験を通じて病原細菌による汚染状況を実感し、衛生管理に長けた管理栄養士になってください。

備考：

科目名：食品学実験

英語表記：Experiments in Food Science

担当教員：増田 俊哉

授業形態：実験

単位数：1単位

開講年度・学期：3年前期

科目ナンバリング：HAR2E3301

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：様々な機能を有する食品の成分分析を行う。各種の食品成分の分析法の原理の説明と実際の分析実験を行い、得られたデータの解析、レポートのまとめ方なども習得する。

科目の主題：滴定法による容量分析と、食品中のタンパク質量をケルダール法および中和滴定法で求める。進行状況に応じて変更することがある。

授業内容：実験書（プリント）を配付する。

授業計画：実験の授業なので、進行状況により予定が変更されることがある。

回	テーマ	概要
1	実験の説明	目的、内容、安全教育など
2	実験講義	分析実験基礎事項の確認
3	分析実験準備	実験器具の洗浄、設置、器具の扱い
4	中和滴定	標準液の調製
5	タンパク質の定量分析-1	ケルダール蒸留装置の組み立て
6	タンパク質の定量分析-2	未知試料のケルダール蒸留とN量測定
7	タンパク質の定量分析-3	カゼインのケルダール分解
8	タンパク質の定量分析-4	カゼイン分解物のケルダール蒸留
9	タンパク質の定量分析-5	カゼインのN量測定
10	タンパク質の定量分析-6	きな粉のケルダール分解
11	タンパク質の定量分析-7	きな粉分解物のケルダール蒸留
12	タンパク質の定量分析-8	きな粉分解物のN量測定
13	タンパク質の定量分析-9	持参食品のケルダール分解
14	タンパク質の定量分析-10	持参食品分解物のケルダール
15	総括	各食品のタンパク質量実験値の評価

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：実験への取り組みとレポート内容

教材：実験書（プリント配付）

受講生へのコメント：1回生の化学実験技術の習得が必須条件となる

備考：オフィスアワー 随時

科目名：食品衛生学実験

英語表記：Experiments in Food Hygiene

担当教員：古澤 直人

授業形態：実験

単位数：1単位

開講年度・学期：平成30年度・3年前期

科目ナンバリング：HAR2E3302

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：食べ物がヒトの口に入るまでには、生産、加工、製造、保存、流通、貯蔵および調理etc. 様々な過程を経ていることから、その間に栄養価が損なわれ、衛生面で不具合が生じる恐れがある。ここでは、市販食品を対象とし、食品の変質、食品に使用もしくは残留している化学物質の定量分析等を行うことにより食品衛生の理解を深める。

科目の主題：食品の安全性に関する基本的試験を行う。

授業内容・授業計画：講義方法：食品の変質実験と食品中の様々な化学物質の定性・定量などの実験課題を提供し、毎回1課題を班単位で実施する。全実験終了後、期限までに各自レポートを作成・提出する。

回	テーマ	概要
1	化学分析の基礎	試薬調製と分析装置の取り扱い
2	汎用精密分析機器	HPLCの基礎と実践
3	食品添加物試験1	ソルビン酸（保存料の）定量
4	食品添加物試験2	亜硝酸イオンの（発色剤）の定量
5	食品添加物試験3	酸化防止剤の定性
6	品質試験1	鶏卵
7	品質試験2	牛乳
8	品質試験3	油
9	飲料水および生活用水の試験1	BOD
10	飲料水および生活用水の試験2	COD
11	飲料水および生活用水の試験3	DO
12	食品汚染物質検査1	抗菌性物質の定量
13	食品汚染物質検査2	有機塩素系化合物の定量
14	容器・包装1	樹脂（フェノール、ホルムアルデヒドの溶出）
15	容器・包装2	缶

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：出席率およびレポートによる総合評価

教材：担当者独自のテキスト

受講生へのコメント：

備考：

科目名：食品加工学実験

科目英文名：Practice in Food Processing

担当者：^{アキヤマ}（秋山 ^{カヨ} 香代）

種別：実 験

単位数：1 単位

開講年度・学期：平成 30 年度・3 年前期

科目ナンバリング：HAR1E3305

当学科・コース学生以外の受講：不可

講義の目的：食品の加工と保蔵の原理を知り、加工食品の製造法の実際を習得する。

講義の概要：各食品の加工・保蔵の原理を学び、それに沿って実際に加工食品を作る。

講義方法：実習前に目的、原理を解説し、その後実習、実験を行う。

また、実習終了後は、出来上がりなどについてディスカッションを行う。

講義内容

	テ ー マ	概 要
1	味噌、こんにゃくの製造 (1)	味噌の種類と麴歩合、塩分の関係を知る。 こんにゃくいもの加工について学ぶ。
2	味噌、こんにゃくの製造 (2)	味噌を仕込む。（最終回まで熟成させ出来上りを評価する。）
3	味噌、こんにゃくの製造 (3)	こんにゃくを作る。
4	豆腐の製造 (1)	大豆の加工食品について学ぶ。
5	豆腐の製造 (2)	大豆から絹こし豆腐、木綿豆腐を作る。
6	豆腐の製造 (3)	試食して評価する。
7	ソーセージ、パスタの製造 (1)	食肉の加工食品について学ぶ。小麦粉の特性について学ぶ。
8	ソーセージ、パスタの製造 (2)	ソーセージ、パスタを作る。
9	ソーセージ、パスタの製造 (3)	試食して評価する。
10	乳製品、菓子の製造 (1)	乳類の加工食品について学ぶ。砂糖の特性について学ぶ。
11	乳製品、菓子の製造 (2)	チーズ、バター、キャラメルなどを作る。
12	乳製品、菓子の製造 (3)	試食して評価する。
13	ジャム、パンの製造 (1)	果実類の加工食品、糖蔵法などについて学ぶ。
14	ジャム、パンの製造 (2)	ジャムを作りびん詰め保存する。パンを作る。
15	ジャム、パンの製造 (3)	試食して評価する。

事前・事後の学習の内容：配布プリントを読んで参加する。事後学習については毎回課題を課す。

評価方法：実習への取り組みを評価 25%、実習ノート 25%、レポート 50%。

教材：プリントを配布する。

参考書：必要に応じ、講義の中に紹介する。

備考：

（担当者からの一言）：受講者が持参すべき容器などがありますので、事前に連絡します。忘れ物のないように参加してください。また、各テーマは、材料の入手の都合で順番を変える場合があります。

科 目 名：栄養科学実験

英 語 表 記：Experiments in Nutritional Science

担 当 教 員：小島 明子

授 業 形 態：実 験

単 位 数：1 単位

開講年度・学期：平成30年度・3 年前期

科目ナンバリング：HAR2E3303

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：栄養学の基礎となる実験の技術と考え方を系統立てて習得する。

科目の主題：糖質に関する実験講義方法：実験マニュアルに沿って方法を説明した後、各グループに分かれて実験を行う。

授業内容・授業計画：

回	テ ー マ	概 要
1	栄養科学実験について I	ガイダンス
2	栄養科学実験について II	試薬作製
3	栄養科学実験について III	試薬作製、分光光度計の使用方法的説明
4	還元糖の定量法 I	Somogyi-Nelson法を用いた還元糖（グルコース）の定量
5	還元糖の定量法 II	Somogyi-Nelson法を用いた還元糖（マルトース）の定量
6	還元糖の定量法 III	分光光度計による測定および標準曲線の作成
7	多糖の酸加水分解 I	多糖の酸加水分解（サンプルの作製）
8	多糖の酸加水分解 II	Somogyi-Nelson法を用いた還元糖の定量
9	多糖の酸加水分解 III	分光光度計による測定およびグラフの作製
10	唾液による可溶性デンプンの分解 I	多糖の酸加水分解、唾液による分解（サンプルの作製）
11	唾液による可溶性デンプンの分解 II	Somogyi-Nelson法を用いた還元糖の定量
12	唾液による可溶性デンプンの分解 III	分光光度計による測定およびグラフの作製
13	討論・発表 I	各グループの実験結果について発表
14	討論・発表 II	実験結果について討論
15	後片付け	実験器具、試薬の後片付け、掃除

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評 価 方 法：実験態度およびレポート

教 材：プリント配付

受講生へのコメント：標準曲線の描き方は、すべての定量実験において最も基本的であり、かつ重要な事項です。今後の研究に役立つことができるように、この実験で基本をしっかり身につけて下さい。

備 考：

科目名：栄養生理学実験

英語表記：Experiments in Nutritional Physiology

担当教員：佐伯 茂・金 東浩

授業形態：実 験

単 位 数：1 単位

開講年度・学期：平成30年度・3 年後期

科目ナンバリング：HAR2E3304

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：実験動物の血液、臓器の生体成分を分析し、栄養生理学実験の基礎的技術と考え方を修得する。栄養学の基礎となる実験の技術と考え方を系統立てて習得する。

科目の主題：実験動物の血液、臓器を麻酔下で採取し、ヘマトクリット値、血清コレステロール濃度、肝臓コレステロール濃度を測定する。また、実験結果は、パソコンを用いて解析し、図表の作製を行う。

授業内容・授業計画：実験テキストを配布して実験方法を説明し、各グループに分かれて実験を行う。

回	テ ー マ	概 要
1	栄養生理学実験の概要	本実験の概要
2	実験動物の飼育飼料の調整法と飼育方法	実験動物のお世話の仕方
3	実験動物の飼育I	飼育飼料の作製
4	実験動物の飼育II	実験動物の飼育
5	実験動物の解剖の概要	解剖のデモンストレーション
6	実験動物の解剖、採血、組織の摘出	実験動物の解剖
7	生体成分の分析 I	ヘマトクリット値、血漿脂質濃度の測定
8	生体成分の分析 II	肝臓からの脂質の抽出と脂質濃度の測定
9	生体成分の分析 III	糞からの脂質の抽出と脂質濃度の測定
10	データ処理 I	成長曲線、餌摂取量、餌効率、臓器重量
11	データ処理 II	血漿、肝臓、糞の脂質濃度
12	データ処理 III	各種データの図表作製
13	データ処理 IV	発表用のプレゼンテーション作製
14	プレゼンテーション	プレゼンテーションと討論
15	実験の総括	本実験の総括

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：実験態度とレポート

教 材：プリント配付

受講生へのコメント：

備 考：

科目名：総合演習

英語表記：Tutorial Seminar on Nutrition

担当教員：福村 智恵・由田 克士・小島 明子・上田 由喜子・安井 洋子・早見 直美

授業形態：演習

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・4年通年

科目ナンバリング：HAE1S4401

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：人々の健康栄養課題を的確に捉え、理論に基づいて分析し、具体的な教育活動に発展する演習により、専門基礎領域科目群の高度な知識と専門領域科目群の実践知識を総合的に修得し管理栄養士としての応用実践力を修得する。

科目の主題：4年間の講義、実習および臨地実習で学習した内容を発展させ、少人数のグループで、課題設定、文献検索、研究実践のうえ、解決策を考案し、シミュレーションまたはキャンパスで実践的に課題解決に取り組む。症例のケーススタディーや、校外実習の事後研究なども課題とする。演習内容をレポートし、その概要をプレゼンテーションする。臨地実習を効果的に行い、管理栄養士としての実践力をつけるために行う事前事後指導も内容に含める。

授業内容・授業計画：グループおよび個人単位での演習。

回	テーマ	授業内容 (キーワード)
1	臨地実習の事前指導	各臨地実習の事前の学内における指導 (臨地実習の目的、実習時における注意など)
2	臨地実習の事後指導	各臨地実習の事後の学内における指導 (臨地実習の振り返り)
3	演習テーマ、実施方法 について説明	各演習課題の設定について説明、 演習の実施方法および実施計画についての説明と意見交換
4	演習実施1	数人のグループを編成、役割分担を決定
5	演習実施2	演習の進め方の話し合い
6	演習実施3	演習の実施・結果の解析・考察
7	演習実施4	プレゼンテーションの準備
8	演習成果の中間発表1	演習内容について担当教員による点検
9	演習成果の中間発表2	各自および各グループによる演習の見直し
10	演習成果のまとめ1	後半の演習実施、各自および各グループによる成果のまとめ
11	演習成果のまとめ2	後半の演習の結果解析・考察
12	演習成果のまとめ3	後半のプレゼンテーションの準備
13	結果の発表・反省1	演習成果の発表
14	結果の発表・反省2	演習成果の考察
15	結果の発表・反省3	演習成果の評価

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：実習態度、演習発表、レポートを総合する。

教材：日本食品標準成分表2018 (七訂) (医歯薬出版)

受講生へのコメント：4年生前期までの基礎的・応用的な学習成果を統合し、管理栄養士としての実践力を高めるよう、主体的に取り組みましょう。

備考：



教職関係科目シラバス

科目名：家庭科教育法 I

英語表記：Teaching Method in Family Living and Environment I

担当教員：（北村 ^{キタムラ} 由賀 ^{ユカ}）

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成31年度(2年，3年集中)

科目ナンバリング：KHHOM2201

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：中学校・高等学校家庭科の学習意義や目標・内容の概要を理解し，学習指導案の作成・実践・評価といった家庭科授業を行うための基礎的・基本的な力を身に付ける。

科目の主題：家庭科の意義・目標・内容，学習指導案の作成方法，授業づくりの工夫，家庭科における評価等，授業を行ううえで必要な内容について講義する。また，学習指導案の作成，模擬授業といった演習活動を通して，実践的な力を身に付ける。

授業内容・授業計画：教材，資料に基づいて講義・演習を行う。

回	テーマ	概要
1	オリエンテーション	シラバス，評価についての説明
2	家庭科教育の意義	家庭科をなぜ学ぶのか，家庭科教育の意義等
3	家庭科教育の目標と内容	小・中・高等学校の家庭科の目標と内容
4	題材構成と授業づくり1	題材の設定方法について
5	題材構成と授業づくり2	題材間のつながりを考慮した題材設定
6	教材研究と授業づくり1	アクティブ・ラーニングの視点に立った授業
7	教材研究と授業づくり2	授業のねらい，振り返りの場面を取り入れた授業
8	学習指導案について	学習指導案の作成方法
9	学習指導案の作成	学習指導案の作成
10	学習指導案と評価	学習指導と学習評価
11	観点別学習状況の評価	目標に準拠した評価
12	模擬授業1	作成した学習指導案に基づいた模擬授業，検討会
13	模擬授業2	作成した学習指導案に基づいた模擬授業，検討会
14	授業づくりの工夫1	実践的・体験的な学習活動
15	授業づくりの工夫2	問題解決的な学習等多様な授業方法及び全体まとめ

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：授業への出席・課題の作成（50%）学習指導案の作成（20%）模擬授業（30%）

評価観点1 家庭科の目標と内容について理解している

評価観点2 家庭科における評価の意義と方法について理解している

評価観点3 家庭科の授業について理解している

教材：「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」「高等学校学習指導要領解説 家庭編」

（教科書，その他の資料に関しては各講義時に連絡）

科目名：家庭科教育法Ⅱ

英語表記：Teaching Method in Family Living and EnvironmentⅡ

担当教員：(北村 由賀)

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度（2年，3年集中）

科目ナンバリング：KHHOM2202

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：家庭科の系統性を踏まえたくうえで，授業方法，教材についての考察や問題解決型学習への取り組みなど，総合的に家庭科への理解を深めることを目的とする。

科目の主題：新学習指導要領家庭科の内容構成「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」について概説する。また，各々の内容に関する，授業の組み立て方，教材の作成について講義・演習し，教材作成，模擬授業等を行う。

授業内容・授業計画：教材，資料に基づいて講義・演習を行う。

回	テーマ	概要
1	オリエンテーション	シラバス，評価についての説明
2	学習指導要領家庭科	小・中・高等学校家庭科の各内容
3	家庭科の授業づくり1	家庭科の授業の組み立て
4	家庭科の授業づくり2	「育成をめざす資質・能力」を明確にした評価
5	「A 家族・家庭生活」の指導内容	学習内容についての理解，題材設定
6	「A 家族・家庭生活」の教材	指導案作成，指導内容に沿った教材作成
7	「B 衣食住の生活」の指導内容	学習内容についての理解，題材設定
8	「B 衣食住の生活」の教材	指導案作成，指導内容に沿った教材作成
9	「C 消費生活・環境」の指導内容	学習内容についての理解，題材設定
10	「C 消費生活・環境」の教材	指導案作成，指導内容に沿った教材作成
11	「生活の課題と実践」の進め方1	問題解決型学習の理解
12	「生活の課題と実践」の進め方2	問題解決型学習の指導方法
13	作成した教材を用いた模擬授業1	作成した学習指導案並びに教材を使用した模擬授業，検討会
14	作成した教材を用いた模擬授業2	作成した学習指導案並びに教材を使用した模擬授業，検討会
15	振り返り	模擬授業の改善内容を含めたまとめ

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：授業への出席・課題の作成（60%）学習指導案の作成（20%）模擬授業（20%）

評価観点1 発達段階に応じた家庭科の目標と内容について理解している

評価観点2 効果的な家庭科教材について理解している

評価観点3 問題解決的な学習の進め方を理解している

教材：「小学校学習指導要領解説 家庭編」「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」

「高等学校学習指導要領解説 家庭編」

（教科書，その他の資料に関しては各講義時に連絡）

科目名：家庭科教育法Ⅲ

英語表記：Teaching Method in Family Living and Environment Ⅲ

担当教員：(吉井 美奈子)

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成31年度・2年、3年集中

科目ナンバリング：KHHOM2203

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：中学校「技術・家庭」の家庭分野教科書を総括的に理解し、中学校における家庭科の役割を認識することを主要な目的とする。また、高校と系統性を学ぶために、高校の内容についても触れながら、知識や理解を深める。

科目の主題：家庭生活のありようが多様化し価値観も変化する中で、「食生活、衣生活、住生活の見直しと改善」、「命の大切さ、幼児の遊び、子どもと家族、地域の人々とのふれあい、環境や資源を考えた暮らし」等、中学生にどのように教えたなら楽しい授業になるかを講義する。

授業内容・授業計画：中学校教科書を中心に講義を行うが、必要に応じてプリントを配布したり、動画を使用したりする。実習も取り入れる。高校の教科書や資料も使用するが、必要な場合はこちらで用意する。指導案や模擬授業、教材づくりなどを通して、具体的に学ぶ。

回	テーマ	概要
1	オリエンテーション	シラバスについて説明。評価の方法など
2	家庭科とは、家庭科教育法とは	歴史、法規など
3	学習指導要領について	改訂のポイント、ねらい。小学校、高校家庭科との関連
4	変容する家族、家庭生活	家族とは、命の大切さ
5	中学生と食生活	健康な食生活
6	中学生の衣生活	衣類の洗濯、片づけなど、中学生らしい服装とは
7	住まいを見直そう	照明、整理整頓を考える
8	家族。幼児と遊び	幼児の遊び。おもちゃとおやつ
9	私と家族、家族と地域	家庭生活と地域との関わり
10	布を使って作品を製作	作品を提出する
11	学習指導案の作成①	学習指導案を作成する
12	学習指導案の作成②	学習指導案を提出する
13	学生による模擬授業①	学生による模擬授業を行う
14	学生による模擬授業②	学生による模擬授業を行う
15	まとめとレポートの作成	レポート提出

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：講義への参加度、熱意及びレポートを総合的に評価します[学習指導案作成(20%) / 模擬授業(20%) / 授業への積極性(20%) / レポート(20%) / 衣生活の作品(20%)]。テストはしません。

評価観点1 家庭科の目標と内容について理解している

評価観点2 家庭科教育の歴史と課題について理解している

評価観点3 家庭科授業について理解している

教材：教員が用意する。第一回目に自分が持っている家庭科の教科書を持参すること。

科目名：家庭科教育法Ⅳ

英語表記：Teaching Method in Family Living and Environment Ⅳ

担当教員：(吉井 美奈子)

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・2年、3年集中

科目ナンバリング：KHHOM2204

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：中学校「技術・家庭」、及び高校「家庭科」の内容を総括的に理解し、中学校・高等学校における家庭科の役割を認識すること、授業展開を実践的に身に付けることを主要な目的とする。家庭科の内容は多岐にわたるため、主な内容を選択し、実際に授業をする際の注意点等を議論しながら進めていく。

科目の主題：既に学んでいる家庭科指導法Ⅰ～Ⅲの内容を振り返り、家庭科の授業を行うための注意点や授業の流れなどを学習したうえで考えつつ、授業の組み立て方などを講義する。その上で、模擬授業を行い、その内容について振り返りをする。

授業内容・授業計画：中学校「技術・家庭」の家庭分野教科書、及び高校の「家庭科」の教科書を用いる。出版社によって違いがあるため、第1回目の授業時に説明する。模擬授業を通して実践的な力を養う。

回	テーマ	概要
1	オリエンテーション	シラバスについて。評価方法の確認。 これまで学んできた内容と教科書等の確認。
2	家庭科を学ぶ意義	家庭科を学ぶ意義、家庭科で学ぶことの意義。他教科との比較。
3	授業を観察し、分析する①	授業の観察、流れのデータを作成する。
4	授業を観察し、分析する②	授業の観察、流れのデータから分析をする。
5	指導案作成	指導案を作成し、授業のめあてを明確にする。
6	年間授業計画作成	学修指導要領と年間指導計画を作成する。
7	教材作成課題①	分かりやすく伝える教材づくりを行う。ICT教材も検討する。
8	教材作成課題②	①で作成した教材を評価し、改善を行う。
9	教材の違いと学び	教材の違いと子どもたちの理解について議論する。
10	科学的視点を育む教材	科学的視点の必要性。教材づくりを行う。
11	多様な価値観の学び	多様な価値観を議論する意義と学ぶ方法。
12	複数の領域との授業	領域と学習課題。領域を繋ぐカリキュラムデザインについて。
13	交流を通して視点を広げる	地域の高齢者、幼児との交流体験を考える
14	学習を評価する	生徒による評価、教師による評価、様々な評価について学ぶ
15	まとめとレポートの作成	まとめと、家庭科の今後の課題について

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：集中講義のため授業中のレポート課題を重視する。

評価観点1 家庭科の目標と内容について理解している

評価観点2 家庭科教育の歴史と課題について理解している

評価観点3 家庭科授業について理解している

教材：各自が家庭科指導法Ⅰ～Ⅲで使用した教科書等を持参する。初日に持参すること。何もない場合は、開隆堂または東京書籍の「高校家庭科・総合」を購入すること。

科目名：生徒指導論

科目英文名：Theory of Guidance

担当者：(松本 ^{マツモト} ^{クニエ} 訓枝)

種別：講義

単位数：2単位

学年・学期：平成30年度・2年集中

科目ナンバリング：KHSTU2201

当学科学生以外の受講：可

講義の目的：生徒指導の意義と原理、指導方法、生徒指導に関連した学校教育の現場におけるさまざまな取り組みの実態を理解する。

講義の概要：生徒指導の意義と原理、指導方法を理解した上で、今日の学校教育における生徒指導の実践をさまざまな側面から検討する。また、生徒指導の役割および今後の課題、これからの生徒指導の展望についての理解を深める。

講義方法：講義の形式を基本とするが、ディスカッションなどを随時取り入れながら進めていく。

授業内容

回	テーマ	概要
1	オリエンテーション	講義の概要・目的・進め方・成績評価の方法など
2	生徒指導とは何かⅠ	生徒指導の意義と内容
3	生徒指導とは何かⅡ	生徒指導の原理と方法
4	生徒指導とは何かⅢ	児童・生徒理解と生徒指導
5	生徒指導のあり方Ⅰ	生徒指導の体制・組織
6	生徒指導のあり方Ⅱ	保護者・地域との連携による生徒指導
7	生徒指導のあり方Ⅲ	生徒指導と教育相談
8	生徒指導の実践Ⅰ	問題行動の理解と対応
9	生徒指導の実践Ⅱ	いじめ問題への対応
10	生徒指導の実践Ⅲ	不登校問題への対応
11	生徒指導の実践Ⅳ	暴力行為、体罰、校則等の問題
12	生徒指導の実践Ⅴ	学級経営と生徒指導
13	生徒指導の実践Ⅵ	事例検討
14	生徒指導の課題と展望Ⅰ	教育問題への対応・予防策の検討
15	生徒指導の課題と展望Ⅱ	教育問題への対応・予防策の検討

事前・事後学習：毎回の授業で指示する。

評価方法：授業参加度（10%）、小レポート（60%）、教育問題への対応・予防策に関するグループ発表（30%）によって総合的に評価する。

評価の観点1 生徒指導の意義と原理を理解している

評価の観点2 生徒指導の方法を理解している

評価の観点3 生徒指導の今日的動向・課題を理解している

教科書：文部科学省『生徒指導提要』教育図書、2011年

参考書：小泉令三編著『よくわかる生徒指導・キャリア教育』ミネルヴァ書房、2010年

久富善之・長谷川裕・山崎鎮親編『図説 教育の論点』旬報社、2010年

備考：進度等に応じて、授業内容を変更する場合がある。

(担当者からの一言)：生徒指導の基本を理解し、生徒指導の実践例をもとにどのような生徒指導が求められるのかを、みなさんと深めていきたいです。

科目名：被服学概論

英語表記：Clothing and Textile Science

担当教員：(村田 ^{ムラタ} ^{ヒロコ} 浩子)

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成31年度・2年、3年集中

科目ナンバリング：KHCCS2201

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：衣服は、人間にとって身体保護、身体衛生の維持において生活必需品であると同時に、審美性、社会性を伴う個性表現の手段である。近年は、手軽に安価な既製品が入手可能であり、あふれる衣料品の中で良質の衣服を選ぶ力が求められてくる。衣服の着用目的及び機能など、また年々市場に送り出される新しい素材について学修し、それらの力を身につけることを目的とする。

科目の主題：被服に対する正しい知識を身につけるため、被服材料学、被服衛生学、被服管理学を中心に解説する。

授業内容・授業計画：講義は基本的にスライドに沿って行い、必要に応じてプリントを配布したり動画を使用する。

回	テーマ	概要
1	はじめに	被服学とは
2	被服材料とその性能	天然繊維の構造と性質
3	被服材料とその性能	化学繊維の構造とその性質
4	被服材料とその性能	糸の構造と性質
5	被服材料とその性能	布の構造と性質
6	被服の機能	衣服の温熱的機能性
7	被服の機能	衣服の着用感
8	被服の機能	衣服の運動機能性
9	被服の管理	衣服の洗浄、漂白、仕上げ、
10	被服の管理	衣服の保管、保存
11	被服の管理	衣服の加工
12	被服の機能とデザイン	衣服のバリアフリー
13	被服の機能とデザイン	衣服におけるユニバーサルデザイン
14	被服の機能とデザイン	子どもから高齢者用の衣服について
15	まとめ	現代生活の衣生活における問題点

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：レポート70%、授業中の提出物30%

教材：教員が用意する。印刷物を配布

科目名：被服構成学

英語表記：Clothing Construction

担当教員：^{ムラタ}（村田 ^{ヒロコ} 浩子）

授業形態：実習

単位数：1単位

開講年度・学期：平成30年度・2年、3年集中

科目ナンバリング：KHCCC2201

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：被服の着用目的と機能を理解した上で、被服構成の知識や技術を教材の製作を通じて習得させることを目的とする。

科目の主題：人間は数千年も昔から、布を裁ち、縫合する裁縫という営みを続けてきた。その裁縫を科学的に体系化したものが被服構成学である。被服を構成するために必要な諸要因である被服設計、製作、材料、着装の課程を科学的に学修する。

授業内容・授業計画：授業は資料を中心に行うが、必要に応じて動画を使用する。立体構成、平面構成を学習するため甚平とショートパンツを製作課題とする。

回	テーマ	概要
1	はじめに	被服構成学とは
2	人体計測	人体の体型、構造、形状の把握
3	人体計測	人体計測機器について
4	人体計測	採寸方法について
5	デザインの設定	目的、用途に応じたデザイン選択
6	パターンメイキング	原型の製図
7	パターンメイキング	決定したデザインの製図
8	ショートパンツ甚平の製作	型紙の配置、裁断
9	ショートパンツ甚平の製作	印つけ、仮縫い
10	ショートパンツ甚平の製作	試着、補正、試着
11	ショートパンツ甚平の製作	本縫い（ショートパンツ）
12	ショートパンツ甚平の製作	本縫い（甚平身頃）
13	ショートパンツ甚平の製作	本縫い（甚平衿）
14	ショートパンツ甚平の製作	本縫い（甚平袖）、仕上げ
15	講評	完成した作品の着装評価

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：完成作品70%、授業取り組み態度30%

教材：教員が用意する。

科目名：食物学 I

英語表記：Food Science I

担当教員：市川 直樹
イチカワ ナオキ

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・全学年後期

科目ナンバリング：KHFFS1101

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：食べ物（栄養素）がどのように消化、吸収され、体の中で利用されているのかを理解する。

この科目は、QOLプロモーターを目指す生活科学部学生、および居住環境学科の学生で高等学校または中学校家庭科教諭を目指す学生を対象としている（詳細は履修概要を参照のこと）。

科目の主題：人体に必須の栄養素である糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラルなどの消化、吸収、人体での利用のしくみを説明する。

授業内容・授業計画：教科書を用いて講義するほか、補助的にプリントを利用することもある。

回	テーマ	概要
1	栄養とは	栄養のもつ3つの役割について。
2	栄養素の「燃焼」	身体の活動に必要なエネルギーになる栄養素について。
3	エネルギーとATP	栄養素が「燃焼」し、エネルギーになるしくみについて。
4	水は大切な体の成分	体に含まれる水と無機イオンの恒常性について。
5	糖質の消化吸収と利用	糖質の種類とその消化、吸収のしくみ、燃焼のしくみ。
6	脂質の生理機能	脂質にはどのようなものがあるか、脂質の体の中での働き、水に溶けない脂質が血液をどのように輸送されているか、など。
7	脂質の消化吸収と利用	脂質の種類、消化、吸収のしくみ、脂肪組織に脂肪が貯蔵されるしくみ、脂肪の燃焼のしくみなど。
8	コレステロール	何かと悪者にされるコレステロールの体の中での働きと、過剰摂取からくる疾病のしくみについて。
9	アルコールの代謝	飲んだお酒はどこへゆく？ お酒の飲めるひとと飲めないひとはどこが違う？
10	タンパク質の消化吸収	タンパク質、アミノ酸の消化、吸収のしくみ。
11	ビタミンは代謝の潤滑剤	ビタミンにはどのようなものがあり、体の中でどのように利用されているか。
12	無機栄養素としてのミネラル	塩分、カルシウムの摂取、人体での利用について。
13	食物繊維	食物繊維とは何か、なぜ必要かなどについて。
14	運動と栄養	有酸素運動、遅筋と速筋などについて。
15	まとめ	授業を振り返り、自身の食生活について考えて、文章にまとめる。

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：定期試験で評価する。

教材：田川邦夫 著「からだの働きからみる代謝の栄養学」タカラバイオ/丸善

科 目 名：食物学Ⅱ

科目英文名：Food Science Ⅱ

担当教員：マトバ テルヨシ 的場 輝佳

授業形態：講 義

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・全学年前期

科目ナンバリング：KHFFS1102

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：食べ物と生活について、生活者から見た食物の意義を理解する。この科目は、居住環境学科、人間福祉学科の学生で、高等学校または中学校家庭科教諭を目指す学生、および、QOLプロモーターを目指す学生を対象としている（詳細は履修概要を参照のこと）。なお、食物学Ⅰと関連性の強い科目であるが、受講順序はⅠ、Ⅱのどちらからでもよい。

科目の主題：食資源、食べ物の機能（栄養性と嗜好性）、調理・加工、消費生活と食文化などを、食物科学の視点から概説する。

授業内容・授業計画：教科書を用いて講義するほか、補助的にプリントや映像を利用することもある。

回	テ ー マ	概 要
1	食物と生活環境	日本と世界の食資源と地球環境
2	食生活と健康	日本人の食生活と健康
3	食物の嗜好性Ⅰ	食物のおいしさ、色
4	食物の嗜好性Ⅱ	食物の味、食感
5	植物性食材の特徴	穀類、野菜、果実の成分および調理・加工特性
6	動物性食物の特徴	肉、魚介類の成分および調理・加工特性
7	食物の健康増進作用	食物に由来する健康増進機能成分と疾病予防
8	食物の品質変化Ⅰ	食物の調理、加工、保蔵の過程で起こる酸化など
9	食物の品質変化Ⅱ	食物の調理、加工、保蔵の過程で起こる着色、熟成など
10	食物の安全性Ⅰ	食物の天然有害物質、微生物による食中毒、食品添加物の功罪
11	食物の安全性Ⅱ	遺伝子組み換え作物および有機農作物
12	食物と消費者Ⅰ	食物に関する法律（食品衛生法、健康増進法、食品表示法、リサイクル関連法律など）
13	食物と消費者Ⅱ	消費者行動
14	食文化	和食の歴史と魅力、日本料理と世界の料理（中国料理、韓国および東南アジア料理、欧州料理など）の特徴
15	総括	これまでの授業内容を総括し、確認テストを実施する

輔・報学習の内容：毎回の授業で指示する。

評 価 方 法：主として定期試験で評価するが、レポート、提出状況を加味して総合評価する。

教 科 書：的場輝佳 編著『食物科学概論 改訂版』朝倉書店

参 考 書：『食材図典』小学館、『日本食品成分表』女子栄養大出版部、『日本食生活全集－聞き書き 各都道府県の食事』（全50巻）農山漁村文化協会

科目名：調理実習

英語表記：Food Preparation

担当教員：小島 明子・(佐伯 孝子)

授業形態：実習

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・2年集中

科目ナンバリング：KHFFP2201

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の目的：多くの食品は、調理という過程を経てよりおいしく、消化吸収し易くなり、われわれの健康保持、増進に役立つ食物となる。そこで調理を行う行動の中で、科学的に調理を感じ取り健康的な食生活を送ることを目的とする。

講義の内容：素材の見分け方・扱い方、種々の調理法、配膳方法について、日本料理・西洋料理・中国料理別に調理の基礎から実習する。

到達目標：基本的な調理技術を習得し、献立にそった調理法を組み合わせることで料理を完成することができる。

授業方法：教科書に沿って実習を行う

回	テーマ	概要
1	実習の概要説明	調理実習心得・衛生管理・実習準備、計量・洗浄の方法
2	調理の基礎	包丁の種類と使い方、種々の切り方、鍋を使っての炊飯、出汁の引き方、出し巻き卵の作り方、米粉の使い方
3	日本料理の基礎①	日本料理の特徴・種類・盛り付けかた・配膳の基本・テーブルマナー
4	日本料理の基礎②	魚の三枚おろし、煮物、蒸し料理の種類と方法、卵の調理性、南蛮漬け
5	西洋料理の基礎①	西洋料理の特徴・種類・盛り付けかた・配膳の基本・テーブルマナー
6	西洋料理の基礎②	スープの種類、ブイヨンの取り方、ソースの作り方、サラダ・ドレッシングの種類と作り方、ゼラチンの調理性、
7	中国料理の基礎①	中華料理の特徴・種類・盛り付けかた・配膳の基本・テーブルマナー
9	中国料理の基礎②	湯の取り方、揚げ物調理法、涼拌、寒天の扱い方、魚料理
9	日本料理	すし各種、うしお汁
10	中国料理	桂むきの練習、肉の種類と部位による使い分け、酢豚、炒飯
11	日本料理	もち米、いりこだしのとり方、味噌の種類、天ぷらのコツ、焼きものの種類と方法、松花堂弁当
12	中国料理	点心の種類、発酵、包子の作り方、粥の炊き方
13	西洋料理	ビュッフェ形式の盛り付けかた・テーブルマナー、ポタージュスープ、煮込み料理、スポンジケーキ、マヨネーズの作り方、行事食
14	日本料理	正月料理、串の刺し方、
15	自主献立	自主献立の実施、実技テスト

事前・事後学習：毎回の授業で指示する。

評価方法：授業への取り組みを評価50%、実習時技術到達度・実技テスト30%、レポート20%など総合的に評価する。

教科書：「新版 現代食生活のためのクッキング」現代食生活研究会

備考：

(担当者からの一言)：家庭科教諭をめざす学生対象の内容

科目名：住居学概論

英語表記：Introduction to Housing Study

担当教員：永村 ^{エムラ} 一雄・森 ^{カズオ} 一彦・小伊藤 ^{モリ} 一彦・アキコ ^{カズヒコ} 亜希子 ^{コイトウ}

授業形態：演習

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・1年・1年集中（後期）

科目ナンバリング：KHHIH1101

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：この講義は、居住環境学科以外の学生で、高等学校または中学校家庭科教諭を目指す学生のために開講されるものである。教育職員免許法施行規則に定められる内容のうち、主として「住居学」の内容を学ぶためのものである。

科目の主題：住居学全般について演習を含めて教授する。気候・風土との関わりから住居の成り立ちを解説し、住宅の材料と構造が住まいの形態に与える影響について論じる。また、住まいの快適性と安全性を図るための方策について述べる。さらに、日本の住居の発展過程を解説し、現在の到達点と当面する諸問題について論じる。加えて、現代住居の多様な側面、例えば住宅事情、住まい方、集住形態とコミュニティ、居住環境などを取り上げて解説し、未来の居住空間について展望する。製図に関しては、表示記号や木造住宅などの図面について学び、演習を行う。

授業内容・授業計画：

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	住まいの発達史	明治以降、日本の住まいの変遷	近代化と洋風化、標準設計、起居様式	A2, C3
2	家族と住まい	現代の住生活と住み方	住要求、世帯構成の変化、ライフスタイルの変化、集住	A2, C4
3	現代住居をめぐる諸問題	住宅問題、住宅事情、住宅政策	持ち家と借家、居住水準、セーフティネット	A2, C4
4	居住環境構造	居住空間を構成する住宅の構造について、力学や耐震、耐久性の観点から学ぶ	木構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造、構法、特性、力学	D1, D2
5	居住環境材料	居住空間を構成する建築材料の基本特性を学ぶ	土、石、木、コンクリート、金属、弾性、塑性、物理的特性、工法	D1, D2
6	居住環境設備	音・光・熱・空気等の環境要素と居住環境へのかかわり、建築防火の基礎を学ぶ	住宅性能評価、環境指標、省エネルギー指標、防火対策、防火器具	D3, D4
7	住宅の計画1	どんな住宅がよいかを考える（設計主旨）	住宅の計画法と構法	C, D, E
8	住宅の計画2	家族構成を考える。	住宅の計画法と構法	C, D, E
9	住宅の計画3	諸室の構成を考える	住宅の計画法と構法	C, D, E
10	住宅の計画4	住宅の平面（部屋のつながりと位置関係）を考える	住宅の平面計画と設計	C, D, E
11	住宅の計画5	計画案を発表する	住宅の平面計画と設計	C, D, E
12	住宅の計画6	投票と評価を行う	住宅の平面計画と設計	C, D, E
13	住宅の計画7	最近の住宅トレンドを知る	住宅の平面計画と設計	C, D, E
14	住宅の計画8	実際の住宅を見学する	住宅の見学と調査	C, D, E
15	住宅の計画9	住宅を比較する	住宅の見学と調査	C, D, E

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：出席とレポート

教材：資料を配布する。

科目名：保育学

英語表記：Childcare Studies

担当教員：（堀^{ホリ} 智晴^{トモハル}）

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・2年、3年集中

科目ナンバリング：KHNC2201

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：保育についての理論を学び、保育施設における実践について学ぶ。

科目の主題：保育とは何か、保育の歴史、保育の現行制度、保育実践の意義と研究方法について講義するとともに保育実践現場における事例研究を行う。また、インクルーシブ保育についてその歴史を学び、目的、内容、方法について学ぶ。

授業内容・授業計画：講義方式と演習形式を併用する。保育所における実践事例について検討する。

回数	テーマ	概要
1	オリエンテーション	本講義の目的と予定について述べる。
2	保育とは	保育とは何か、保育の基本的性格について講義する。
3	保育の思想と歴史①	保育の思想と歴史（子育てと保育）について講義する。
4	保育の思想と歴史②	保育機関における保育について講義する。
5	保育所、幼稚園の保育	保育所保育指針と幼稚園教育要領について解説する。
6	こども園の保育	子ども園教育・保育要領について解説する。
7	保育実践研究の方法①	保育実践と子ども理解について講義する。
8	保育実践研究の方法②	保育実践と子どもへの願いについて講義する。
9	保育実践研究の方法③	保育実践と手だてについて講義する。
10	インクルーシブ保育の歴史	インクルーシブ保育の歴史について講義する。
11	インクルーシブ保育の特色	インクルーシブ保育の特色について講義する。
12	インクルーシブ保育事例研究①	一対一の対応のあり方について講義する。
13	インクルーシブ保育事例研究②	子どもどうしの関係づくりについて講義する。
14	インクルーシブ保育事例研究③	クラスづくり、園づくりについて講義する。
15	まとめ	本講義のまとめを行う。

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：授業参加度（50%）、議論への参加（20%）、最終レポート（30%）により評価する。

教材：堀 智晴著『保育実践研究の方法』川島書店。

適宜、実践を記録したDVD、資料を活用する。

備考：

受講生へのコメント：保育実践にふれる機会を持ち、子どもとふれあうボランティア体験をすすめたい。

科目名：学校栄養教育実習

英語表記：Practice in Teaching (Nutrition)

担当教員：上田 由喜子・添田 晴雄（文学部教員）・島田 希（文学部教員）

授業形態：実習

単位数：1単位

開講年度・学期：平成30年度・4年集中

科目ナンバリング：KKPRA4403

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：教育実習を通して教職への意義をさらに高めることを目的とする。

科目の主題：大学の教職科目で履修した教育理論を踏まえて、教育実践を実地に体験することを通して教職に関する実践的指導力の基礎を身につける。

授業内容・授業計画：小学校あるいは中学校での実習。
各教育実習校の計画にそって行う。

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：教育実習校での評価を参考にして教育実習担当者会議で評価する。

教材：大阪市立大学編「教育実習の手引き」

備考：教育実習を希望する者は、前年度の教育実習ガイダンスに必ず出席し、教育実習校に対する依頼手続きを進めておかなければならない。栄養教育実習と同時に履修する教職実習事前事後指導のシラバスは、文学部のシラバスを閲覧すること。

受講生へのコメント：実習では、学級担任教諭の指導の下、授業法ならびに児童生徒への声かけ等について実地に学ぶこと。学校教育全体の中に位置づけられる“食に関する指導”について主体的に学修すること。

科 目 名 : 教職実践演習 (栄養教諭)

英語表記 : Practical Seminar on Teaching (Nutrition)

担当教員 : 小島 明子・上田 由喜子・島田 希 (文学部教員) 他

授業形態 : 演習

単 位 数 : 2 単位

開講年度・学期 : 平成30年度・4 年集中

科目ナンバリング : KKSEM4402

当学科・コース学生以外の受講 : なし

授業の到達目標 : 専門的な知識・技能を基に、教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を持って、学校給食経営管理を行いつつ、教科学習における食に関する指導、個別栄養カウンセリング、生徒指導等の職務を実践できる資質能力が身に付いているかを確認する。

科目の主題 : 教職課程の個々の科目の履修および教職に関するさまざまな経験を振り返る。次に、専門的な知識・技能を基に、教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を持って、発育発達期における栄養管理に基づき学校給食経営管理を行いつつ、教科学習における食に関する指導、個別栄養カウンセリング、生徒指導等の職務を実践できる資質能力が身に付いているかについて確認する。さらに、教職キャリアを通しての今後の課題を考える。

授業内容・授業計画 : 主として、演習形式とする。

テーマ	予定回数	概 要
オリエンテーション	2	本科目の意義、目標、進め方、グループ開き (添田・小島・上田)
栄養アドバイザーとしての 栄養教育	2	教職に求められる資質能力について ブレインストーミングの説明と演習 (添田・上田)
学習履歴の振り返りと教職 に求められる資質能力	2	教職課程の個々の科目の履修 (教職課程履修カルテ利用) と教職に関するさまざまな経験を振り返り、それをブレイン ストーミングで検討した教職に求められる資質能力と比 較する演習を行う (小島)
栄養教諭に求められる資質 能力について	2	栄養学、栄養教育論、栄養カウンセリングに関する学術的 知識習得状況、教科学習における食に関する指導能力につ いて自己評価を行い、今後の課題についてディスカッショ ンする (小島・上田)
学級経営、生徒理解、社会 性・対人関係能力育成	2	ゲストスピーカーによる講義、講義に基づくディスカッ ション (上田)
子どもに対する責任	2	ゲストスピーカー講義、講義に基づくディスカッション (上田)
自己評価・今後の課題 (演習)	2	教職に求められる資質能力について自己評価、今後の課題 について (添田・小島)
教職の意義	1	レポート作成 (添田・小島)

評価方法 : 授業中に課す小レポート50%、最終レポート30%、教職課程履修カルテ20%

教職実践演習運営委員会は毎年度初めに教職実践演習の評価に関する申し合わせについて協議し、学
年末において、上記の資料をもとに教職実践演習の評価を行う

教 材 : 配布プリント等による (参考書・参考資料等は授業中に指示する)

科目名：教育実習事前事後指導（栄養教諭）

英語表記：Guidance in Teaching Practice (Nutrition)

担当教員：添田 晴雄（文学部教員）・島田 希（文学部教員）・上田 由喜子

授業形態：講義

単位数：1単位

開講年度・学期：平成30年度・4年集中

科目ナンバリング：KHPRA4404

当学科・コース学生以外の受講：なし

授業の到達目標：(1)教育実習に必要な具体的事項を知り、教育実習のための準備を行うことができる。
(2)教育実習に関連する基本的な問題を理解して、教育実習に向けた心構えができる。
(3)学生の視点からではなく、「教師」の視点から学校教育を見ることができるようになる。
(4)教育実習の体験を意義づけ、教職に対する理解を深める。

科目の主題：教育実習の事前と事後において、実習の準備と振り返りに関する指導を行う。実習の一般的な心構えと教育現場の教育活動に必要とされる知識・態度について理解を深める。実習後には教育実習の反省や考察を少人数による討論によって行う。

授業内容・授業計画：教育実習の前後に、以下の内容について行う。

回	テーマ	概要
1	栄養教育実習について	母校および協力校での栄養教育実習について（上田由喜子）
2	栄養教育実習の心構え	栄養教育実習に臨む態度と諸注意について（上田由喜子）
3	学校と教育実習の実際	学校と教育実習の実際について（柏木 敦）
4	同和教育・特別支援教育	同和教育と特別支援教育について（島田 望）
5	協力校学校参観-1	授業観察（柏木 敦・上田由喜子）
6	協力校学校参観-2	授業観察（柏木 敦・上田由喜子）
7	栄養教育実習の経験交流-1	栄養教育実習報告会（上田由喜子）
8	栄養教育実習の経験交流-2	栄養教諭としての課題について討議・省察 （島田 望・上田由喜子）

事前・事後学習の内容：

事前学習：これまでに教職課程等で学んだ事柄を振り返り、教育実習で取り組む課題を考える。

事後学習：各自の教育実習を振り返り、また他の履修者との経験交流を踏まえながら今後の課題を展望する。

評価方法：毎回の講義についてのレポートによる。本科目は、教育実習の評価と連動しているので、教育実習の評価と分割して評価しない。

評価観点1 教育実習に必要な具体的事項を理解している。

評価観点2 学生の視点ではなく、教師の視点から学校教育を理解している。

評価観点3 教育実習の体験を意義づけ、教職をより深く理解している。

教材：大阪市立大学編『教育実習の手引き』

受講生へのコメント：教育実習を行う年次に必ず出席して、教職と教育実習への意識を高めるように心がけること。



QOL プロモーター養成関係科目シラバス

科目名：QOLプロモーション

英語表記：QOLプロモーション

担当教員：^{トコロ}所 道彦・^{ミチヒコ}西川 禎一・^{ニシカワ}清水 由香・^{ヨシカズ}堀口 正・^{シミズ}早見直美・^{ユカ}小池志保子・^{ホリグチ}鵜川重和
^{タダシ}
^{ハヤミナオミ}
^{コイケシ}
^{ホコ}
^{ウカワシゲカズ}

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・1年通年

科目ナンバリング：HQLEC1101

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：QOL（Quality of Life：生活の質）の概念を学ぶ。

科目の主題：自然科学、社会科学の知見を紹介しつつQOLの概念について学ぶ。生活の質を構成する多様な要素について理解し、生活全体を捉える視点の重要性について学ぶ。また、生活の質を向上させるための取り組みの歴史、地域におけるQOL向上の取り組み、これからのQOLプロモーションのあり方について議論する。

授業内容・授業計画：オムニバス形式による講義とディスカッション・グループワークを組み合わせで行う。

テーマ	回数	概要
オリエンテーション	1	生活科学とQOLの概念
生活の多面性	1	生活を多面的に捉えることの意義と方法
QOLプロモーションの展開	1	日本における生活の質の向上をめぐる取り組みの歴史
QOLプロモーションと研究	1	日本におけるQOL研究の歴史
食生活とQOL	1	食生活の質について
居住環境とQOL	1	居住環境の質について
高齢者とQOL	1	高齢者のQOLを考える
障害者とQOL	1	障害者のQOLを考える
災害とQOL	1	日常生活と非日常生活のQOLについて考える
まちづくりとQOL	1	コミュニティデザインと地域住民のQOL
過疎地域の生活問題	1	過疎地域の生活ニーズについて学ぶ
超高齢社会の生活問題	1	超高齢社会におけるQOL研究
持続可能な社会とQOL	1	生活の質と持続可能な社会のあり方
QOLと専門職	1	生活の質と専門職の役割・協働
QOLプロモーションの課題	1	まとめ

事前・事後学習の内容：適宜、授業内で指示する。

評価方法：出席状況・授業中のディスカッションへの参加態度・レポート（授業での課題）などにより総合的に判断する。

教材：適宜、資料を配布する

備考：

目 名：QOLプロモーション演習 I

英語表記：QOL Promotion Fieldwork Practice I

担当教員：所 トコロ 道彦・小池志保子・西川 コシカワ 禎一・早見 ハヤミ 直美 ナオミ

授業形態：演習

単位数：1単位

開講年度・学期：平成30年度・1年集中

科目ナンバリング：HQPRA1101

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：本演習を通じて生活問題を体験し、受講生が「生活者の視点」を体得する糸口とする。

科目の主題：食品、居住環境、地域生活の視点からQOL概念の理解を深める。

授業内容・授業計画：学外演習

テーマ	回数	概要
オリエンテーション	1	QOL演習の目的と実施方法について
農場実習	1	神戸大学食資源センターでの農場実習：農業（春）
援農活動	1	「紀の国大学」援農活動：春
地域拠点の構築	1	和歌山県紀美野町の古民家改修プロジェクト（春）
地域拠点の構築	1	和歌山県紀美野町の古民家改修プロジェクト（春）
援農活動	1	「紀の国大学」援農活動：夏
地域拠点の構築	1	和歌山県紀美野町の古民家改修プロジェクト（夏）
地域拠点の構築	1	和歌山県紀美野町の古民家改修プロジェクト（夏）
地域拠点の構築	1	和歌山県紀美野町の古民家改修プロジェクト：夏
地域生活調査	1	古民家改修と関連して地域の実情と生活資源の状況を学ぶ
農場実習	1	神戸大学食資源センターでの農場実習：畜産（秋）
援農活動	1	「紀の国大学」援農活動：秋前半
援農活動	1	「紀の国大学」援農活動：秋後半
地域生活調査	1	古民家改修と関連して地域の実情と生活資源の状況を学ぶ
まとめ	1	演習のまとめ

事前・事後学習の内容：

評価方法：出席状況・レポート評価

教材：プリントを配布する。

備考：演習では、神戸大学食資源センターでの農場実習や、和歌山大学・大阪府立大学・近畿大学・摂南大学などと協働の「紀の国大学」としての援農活動、和歌山県紀美野町での古民家改修プロジェクトなどに取り組みます。実施時期は不定期で、回数は時間によって変更されます。詳しくはオリエンテーションの際に説明します。

受講生へのコメント：「QOL プロモーション」及び「QOL プロモーション演習 I」を同時に履修すること。

科 目 名：QOLプロモーション演習Ⅱ

英 語 表 記：QOL Promotion Fieldwork Practice Ⅱ

トコロ ミチヒコ コイケシ ホコ コシカワ ヨシカズ ハヤミ ナオミ
担 当 教 員：所 道彦・小池志保子・西川 禎一・早見 直美

授 業 形 態：演 習

単 位 数：1 単 位

開講年度・学期：平成30年度・1年集中

科目ナンバリング：HQPRA2201

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：QOLプロモーションⅠに引き続き、把握した生活問題やQOLニーズに対し、どのようにして改善策を検討して立案、実施するか、そのプロセスを体験する。

科目の主題：QOL向上のための生活科学の役割

授業内容・授業計画：学外演習

テーマ	回数	概要
オリエンテーション	1	QOL演習の目的と実施方法について
農場実習	1	神戸大学食資源センターでの農場実習：農業（春）
援農活動	1	「紀の国大学」援農活動：春
地域拠点の構築	1	和歌山県紀美野町の古民家改修プロジェクト（春）
地域拠点の構築	1	和歌山県紀美野町の古民家改修プロジェクト（春）
援農活動	1	「紀の国大学」援農活動：夏
地域拠点の構築	1	和歌山県紀美野町の古民家改修プロジェクト（夏）
地域拠点の構築	1	和歌山県紀美野町の古民家改修プロジェクト（夏）
地域拠点の構築	1	和歌山県紀美野町の古民家改修プロジェクト（夏）
地域生活調査	1	古民家改修と関連して地域の実情と生活資源の状況を学ぶ
農場実習	1	神戸大学食資源センターでの農場実習：畜産（秋）
援農活動	1	「紀の国大学」援農活動：秋前半
援農活動	1	「紀の国大学」援農活動：秋後半
地域生活調査	1	古民家改修と関連して地域の実情と生活資源の状況を学ぶ
まとめ	1	演習のまとめ

事前・事後学習の内容：

評 価 方 法：出席状況・レポート評価

教 材：プリントを配布する。

備 考：QOLプロモーション演習Ⅰでの経験を基盤に、より高度な課題を設定します。

受講生へのコメント：「QOLプロモーション演習Ⅱ」の履修は「QOLプロモーション演習Ⅰ」を修得していること。

※平成27年度以前入学者は、「QOLプロモーションⅡ」及び「QOLプロモーション演習Ⅱ」を履修すること。

居住環境学科シラバス
(講義概要)

平成 30 年度
(2018 年度)

大阪市立大学生活科学部

○科目ナンバリングの見方

桁目	1	2	3	4	5	6	7	8	9
項目	提供学部	提供学科等	科目分野			学習段階	対象学年	分野内 連番	
共通	H:生科	X:3学科共通	FIR:初年次教育			1:基礎・入門レベル (概論, 予備知識なしで受講可能)	1:1年次以上	0	1
居住	H:生科	B:居住	DRA:製図・演習(draw) PLA:計画(plan) ENV:環境工学・設備 (environment) STR:構造・材料(Structure) MIS:生産・法規・他 (miscellaneous) ACA:アカデミック研究 (academic) FIR:初年次教育 ACA:卒業論文・卒論関係			1:基礎・入門レベル (概論, 予備知識なしで受講可能) 2:応用・中級レベル (専門科目のI, 予備知識必要) 3:発展・上級レベル (専門科目のII, 中級レベルの科目 の知識が必要) 4:高度・難関レベル (卒論や高度な選択専門科目など, 総合的な知識, 学力が必要)	1:1年次以上 2:2年次以上 3:3年次以上 4:4年次以上	0 : 1	1 : :
QOL	H:生科	Q:QOL	<中核科目> LEC:講義 PRA:演習 <関連科目> R:必修 (Required) FN:食品提供科目 (Food Nutrition) E:選択 (Elective) EN:居住提供科目 (environment) WE:人福提供科目 (welfare)			1:基礎・入門レベル (概論, 予備知識なしで受講可能) 2:応用・中級レベル (専門科目のI, 予備知識必要) 3:発展・上級レベル (専門科目のII, 中級レベルの科目 の知識が必要) 4:高度・難関レベル (卒論や高度な選択専門科目など, 総合的な知識, 学力が必要)	1:1年次以上 2:2年次以上 3:3年次以上 4:4年次以上	0 : 1	1 : :
教職	K:教職関係	H:生科提供 K:教職科目	M:家庭経営学 C:被服学 F:食物学 H:住居学 N:保育学 PRA:教育実習 SEM:実践演習 GUI:ガイダンス	科目名英訳の略		1:基礎・入門レベル (概論, 予備知識なしで受講可能) 2:応用・中級レベル (専門科目のI, 予備知識必要) 3:発展・上級レベル (専門科目のII, 中級レベルの科目 の知識が必要) 4:高度・難関レベル (卒論や高度な選択専門科目など, 総合的な知識, 学力が必要)	1:1年次以上 2:2年次以上 3:3年次以上 4:4年次以上	0 : 1	1 : :

●学習・教育到達目標

【基礎的素養】

- (A) 生活と社会、文化、環境に関する総合的理解と、バランスのとれた判断力
- (A1) 社会・文化・環境に関する基礎的な知識と理論を理解している
 - (A2) 社会・文化・環境と生活との関係について、体系的に理解している
 - (A3) 住居・建築の技術が、人間生活や社会・文化・環境などへ与える影響について理解している
- (B) 住宅・環境・建築技術者に必要な自然科学や情報技術の知識・理解力
- (B1) 数学・物理学・地学等に関する基礎的知識をもち理解している
 - (B2) コンピュータを操作し、基礎的な情報処理を行う能力をもっている

【専門能力】

- (C) 生活・居住空間に関する幅広くて深い理解と高度な計画能力
- (C1) 住宅・建築の構造、設備、安全に関する基礎的知識と評価能力をもっている
 - (C2) 住宅・建築や地域の特性についての基礎的知識をもっている
 - (C3) 生活と空間の関係についての基礎的知識と評価能力、計画能力をもっている
 - (C4) 人の生活や行動、意識、コミュニティについて基礎的能力をもっている
- (D) 住宅、建築、地域環境の技術および関連分野の技術に関する知識と応用能力
- (D1) 求められる生活や機能を空間的に整理し、表現することができる
 - (D2) 構造物に必要な構造、強度、性能、材料を想定することができる
 - (D3) 空間の物理環境とその人間への影響を客観的に把握し、伝達することができる
 - (D4) 住宅、建築、地域環境を適切な形成・運用に必要な周辺領域の知識をもっている
- (E) 快適で美的な空間を設計し、デザインするため創造的能力
- (E1) 建築図面の各種記号、表記方法を理解し、表現することができる
 - (E2) 求められる生活や機能を住宅や建築、地域の空間として表現することができる
 - (E3) 文化や地域性、美的感覚を空間デザインとして表現することができる

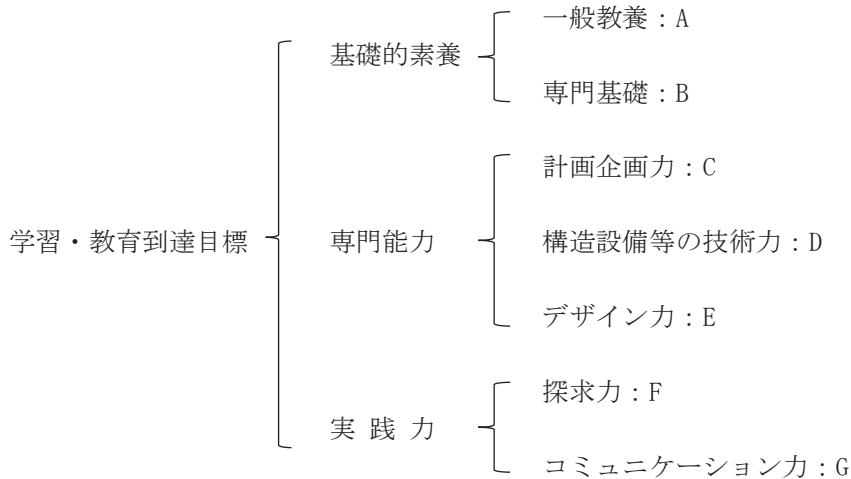
【実務能力】

- (F) 居住空間・環境における課題を発見し、与条件のもとで企画・立案・実行を行う能力
- (F1) 諸条件のもとでの、住宅・施設の企画・設計建設に関する総合的理解と計画能力をもっている
 - (F2) 課題と解決のための手段・知識を自ら発見し、学習することができる
- (G) 共同作業や実務に役立つ論理的プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力
- (G1) 語学についての基礎的能力をもっている
 - (G2) 自分のデザインや考えを相手に対して適切かつ論理的に表現することができる
 - (G3) 共同で作業を進めていく基礎的訓練を受け、能力をもっている

シラバスの補足説明

●学習・教育到達目標（ディプロマポリシー）

学科では、卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）として、A1 から G3 の学習・教育到達目標の達成を定めています（シラバスの裏表紙参照）。学習・教育到達目標は、基礎的素養、専門能力、実践力に分かれ、以下のような構成になっています。



●各科目と学習・教育到達目標のつながり

その科目が学習・教育到達目標とどのように関連するのか、科目と学習・教育到達目標の A から G の要素とのつながりを示しています。◎が強く関連する学習・教育到達目標、○が関連する学習・教育到達目標です。

例) 居住環境学概論：下の表から、学習・教育到達目標の A3, C1, C2, F2, G2, G3 と強く関連するほか、A2, C1, C4, D1, D2, D3, D4 と関連することが分かります。

学習・教育到達目標

学習・教育 到達目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度		○	◎			○	◎	◎	○	○	○	○	○					◎		◎	◎

●評価方法

「評価方法」では、どのように成績を評価するのか、詳細を記載しています。ただし、よりよい授業に向けて、教員は毎年、授業や演習を改善・工夫しています。授業の進み具合や新たに課題等を実施する場合などに、成績評価の方法を変更する場合がありますので、授業内の指示・連絡をよく聞いて下さい。

なお、いずれの科目も 100 点満点の 60 点以上を単位として認めます。詳しくは、学部の履修概要を参照してください。

●自己学習法

授業や演習時間外の自己学習の方法を記載しています。記載された自己学習を行うことで、その科目をより深く理解できます。積極的に自己学習に取り組んで下さい

居住環境学科シラバス目次

授 業 科 目	担当者	ページ	科目NO.
---------	-----	-----	-------

【1回生】

居住環境学概論	福田 他	1	H B F I R 1 1 0 1
物理基礎演習	酒井・ファーナム	3	H B M I S 1 1 0 1
住生活論	小伊藤	5	H B P L A 1 1 0 1
色彩学	酒井	7	H B M I S 1 1 0 2
基礎デザイン実習	小池・瀧澤・中野 (赤代)・(川口)	9	H B D R A 1 1 0 1
基礎設計製図	森・上田・(鈴木)	11	H B D R A 1 1 0 2
居住環境学 学外セミナー I	小伊藤・ファーナム	13	H B A C A 1 1 0 1

【2回生】

建築一般構造	渡部	15	H B S T R 1 2 0 1
構造力学 I	岡本	16	H B S T R 2 2 0 1
居住環境工学 I	永村	17	H B E N V 2 2 0 1
建築材料学	渡部	19	H B S T R 2 2 0 2
住文化史 I	福田	20	H B P L A 2 2 0 1
人間工学	岡田明	22	H B E N V 2 2 0 2
住居計画学	小池	24	H B P L A 2 2 0 2
生活情報学及び実習	永村・ファーナム	26	H B M I S 2 2 0 5
CAD/CGデザイン演習	松下・瀧澤	28	H B M I S 2 2 0 3
構造力学 II	渡部	30	H B S T R 3 2 0 1
居住環境工学 II	永村	31	H B E N V 3 2 0 1
建築・環境法規	(都丸)	33	H B M I S 2 2 0 4
建築構造学 I	岡本	35	H B S T R 2 2 0 6
都市計画	中野	36	H B P L A 2 2 0 3
インテリア計画学	松下	38	H B P L A 2 2 0 4
居住環境学 学外セミナー II	森	40	H B A C A 2 2 0 1
設計製図 I 第1課題 第2課題	生田・上田博・瀧澤 (澤村)・(長瀬)	42	H B D R A 2 2 0 1
設計製図 II 第3課題 (小規模集合住宅) 第4課題 (保育園)	小伊藤・中野・松下 (岡本)・(加藤)	44	H B D R A 2 2 0 2

【3回生】

建築計画学	森	47	H B P L A 3 3 0 1
居住地計画論	中野	49	H B P L A 3 3 0 3
生活機器学	岡田明	51	H B E N V 3 3 0 1
感性情報学	酒井	53	H B E N V 2 3 0 1
建築構造学 II	(辻)・(山浦)	55	H B S T R 3 3 0 1
建築施工法	(大淵)	56	H B M I S 3 3 0 1

授 業 科 目	担当者	ページ	科目NO.
居住材料学	渡部	57	H B S T R 2 3 0 1
建築設備Ⅰ／建築設備	ファーナム	58	H B E N V 3 3 0 2
建築設備Ⅱ	ファーナム	60	H B E N V 3 3 0 5
住居管理・経営論 ／居住企画・経営論	瀧澤	62	H B M I S 3 3 0 2
デザインワークショップ	小池・(松本)	64	H B D R A 3 3 0 1
測量学	(山口)	66	H B M I S 3 3 0 4
居住福祉工学	上田博	67	H B P L A 3 3 0 4
生活統計学	岡田明	69	H B M I S 2 3 0 1
住文化史Ⅱ	福田	71	H B P L A 3 3 0 5
防災・安全科学	生田	73	H B P L A 3 3 0 6
プロダクトデザイン演習	岡田明・西岡・(稻上)	75	H B D R A 3 3 0 2
環境システム設計及び実験	永村・ファーナム	77	H B E N V 3 3 0 3
感性情報学演習	酒井	79	H B E N V 3 3 0 4
居住環境学 学外セミナーⅢ	福田	81	H B A C A 3 3 0 2
研究計画演習	福田 他	83	H B A C A 3 3 0 3
設計製図Ⅲ 第5課題(文化複合施設)	森・福田 (矢田)・(岸上)	85	H B D R A 3 3 0 7
設計製図Ⅲ 第6課題(木造住宅意匠設計)	松下・小池・岡本 (広渡)・(阿久津)	87	
設計製図Ⅳ 第7課題(集合住宅の設計計画) 第8課題(即日設計)	小池・森・中野・渡部・上田 (吉井)・(山隈)・(竹原) (尾鍋)・(西田)・(山本)	89	H B D R A 3 3 0 8
住宅性能評価法 (平成28年度以前入学生対象)	森・渡部・上田博・酒井 ファーナム・(延原) 他	91	H B M I S 3 3 0 3
構造設計演習及び材料学実験 (平成28年度以前入学生対象)	渡部・酒井	93	H B S T R 3 3 0 3

【4回生】

卒業研究	全教員	95	H B A C A 4 4 0 3
------	-----	----	-------------------

居住環境学科での履修時間について

各科目の時間数は以下のとおりとする。

時間数：

☆	22.5時間
☆☆	45 時間
☆☆☆	67.5時間
☆☆☆☆	90 時間
☆☆☆☆☆	112.5時間

教職関係科目シラバス目次

授 業 科 目	担当者	ページ	科目NO.
家庭科教育法Ⅰ	(北村)	97	KHHOM2201
家庭科教育法Ⅱ	(北村)	98	KHHOM2202
家庭科教育法Ⅲ	(吉井)	99	KHHOM2203
家庭科教育法Ⅳ	(吉井)	100	KHHOM2204
生徒指導論	(松本訓)	101	KHSTU2201
被服学概論	(村田)	102	KHCSS2201
被服構成学	(村田)	103	KHCCC2201
食物学Ⅰ	市川	104	KHFFS1101
食物学Ⅱ	(的場)	105	KHFFS1102
調理実習	小島・(佐伯)	106	KHFFP2201
住居学概論	永村・森・小伊藤	107	KHHIH1101
保育学	(堀)	108	KHNCS2201
学校栄養教育実習	上田由・他 文学部教員	109	KKPRA4403
教職実践演習(栄養教諭)	小島・上田由・他 文学部教員	110	KKSEM4402
教育実習事前事後指導(栄養教諭)	上田由・他 文学部教員	111	KHPRA4404

QOLプロモーター養成関係科目シラバス目次

授 業 科 目	担当者	ページ	科目NO.
QOLプロモーション	所・西川・清水・堀口 早見・小池・鶴川	113	HQLEC1101
QOLプロモーション演習Ⅰ	所・小池・西川・早見	114	HQPRA1101
QOLプロモーション演習Ⅱ	所・小池・西川・早見	115	HQPRA2201

上記以外の関連科目シラバスは
QOLプロモーションの履修者に別途配付する。



居住環境学科シラバス

科目名：居住環境学概論

英語表記：Introduction to Theory of Housing

担当教員：福田 美穂 他

授業形態：演習 単位数：2 開講年度・学期：平成30年度・1年前期

科目ナンバリング：HBFIR1101

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：居住環境学の概要と特色・意義を理解する。また、体験学習や共同作業等によって専門科目の一端にふれ、居住環境学の広がりや実務を体感するとともに、実務でも求められる表現や共同作業、課題解決等の能力を身につけるための基礎的課題を行う。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)			
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)	
関与の程度		○	◎			○	◎	◎	○	○	○	○	○						◎		◎	◎

科目の主題：はじめて接する専門科目であり、居住環境学科の特色である生活者としての視点の持つ意味や重要性を認識することが重要である。本講義を通じて、居住環境学を理解しその展望と問題意識、倫理観を育む基盤を形成する。

居住環境学の今日の課題や意義、研究内容を講義する。大学での学習に有用で必要な情報収集などの方法について説明する。さらに、見学や課題に取り組み、共同作業等によって表現能力やコミュニケーション能力を育む。居住環境デザインフォーラムにおいて居住環境学科で取り組む設計課題を通覧し、学習の意義や目標を位置づける機会を得る。

授業内容・授業計画：講義および実習・実験を行う。実習・実験課題は、必要な資料を調査・検索し、グループでも取り組み、レポート、プレゼンテーションを行う。さらに、表現能力に関する基礎的トレーニングを行う。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	居住環境学科の概要と文献検索	生活科学の学問領域としての特徴、居住環境学の体系と構成の概略を述べる。また、学習に必要な情報収集のための文献検索講習も行う。	全教員紹介・学科紹介・生活者の視点・生活問題・生活様式・問題解決学・文献検索	A2 C1-C4
2	居住環境デザインフォーラム1：内容の理解	本学で開催される居住環境デザインフォーラムに参加して、当学科で学ぶ学生の作品、研究論文、および著名建築家や研究者の招待講演を通じて、各自これからの学習・研究について理解する。	設計・調査研究・図面・住宅建築デザイン・まちなみ・学科教育	A2・A3 F2
3	居住環境デザインフォーラム2：発見、疑問点の整理	デザインフォーラムに参加して、発見や疑問点を整理し、文献検索講習での検索技術を活かしながらレポートにまとめ、今後の学習に備える。	文献資料・IT技術・データ処理・レポート作成	F2・G2・G3
4	調査系1：くらしの今と昔	生活者の視点から、大阪くらしの今昔館を見学し、くらしの歴史について理解する。同時に問題発見の能力を養い、文献検索により問題解決への糸口を探る。	生活科学の歴史・生活者の視点・生活問題・生活様式・問題解決学・文献検索	A2 C1-C4
5	調査系2：タウンウォッチングー杉本・我孫子	グループで都心や市街地、住宅地を、自主的に企画して調査観察し、特徴や優れたデザインの発見や疑問について、得たデータを適切に記録し、関連文献も調べる。	住宅建築デザイン・まちなみ・歴史的建造物・文献検索・環境技術・建築構法・スケッチ・図面・資料・写真・地図	C2・C4, D1・ D4, F2, G2・ G3
6	調査系3：タウンウォッチングのまとめーディスカッションとプレゼンテーション	タウンウォッチングで得たデータに基づき問題点などをグループディスカッションし、プレゼンテーションにまとめる。	住宅建築デザイン・まちなみ・歴史的建造物・文献検索・環境技術・建築構法・スケッチ・図面・資料・写真・地図・問題解決学・文献検索	C2・C4, D1・ D4, F2, G2・ G3
7	実験系1：実験実施	客観的情報の作成と理解のために実験を行い、技術報告書（レポート）を作成する一連のプロセスを理解し、実験も行う。	居住環境工学・住宅構造・材料・レポート作成・調査情報・実測データ・データ処理	D2・D3・F2・ G2・G3
8	実験系2：データ解析	データの解析方法について理解し、実際に得られたデータを解析する。	居住環境工学・住宅構造・材料・レポート作成・調査情報・実測データ・データ処理	D2・D3・F2・ G2・G3
9	実験系3：実験レポートの作成	データ解析、資料収集により、実験レポートを作成する。	居住環境工学・住宅構造・材料・レポート作成・調査情報・実測データ・データ処理	D2・D3・F2・ G2・G3

10	実験系4：発表とレポート講評	レポートに基づき内容を発表し、講評を行い、レポートをブラッシュアップする。	居住環境工学・住宅構造・材料・レポート作成・調査情報・実測データ	D2・D3・F2・G2・G3
11	デザイン系1：学内スケッチ	建物や地域を観察し図面などに表現したり景観や建物内部をスケッチする。	地図・見取り図・風景スケッチ・民家博物館・公共施設	A2・A3 C1-C4, D1・D4, G2・G3
12	デザイン系2：学外スケッチ	建物や地域を観察し図面などに表現したり景観や建物内部をスケッチする。	地図・見取り図・風景スケッチ・民家博物館・公共施設	A2・A3 C1-C4, D1・D4, G2・G3
13	デザイン系3：模型づくり	建物や地域を観察し、それを模型にする。	地図・見取り図・風景スケッチ・模型	A2・A3 C1-C4, D1・D4, G2・G3
14	生活科学論：食品分野と福祉分野	生活科学の学問領域としての食品分野および福祉分野の特徴、その体系や構成の概略を述べる。	生活科学の歴史・食品栄養科学・人間福祉学・生活問題・問題解決学	A2 C1-C4
15	クイックディベート	クイックディベートという討論方法を通じて、自分の考えを資料やデータを収集して論理的かつ適切に表現し、また相手の意見に対して論理的に反駁する、そのような能力を磨く。	生活科学の歴史・生活者の視点・生活問題・生活様式・問題解決学	F2 G2・G3

事前・事後学習の内容：事前配布した資料については、必ず講義までに読んでおくこと。また、講義・実習内容はノートにまとめ、次回までに復習すること。

評価方法：A3についてはレポートを課し、講義内容の理解度、論理的表現力を評価する。C2・C3は、各分野に関するレポートを課し、理解度とF2の自主的学習力、およびG2の論理的表現能力とG3の共同作業能力を評価する。

教材：必要に応じて資料を配付する。また参考資料を指示する。

受講生へのコメント：教室は第8教室を基本とするが、見学や実習実験の場合は集合場所を指示するので注意すること。課題の締切などについてもその都度指示する。

備考：

科目名：物理基礎演習

英語表記：Exercises of Elementary Physics

担当教員：酒井 英樹・ファーナム クレイグ

授業形態：演習 単位数：演2 開講年度・学期：平成30年度・1年後期

科目ナンバリング：HBMIS1101

当学科・コース学生以外の受講：不可

講義の意義・目的：本学科で学ぶ技術者専門教育に必要な基礎知識である数理的な教養の定着を図る。

授業到達目標：数理的知識を有する科目、特に構造力学、居住環境工学の技術習得能力に必要な力学の基礎的知識となる。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度				◎																	

科目の主題：数理的素養を身につけるには、一定量の計算訓練が必要である。ベクトル、力学についての演習問題を数多くこなすことにより、数理的素養の定着を図る。

授業内容・授業計画：計算問題を通して理解を図る。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	数学の応用	単位、有効数値	単位の変換、単位ミスの影響、建築分野でよく使われる単位	B1
2	指数、対数	指数、対数の基礎	指数と対数の練習問題、オイラー数の定義、指数増殖、電卓の操作	B1
3	微分、積分	微分、積分の基礎	微分と積分を使用する演習問題、最適化、コストの最小化	B1
4	三角関数	三角関数	幾何学的な演習、正弦波と振幅	B1
5	数学基礎の統合	建築分野の演習問題	太陽位置の基礎、減衰振幅	B1
6	構造力学とは	力学の基本法則。	三角関数、ベクトル	B1
7	回転運動	力のモーメントを計算する。	並進運動、回転運動	B1
8	力のつり合い	力のつり合いを計算する。	平行な力の合成と分解	B1
9	構造物	構造物のモデル化を学習する	移動端、回転端、固定端	B1
10	荷重	荷重を計算する。	等分布荷重、等変分布荷重	B1
11	片持梁 1	片持梁の反力を計算する	荷重、反力	B1
12	片持梁 2	片持梁のつり合い条件を計算する	荷重、反力	B1
13	単純梁 1	単純梁の反力を計算する	荷重、反力	B1
14	単純梁 2	単純梁のつり合い条件を計算する	荷重、反力	B1
15	総合演習	さまざまな条件における計算を行う。	力の合成と分解、荷重、反力、構造	B1

事前・事後学習の内容：講義内容の復習は、講義毎に行い、疑問点を解消した上で、次回の講義に望むこと。

評価方法：B1について、基礎的な計算能力を、小テスト（10%）、中間試験（30%）、定期試験（60%）により評価する。

教材：建築のテキスト編集委員会「初めての建築構造力学（改訂版）」学芸出版(2013)

受講生へのコメント：

備考：関数電卓（詳細は、講義で指示する。パソコンや情報端末の電卓アプリケーションでの代用は不可。

科目名：住生活論

英語表記：Theory of Living Arrangements

担当教員：小伊藤亜希子

授業形態：講義 単位数：2 開講年度・学期：平成30年度・1年後期

科目ナンバリング：HBPLA1101

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：現代の住生活の有り様が、歴史的な経緯を経て形成されてきたものであり、社会の様々な環境のなかで成り立っていることを理解する。また現代の住生活がかかえる問題を知り、将来問題解決に携わる専門家になるための基礎的な知識と住居観を身につける。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度	○	◎						◎	◎						○						

科目の主題：1年生を対象とした講義であり、住宅や住生活に関する学習の導入部分に位置づけられる。2年生以降の住居計画学、住居管理・経営論を学ぶための専門知識の裏付けとなる。

まず、家族生活と住まいの発達史を学習し、現代の住まいと住生活の位置を明らかにする。次に住宅が階層的に構成されていることを押さえつつ、住生活のかかえる問題を様々な視点から考察し、これからの住まいのあり方について展望する。

授業内容・授業計画：講義は必要な資料・プリントを配布し、またプロジェクター、ビデオなどで、具体的な事例を画像で紹介しつつ進める。また学生自らの住まいのリフォーム課題を出し、討論の材料としていく。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	住まいの発達史Ⅰ： 明治から大正期	明治・大正期の住まいの変遷	洋風化、格式型住宅、中廊下型住宅、和洋折衷住宅、生活改善運動、ユカ座からイス座へ	A2, C3
2	住まいの発達史Ⅱ： 昭和初期から戦後	昭和から戦後の住まいの変遷	西山卯三、食寝分離論、標準設計、公営住宅51C型、モダンリビング、商品化住宅	A2, C3
3	住まいの発達史Ⅲ： DKの開発	公団住宅ダイニングキッチンの開発 (ビデオ視聴)	公団住宅2DK、ダイニングキッチン、ステンレス流し台	A2, C3
4	住宅政策と住宅問題Ⅰ： 戦後	戦後の住宅政策と住宅問題	住宅政策、住宅階層論、持ち家と借家、居住水準、マスのハウジング	A2, C4
5	住宅政策と住宅問題Ⅱ： 現代	現代の住宅政策と住宅問題	住宅事情、セーフティネット、居住権量から質へ	A2, C4
6	現代の住生活と住み方Ⅰ： 日本人の住み方像	日本人の住み方像：nLDK型住宅と日本人の住み方のずれを検証する	住要求、住み方像、住宅の地方性と住田モデル	A2, C4
7	現代の住生活と住み方Ⅱ： イス座とユカ座	起居様式から現代の住様式を考える	起居様式、和室の位置	A2, C4
8	多様化する家族と住宅Ⅰ： 標準家族の変化	標準家族から世帯構成変化に対応した住宅の課題を学ぶ	共働き世帯、単身者、一人親世帯	A2, C4
9	多様化する家族と住宅Ⅱ： 高齢者の住み方	高齢期の住宅の課題を学ぶ	同居と別居、住宅と施設、ケアと住宅	A2, C4
10	伝統的住宅の住み方Ⅰ： 京町家	京町家を事例に、伝統的住宅の空間特性と、現代における住み方を考える	京町家の空間構成、住宅改善、町家活用型店舗	A2, C4
11	伝統的住宅の住み方Ⅱ： 大阪長屋	大阪長屋の保全活用	大阪長屋、市大モデル、住様式	A2, C4
12	生活時間と住生活	生活時間から生活の豊かさを考える	生活時間調査、日本人の生活時間の変化、タイムバジェット	A2, C4
13	課題発表Ⅰ	自宅のリフォーム計画と発表	住み方の読み込み、改善課題の発見、改善案の提案	E2

14	課題発表Ⅱ	自宅のリフォーム計画と発表	住み方の読み込み、改善課題の発見、改善案の提案	E2
15	まとめ	復習と到達度の確認	住まいの発達史、家族と住まい	A2, C3, C4

事前・事後学習の内容 : 配布したプリントに必要事項を書き込んだ上で、その日の講義内容を復習することが望ましい。また参考文献をその都度紹介するので、並行して学習すると理解が深まる。

評価方法 : 定期試験 (70%)、課題レポート (30%) とする。

(A2) については、住まいと住生活の歴史的発展過程をその時代の社会・文化の変化の中で把握できていること、現代の住生活が抱える問題を都市や環境との関係で理解できていることとし、試験により評価する。(C1) (C2) については、都市空間・居住空間と、そこで展開されている住生活の相互関係を理解し、問題解決のための条件を示せることとし、試験により評価する。(E2) については、住空間の抱える問題を発見し、改善の方向を具体的なプランとして示せることとし、住宅リフォーム課題により評価する。

教材 : 毎回、講義レジュメと資料を配付する。

科目名：色彩学

英語表記：Science of Color

担当教員：酒井 英樹

授業形態：講義 単位数：2 開講年度・学期：平成30年度・1年後期

科目ナンバリング：HBMIS1102

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：生活や産業、環境などの場で「色彩」を有効に活用するために必要な色彩学の基礎的事項を会得する。
色彩は、デザインの重要な要素の1つである。本講義を受講することにより、デザイン系科目において色を適切に管理できるようなる。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度				○								◎				○					

科目の主題：色を取り扱う上で必要となる色知覚の生理メカニズムと色の表示方法について説明するとともに、希望する色彩感情（イメージ）を表現するために必要となる配色技法の解説、および、実際の場面で使われている色彩の調査・分析法を紹介する。

授業内容・授業計画：色は脳で感じる心理現象である。よって、講義においても、実際に色票を使って、その心理的効果を体験しながら、学習を進めていく。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	色彩学概論	色の象徴性と機能性を学ぶ。	色覚	B1、D3
2	表色系その1	混色系による色の表示方法を学ぶ。	XYZ表色系	B1、D3
3	表色系その2	顕色系による色の表示方法を学ぶ。	マンセル表色系，色の三属性	B1、D3
4	色相	色相を学ぶ。	色相環，心理原色，補色	B1、D3
5	色彩トーン	色彩トーンを学ぶ	トーン，色彩感情	B1、D3
6	配色技法その1	配色の基本技法を学ぶ。	明度配色，彩度配色	D3、E3
7	配色技法その2	配色の応用を学ぶ。	トーン配色	D3、E3
8	色彩調和	色彩調和論を学ぶ。	色彩調和論	D3、E3
9	色彩心理その1	色彩感情を学ぶ。	対比，錯覚	D3、E3
10	色彩心理その2	色彩感情の民族，文化間の違いを学ぶ。	色彩感情	D3、E3
11	色彩計画その1	カラーコーディネーションを学ぶ。	色覚特性，カラーユニバーサルデザイン	D3、E3
12	色彩計画その2	カラーコーディネーションの調査方法を学ぶ。	景観色彩，安全色彩	D3、E3
13	照明と光源その1	光源の違いによる色知覚の変化を学ぶ。	色順応，色温度，	B1、E3
14	照明と光源その2	光源の評価方法を学ぶ。	演色性，混色	B1、E3

15	デジタルカラー	デジタル環境の色彩を学ぶ	画像処理, 色再現, CG	B1、E3
----	---------	--------------	---------------	-------

事前・事後学習の内容: 毎回, 教科書(参考書)の該当箇所を指示するので, 授業前後によく読んで理解しておくこと。
 評価方法: D3、E3の色彩の心理効果の理解を、実習およびレポート課題(60%)を通して確認する。B1、D3の色を管理する上で必要となる知識の習得は、定期試験(40%)により評価する。

教材: (教材) 新配色カード199a、日本色研事業
 (参考書) 大井義雄、川崎秀昭「カラーコーディネーター入門 色彩(改訂増補版)」日本色研事業2007

備考:

科目名：基礎デザイン実習

英語表記：Fundamental Training in Design

担当教員：小池 志保子・瀧澤 重志・中野 茂夫・(赤代 武志)・(川口 裕人)

授業形態：実習 単位数：実1 開講年度・学期：平成30年度・1年後期

科目ナンバリング：HBDRA1101

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：本講義は建築設計におけるデザインワークに必要な基礎的な表現技法の習得を第一の目的とする。また、様々な分野の表現手段の紹介を通じデザインに対する興味と発想の柔軟性を引き出すことも本講義の意義とする。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)			
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)	
関与の程度														◎	○	◎	○	○			◎	

科目の主題：本講義は建築設計におけるデザインワークに興味を持つ学生を対象とし、デザインワーク一連のプロセスについて、実習を通じて体験し、2年次以降の設計製図課題のための表現の基礎力づくりをする。

テーマごとに完結した課題を設定し、イントロダクション、プランニング、作品制作、プレゼンテーションを一連の流れとした実践的な演習の形式をとる。建築設計における、施主へのプレゼンテーションや設計競技の提案における、表現と構成の基礎となるものである。

授業内容・授業計画：上記のように実習形式で行うが、PCを使用したプレゼンテーションや見学会なども行う。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	平面から立体へ1	課題1「平面から立体へ」課題説明	ガイダンス：講師・TA紹介、授業概要説明、グループごとのスタディモデル	E
2	平面から立体へ2	制作、エスキスチェック、デザインレクチャー、1分プレゼンテーション	自画像デッサン(2Bの鉛筆、スケッチブックのA4コピー)、基礎的な形態のデッサン	F
3	平面から立体へ3 通りのカオ1	展示設営、プレゼンテーション 課題2「通りのカオ」課題説明	作品と図面、コメント、記録写真撮影 光と陰	F
4	通りのカオ2	デザインサーベイ、観察の重要性、素材と構造	グループ分け、通りについて、寸法について、レクチャー	E
5	通りのカオ3	デザインサーベイスケッチ提出、コンセプト発表、デザイン案発表(グループごと) 模型レクチャー	グループワーク、スタディ作業、エスキスチェック、発表	E
6	通りのカオ4	デザイン案によるワークショップ、エスキスチェック、プレゼンレクチャー	グループワーク、スタディ作業、エスキスチェック、色彩と形態、素材、カラージュ	E
7	通りのカオ5	制作(図面・模型)、エスキスチェック	グループワーク、スタディ作業、エスキスチェック	E
8	通りのカオ6 座るカタチ1	プレゼンテーション 課題3「座るカタチ」課題説明	作品と図面、コメント、記録写真撮影	E
9	座るカタチ2	見学(ダンボール工場へ)+見学(家具ショールーム/インターオフィスへ)	見学、ヒアリング、体験、レポート、スケッチ、作家、企画者との対話	G2
10	座るカタチ3	スタディ作業、エスキスチェック	レポート提出、スタディ模型提出 コンセプトワーク	G2
11	座るカタチ4	スタディ作業、エスキスチェック	スタディ模型提出、モデル制作の素材と技法	G2
12	座るカタチ5	スタディ作業、最終エスキスチェック	1/5模型+割り付け図提出	G2
13	座るカタチ6	制作相談	図面表現、細部のデザイン 構造と素材への理解、原寸と縮尺	G2

14	座るカタチ7	プレゼンテーション	作品と図面、コメント、記録写真撮影 プレゼンテーションの重要性	G2
15	まとめ	作品返却、振り返り	講評	G2

事前・事後学習の内容：よい作品を製作するためには、授業時間外のデザインスタディ（試行錯誤）が重要です。スケッチブックを片手に日々のデザインワーク（作業）をすすめてください。課題締め切りや提出物のスケジュールを各自で把握することもデザインワークの一要素です。

評価方法：Eについては、デザインワークに必要な表現技法を習得させる技術を授業中のレポート、スケッチ、製作物の提出によって評価する。Fについては、与えられた与条件をスケッチ、制作物の提出によって評価する。Gについては、製作物を発表することを通して評価する。すべての課題を提出すること。

教材：日本建築学会『コンパクト建築設計資料集成』丸善

備考：本講義は実習形式で行うので基本的な道具（鉛筆、定規、スケッチブック等）は各自用意するのが望ましい。また大学側から支給される材料以外は各自の自己負担となる。

科目名：基礎設計製図

英語表記：Elementary Drawing and Graphics

担当教員：森 一彦・上田 博之・(鈴木 哲夫)

授業形態：実習 単位数：実1 開講年度・学期：平成30年度・1年前期

科目ナンバリング：HBDR1102

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：目的：建築・住宅製図の基礎的素養を身につける。設計図面は設計意図を施工者や施主などの他者に伝える重要な手段であり、的確な表現能力を身につける必要がある。また優れた建築・住宅設計を行うためには、図面から空間をイメージする能力を培うことが必要条件である。

学習・教育目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)			
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)	
関与の程度				○										◎							○	

科目の主題：住居設計、空間設計に必要な基礎的能力やスキル、知識を修得する。設計製図を行うために必須である。設計製図において当然に理解しておくべき図学・透視図についても確認と説明をする。

製図用具の使い方、線の練習、表示記号、レタリングなどの基礎的スキルを身につけるとともに、空間認識の基本的感覚を養い、建築図面を描き、理解するために必要な能力を得る。さらに設計した空間のイメージを伝えるための表現方法についても学ぶ。

授業内容・授業計画：実習を主体として、それぞれ必要な事項を講義によって補う。

製図・図面作成は、実習を通じて、個々人で磨くべき能力・スキルである。一通りの実習で十分に身につくものではなく、個人の努力と研鑽によって到達点は異なる。

回	テーマ	概要	学習・教育目標
1	設計製図の必要性和設計製図のルール	建築の造られ方、積算、図面のルール、道具の使い方	B1, G2
2	文字のレンダリング	建築の寸法表記、文字	B1, G2
3	線の描き方	断面線、仕上げ線、見えがかり線、寸法線	B1, G2
4	製図記号と表記	窓、扉、階段、	B1, G2
5	木造住宅の製図（配置図、平面図）	配置図で表すこと、平面図で表すこと	B1, E1, G2
6	木造住宅の製図（配置図、平面図）	配置図の記載	B1, E1, G2
7	木造住宅の製図（配置図、平面図）	平面図の記載	B1, E1, G2
8	木造住宅の製図（断面図・立面図）	断面図の記載	B1, E1, G2
9	木造住宅の製図（断面図・立面図）	立面図の記載	B1, E1, G2
10	模型の作り方と考え方	模型をつくり方	B1, E1, G2
11	模型の作り方と考え方	模型をつくるスキル	B1, E1, G2
12	RC造建築の製図（配置図・平面図）	RC造の記載方法	B1, E1, G2

13	RC 造建築の製図（配置図・平面図）	柱・壁、エレベーター、PS	B1, E1,G2
14	RC 造建築の製図（断面図・立面図）	断面図・立面図の記載ルール	B1, E1,G2
15	RC 造建築の製図（断面図・立面図）	エレベーター、PS など縦管、RC の梁、天井と天井懐、階段	B1, E1,G2

評価方法：主に(E1)(G2)について、図面表現の正確さ、わかりやすさ、美しさを評価する。

○すべての課題を提出すること。未提出・期限遅れは認めない。採点は課題ごとに行う。

○提出物の作図などは、原則教室で行う。

○評価は提出物によって行う。未記入・粗雑など明らかな欠陥がある場合は再提出や減点することがある。「評価」は作品として評価する。

○未提出・提出遅れは、原則として、当該課題の配点分を 0 点とする。

○3/4 以上出席すること。20 分以上の遅刻は出席と認めない。ただし事情がある場合は申し出ること。

教材：〈建築のテキスト〉編集委員会編 『新装版 初めての建築製図』 学芸出版社

日本建築学会『コンパクト建築設計資料集成』丸善

その他必要に応じて、資料を配付するほか、スライド、OHP などを用いる。

備考：毎回、最初は講義室で説明を行い、その後に製図室に移動する。

科目名：居住環境学 学外セミナー I

英語表記：Housing and Environmental Design Onsite Seminars I

担当教員：小伊藤 亜希子・クレイグ ファーナム

授業形態：演習 単位数：1 開講年度・学期：1年・通年集中

科目ナンバリング：HBACA1101

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：居住環境学の領域は幅広く、学外にも、講演、シンポジウム、展覧会、ワークショップ、まちのイベント（アート、光、音楽、食、マーケット・・・）、すぐれた建築作品、伝統的まち並み地区、開発・再開発プロジェクト地区など、多彩な学びの場がある。現実社会に飛び込み、その動きを体感し、住宅、建築やコミュニティのリアルな問題、課題に対する理解を深めると同時に、主体的に学ぶ姿勢や課題発見能力を養うこと、また、将来の進路について考える機会を持つことを目的とする。都市大阪に立地するメリットを活かし、学外で実施されるセミナー等へ主体的に参加し、学内では得られない最先端の研究や実践に触れ、現場や実践から学ぶ機会とする。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)			
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)	
関与の程度	◎	◎	◎			○	○	○	○												◎	

科目の主題：学外で実施されるセミナー等への参加で得られた成果を報告、発表、共有する。

授業内容・授業計画：教員が提供する、居住環境に関連した学外演習に指定された回数以上参加し、学んだ成果をまとめ、プレゼンテーションを行う。前期で学んだ成果をベースに、後期は受講者それぞれがテーマを設定し、発展させる。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	ガイダンス	ガイダンス、提出物のまとめ方	演習の目的、概要、履修上の注意について、提出物のまとめ方、提出方法	A1
2	前期学外演習	前期 学外セミナー	学外で実施される特別講演、学会、展示会、見学会、まちづくりの実践、ワークショップ、インターンシップ、への参加 ①	A1-3
3	前期学外演習	前期 学外セミナー	学外で実施される特別講演、学会、展示会、見学会、まちづくりの実践、ワークショップ、インターンシップ、への参加 ②	A1-3
4	前期学外演習	前期 学外セミナー	学外で実施される特別講演、学会、展示会、見学会、まちづくりの実践、ワークショップ、インターンシップ、への参加 ③	A1-3
5	前期学外演習	まとめ作業	参加した企画の記録、まとめ作業	A1-3
6	前期学外演習	前期 学外セミナー	学外研修ツアー（全員で見学会）	A1-3
7	前期の総括・発表	前期 成果発表会	プレゼンテーション、講評	G2
8	後期テーマ発表	テーマと調査計画の発表	課題設定、調査企画	C1, C3
9	後期学外演習	後期 学外セミナー	各自のテーマに関連した、学外で実施される特別講演、学会、展示会、見学会、まちづくりの実践、ワークショップ、インターンシップ、への参加 ①	C2, C4
10	後期学外演習	後期 学外セミナー	各自のテーマに関連した、学外で実施される特別講演、学会、展示会、見学会、まちづくりの実践、ワークショップ、インターンシップ、への参加 ②	C2, C4
11	後期学外演習	まとめ作業	参加した企画の記録、まとめ作業	A1-3

				D1-4
12	後期学外演習	後期 学外セミナー	各自のテーマに関連した、文献・資料の収集	C2, C4
13	後期学外演習	後期 学外セミナー	調査した資料のまとめ作業	C2, C4
14	最終報告	後期 成果発表会	プレゼンテーション、講評	G2
15	懇談会	懇談会（成果発表会後に実施）	学生・教員による教育改善に向けた意見交換	G2

事前・事後学習の内容：提出物の作成は演習時間外に取り組むことが基本となる

評価方法：提出物とプレゼンテーションの内容によって評価する。

教材：必要に応じて資料を配付する。

備考：掲示やメールをよく確認すること。指定された期日までに提出物を提出すること。見学会、成果発表は授業時間割の都合から、土曜日や平日の夕方以降に開催する場合がある。インターンシップの場合は、事前に学生が企業等に了解を得る必要がある。

科目名：建築一般構造

英語表記：General Construction for Architecture

担当教員：渡部 嗣道

授業形態：講義 単位数：2

開講年度・学期：平成30年度・2年前期（平成27年度以前：1回生）

科目ナンバリング：HBSTR1201

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：建築物の構造的な仕組みを理解するための基礎知識を学習する。躯体構造から仕上げまでの全体構成に関する仕組みを理解する。構成材料の特性と構造との関係を理解する。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)			
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)	
関与の程度				○							◎		○	○								

科目の主題：建築学の入門的講義である。今後の設計製図や構造学を学ぶ上での基礎的講義であるため、建築の基礎的素養として、建築物の構成や仕組みについて、総合的に把握、理解する。

授業内容・授業計画：講義を主とするが、適宜、実施図面等を使用し、より深い理解を得られるよう配慮する。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	建築物の構成 1	建築物の構成方法の基本的な仕組みについて概説する。	空間の構成、外力と支持部材、下地と仕上げ、設備、開口部・建具、造作	D2 D4
2	建築物の構成 2	構造方式について概説する。さらに、荷重・外力についても説明する。	柱梁式、壁式、トラス、アーチ、外力と支持部材	D2 D4
3	木造 1	木造における材料特性と、在来工法における構造の特徴を概説する。	構造材としての木材、製材規格、木造構法、在来工法、基礎、土台	B1 D2
4	木造 2	在来軸組み工法のうち、柱材、横架材、小屋組み、床組みの種類について説明する。	柱、横架材、間柱、小屋組、和小屋、洋小屋、床組	B1 D2
5	木造 3	在来軸組み工法のうち、接合法、筋かい、仕上げなどについても説明する。	仕口・継手、金物、筋かい、火打、貫	B1 D2
6	木造 4	枠組み壁構法のしくみを説明する。	ツーバイフォー構法、その他の工法	B1 D2
7	鉄筋コンクリート 1	コンクリートや鉄筋の材料特性と鉄筋コンクリートの原理について概説する。	コンクリート、鉄筋、曲げ、配筋	B1 D2
8	鉄筋コンクリート 2	ラーメン構造の概要について説明する。	ラーメン、柱・梁、主筋、あばら筋、かぶり	B1 D2
9	鉄筋コンクリート 3	壁式構造の概要について説明する。また、仕上げなどについても説明する。	耐力壁、外壁、屋根、内装	B1 D2
10	鉄筋コンクリート 4	鉄筋コンクリート工事について説明する。その他、組積造についても説明する。	継手、型枠、コンクリート工事 コンクリートブロック造	B1 D2
11	鋼構造 1	鋼材の特徴や構造鋼の概要を説明する。	材料特性、フランジ、ウェーブ、座屈 ラーメン、トラス	B1 D2
12	鋼構造 2	鋼材の種類や接合法などを説明する。	形鋼、ボルト、溶接	B1 D2
13	鋼構造 3	各部の詳細な仕組みを説明する。	柱脚、継手、仕口、耐火被覆、外壁、屋根	B1 D2
14	その他の構造	上記以外の構造システムについて説明する。	鉄骨鉄筋コンクリート構造、プレストレストコンクリート、など	B1 D2
15	まとめ	上記の内容をまとめて復讐する。		B1 D2

事前・事後学習の内容：建築現場の積極的な見学や、講義中に出てきた不明建築用語の建築辞典や用語辞典による確認を行い、必ず姿図等によって関連用語とともに各部材等の相互関係を理解するように努める。

評価方法：授業試験（60％）と定期試験（40％）により評価する。B1については力の流れと材料特性に関する理解度、D2については各種構法の力学的思想、材料特性、各種構成部材の役割についての理解度、D4については建物の運用についての理解度を評価する。E1については表現方法で評価する。

教材：監修 青木博文／最新建築構造入門
備考：

科目名：構造力学I

英語表記：Structural Mechanics I

担当教員：岡本 滋史

授業形態：講義 単位数：2 開講年度・学期：平成30年度・2年前期

科目ナンバリング：HBSTR2201

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：建築構造設計を行うに当たっての基礎学力を身に付けるために、静定梁・ラーメンの反力算定および応力算定、静定トラスの解法を学ぶ。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度				○		○					◎										

科目の主題：建築構造力学の初歩を学習する。構造力学Ⅱ、建築構造学Ⅰ、設計製図演習の基礎となる。建築物を構成する部材に生じる反力や応力の種類と求め方、応力図の描き方など、構造力学の基礎について教授する。

授業内容・授業計画：適宜、演習を取り入れながら理解を図る。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	序論	本講義の目標設定と概要説明を行う。	外力、反力、応力、静定構造物、片持ち梁、単純梁、ラーメン、トラス	B1 C1
2	静定梁の反力の算定	静定梁における反力の算定方法を学ぶ。	反力、単純梁、片持梁、集中荷重、分布荷重	C1 D2
3	ラーメンの反力の算定	ラーメンにおける反力の算定方法を学ぶ。	反力、ラーメン、集中荷重、分布荷重	C1 D2
4	静定梁の解法1	片持梁における応力算定方法を学ぶ。	応力図、集中荷重、片持梁	C1 D2
5	静定梁の解法2	片持梁における応力算定方法を学ぶ。	応力図、分布荷重、片持梁	C1 D2
6	静定梁の解法3	単純梁における応力算定方法を学ぶ。	応力図、集中荷重、単純梁	C1 D2
7	静定梁の解法4	単純梁における応力算定方法を学ぶ。	応力図、分布荷重、単純梁	C1 D2
8	静定ラーメンの解法1	片持梁系ラーメンの応力算定方法を学ぶ。	応力図、片持梁系ラーメン	C1 D2
9	静定ラーメンの解法2	単純梁系ラーメンの応力算定方法を学ぶ。	応力図、単純梁系ラーメン	C1 D2
10	ヒンジ系構造物の解法	3ヒンジ系ラーメン、ゲルバー梁の応力算定方法を学ぶ。	応力図、3ヒンジ系ラーメン、ゲルバー梁	C1 D2
11	静定構造物の解法	静定梁、静定ラーメン、ヒンジ系構造物の応力算定方法の演習を行う。	応力図、静定梁、静定ラーメン、ヒンジ系構造物	C1 D2
12	静定トラスの解法1	トラスのシステムの基本と節点法における静定トラスの解法を学ぶ。	トラスの種類、トラスに生ずる力、反力、節点法	C1 D2
13	静定トラスの解法2	節点法における静定トラスの解法を学ぶ。	節点法	C1 D2
14	静定トラスの解法3	切断法における静定トラスの解法を学ぶ。	切断法	C1 D2
15	まとめ	上記のまとめ		C1 D2

事前・事後学習の内容：講義前には教科書を参照して予習を行い、講義後には演習課題を確認すること。

評価方法：定期試験（70%）および演習課題（30%）の結果によって行う。B1については力学に関する単位の理解度、C1については空間設計上の構造計算の理解度、D2についてはラーメン、静定梁の反力算定および応力算定、静定トラスの反力算定および解法の理解度を評価する。

教材：＜建築のテキスト＞編集委員会編『改訂版 初めての建築構造力学』学芸出版社（2013）

備考：関数電卓を持参すること。

科目名：居住環境工学 I

英語表記：Environmental Control in Architecture I

担当教員：永村 一雄

授業形態：講義 単位数：2 開講年度・学期：平成30年度・2年前期

科目ナンバリング：HBENV2201

当学科学生以外の受講：可

授業の到達目標：熱的至適空間を設計するには、気象などの外的要因が建物をどのように伝わり室内にどれほどの影響を及ぼすのかを数量的に把握しておく必要がある。気候変動も考慮して、省エネを実現する建物が望まれる現在、本講ではその裏付けになる伝熱と換気の基本を学ぶ。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)			
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)	
関与の程度			○			○						◎										

科目の主題：建物部位構造に関する大まかな知識を前提とする。主に建物の物理現象を扱うので物理的思考力も必要。建物の環境領域の基本事項を学習する。「建築設備 I・II」の土台となる科目である。主に温熱環境を形成する伝熱系と空気質を支配する換気系の理論構造を把握する。そこに住まう人体側の生理心理反応を理解し、健康な室内環境の設計に責任を果たすための技術を習得する。

授業内容・授業計画：講義と並行して演習問題を配布（復習を効率的に行うためのキーワードあり）するので理解を深めること。初回講義時に配布する教科プリント・参考書等による予習を行うこと。考えを的確に相手に伝えるための練習にもなるので、不明点があれば研究室まで担当者に聞きに来ること。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	意義・目的・概要	熱・空気環境と建物のかかわりを概説	気候・風土、熱的至適域、地球温暖化、ヒートアイランド現象、低炭素化	A3, C1, D3
2	人体生理・心理と温熱環境	周囲の温熱環境と人体生理・心理反応、至適域制御	熱収支、代謝、伝熱形態、環境温度、放射・対流・伝導、SET、PMV	C1, D3
3	部位の伝熱	建物部位における伝熱の基礎	伝熱要素・形態、室内均質化・時間定常近似	C1, D3
4	伝熱の種類	貫流、伝導、伝達と各熱特性	熱貫流・伝導・伝達率/抵抗、熱伝導率、熱容量、建築材料の熱特性	C1, D3
5	換気による熱輸送	換気を含めた室内熱収支構成の理解	空気の熱物性、熱容量、熱量、換気回数	D3
6	日射の扱い	室内に侵入する日射・開口部の扱い	透過日射、日射熱取得、日射侵入率、方位・地域補正	A3, D3
7	建物の熱特性	建物熱特性と部位熱特性の関係	熱損失係数、日射取得係数と法規制	C1, D3
8	熱負荷の算定	建物の暖冷房負荷の簡易算定	省エネルギー基準、省エネ法、デグリーデー	C1, D3
9	日射の熱特性	日射の熱特性と室内への影響	日射の種類・量の把握、直達・天空・反射日射、夜間放射、気候特性	A3, D3
10	日射の温度換算	日射を含めた室内熱環境の構成	表面吸収・放射率、夜間放射、相当外気温度、表面熱伝達率と風速	A3, D3
11	室内熱放射の基礎	熱放射量の原理と計算	ステファン・ボルツマンの法則、多重放射、放射熱量計算	D3
12	室内熱放射の応用	夏季・冬季の熱放射特性	窓の熱放射量、形態係数、熱吸収係数、平均放射温度	D3
13	風力換気の基礎	風力換気の駆動力、原理の把握	換気駆動力、ベルヌーイ則、運動方程式、圧力差	A3, C1, D3

14	換気量の推定	風力換気の計算と評価	開口部の直列・並列合成、開口隙間面積、風圧係数	A3, C1, D3
15	まとめと発展	熱・空気環境のまとめと建築設備	空調和・給排水衛生設備への応用、地球温暖化動向、ZEB/ZEH	A3, C1, D3

事前・事後学習の内容：毎回、自己到達確認用の演習を配布する。予習・復習用にキーワードを提示するので活用すること。

評価方法：A3, C1, D3について、快適な熱空間の構成や熱収支と換気に関する基本的知識と、それらの論理的把握ができていないかを期末試験で評価する。資料等の持ち込み可。

教材：坂本雄三：建築熱環境（東京大学出版会）、加えて補足のためプリントを配布する。副読本や参考書のリストは初回配布。適宜、T.V. 記録の視聴や新聞記事配布を通して現在の社会の要請に触れる。

備考：講義聴講においても定期試験の記述においても、体系（スジ）や論理的展開を意識してほしい。目標は、細部にわたる知識の記憶にあるのではなく、建物のなかでどのような物理要素が住まい手に影響を及ぼすのか、その効用と量的な見積りを把握し、物理機構を理解することにある。

科目名：建築材料学

英語表記：Material Construction

担当教員：渡部嗣道

授業形態：講義 単位数：2 開講年度・学期：平成30年度・2年後期

科目ナンバリング：HBSTR2202

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：建築材料の基本的性質を把握し、建築部材への適用方法の技術を学ぶ。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度											◎										

科目の主題：材料・施工技術だけでなく、意匠設計・構造設計などの幅広い分野の建築技術に必要な基礎的知識科目。

構造材料のほか、仕上材料について、物性・規格・要求性能・製造や施工方法について解説する。

授業内容・授業計画：各種建築材料の種類と基礎的性質について学習する。なるべく視覚的に理解できるようにビデオなどを使用しながら学習を進める。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	はじめに	建築材料学を学ぶ位置づけや分類・要求性能・規格などの概要などを説明する。	建築材料の発展、分類、要求性能、規格	D2
2	木質材料1	木材の種類・組織・製材について学ぶ。	針葉樹・広葉樹・木理・年輪・心材・辺材・木取り・柾目・板目・乾燥	D2
3	木質材料2	木材の物理的性質、耐久性・耐火性、製品などについて学ぶ。	含水率・強度、腐朽・食害・防耐火・合板・集成材	D2
4	コンクリート1	セメントやコンクリートの歴史・製造・水和反応などについて学ぶ。	セメントクリンカー、ポルトランドセメント、水和反応、水酸化カルシウム	D2
5	コンクリート2	コンクリートの構成材料やフレッシュコンクリートなどについて学ぶ。	骨材、混和材料、界面活性剤、スランプ、ワーカビリティ、材料分離	D2
6	コンクリート3	コンクリートの物理的な性質や製品などについて学ぶ。	強度、水セメント比、調合、耐久性、製品	D2
7	金属材料1	鋼材の製法・性質について学ぶ。	製鉄、製鋼、圧延、高炉、転炉、熱間、応力-ひずみ関係、耐熱性、腐食	D2
8	金属材料2	鋼材の製品のほか、非鉄金属について学ぶ。	鋼材の種類、厚板、薄板、鋼管、形鋼	D2
9	非金属材料1	石材やセラミックスについて学ぶ。	岩種、花崗岩、堆積岩、大理石、表面处理、施工方法、陶磁器、タイル、れんが、瓦	D2
10	非金属材料2	ガラスやプラスチック材料について学ぶ。	フロートガラス、強化ガラス、複層ガラス、熱可塑性樹脂、熱硬化性樹脂	D2
11	機能性材料	防水材料や防耐火材料について学ぶ。	メンブレン防水、耐火被覆	D2
12	仕上材料1	屋根材料について学ぶ。	陸屋根、勾配屋根、瓦葺、金属葺、スレート	D2
13	仕上材料2	外壁材料について学ぶ。	モルタル仕上げ、サイディング、タイル仕上げ、左官仕上げ、仕上げ塗材	D2
14	仕上材料3	天井・内装材料について学ぶ。	天井材、回り縁、幅木、床材、内装材	D2
15	まとめ	上記の各種材料のまとめを行う。		D2

事前・事後学習の内容：講義前には教科書を参照して学習を行い、講義後には用語の復習をすること。

評価方法：建築材料の各種性質、各部材における建築材料の選定・計画方法の考え方や方法の理解度を、授業テスト（60点）と定期試験（40点）で評価する。

教材：嶋津孝之ほか著「建築材料」森北出版

備考：

科目名：住文化史 I

英語表記：Cultural History of Housing (I)

担当教員：福田 美穂

授業形態：講義 単位数：2 開講年度・学期：平成30年度・2年前期

科目ナンバリング：HBPLA2201

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：現在及び将来の住文化を考える上で、その背景にある建築と都市の歴史に対する理解は不可欠である。本講義では、わが国における建築の歴史的展開、都市の形成と住環境の変遷について解説し、それらの基礎的知識の取得と包括的な理解を目指す。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度	◎	◎	◎				○	○	○			○	○		○	○					

科目の主題：建築や都市に対する歴史的理解は、住宅を含む建築一般、都市の設計・施工のあらゆる段階で必要となる。それは、ゆるぎない規範を提示する場合もあれば、新たな可能性を示唆する場合もある。本講義の内容は、設計関連授業はもちろん、広範な領域の授業の基礎的知識としても重要である。日本において展開された建築と都市の歴史について、住宅を中心に古代から近代までを時代順に取り上げ、その変遷を社会的条件と住文化史的背景から捉えて考察、検討する。

授業内容・授業計画：講義は、図版資料を示し、必要に応じてビデオなどを使って視覚的な把握を目指す。さらに、現存する建物や町並みを見学し、実物の空間体験を通じて理解を深める。なお、見学の日程は第一回授業で通知する。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	日本建築の空間	日本建築空間と特色と言われる開放性、非対称性、自然との調和は、日本だけに特有のものではなく、多角的にその特質を検討すべきことについて解説する。	開放性、閉鎖的な日本建築、非対称性、対称性を有する建築、自然との調和、庭園、方池	A1・A2・A3・E2・E3
2	造営技術体系の導入以前	漢族造営技術体系導入以前の建築空間について解説する。	先史時代の住居遺構、竪穴住居、平地住居、高床建物、焼失住居跡、復元住居、家形埴輪、家屋文鏡	A1・A2・A3・E2・E3
3	漢族造営技術体系の導入1	漢族造営技術体系導入による建築、とくに寺院および日本建築の等級と類型について解説する。	伽藍、大極殿に代表される宮殿、庭園、建築の等級と類型	A1・A2・A3・E2・E3
4	漢族造営技術体系の導入2	東アジアからみた、漢族造営技術体系導入による建築空間、および日本の建築の等級と類型について解説する。	古代日本をとりまく情勢、日本の計画都市、宮の変遷	A1・A2・A3・E2・E3
5	東アジアの都城と日本への影響	中国の影響を受けて古代日本では都城を造営してきた。中国都城理念である『考工記』および日本を含めた中国周辺の都城の構成を概観し、東アジアの中の日本について解説する。	日本・中国以外の東アジア計画都市、漢族の都城理念『考工記』、中国の都城とその影響	A1・A2・A3・E2・E3
6	寝殿造と貴族の儀式	貴族の邸宅であった寝殿造の構成および宮廷儀式との関わりについて解説する。	寝殿造の基本構成、寝殿造の成立、寝殿造における儀式	A1・A2・A3・E2・E3
7	中世仏堂の成立	中世仏堂と呼ばれる、中世に現れた新しい建築空間について解説する。	中世仏堂の基本構成と成立過程、内陣、礼堂、後戸、間面記法	A1・A2・A3・E2・E3
8	和様と宋代様式の導入	日本建築の様式である、和様、中世に新たに宋代様式を受容して成立した禅宗様、大仏様について解説する。	宋代様式、組物、和様、禅宗様、大仏様	A1・A2・A3・E2・E3
9	中世の公家と武家の住まい	平安時代の寝殿造から発展した中世公家の住まいと武家の住まいについて解説する。	鎌倉幕府と院御所の空間、室町幕府の空間、空間機能の分化と室内	A1・A2・A3・C2・C3・C4・D3・D4・E2・E3
10	近世の住まい	近世を代表する天主、大広間、茶室について解説する。	天主、『匠明』、ルイス・フロイス『日本史』、大広間、座敷飾り、茶室、	A1・A2・A3・C2・C3・C4・D3・D4・E2・E3

11	近代の住まい1	近代日本の住まいをアメリカ人モースの記述を通じて理解し、あわせて民家の類型と変化について解説する。	エドワード・モース、 <i>Japanese Homes and their Surroundings</i> 、借景、民家の間取り、類型	A1・A2・ A3・E2・E3
12	近代の住まい2	日本近代以降の住まいと日本の近代建築について、解説する。	洋風建築、住宅改良、都市問題	A1・A2・ A3・E2・E3
13	古建築の修理と復原	古建築修理の変遷と展開について、世界遺産にも言及しながら解説する。	古建築修理、解体修理、当初復原、世界遺産、オーセンティシティ	A1・A2・ A3・E2・E3
14	古建築の見学1	漢族造営技術体系を受容して建立された法隆寺を見学し、古代の空間である母屋・庇の構成や、卍崩しの高欄、人字椽など法隆寺に特徴的に見られる部材、意匠を観察し理解する。	古建築の基礎的な現地調査法、法隆寺、西院伽藍、玉虫厨子、東院伽藍、夢殿、双堂	A1・A2・ A3・E2・E3
15	古建築の見学2	日本最古の民家と考えられている箱木家を見学し、その構造や内部空間の作り方について理解する。	歴史的建造物の見方、基礎的な現地調査法	A1・A2・ A3・E2・E3

事前・事後学習の内容：毎回配布する資料により学習内容を自己確認できる。また、参考文献やその探し方を説明するので、さらに発展した学習ができる。

評価方法：学習・教育目標のAを重視し、歴史的建造物に対する基礎的知識とともに、その社会的・文化的・芸術的・技術的背景への理解度を問う。また定期試験と見学会の参加によって評価する。

教材：配布資料

備考：参考資料 『日本建築史図集』彰国社、『近代建築史図集』同

科目名：人間工学

英語表記：Ergonomics

担当教員：岡田 明

授業形態：講義 単位数：2 開講年度・学期：平成30年度・2年前期

科目ナンバリング：HBENV2202

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：居住環境や生活機器を設計していく上でぜひ考慮しなければならない人間の生理的・心理的諸機能・諸特性について論じ、使いやすく安全で快適かつ健康的な人間中心の設計手法を学ぶ。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度			○	◎		○						◎						○			

科目の主題：居住空間や設備機器と人間との円滑な関係を実現するために必要となる人間自身の理解を、生理学や心理学に基づき解説する。建築計画や環境あるいは設備機器等の設計において人間要素を扱う際の知識や考え方を提供する。

前半は主として設計に必要となる人間の生理的・心理的諸機能・諸特性について論じ、後半はその応用面について解説する。併せて簡単な演習も実施する。

授業内容・授業計画：毎回ひとつのサブテーマを取り上げて講義を行う。ビジュアルな教材を多用し、理解のしやすさに配慮する。また、毎時間後に授業に対するコメントや質問を提出してもらい、次の時間に回答する。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	イントロダクション	人間工学とは何か、どう役立つのかを事例も交えて解説する。	人間工学を必要とする背景、関連する人間の特性、人間工学を支える分野	A3
2	人間工学の具体化をイメージする	イスのデザインを事例として、人間工学は何かの理解をさらに深める。	人の身体の構成、脊柱の構造、腰部負担のメカニズム、負担の少ないイス	A3, B1, C1
3	モノづくりは人の寸法を知ることから始まる	人体寸法に基づくデザインのあり方について、寸法測定や統計学から学ぶ。	測定点と測定項目、統計学、骨格系	B1, C1, D3
4	悪い姿勢が体を壊す	運動機能と姿勢・動作について解説し、身体負担の回避について学ぶ。	骨格筋の構造、人の筋力、悪い姿勢、モーメント	B1, C1, D3
5	感覚は五感だけではない	感覚の種類を解説し、人間工学と視覚機能との関連について解説する。	感覚様相、視野の範囲、盲点	B1, C1, D3
6	人はどのように見ているのか	視覚機能について主として生理学の視点から解説する。	視力、視覚器の構造、明所視と暗所視、暗順応	B1, C1, D3
7	人は見たモノをどのように感じているのか	視覚機能について主として心理学の視点から解説する。	物理量と感覚量、ウェーバー・フェヒナーの法則、錯視図形	B1, C1, D3
8	室外演習	人を測る方法について解説し、それを行う実験室の見学を行う。	主観的評価、生理的評価、人工気候室	D3
9	わかりやすさをデザインする	認知特性に基づく分かりやすい設計や安全設計を考える。	分かりにくさの要因、ヒューマンエラー、エラーへの対処	C1
10	エイジングと高齢者の居住環境	加齢に伴う心身機能の変化と、それに基づく超高齢社会でのモノづくりを考える。	社会の高齢化、人口ピラミッド、加齢に伴う機能変化、居住環境の設計指針	A3, C1
11	誰もが目的を達成できるモノのデザイン	ユニバーサルデザインについて解説し、人間工学的視点からのモノづくりを考える。	ユニバーサルデザインの定義と誤解、ユニバーサルデザイン事例、ユーザグループ	A3, C1
12	ストレスは悪者ではない	疲労、ストレスとは何かを解説し、それらを考慮した快適性デザインを考える。	疲労とは、疲労の測定、ストレスとは、汎適応症候群、ストレスへの対処	C1
13	人間工学的デザインの実例	機器、住宅、オフィスなどの人間工学設計の実例を紹介する。	キーボード配列、住宅空間と設備機器の設計、オフィスの生産性と健康	A3, C1

14	明日の人間工学を展望する	人間工学の今後の課題を論じる.	主な人の生理, 人材の育成, 快適さと機能低下の矛盾	A3, F2
15	まとめ	これまでの復習を行う.		A3, B1, C1, D3

事前・事後学習の内容：毎回、その内容に該当する本及び体験可能なデザイン対象を紹介。

評価方法：各学習・教育目標の理解度と考え方により評価を行う。そのため以下の方法と配分を用いる。試験（30%；主としてB1, C1, D3），毎時間の小レポートと課題レポート（70%；主としてA3, F2）

教材：毎回プリントを配布。教科書：岡田明（編著）「初めて学ぶ人間工学」（理工図書）

備考：

科目名：住居計画学
 英語表記：Housing Design
 担当教員：小池志保子
 授業形態：講義 単位数：2 開講年度・学期：平成30年度・2年前期
 科目ナンバリング：HBPLA2202
 当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：近代以降の住居計画の理念と技術、住空間を構成する各室や用途空間の機能、計画原理、戸建て住宅や共同住宅の計画技術、居住ニーズの把握方法、住まい手が参加するハウジングの方法等を学ぶ。人間が住むための空間の成り立ちを秩序付けて解き明かしていく。

学習・教育目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度	○	○	○				◎	◎	◎	○			○				○				

科目の主題：住居学の基礎的専門科目である。住居を計画する基本的な考え方や住空間の構成原理、住宅平面の構成手法に関する理解を深める。また、建築の空間の構成について、歴史的な視点から学び取る。
 科目の主題：住宅の社会的・文化的側面に着目する。機能性を重視する近代の計画理論から、コーポラティブハウジングなどに及ぶ多様な計画の可能性とその理念や計画手法の特徴を知る。さらに、実物の見学を通じて建築空間を体験する。
 授業内容・授業計画：理解を助けるため、具体事例となる図面、写真等の教材を用いる。適宜、講義内容と関連するレポートを課す。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	数	デザインとは？ 椅子とプロポーション：黄金比、白銀比	デザイン理論、家具のデザイン、寸法、プロポーション	A1・A2・A3・C3
2	見学1	計画の計画理論とは、デザインをみる	住居の計画理論と居住環境学	A1・A2・A3・C3・C4
3	ボリューム	形態の操作とは？ 近代建築の5つの要点ル・コルビュジェ	近代住宅の計画理論	A3・C3・C4・D1
4	空間構成	空間構成の手法、構造、企画、プログラム、ボリュームによる検討、	空間構成、動線、スペースシンタックス	C3・C4・D1
5	用途	プログラム、ユニバーサルスペース	敷地環境の読解、都市空間の読解、法令による制限	C3・C4・D1
6	柱	柱をたてるとは？木造 真壁 敷地環境、都市環境、法律	住空間のあり方	A1・A2・A3・C
7	見学2	住居デザインをみる (RC)	寸法、プロポーション	A1・A2・A3・C
8	小壁	長屋、小間、伝統的住宅、軸組	伝統的な住まいの空間構成、真壁と大壁、続き間	A1・A2・A3・C
9	壁	コンクリートと壁 安藤忠雄、司馬遼太郎記念館・小篠邸	木造、鉄骨造、RC造などの構造、機能と用途、内外空間、ピロティ、柱と梁	C3・C4・D1
10	鉄	箱を閉じると開くとは？	木造、鉄骨造、RC造などの構造、機能と用途、内外空間、ピロティ、柱と梁	C3・C4・D1
11	リノベーション1	住宅ストックの活用	住宅ストック、リノベーション、サステナブルデザイン、空き家、耐震改修	C3・C4・D1
12	リノベーション2	リノベーションの手法、既存建物の解釈	増築、減築、用途変更	C3・C4・D1
13	見学	住居デザインをみる (木造)	実物の観察	C3・C4・D1
14	まとめ	住居を計画する理論	事例研究、社会背景	C3・C4・D1

15	住居の計画	事例研究、図面の読解、プレゼンテーション、図面表現	ドローイング、図面表現、コンセプト、	A3・C2・ C3・D4
----	-------	---------------------------	--------------------	-----------------

事前・事後学習の内容：授業で触れた住宅のデザインについて、学術情報センターの書籍等を検索して、写真と図面を比較したり、図面を読み込んだりすることで、より理解を深めること。その結果を課題レポートや講義中のレポートに反映させること。

評価方法：A1・3については、社会と計画技術との関係性に関する理解力を問う試験を課し、評価する。C2-4、D1・D4は住居計画の課題を的確に抽出・表現する能力を重視し、基礎知識を応用できる能力を問うレポートを課し、評価する。

教材：必要に応じて資料を配布する。『コンパクト建築資料集成』（丸善株式会社）、『図解 ニッポン住宅建築—建築家の空間を読む』（学芸出版社）を教科書とする。

科目名：生活情報学及び実習（平成27年度以降入学者対象）

英語表記：Application of Information Processing and its Exercise

担当教員：永村 一雄、ファーナム・クレイグ

授業形態：実習 単位数：2 開講年度・学期：平成30年度・2年前期

科目ナンバリング：HBMIS2205

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：情報処理技術は、現代生活のリテラシーのひとつである。情報処理の基本である電子情報を、ファイルという実態に置き換えて、それを活用する技術を身につけるとともに、実際の処理が、プログラムと呼ばれるコードで実行される様子を演習で体験し、具体的な処理技術を獲得する。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度				◎	◎																

科目の主題：卒業研究で用いる様々な計算処理の直接的な手助けとなりえること以上に、データ社会とよばれる今日、情報がどのように処理されるかの実感を体感できるリテラシーが学べる。情報の電子化の手段、情報の加工技術、その実態としてのファイルの性質と取り扱い方、加工と実際の処理にともなうプログラミングを講義し、プログラミング言語による演習を行う。

授業内容・授業計画：簡単な知識を教授した後、毎回演習課題を与え、それを授業時間内にこなして提出する。プログラミングが大半を占めるが、自分のコーディングとそれによって稼動するPCの処理との整合を実感すること。最後に各人の工夫をこらした自主開発作品を作成する。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	情報社会とデータサイエンス	居住環境における情報処理技術、ソフトウェアとハードウェア、コード、プログラム	2進数、PC、WS、オープンウェア	B2
2	構文概要・入出力	コード構成、コンソールでの入出力	タブ、インデント、コマンド、ファイル	B2
3	演算の基礎	簡単な算術演算、文字操作	演算子、演算規則、型、高次元	B2
4	判断処理	条件つき・なし判断の実現	判断命令、条件演算子	B2
5	分岐処理	分岐と判断の相違・類似性	分岐命令、条件演算子、ジャンプ命令	B2
6	数値変数と型	変数の取り扱いと型宣言	整数型、実数型、精度制約	B1, B2
7	文字変数と型	文字変数と文字処理、型宣言	文字型、文字コード、数値対応	B1, B2
8	反復処理	反復命令と繰り返し制御文	整数カウンタ、回数判定	B1, B2
9	反復簡略表現	代入演算子の活用	加算代入など演算子組み合わせ表現	B1, B2
10	関数表現	関数型による処理	関数、宣言、型、戻り値	B1, B2
11	関数の戻り値	戻り値の分類	引数、戻り値、参照・値渡し	B1, B2
12	副プログラム	副プログラムの構成	引数、主プログラムとの関係	B1, B2
13	グローバル・ローカル変数	主/副プログラム・関数環境と変数	メモリ域	B1, B2

14	グラフィックス	グラフィックス処理とルーチン活用	画像、描画範囲、座標系	B1, B2
15	まとめと発展	他言語と処理、AI活用	言語仕様、データ処理	B1

事前・事後学習の内容：すべてフリーウェアをもちいるので、自身のPCでも実習可能である。繰り返し学習は体得の基本なので、出題する発展問題をぜひ復習として行ってほしい。

評価方法：主に（B1, B2）を評価するため、毎回の演習とその課題の提出を義務づける。採点基準は、提出された課題について、意図したとおりプログラムが実行されるか否かである。毎回の課題はその日の学習内容を反映したものである。最後に大きめの課題を出し、創意工夫の跡もみる。各回の提出100%で採点し、確実に技術が獲得できたかをみる。

教材：講義プリントを配布。最初の授業で参考書リストなどを配布。授業時間を超えて実習を行いたい学生は、教室使用の許す限り利用して欲しい。ただし、事前に担当者まで申し込むこと。

備考：

科目名：CAD/CGデザイン演習

英語表記：CAD and CG Design

担当教員：松下 大輔・瀧澤 重志

授業形態：演習 単位数：演1 開講年度・学期：平成30年度・2年前期集中

科目ナンバリング：HBMS2203

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：建築設計製図およびプレゼンテーションには、CAD,CGの技能の習得が不可欠である。コンピューターや各種アプリケーション、出力環境の活用方法の基礎知識を習得し、設計製図技能、表現力の向上を目指す。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度					◎									◎	○		○			◎	○

科目の主題：・一般的なCADによる基本的な建築図面製図の体験

- ・ヘルプ、関連ウェブサイトの検索など、情報環境を活用したCADの自習方法の把握
- ・CADやDTP環境を活用して、正確に、速く、鮮明なプレゼンテーション図面作成を行う技能の習得

授業内容・授業計画：集中的に演習を行うことが効果的であるため、集中講義とする。教室は学術情報総合センター9階（第1週目）および生活科学部棟第2学生実験室（第2週目）とする。全学共通科目「情報基礎」、専門科目「基礎設計製図」および「設計製図I」を履修していることが望ましい。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	CADの背景	建築設計分野におけるCADの現状、先端的利用事例	建築設計実務におけるCADの現状、CAD/CGの先端的事例	B2
2	AutoCADの導入	Autodesk社AutoCAD教育版の取得およびインストール方法	Autodesk Education CommunityによるAutoCAD使用環境の構築方法	B2
3	AutoCADの概念	CADアプリケーションの概念と操作体系	実空間、モデリング空間、ペーパー空間の写像関係、図形描画、投影法	B2
4	基本図形描画、編集方法の習得	移動、複製、線、線種、編集方法等の基本操作	対話的入力、効率的操作方法、アプリケーション間のデータ移行	E1, E2
5	建築図面の表記法	建築設計図面の作成手順、表記法、印刷出力方法	表記法、JIS、線種、線の太さ、確図面の対応、印刷出力	E1, E2
6	課題作成1	学内建物の調査および建築図面の測量およびCAD入力	学内建物の実測、建築図面の計測、CAD入力方法	G2, G3
7	課題作成2	建築図面のCAD入力	図面制作	G2, G3
8	課題作成3	建築図面のCAD入力の完了、印刷出力、課題提出	図面制作、印刷、修正、提出	G2, G3
9	BIMの概要	Building Information Modelingの基本、業務での導入状況	BIMの概念、建築の設計プロセスの情報化	F1
10	Revitの概念	Revitの概念とワークフローの理解	モデル要素、基準要素、ビュー要素、カテゴリ、ファミリー、ワークフロー	B2
11	基本操作	Revitの基本的な操作	ユーザーインターフェース、画面操作、保存	B2
12	課題作成1	建築図面から建物の基本的な3次元形状のモデリング	建築図面の読み込み、通り芯、壁、柱、床、屋根の作成	E1, G2, G3
13	課題作成2	建物の詳細な3次元形状のモデリング	開口部、ドア、階段、部屋等の作成	E1, G2, G3

14	課題作成 3	3次元モデルの質感の設定	マテリアル設定	G2, G3
15	課題作成 4	3次元ビジュアライゼーション、印刷出力、課題提出	カメラ、ライティング、レンダリング、修正、印刷	G2, G3

事前・事後学習の内容：上達のためには各自の私用コンピュータにCADアプリケーションをインストールし、自学習を行うことが望ましい。

評価方法：2つの成果物により評価を行う(50%+50%)。

教材：資料を配付する。

備考：予め集中講義の演習日を確認しておくこと。第2週目の演習では三角スケール(15cm)を使用する。

科目名：構造力学II

英語表記：Structural Mechanics II

担当教員：渡部 嗣道

授業形態：講義 単位数：2 開講年度・学期：平成30年度・2年後期

科目ナンバリング：HBSTR3201

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：構造的に安全な建物を設計するためには、建物に加わる力の概念や応力計算の手法などを学んでおく必要がある。本講義では、静定および不静定のラーメンの解法、トラスの解法、座屈、静定骨組の変形について学び、応力解析のための基礎的知識を付与する。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度				○		○					◎										

科目の主題：建築一般構造、構造力学Iをあらかじめ履修しておくこと。部材断面の諸特性や応力度のほか変形の算定方法について学ぶほか、不静定構造物における解法の理解によって、鉄骨造や鉄筋コンクリート造建物の構造設計の基礎的知識を身につける。

授業内容・授業計画：各講義の初めに出席をとる。遅刻は認めない。単元ごとに解法の仕方を説明し、演習問題を解く。

各講義の時間内に不明な点を残さないよう積極的に質問し、完全な理解を図ること。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	ひずみ度と応力度	部材断面に生じる応力度とひずみ度との関係を学習する。	ひずみ度、応力度、弾性係数	D2
2	断面の力学特性 1	図心ならびに断面1次モーメントの算定方法を学習する。	図心、断面1次モーメント	D2
3	断面の力学特性 2	断面2次モーメントの算定方法を学習する。	断面2次モーメント	D2
4	断面の力学特性 3	断面係数や曲げ応力度の算定方法を学習する。	断面係数、曲げ応力度	D2
5	断面の力学特性 4	T型断面の各種断面性状や曲げ応力度の算定方法を復習する。	図心、断面1次モーメント、断面2次モーメント、断面係数、曲げ応力度	D2
6	座屈	弾性座屈における座屈応力度の算定方法を学習する。	座屈荷重、細長比、座屈長さ	D2
7	梁の変形 1	単純梁や片持梁におけるたわみおよびたわみ角の算定方法を学習する。	モールの定理	D2
8	梁の変形 2	1次不静定問題における解法を、モールの定理を用いて学習する。	モールの定理、1次不静定	D2
9	梁の変形 3	梁の変形における算定方法を復習する。	モールの定理、1次不静定	D2
10	不静定 1	不静定ラーメンにおけるたわみ角法の基本を学習する。	たわみ角法、部材角、節点角、剛度	D2
11	不静定 2	不静定ラーメンにおけるたわみ角法での算定方法を学習する。	たわみ角法、部材角、節点角、剛度	D2
12	不静定 3	固定モーメント法の基本を学習する。	固定端モーメント、到達・分配モーメント、分配率	D2
13	不静定 4	不静定ラーメンにおける固定モーメント法による算定方法を学習する。	固定端モーメント、到達・分配モーメント、分配率	D2
14	不静定 5	不静定ラーメンにおける固定モーメント法による算定方法を復習する。	固定端モーメント、到達・分配モーメント、分配率	D2
15	まとめ	これまで学習した内容を復習する。		D2

事前・事後学習の内容：テキストの演習問題を解く。

評価方法：B1、C1およびD2については数学・物理学の基礎的知識に基づく構造力学の理解すなわち、各種の骨組における応力の求め方およびその図示法や座屈、骨組の変形に対する理解度と計算力について、定期試験（100%）の問題解答により評価する。

教材：＜建築のテキスト＞編集委員会編『改訂版 初めての建築構造力学』学芸出版社（2013）

科目名：居住環境工学Ⅱ

英語表記：Environmental Control in Architecture Ⅱ

担当教員：永村 一雄

授業形態：講義 単位数：2 開講年度・学期：平成30年度・2年後期

科目ナンバリング：HBENV3201

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：健全な室内環境設計に必要な、空気（換気）・防露・音・振動・光などの基礎技術を獲得する。さらに都市など広域な環境で生じている問題を把握し、原因を追求できる基礎知識を学修する。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度						○						◎			○						

科目の主題：建物の部位構造の知識を前提とする。建物の物理現象を扱う数理力も必要。都市域など広域な問題を扱うためマクロ的な視点を獲得してほしい。「建築設備Ⅰ・Ⅱ」の専門知識の土台科目でもある。高断熱・高气密建物に必須の計画換気・空気質と防露、および集合住宅で問題となりやすい音・振動についての基礎知識、道路騒音など不快な振動伝播の物理機構の把握と防音技術を習得する。最後に、パッシブ建築や環境共生、最新の技術トピックを講義する。

授業内容・授業計画：講義と並行して演習問題を配布する。演習問題を解いて理解を確認すること。初回講義時に配布される教科プリントや参考書リストに記載の書籍による予習を行うこと。考えを的確に相手に伝えるための練習にもなるので、不明点などは研究室まで積極的に担当者に聞きに来ること。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	意義・目的・講義概要	問題解決のための技術的対策とのかかわりを環境工学の視点でとらえる	法律・付加価値・社会的倫理、人体への影響、単位、影響度と感度	C1, D3, E2
2	空気の物理的性質と換気駆動力	空気の物理特性、温度依存性など物理基礎を原理的に把握	ボイル・シャルルの法則、質量、密度、圧力、比重、温度差による圧力差	C1, D3, E2
3	重力換気の計算	温度差と浮力・圧力差の関係式の理解	運動方程式、ベルヌーイの定理	C1, D3, E2
4	濃度減衰による換気量検証	完成検査のための換気量推定	単室濃度減衰、微分方程式、法律	C1, D3, E2
5	光の単位	光環境の基本となる光の計量単位と定義	比視感度、光束、照度、発散度、昼光、光率、立体角投射率、均斉度	D3, E2
6	照明の照度設計	人工照明による机上面の照度設計と窓光源	光源の種類、距離の逆二乗則、余弦則、窓からの採光、点源法	D3, E2
7	人工光源/視環境特性	各種人工光源の特性理解と活用法	機能特性、モデリング、高齢化	D3, E2
8	音の単位と人体	音・振動環境の基礎となる単位と定義、人体側の可聴特性	スペクトル、可聴範囲、レベル表示と演算、音圧、周波数、オクターブ	D3, E2
9	防音とメカニズム	壁など室の部位の防音機能と特性理解	吸音率・力、透過損失、吸音構造、遮音、質量則、評価	D3, E2
10	遮音機構	減衰機構とその詳細・性能評価	音源の種類と距離減衰、壁構造と減衰、遮音基準と評価	D3, E2
11	騒音、残響、その他	騒音評価と残響の基礎、音響の基本知識	聴覚特性、ラウドネス、定常・非定常特性、残響時間、周波数	D3, E2
12	結露現象の基礎	結露発生原理の把握、特性理解、水分発生と住まい方	露点、飽和蒸気、湿り空気線図、絶対湿度、水分蒸気圧、相対湿度	D3
13	湿気移動	壁体間での湿気移動機構の理解、伝熱のアナロジ応用	湿気伝達率・抵抗、ヒステリシス	D3

14	防露計画	壁体表面・内部結露の発生可能性計算とそれにもとづく防露策	結露発生量、防湿層と配置、非定常性状特性	D3
15	まとめと発展	全体把握、環境共生、最新技術トピック	ZEB・ZEH、クールルーフ・ルーフポンド、エネルギー循環、LCC02、新素材	C1, D3, E2

事前・事後学習の内容：毎回、自己到達確認用の演習を配布する。予習・復習用にキーワードを提示するので活用のこと。
 評価方法：C1, D3, E2について、定期試験（80%）および毎回講義時の演習とレポート（20%）で評価。試験時資料持込み可。評価の視点は、快適な空気環境、静かな音環境、省エネに配慮した建物や都市のあり方の論理的理解。

教材：大野治代ほか：住まいの環境（図解住居学5）彰国社。これに加えて追加事項をプリントで配布する。副読本や参考書のリストは初回に配布する。適宜、T.V. 記録の視聴や新聞記事配布を通して、現在の社会の要請がどのようなものかに触れる。

備考：本講義は、細部にわたる知識の記憶でなく、建物のなかでどのような物理要素が住まい手に影響を及ぼすのか、その効用と量的な見積りを物理機構の理解で把握することが肝要。

科目名：建築・環境法規

英語表記：Building Standard Law and Related Laws

担当教員：（都丸 純一郎）

授業形態：講義 単位数：2 開講年度・学期：平成30年度・2年後期

科目ナンバリング：HBMIS22014

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：住宅等の建築物は生活の基盤として構築され、それらが集積してまちや都市を形成している。そのため、建築物は火災、台風、地震等の災害時に被害が拡大しないよう個々の性能を高めるとともに、周囲と調和した良好な環境を形成するよう建築される必要があり、これらの目的を達成するため建築基準法では様々な規定が定められている。本講義は、建築基準法の基本的な事項を習得し、建築物に関する理解を深めることとする。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度			○			○							◎				○				

科目の主題：建築基準法などの法律には、建築物の着手前の基本設計段階から竣工後の維持管理に至るまで、建築主や設計者等が遵守すべき重要な項目が定められている。また、一級建築士などの資格を得るうえでも必須の科目となっている。

建築基準法では建築物を安全・快適に利用するための基準など、広範な規定が定められている。本講義では、まず法律の基本的な枠組みを概説し、その後、単体規定や集団規定等の基礎的な事項について解説する。

授業内容・授業計画：講義は教科書及び参考資料を利用して行う。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	建築基準法の目的と構成	建築基準法の目的や構成、法令用語の説明など法律の基本的な概要について解説する。	法の目的と構成、法の枠組み、条文の構成、法令用語	A3 D4
2	建築基準法の基本事項	建築物と敷地に関する用語、建築手続きに関する用語など法律の基礎となる用語について解説する。	建築物と敷地に関する用語、防火に関する用語	D4
3	建築基準法の基本事項	建築物と敷地に関する用語、建築手続きに関する用語など法律の基礎となる用語について解説する。	建築手続きに関する用語	D4
4	建築基準法の基本事項	建築物と敷地に関する用語、建築手続きに関する用語など法律の基礎となる用語について解説する。	面積と高さの算定方法	D4 C1
5	制度規定	法律を運用するために必要な手続きなど定めた規定（制度規定）について解説する。	建築確認	D4 F1
6	制度規定	法律を運用するために必要な手続きなど定めた規定（制度規定）について解説する。	認可と許可、検査、違反指導など	D4 F1
7	集団規定	良好なまちづくりを進めるために定められた建築物の用途、形態などの基準（集団規定）について解説する。	道路と接道義務	D4
8	集団規定	良好なまちづくりを進めるために定められた建築物の用途、形態などの基準（集団規定）について解説する。	道路内の建築制限、地域地区と用途制限など	D4
9	集団規定	良好なまちづくりを進めるために定められた建築物の用途、形態などの基準（集団規定）について解説する。	容積率と建ぺい率などの制限	D4 C1
10	集団規定	良好なまちづくりを進めるために定められた建築物の用途、形態などの基準（集団規定）について解説する。	高さ制限、日影規制など	D4 C1
11	集団規定 関連法規	良好なまちづくりを進めるために定められた建築物の用途、形態などの基準（集団規定）について解説する。	防火地域性、都市計画法など	D4

12	単体規定	個々の敷地と建築物の安全、衛生、環境に関する規定（単体規定）について解説する。	一般構造、建築設備、構造関係規定など	D4
13	単体規定	個々の敷地と建築物の安全、衛生、環境に関する規定（単体規定）について解説する。	防火関係規定	D4
14	単体規定	個々の敷地と建築物の安全、衛生、環境に関する規定（単体規定）について解説する。	避難施設	D4
15	演習問題	学習した内容について演習問題を実施し、定期試験に備える。	演習問題とその解説	A3, C1 D4, F1

事前・事後学習の内容：配布物はファイリングし、予習復習に活用すること。

評価方法：定期試験により評価する。（A3）については建築法令の役割に対する理解度で評価する。（C1）については規定数値の算出法などの理解度により評価する。（D4）については設計など建築行為に不可欠な建築基準法の基礎的な理解度により評価する。（F1）については、説得力など自分の考えの表現能力を評価する。試験時には、テキスト・資料等の持込を許可する。

教 材：片倉健雄・大西正宜・建築法制研究会：建築行政—法規と秩序を学ぶ（学芸出版社）
備 考：

科目名：建築構造学I（平成27年度以降入学対象）

英語表記：Structural Design and Analysis I

担当教員：岡本 滋史

授業形態：講義 単位数：2 開講年度・学期：平成30年度・2年後期

科目ナンバリング：HBSTR2206

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：わが国の伝統建築および在来軸組み工法など木造建築物の構造思想について、歴史・風土を通して学ぶ。木造建築物の構造安定性について理解し、許容応力度設計法、壁量計算法を習得する。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度				○		○	○				◎	○	○	○				○			

科目の主題：設計製図Ⅲ（木造住宅意匠設計）において、基礎配置、柱配置および耐力要素の配置、部材断面の決定など合理的な構造計画を行う能力を習得する。
前半において、学習の意義、伝統構法、在来軸組工法および枠組壁工法の構造的長短について理解する。その後、構造要素と力の流れを学び、材料特性と木構造の相互関係、壁量計算法、各部材、耐力要素の構造計画を学ぶ。

長業内容・長業計画：建築一般構造で既習の木造建築物の構成や仕組み、各部位の名称などを復習する。次に、工程順に各主要構造部材の断面設計ができるよう構造計画の要点を学ぶ。講義中の演習により、木造建築物の構造安定性に関する数値の意味を理解する。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	木造建築物の概要	伝統構法、在来軸組工法および枠組壁工法の構造的長短について学ぶ。	伝統構法、在来軸組工法、枠組壁工法、地震被害、構造計画、耐久性	D3 E1
2	建物に加わる力1	構造体における鉛直荷重の力の流れを理解する。	長期荷重、短期荷重、固定荷重、積載荷重	D2
3	建物に加わる力2	構造体における水平荷重の力の流れを理解する。	地震力、風圧力	D2
4	材料の強度特性	製材および集成材などの材料の強度特性について学ぶ。	脆性、靱性、圧縮強度、引張強度、曲げ強度、せん断強度、めり込み強度	B1, C1, D2
5	鉛直構面および水平構面の耐力	鉛直構面および水平構面の耐力について学ぶ。	鉛直構面のせん断耐力、水平構面のせん断耐力	B1, C1, D2
6	水平力に対する設計1	鉛直構面および水平構面の配置について学ぶ。	鉛直構面、水平構面、偏心率、耐力壁線	D2, E1, F2
7	水平力に対する設計2	壁量計算、接合部の設計について学ぶ。	鉛直構面、壁倍率、存在壁量、必要壁量、偏心率、耐力壁線、N値計算	D2, E1, F2
8	水平力に対する設計3	水平力に対する許容応力度設計について学ぶ。	鉛直構面、水平構面、偏心率、耐力壁線、引抜力	D2, E1, F2
9	鉛直荷重に対する設計1	鉛直荷重に対する横架材の設計について学ぶ。	せん断、曲げ	D2
10	鉛直荷重に対する設計2	鉛直荷重に対する接合部の設計について学ぶ。	仕口、継手、接合金物、せん断力、引抜力	D2
11	鉛直荷重に対する設計3	鉛直荷重に対する柱の設計について学ぶ。	せん断、面外曲げ、圧縮	D2
12	基礎の設計	地盤、地耐力に応じた基礎の選択および設計を学ぶ。	地盤、地耐力、布基礎、べた基礎、アンカーボルト、ホールダウン金物	D2
13	構造計画1	木造建築物の構造計画の手法を学ぶ。	構造計画、許容応力度設計	D2
14	構造計画2	柱、耐力壁および床の配置について学ぶ。	柱配置、耐力壁配置、床配置	D2
15	まとめ	上記のまとめ		D2

事前・事後学習の内容：木造建築現場の積極的な見学や、講義中に出てきた不明建築用語の建築辞典や用語辞典による確認を行い、関連用語とともに各部材等の相互関係を理解するように努める。演習課題の自己採点により各テーマの学習を深める。

評価方法：定期試験（80%程度）、演習課題レポート（20%程度）の結果によって行う。D2, D3, D4については、部材断面の決定、必要壁量の算出方法の理解度、C1は空間設計上の構造計算の理解度、E1は性能表示制度における構造の安定性の理解度により評価する。F2はレポートにより評価する。

教材：指定しない。資料を配布する。

備考：木造建築現場の自主見学を求める。

科 目 名：都市計画

科目英文名：Urban Planning

担 当 者：中野 茂夫

種 別：講義 単位数：2 学年・学期：2回生・後期

当学科学生以外の受講：可

講義の意義・目的：生活およびその環境の問題を住宅単体から居住地、都市の範囲に広げて把握し、それらを支えている法制度、計画理論、計画技術を理解する。さらに近年の市民まちづくりの動向をつかむ。

講義の位置づけ：住居学の中では、計画系の科目の前提となる幅広い専門的知識と総合的かつ体系的な識見を獲得することを目標とする科目である。3回生前期の居住地計画論の基礎に位置づけられる。

講 義 の 概 要：近代都市計画の起源から現代の都市計画理論を概観しながら、都市問題とそれに対する都市計画、近年の市民まちづくりの関係について講義する。さらに、住民の生活と結びつきたいくつかの視点を取り上げ、今後の都市計画のあり方について論じる。

講 義 方 法：都市計画思潮、制度を歴史的、体系的に学ぶと同時に、授業で得た知識をもとにレポート課題では都市空間の Recherche を行い、問題意識を深める。また先進事例についてはヴィジュアルな資料（パワーポイント等）によって理解を深める。

学習・教育目標

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度			○				◎	◎		◎			◎				○	○			○

授 業 内 容

テ ー マ	回数	概 要	構 成 要 素	学習・教育目標
はじめに	1	都市計画とは	広義の都市計画 法定都市計画 都市の総体的コントロール	A3, C2, C4
近代以前の都市	1	都市史／都市論 海外	四大文明、アゴラ、フォルム、グリ ッド都市、バロック都市	C2, C3, D1, D4
近代以前の都市	1	都市史／都市論 国内	都城・城下町・寺内町・集落	C2, C3, D1, D4
海外の近代都市 計画	1	都市問題、社会思想としての都市論、都 市計画の誕生、	オスマンのパリ改造計画、田園都市 論、アムステルダム国際会議と広域 計画	C2, C3, D1, D4
海外の近代都市 計画	1	計画理論の実践、植民地の都市計画	東アジアの近代都市計画	C2, C3, D1, D4
我が国の近代都 市計画	1	近代都市計画の誕生	都市の近代化と市区改正	C2, C3, D1, D4
我が国の近代都 市計画	1	都市計画法の制定と関東大震災	市街地建築物法、旧都市計画法、帝 都復興	C2, C3, D1, D4
我が国の近代都 市計画	1	近代都市計画制度の確立	土地区画整理、用途地域、計画標準、 戦災復興	C2, C3, D1, D4
我が国の近代都 市計画	1	広域計画と地域計画	国土計画、地方計画、新興工業都市 計画、新産業都市、工業特区	C2, C3, D1, D4
我が国の近代都 市計画	1	戦後都市計画の系譜	市街地改造事業、新都市計画法、規 制緩和と都市再開発	C2, C3, D1, D4
都市を計画する	1	都市基本計画、都市計画マスタープラン	広域計画、総合計画、土地利用計画、 公園緑地、交通	C2, C3, D1, D4
都市をつくる	1	都市計画事業	土地区画整理（換地、減歩）、都市再 開発（立体換地）、ニュータウン造成 事業	C2, C3, D1, D4
都市を制御する	1	都市計画規制	線引き、地域地区制、高さ制限、密 度規制、形態規制、建築協定	C2, C3, D1, D4
都市を改善する	1	地区計画、公開空地、公共空間	地区計画、総合設計制度、特定街区 制度、都市再生特区	C2, C3, D1, D4

まとめ	1	試験およびレポート課題	調査手法の説明	F1, F2, G3
-----	---	-------------	---------	---------------

事前・事後学習の内容：毎回授業の復習を行うこと。地図を見ながら日常的に意識してまち歩きをして下さい。

評価方法：試験およびレポート。C2, C3, D1, D4については、都市の問題、それに対する思想、政策、計画技術の役割、それらを歴史的にかつ現代社会のテーマとして掘んでいるかを問う。F1, F2, G3については都市空間の調査／分析およびレポート作成に向けたグループ作業により評価する。

教科書等：「地域共生の都市計画」（学芸出版社）。このほか適宜、参考資料を配布する。なお、参考図書として「日本近現代都市計画の展開」（自治体出版社）を用いる。

備考：

科目名：インテリア計画学

英語表記：Interior Planning

担当教員：松下 大輔

授業形態：講義 単位数：2 開講年度・学期：平成30年度・2年前期

科目ナンバリング：HBPLA2204

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：空き家の増加や人口減少で、リフォーム等によりストックの活用を含め建物を長く使用することが求められる中、インテリア計画分野の重要性は増している。インテリアの歴史、色彩や造形、家具、材料、インテリア構法、材料、住宅設備、照明、表現技法、関連法規、住宅計画等を中心として、インテリア計画に関する基礎知識の習得を目指す。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度	○					○							○	○			○			○	

科目の主題：インテリアプランナー等の資格取得意向を受けて、インテリア関連分野全体を対象とするため、建築計画、構造、設備等に関する専門知識は各分野の講義で補完する必要がある。

インテリア計画は、建築計画、住宅計画、構造、設備、材料、法規等広範な領域に関連するので、それらの基礎知識のうち、重要な部分を中心に説明する。

授業内容・授業計画：画像資料を用いた講義とする。インテリア計画の実例を写真や図で視覚的に示しながら各分野の基礎理論、技術を説明する。毎回講義の最後に、講義内容の復習のための確認問題を配布する。各自で理解度の確認を行い、適宜自学習により復習を行うことが望ましい。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	イントロダクション 住宅と社会	インテリアデザインの社会背景（初回アンケート実施）	空き家、人口問題、地球環境、ストック活用、リフォーム、各種制度	A1,
2	日本のインテリアの歴史	古代から現代までの日本のインテリアの歴史や様式の変遷	歴史、建築様式、家具、建築文化、装飾	A1, D4
3	西洋のインテリアの歴史	古代から現代までの西洋のインテリアの歴史や様式の変遷	歴史、建築様式、家具、建築文化、装飾	A1, D5
4	色彩と造形	色彩、造形、図形、文様等の理論	表色系、配色、色の対比や効果、図形、模様、文様、比率	E1,G2
5	家具	家具、窓周り、エクステリアなどの各種要素	名称、寸法、作家作品、材料、技法、窓、金具、植物、庭園	E1,G2,F 1
6	構造と施工	インテリアの構造と施工	床、壁、天井の構法、部材、継ぎ手、仕口、下地、仕上、造作、建材、金物	E1,G2,F 2
7	インテリア構法と材料	インテリアの構法と材料	木材、加工、木質特性、石材、コンクリート、タイル、ガラス、仕上材、塗料	C1,D4,F 1
8	環境工学	インテリアに関する環境工学（中間アンケート実施）	熱、湿気、換気、通風、音	C1,D4,F 1
9	住宅設備・照明	住宅設備、照明	空調、キッチン、衛生、省エネ技術、光源、照明器具、照明計画、作家作品	C1,D4,F 2
10	表現技法	インテリアに関する表現技法、製図技法、表記法	製図記号、線の種類、図面の種類	C1,D4,F 1

11	関連法規	インテリアに関する関連法規	建築基準法、消防法、消費者関連法規	E1,G2,F1
12	インテリア計画1 人間工学	インテリアに関する人間工学、寸法計画、 バリアフリー計画	人体寸法、椅子、家具の寸法	A1,C1,D4,E1,F1,G2
13	インテリア計画2 居住空間計画	インテリアに関する居住空間計画	動作空間、寸法計画、住居空間の設計	A1,C1,D4,E1,F1,G3
14	インテリア計画3 健康・安全計画	インテリアに関する健康、安全計画（アンケート実施）	健康・安全計画、住居空間の設計	A1,C1,D4,E1,F1,G4
15	まとめ	インテリア計画学のまとめおよび試験	インテリア計画学のまとめ、試験	A1,C1,D4,E1,F1,G5

事前事後学習の内容：確認テストの問題および用語の説明を復習する。関連講義（居住環境学概論、生活環境科学、建築一般構造、住生活論、色彩学、基礎設計製図等）を適宜参照する。

評価方法：期末試験によって理解度を評価する（100％）。

教材：毎回資料（問題および用語の説明）を配布する。

備考：

科目名：居住環境学 学外セミナーⅡ

英語表記：Housing and Environmental Design Onsite SeminarsⅡ

担当教員：森 一彦

授業形態：演習 単位数：1 開講年度・学期：平成30年度・2年集中(通年)

科目ナンバリング：HBACA2201

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：居住環境学の領域は幅広く、学外にも、特別講演、学会、展示会、見学会、まちづくりの実践、ワークショップ、インターンシップなど、多彩な学びの場がある。学生提案型の学外演習も含む、学習機会や実践への参加を通して、最先端の専門領域や実務に触れ、現代社会における住宅やコミュニティの課題に対する理解を深めると同時に、主体的に学ぶ姿勢や課題発見能力を養うこと、また、将来の進路について考える機会を持つこととする。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度						○	○	○	○								○	◎			◎

科目の主題：都市環境・居住環境の価値を高めるためのワークショップ（WS）の手法を学ぶ。今日の都市の魅力
を高める上で、人が集まり、ふれあい、繋がりが生まれること、その場所の大切さが再認識されて
いる。最近ではニューヨークの高架鉄道の廃線をウォーキング公園にして街が蘇った。このような再生の試み
はロンドン、パリ、サンフランシスコなど世界の様々な都市に広がっている。今回はWS1で日本の代表的な居
住地・倉敷や直島を題材にコモンプレイスを見つけ、その価値を再評価する手法、WS2で少子高齢化が進行す
る日本のニュータウンの中で、人と人のつながりを生み出すイベ

ントを企画し実施する手法を学ぶ。

授業内容・授業計画：教員が指定する、居住環境に関連した学外演習や、学生が主体的に企画、提案する学外演習に指定
された回数以上参加し、学んだ成果をまとめ、プレゼンテーションを行う。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	ガイダンス	ガイダンス、提出物のまとめ方	演習の目的、概要、履修上の注意につ いて、提出物のまとめ方、提出方法	A1
2	前期学外演習	前期 学外セミナー（WS1）	倉敷や直島を題材にコモンプレイス WSの企画	
3	前期学外演習	前期 学外セミナー（WS1）	倉敷や直島を題材にコモンプレイス WSの準備	
4	前期学外演習	前期 学外セミナー（WS1）	倉敷や直島を題材にコモンプレイス WSの実施	
5	前期学外演習	前期 学外セミナー（WS1）	倉敷や直島を題材にコモンプレイス WSの実施	
6	前期学外演習	前期 学外セミナー（WS1）	倉敷や直島を題材にコモンプレイス WSの実施	
7	前期学外演習	前期 学外セミナー（WS1）	倉敷や直島を題材にコモンプレイス WSの振り返り	
8	中間報告	前期 成果発表会	プレゼンテーション、講評	G2
9	後期学外演習	後期 学外セミナー（WS2）	泉北ニュータウンにおけるコミュニ ティイベントの企画	
10	後期学外演習	後期 学外セミナー（WS2）	泉北ニュータウンにおけるコミュニ ティイベントの準備	
11	後期学外演習	後期 学外セミナー（WS2）	泉北ニュータウンにおけるコミュニ ティイベントの実施	

12	後期学外演習	後期 学外セミナー (WS2)	泉北ニュータウンにおけるコミュニティイベントの実施	
13	後期学外演習	後期 学外セミナー (WS2)	泉北ニュータウンにおけるコミュニティイベントの振り返り	
14	最終報告	後期 成果発表会	プレゼンテーション、講評	G2
15	懇談会	懇談会 (成果発表会後に実施)	学生・教員による教育改善に向けた意見交換	G2

事前・事後学習の内容：提出物の作成は演習時間外に取り組むことが基本となる。

評価方法：提出物とプレゼンテーションの内容によって評価する。

教材：必要に応じて資料を配付する。

備考：掲示やメールをよく確認すること。指定された期日までに提出物を提出すること。成果発表は授業時間割の都合から、土曜日や平日の夕方以降に開催する場合がある。学生が主体的に企画、提案する学外演習については、事前に担当教員に相談し、学科の承認を得ること。インターンシップの場合は、事前に学生が企業等に了解を得る必要がある。

科目名：設計製図I・第1課題+第2課題

英語表記：Design and Drawing I

担当教員：生田 英輔・上田 博之・瀧澤重志・(澤村 昌彦)・(長瀬 りか)

授業形態：実習 単位数：実2 開講年度・学期：平成30年度・2年前期

科目ナンバリング：HBDRA2201

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：建築設計図の図面表記のしかた、住宅建築の設計の考え方・技術を習得することを目的としている。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度					○					◎	○	○		○	◎		○	○			◎

科目の主題：基礎設計製図で学んだ図面表記方法をさらに深く理解し、建築の設計方法の基礎を習得する。
またプランニングの方法（エスキースの方法、エスキース模型作成など）、プレゼンテーションの基礎的技術を習得する。

第1課題 RC造集合住宅の住戸の設計

延べ面積96㎡程度のRC造集合住宅の住戸を設計する

第2課題 木造小規模施設の設計

延べ面積150㎡程度の「海の家」または「山の家」を設計する

の2課題を行う。

授業内容・授業計画：課題内容・資料をプリントにして配布する。第1課題では、図面の表記法、住宅の平面構成・断面構成などを解説し、そのプランニング、設計を行う。第2課題では、木造建築設計の方法、小規模施設・住宅計画など適宜解説し、設計を行う。これらの2課題を通して、プランニング、エスキースの方法、プレゼンテーション基礎的技術を講義する。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	第1課題	RC造集合住宅の住戸の設計課題説明	課題の進め方・配布資料説明	E1, E2
2	第1課題	エスキースチェック（個人指導）	プランニング、エスキースの方法、住宅計画	E1, E2
3	第1課題	エスキースチェック（個人指導）	平面図および断面図の意味・記載内容・記述方法	D2, E1, E2
4	第1課題	エスキースチェック（個人指導）	平面構成および断面構成の意味・記載内容・記述方法	D2, D3
5	第1課題	エスキースチェック（個人指導）	平面図・立面図・断面図・模型・プレゼンテーションシートのスタディ	D1, D2, D3, F1, F2
6	第1課題	図面チェック（個人指導）	平面図・立面図・断面図のチェック	D1, D2, D3, F1, F2
7	第1課題	講評会	図面・模型・プレゼンテーションシートの講評	D1, D2, D3, F1, F2, G2
8	第2課題	木造小規模施設の設計課題説明	課題の進め方・配布資料説明・木造図面の表記方法	E1, E2
9	第2課題	エスキースチェック（個人指導）	敷地と建築の関係・施設構成の方法	D1, D3
10	第2課題	エスキースチェック（個人指導）	木造建物の構法・構造・材料	D2
11	第2課題	エスキースチェック（個人指導）	プレゼンテーション基礎技術の指導	B2
12	第2課題	エスキースチェック（個人指導）	平面図・立面図・断面図・模型・プレゼンテーションシートのスタディ	B2, D1, D2

13	第2課題	図面チェック（個人指導）	平面図・立面図・断面図のチェック	D1, D2, D3
14	第2課題	講評会	図面・模型・プレゼンテーションシートの講評	D1, D2, D3, F1, F2
15	第2課題	振り返り	提出課題のチェックとフィードバック	D1, D2, D3, F1, F2, G2

事前・事後学習の内容：作例や必要となる資料を収集し、課題が遂行できるよう学習すること。

評価方法：評価は提出物により行う。B2, D1, D2については、図面表記方法の理解度について評価する。D3, E1, E2については、設計作品の提案性により評価する。F1, F2, G2については、設計作品の提案性、完成度により評価する。

教材：日本建築学会『コンパクト建築設計資料集成』丸善
必要な資料を配布し、講義中に参考文献を指示する。

科目名：設計製図Ⅱ・第3課題（小規模集合住宅）＋第4課題（保育園）

英語表記：Design and Drawing Ⅱ

担当教員：小伊藤 亜希子・松下 大輔・中野 茂夫・（岡本 健志）・（加藤 亜矢子）

授業形態：実習 単位数：実2 開講年度・学期：平成30年度・2年後期

科目ナンバリング：HBDRA2202

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：①模型材料、図面作成の基礎を身に付けること、②RC構造の図面作成を身に付けること、③計画に求められる条件の整理を行い、計画・設計能力を養うこと、④ランドスケープを含む屋外空間の計画・提案能力を養うこと

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度			○	○			◎	○			○			○	◎	◎	○			◎	○

科目の主題：設計製図Ⅱ・第4課題では、これまでの住宅や小規模集合住宅の設計経験を踏まえ、さらに規模が大きく、多様な利用者の想定が必要な地域施設を課題とし、集合住宅および保育園の計画に取組む。指定された敷地周辺のフィールドサーベイを実施したうえで、住人や子どもの生活の流れ、地域との関係、保育者や保護者の動きもふまえて、企画提案する。模型作成の理解と習得、シートの作成や発表によるプレゼンテーションスキルの習得に加え、屋外空間やランドスケープの図面化を学ぶ。

授業内容・授業計画：それぞれのテーマについて説明を行い、見学等を実施後、模型と図面の作成に着手する。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	課題説明	課題の主旨やスケジュール、提出物の期限等について説明する。	敷地模型制作、エスキース	A3, C2
2	計画講義1 作品紹介 エスキース1	現代住宅の参考事例について説明する。初回の複数案を用意してエスキースを行う。	複数案作成、スケッチ、ヴォリュームモデル、エスキース	A3, C2, D2
3	エスキース2	各案を深化させる。前回のエスキースを踏まえた提案を行う。	各案の進化、スケッチ、スタディモデル	C2, D2, E1, E2, E3
4	計画講義2 集合住宅事例 エスキース3	集合住宅の事例を説明する。事例を参考に案を展開させる。	事例参照、スケッチ、スタディモデル	D2, E1, E2, E3
5	計画講義3 構造、図面表現 エスキース4	鉄筋コンクリート造の構造の説明をする。図面の描き方を説明する。	RC造、ラーメン構造、壁構造	E1, E2, E3, F1
6	課題製作 エスキース5	各図面のスケッチを提出する。最終成果物（図面、模型）を制作する。	スケッチ提出	G2, G3
7	講評会	講評会を行う。案のプレゼンテーションを行い、質疑を行う。	プレゼンテーション、質疑応答	G2, G3
8	課題説明 敷地のフィールド サーベイ	課題の主旨と目的を理解する。また、敷地においてフィールドサーベイを実施する。	設計主旨・敷地の読み取り	C2
9	設計にあたっての 学習・見学	講義及見学により、保育園における子どもの生活の流れと空間機能、求められる空間の質について学習する	室構成、求められる面積、安全、子どもの寸法、子どもの成長と保育空間	A3, C3
10	保育園見学	保育園の実例を見学する。	事例の見学	C3
11	即日設計	設計方針を立て、即日設計を行う。	設計コンセプト・配置計画・室構成	C2, C3
12	コンセプト発表	即日設計のコンセプトにもとづき、グループディスカッションを行った後、グループごとの代表作について全体で発表し講評をうける。	グループディスカッション、プレゼンテーション	G2, G3

13	エスキース 1 : 図面の作成	求められる空間と面積を検討しつつ、設計コンセプトを固める。平面・立面・断面図によって表現しながら計画を進める	配置計画 平面・立面・断面図	G2, E1, E2, E3, F1
14	エスキース 2 : 模型とプレゼンシートの作製	模型作成とプレゼンシートにまとめ、表現方法を学ぶ	模型・プレゼンスキル	G2, E3
15	講評会	各自が作品を発表・説明し、教員の講評を受ける	自身と他者のプレゼンテーションから学ぶ	G2

事前・事後学習の内容：作品の構想、製図は授業外の時間も含めて各自行うことを基本とする。また、授業外の時間を使って、関連する建築作品を文献により参照したり訪問により見学することを大いに推奨する。

評価方法：模型・提出図面によって評価する。講評会での発表を条件と必須とする。

教材：日本建築学会『コンパクト建築設計資料集成』丸善

必要に応じて資料を配付するほか、スライドなどを用い、前年度作品を紹介する。

備考：すべての課題を提出すること。課題の未提出は認めない。実習時間内は実習に集中すること。課題提出による以外の早退は認めない。未記入・粗雑など明らかな欠陥がある場合は減点する。「提出・評価」は作品として評価する。授業に30分以上遅れた場合は出席として認めない（ただし事情がある場合は申し出ること）。

科目名：建築計画学

英語表記：Architectural Planning

担当教員：森 一彦

授業形態：講義 単位数：2 開講年度・学期：平成30年・3年前期

科目ナンバリング：HBPLA3301

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：建築を計画する際の計画基礎と計画方法について学ぶ。特に、建築計画では、従来の単一機能空間から計画する方法でなく、建築空間を人そのものの身体や能力、人の行動特性などに配慮し手計画する方法について学ぶ。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)			
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)	
関与の程度	○							◎		◎				○			○					

科目の主題：建築計画は計画・設計の基礎的な方法の学習に重点がおかれる。具体的には、基礎的概念として求められる人間の身体能力や行動特性、計画手法、非常時への配慮、地区環境問題への配慮などについて学ぶ。

講義では教科書に沿った解説に加え簡単な計画課題（宿題）を行い、建築計画の基本的なキーコンセプトを学ぶと共に具体的な計画手法を体験的に学ぶ。

授業内容・授業計画：講義は教科書を中心とする説明と計画課題（宿題）の発表・講評を相互に関係させて進める。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	建築計画の役割	建築計画の社会性、範囲と意義を理解する	社会性、専門家の責任	A1・C3
2	建築計画の役割	事例見学（ヤンマーミュージアム、ラコリーナ）	社会性、専門家の責任	A1・C3
3	人間をとらえる	建築の基準となる人間の多様性を理解する	人間の多様性、身体能力、姿勢、動作、移動、アクティビティ	A1・C3
4	人間をとらえる	建築の基準となる人間の多様性を理解する	人間の多様性、身体能力、姿勢、動作、移動、アクティビティ	A1・C3
5	人間と環境	人間と環境との関わりを生理、心理の側面から理解する	人間の生理、心理、アフォーダンス	A1・C3 E1
6	人間と環境	人間と環境との関わりを生理、心理の側面から理解する ■レポート課題（コミュニケーションの場所）講評	人間の生理、心理、アフォーダンス	A1・C3 E1
7	人間の行動を知る	空間内の人間の行動特性を理解する	人間の領域、環境行動、歩行行動、群集、空間知覚	A1・C3 E1
8	人間の行動を知る	空間内の人間の行動特性を理解する。 ■レポート課題（視点場）講評	人間の領域、環境行動、歩行行動、群集、空間知覚	A1・C3 E1
9	建築を計画する	寸法、スケール、規模、空間構成など計画の技法を理解する	人間の領域、環境行動、歩行行動、群集、空間知覚	A1・C3 E1
10	建築を計画する	寸法、スケール、規模、空間構成など計画の技法を理解する ■レポート課題（階段の計画）講評	設計、計画、寸法、スケール、機能、空間構成	
11	非常時の安全・安心のデザイン	寸法、スケール、規模、空間構成など計画の技法を理解する	設計、計画、寸法、スケール、機能、空間構成	A1・D1
12	非常時の安全・安心のデザイン	寸法、スケール、規模、空間構成など計画の技法を理解する	設計、計画、寸法、スケール、機能、空間構成	A1・D1

13	サステイナブル・デザイン	環境の持続可能性に配慮した計画を理解する	地球環境問題、サステイナブル、環境保全、長寿命、リサイクル	A1・D1
14	サステイナブル・デザイン	環境の持続可能性に配慮した計画を理解する	地球環境問題、サステイナブル、環境保全、長寿命、リサイクル	A1・D1
15	まとめ	定期試験		

事前・事後学習の内容：教科書を参照して予習を行うこと。

評価方法：A1については期末試験によって理解度を評価する。C3・D1・E1については4～5回の小課題（宿題）を課し、その提出物を評価すると共に、期末試験によって理解度を評価する。F1については建築企画に関するレポート課題を課し、その提出物を評価する。

教材：森一彦ほか「建築計画基礎」学芸出版会、建築学会編「建築設計資料集成・コンパクト版」丸善、必要に応じて配布資料を用いる。

備考：

科目名：居住地計画論

科目英文名：Residential Area Planning

担当者：中野 茂夫

種別：講義 単位数：2 学年・学期：3回生・前期

当学科学生以外の受講：可

講義の意義・目的：生活およびその環境の問題を主として居住地レベルでとらえ、居住地計画の計画理論を体系的に学ぶ。また近年の市民主体のまちづくりの動きを知り、生活者としてさらにそれを支援する専門家としての高い識見を獲得することを目指す。

講義の位置づけ：住居学の中では、計画系の科目の前提となる幅広い専門的知識と総合的かつ体系的な識見を獲得することを目標とする科目である。2回生後期の都市計画を発展させる科目として位置づけられる。

講義の概要：生活圏域の広がりを段階的に捉え、居住地レベルに対応した問題とそれに対応した市民まちづくりの最新の動向を掴む。

講義方法：居住地の問題や先進的なまちづくり事例について提示する書籍、配付資料、ヴィジュアルな資料（パワーポイント等）によって掴む。

学習・教育目標

学習・教育目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度			○				◎	◎		◎			◎				○	○		○	○

授業内容

テーマ	回数	概要	構成要素	学習・教育目標
はじめに	1	都市計画からまちづくりへ	近代都市計画、現代都市計画、住民参加、まちづくり、都市デザイン	A3, C2, C4
居住地計画の理論	1	田園都市論と田園郊外	ロバート・オーエン、カンパニータウン、パイロー・ハウジング、エベネザー・ハワード	C2, C3, D1, D4
居住地計画の理論	1	近隣住区論とラドバーンシステム	クラレンス・ペリー、工業都市、各国のニュータウン施策	C2, C3, D1, D4
居住地計画の理論	1	集合住宅	ドイツ工作連盟 バウハウス ジェーデルンク ユニテ・ダビタシオン、CIAMとコルビジエ 同潤会	C2, C3, D1, D4
居住地の形成過程	1	伝統的町並みと民家	都市と町家、集落と古民家	C2, C3, D1, D4
居住地の形成過程	1	大都市の市街地の変容、居住地の多様化	中心市街地、区画整理地区、木賃アパート地区	C2, C3, D1, D4
居住地の形成過程	1	産業都市と社宅街	企業城下町、社宅街、寄宿舍	C2, C3, D1, D4
居住地の形成過程	1	郊外住宅地	職住分離 鉄道沿線開発	C2, C3, D1, D4
居住地の形成過程	1	ニュータウン	ニュータウン(千里、多摩、高蔵寺)、近隣住区、ワンセンター方式、筑波研究学園都市	C2, C3, D1, D4
まちづくりの展開	1	景観まちづくり	まちなみ保全型まちづくり、景観法、まちづくり交付金事業、美観論争、都市美造成	C2, C3, D1, D4
	1	歴史まちづくり	古都保存法、重要伝統的建造物群保存地区、歴史まちづくり法	C2, C3, D1, D4
	1	福祉のまちづくり	高齢化社会、団地再生、共生型住まい、ユニバーサルデザイン	C2, C3, D1, D4
	1	地域活性化のまちづくり	中心市街地活性化、まちおこし、まちづくり三法	C2, C3, D1, D4
	1	復興・防災まちづくり	都市不燃化、防火建築帯、防災街区、阪神大震災、東日本大震災	C2, C3, D1, D4

まとめ	1	試験およびレポート課題	調査手法の説明	F1, F2, G2, G3
-----	---	-------------	---------	-------------------

事前・事後学習の内容：教科書を参照して予習、復習を行うこと。地図を見ながら、日常的に意識してまち歩きをして下さい。

評価方法：試験およびレポート。C2, C3, D1, D4については、居住地をめぐる計画理論の理解及びさまざまな現代的な課題を整理する。それらをふまえた上で居住地の改善に向けたまちづくりの方法論について学ぶ。

F1, F2, Gについてはレポート作成に関連するグループ作業により評価する。

教科書等：「地域共生の都市計画」（学芸出版社）

備考：

科目名：生活機器学

英語表記：Design Theory of Home Appliance

担当教員：岡田 明

授業形態：講義 単位数：2 開講年度・学期：平成30年度・3年前期

科目ナンバリング：HBENV3301

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：科学技術の発達や生活環境の変化に伴い生活機器は進化し、それらと人間との関係も変容しつつある。講義ではそうした生活機器の性能や使い勝手とその評価方法、さらには構造や適切な使用方法などについて学び、正しい機器の選択や設置を理解することを目的とする。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度		◎		○		○						◎			○			○		○	

科目の主題：生活科学、設計論、機構学、人間工学、デザインを基礎に解説することにより、居住環境を構成する住宅設備、家具、家電機器、生活用品等の生活機器について、生活科学的見地よりそのあり方を論じる。なお、この科目は教職（高校家庭科一種免許）の必修にもなっている
全体は3部構成になっている。第1部は生活機器のデザインプロセスや評価方法、第2部は生活機器の構造と機能、そして第3部は生活機器をめぐる課題と演習である。

授業内容・授業計画：毎回ひとつのテーマを取り上げて講義を行う。ビジュアルな教材も多用し解説していく。また、グループによる簡単な演習課題も含める。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	【第I部：企画デザインの方法と評価】生活機器のデザイン事例	あらゆる製品に含まれる製品の4要素について、事例を交えながら解説する。	効用、ビジョン、技術、コスト	A2
2	デザインプロセス	生活機器の企画から設計、製造、販売段階までの流れを解説する。	企画・調査、概念設計、詳細設計、試作、生産、販売	B1, D3
3	設計のための調査・評価手法	良い生活機器を生み出すために実施される調査や評価の手法を紹介する。	調査、データ引用、人の測定、仮想設計事例	B1, D3
4	設計開発・評価事例	実際の開発事例について、ビデオ映像を用いて紹介する。	大容量冷蔵庫、女性用オフィスチェア、コンピュータマネキン	B1, D3
5	ヒューマンエラーと機器の安全	生活機器の事故事例を通じて、ヒューマンエラーの原因と安全設計の方策を探る。	事故事例、エラーの要因、PL法、エラー回避への対処	B1, C1, D3
6	【第II部：生活機器の原理と使い方】衣環境機器	生活機器を衣・食・住・情報の機器に分類し、その1回目として衣環境機器を取り上げ、そのしくみや方式等を解説する。	洗濯機、ミシン	B1, D3
7	食環境機器	食環境機器を取り上げ、そのしくみや方式等を解説する。	冷凍・冷蔵庫、電子レンジ、電磁調理器	B1, D3
8	住環境機器	住環境機器を取り上げ、そのしくみや方式等を解説する。	エアコン、快適気候、蛍光灯、LED照明	B1, D3
9	情報機器①	テレビを取り上げ、そのしくみや方式等を解説する。	テレビの原理、受像機の方式、電波の種類	B1, D3
10	情報機器②	コンピュータの基本構成を解説し、これからのコンピュータと人との関係を論じる。	コンピュータの基本構成、ユビキタスコンピュータ、IoT	B1, D3
11	【第III部：演習】ユニバーサルデザインの実践方法	ユニバーサルデザインに基づく生活機器の企画を演習課題として設定する。その1回目として基本的な考え方を解説する。	ユニバーサルデザインの意味、事例、ユニバーサルデザインプロセス、ユーザ分類表	A2, C1
12	生活機器の企画①	ある対象製品を取り上げ、ユニバーサルデザインをコンセプトとした配慮事項をグループ演習としてまとめる。	UDマトリックス	E2, F2, G2

13	生活機器の企画②	企画①で行った演習結果に基づき、個人毎に企画提案を行う。	デザインコンセプト、提案概要、解説	E2, F2, G2
14	道具のデザインと生活文化	生活機器全般について文化的側面から捉え、今後考えるべきことを論じる。	必要性が社会を変える、道具による文化形成、機器の選択方法	A2, C1
15	まとめ	これまでの復習を行う。		B1, C1, D3

事前・事後学習の内容：毎回、その内容に該当する本及び体験可能なデザイン対象を紹介。

評価方法：各学習・教育目標の理解度と考え方により評価を行う。そのため以下の方法と配分を用いる。定期試験(30%;主としてB1, C1, D3), 毎時間の小レポートと演習課題レポート(70%;主としてE2, F2, G2)

教材：毎回教材プリントを配布。副読本を紹介

備考：教職(高校家庭科一種免許)の必修科目

科 目 名：感性情報学（平成29年度以降入学生対象）

英 語 表 記：Kansei Infomatics

担 当 教 員：酒井 英樹

授 業 形 態：講義 単位数：2 開講年度・学期：平成31年度・3年前期

科目ナンバリング：HBENV2301

当学科学生以外の受講：不可

授業の到達目標：住空間の積極的快適さや生活機器の使い心地のよさを設計する上で必要となる感性情報学の方法論を学ぶ。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度			○									◎			○						

科目の主題：環境工学で学ぶ住空間の光温熱環境，材料学で学ぶ材料物性，色彩学，人間工学で学ぶ人体の生理心理特性についての知識を有機的に連携し，空間設計，機器設計に活かすための考え方を提供する。情報学，統計学についても履修することが望ましい。
感性情報学の各種方法論を，具体的な設計応用事例やその時点での最新トピックを通じて紹介し，理解を深めていく。

授業内容・授業計画：文献輪読，文献調査，質疑討論を通して学習する。

回	テ ー マ	概 要	構 成 要 素	学習・教育目標
1	感性情報学概要	感性及び心理の概要を学ぶ。	感覚，知覚，認知	A3, D3, E2
2	官能評価	感性評価，心理評価の概要を学ぶ	精神物理測定法，官能評価	A3, D3, E2
3	認知と記憶	人の認知と記憶を学ぶ。	記憶	A3, D3, E2
4	機器評価	機器の使いやすさを学ぶ	ユーザーインターフェース	A3, D3, E2
5	空間評価	空間の分かりやすさを学ぶ	空間把握，探索作業	A3, D3, E2
6	環境心理 1	住空間の快適さを学ぶ。	環境測定，図と地	A3, D3, E2
7	環境心理 2	快適さと人の感覚との関係を学ぶ。	心理と生理	A3, D3, E2
8	環境心理 3	快適さと人の感情との関係を学ぶ。	色彩感情	A3, D3, E2
9	嗜好と調和 1	機器類の使い心地のよさを学ぶ。	嗜好，流行	A3, D3, E2
10	嗜好と調和 2	使い心地と嗜好との関係を学ぶ。	質感	A3, D3, E2
11	嗜好と調和 3	使い心地と調和感との関係を学ぶ。	計量的調和論	A3, D3, E2
12	設計事例 1	感性情報に基づく空間設計事例を学ぶ。	設計手法，設計事例	A3, D3, E2
13	設計事例 2	感性情報に基づく製品設計事例を学ぶ。	設計手法，設計事例	A3, D3, E2
14	設計手法	感性学に基づく設計手法を学ぶ。	設計手法，設計事例	A3, D3, E2

15	まとめ	感性情報の活用法を学ぶ。	人の多様性	A3, D3, E2
----	-----	--------------	-------	------------

事前・事後学習の内容：事前に配布する文献を読んだうえで、授業に臨むこと。

評価方法：D3, E2の空間・機器の人への影響に関する問題意識をレポート課題（60%）を通して確認する。A3, D3の空間・機器の人への影響の理解度は、定期試験（40%）により評価する。

教材：
備考：

科目名：建築構造学Ⅱ

英語表記：Structural Design and Analysis Ⅱ

担当教員：(辻 英一)・(山浦 晋弘)

授業形態：講義 単位数：2 開講年度・学期：平成29年度・3年前期

科目ナンバリング：HBSTR3301

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：建築物の構造安全性の確保の重要性、現状、問題点について学ばせる。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度				○		○					◎			◎			○				

科目の主題：建築一般構造、構造力学Ⅰ、構造力学Ⅱを基礎知識とし構造デザインの位置づけと構造設計と構造設計にかかわる基本常識の概要を把握できるようにする。構造設計についての材料や構造種別、荷重、力の流れと架構形式、関連法令、地震被害などを知った上で構造デザインのあり方や諸問題に言及する。

授業内容・授業計画：構造にかかわるキーワードや概念について講義(板書)を中心に、適宜演習を取り入れながら理解をはかる。理解しにくい点については、積極的な質問を促し、学生が完全に理解できるように努力する。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	はじめに	自己紹介、アドバイスなど	構造設計事務所、各種構造物	B1, C1, D2, E1, F1
2	地震被害	阪神淡路大震災(ビデオ)を振り返る。	地震・津波・液状化・台風被害と構造学の必要性	
3	構造設計	構造形式と構造設計について学ぶ。	建築物における構造計算の概念、建築物の安全性、工学単位、各種応力	
4	構造設計に関する法規制	構造設計上の法律や耐震設計法の変遷について学ぶ。	建築基準法、構造規定解説書、各構造種別の法規制、構造計算と建築基準法	
5	耐震診断・耐震補強	設計法との対応や改修方法について学ぶ。	耐震規定の変遷、耐震改修促進法、I s 指標、F 指標	D2, E1
6	構造計算(その1)	構造計算の流れ、ならびに荷重・応力の組合せを学ぶ。	構造設計の流れ、固定荷重、積載荷重、積雪荷重、風圧力、地震力	C1, D2
7	構造計算(その2)	1次設計・2次設計について学ぶ。	鉄筋コンクリート部材の計算、地盤の種類と調査方法、層間変形角、剛性率、偏心率、保有水平耐力、構造特性係数	C1, D2
8	建築と構造	建築設計における構造設計の位置づけ、設計者に求められる資質について学ぶ。	直感、計画、耐震安全性、国語力、バランス感覚	D2, E1
9	免震	免震体験車で地震の揺れを肌で体感する。	免震構造、耐震構造、兵庫県南部地震、東北地方太平洋沖地震、防災	D2, E1
10	構造計画プロセス	構造計画がどのように行われているかを学ぶ。	インフォームドコンセント、建物の壊し方、フェイルセーフ	D2, E1
11	構造計画の実践	構造計画をする上での留意点について学ぶ。	現地、地盤と基礎、材料、構造種別	D2, E1
12	理想とする建築	住宅の構造形式についてさまざまな観点から考察する。	性能、荷重条件、地球環境、経済性	D2, E1
13	モノには大きさがある	配筋や鉄骨建て方など、施工で決まるサイズを理解する。	施工、配筋、運搬、工具、溶接、職人、設計図書、納まり、ディテール、現場監理	D2, E1
14	建築技術	最先端の建築技術について学ぶ。	BIM、構造デザイン、設計者、防災、減災、プレゼンテーション	D2, E1
15	まとめ			D2, E1

事前・事後学習の内容：演習を復習し、次回の講義に備えること。

評価方法：D2とE1については、定期試験(70%)、数回の中間レポート(30%)で評価する。

備考：教科書として「直感で理解する! 構造設計の基本」(学芸出版社)を使用する。

その他、適宜資料を配布する。

科目名：建築施工法

英語表記：Building Methods

担当教員：(大淵 敏行)

授業形態：講義 単位数：2 開講年度・学期：平成30年度・3後期

科目ナンバリング：HBMIS3301

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：建築物を実現していく方法論としては、まず計画があり、さらに設計がある。さらにその設計内容を具体的な生産段階へ移行させるものとして建築施工がある。本講義は建築施工に関する知識を学び建築生産の方法論を学ぶ。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度	○					○					◎						◎				

科目の主題：建築施工は構造・材料・法規等の専門学問の最終的な実現・応用であり、各学問の知識を総合化して、まとめていく方法論について学ぶ。

現場での施工法に関する各工事ごとの基本知識を中心とした概要説明を通して、各種工法の基本について学ぶ。また、施工中の工事現場での見学会等を通じて現場での実践状況を学ぶ。

授業内容・授業計画：講義では、テーマごとに理論的な解説を行い、さらに現場見学などによって理解を深める。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	建築生産・請負契約・施工計画	建築生産とは何かを説明し、着手前の工事請負契約・施工計画・工程管理について学ぶ。	建築生産、建設業法、工事請負契約、積算、施工計画、品質管理、原価管理、工程計画、工程管理、工程表	A1, C1
2	仮設工事	仮設工事・準備工事について学ぶ。	共通仮設、直接仮設	C1, D2
3	土工事・地業工事	土工事・地業工事について学ぶ。	地盤調査、山留工事、地業・基礎工事、建設発生土処理、汚染土壌処理	C1, D2
4	鉄筋コンクリート工事1	鉄筋工事・型枠工事について学ぶ。	鉄筋材料、配筋基準、鉄筋加工・組立・検査、型枠の材料・組立・検査	C1, D2
5	鉄筋コンクリート工事2	コンクリート工事について学ぶ。	コンクリート材料・打設・養生、品質管理	C1, D2
6	鉄骨工事1	工場製作・工事現場施工について学ぶ。	材料、製作工場、溶接方法・検査、高力ボルト接合、建方	C1, D2
7	鉄骨工事2	床工法・耐火被覆工法について学ぶ。	床工法(デッキ等)、耐火被覆工法、品質管理	C1, D2
8	木質系工事1	材料・建方・緊結金物について学ぶ。	材料、墨付け・加工、建方、緊結金物	C1, D2
9	木質系工事2	造作工事・小屋組・枠組壁工法について学ぶ。	造作工事、和小屋、洋風小屋組・枠組壁工法(ツバイフォー工法)	C1, D2
10	仕上げ・設備工事1	屋根工事・防水工事・シーリング工事・外装工事について学ぶ。	屋根葺き材、防水工法、シーリング材左官工事、タイル・石・ガラス・金属工事	C1, D2
11	仕上げ・設備工事2	内装工事・設備工事について学ぶ。	塗装・吹付け工事、断熱工事、カーテンウォール、電気・給排水衛生・空調・昇降機設備工事	C1, D2
12	劣化診断・補修工事・耐震改修工事	建物の劣化診断・補修工事・耐震改修工事の工法(強度型・免震工法・制振工法)について学ぶ。	維持管理指針、建物の点検、劣化診断、補修・交換工法の種類と適用判断、耐震改修工事の種類・特徴	C1, D2
13	現場見学1	工事中の現場見学により、学んだ各テーマの確認と建築施工について理解を深める。	施工計画、仮設工事、土工事、地業工事、鉄筋コンクリート工事、仕上げ・設備工事	F1
14	現場見学2	工事中の現場見学により、学んだ各テーマの確認と建築施工について理解を深める。	施工計画、仮設工事、土工事、地業工事、鉄骨工事、仕上げ・設備工事	F1
15	まとめ			

事前・事後学習の内容：教科書を参照し、予習すること。

評価方法：授業中のレポート(50%)、定期試験(50%)により評価する。(A1)については関連法規についての理解度で評価する。(C1)・(D2)については、建築施工を構成する各工事種目に関して技術的知識及びその施工行為の結果である建築物の耐久性の向上策等についての理解度で評価する。(F1)については、建築施工を効率的に進めるための方法の理解度で評価する。

教材：「初学者的建築講座 建築施工(改訂版)」(市ヶ谷出版社、2940円)、必要に応じて資料を配布する。また、プロジェクターなどを用いる。

備考：現場見学では、スカート・ハイヒールは不可。写真撮影は自由。

科目名：居住材料学

英語表記：House Material Construction

担当教員：渡部 嗣道

授業形態：講義 単位数：2 開講年度・学期：平成31年度・3年後期

科目ナンバリング：HBSTR2301

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：住宅材料や構造システムの最新情報を把握し、住宅技術への適用方法を学ぶ。

学習・教育目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度											◎										

科目の主題：建築材料学や建築一般構造で学んだ基礎的な知識を基に、さらに住宅関連施設に特化した専門的な技術的科目。鉄筋コンクリート住宅や在来軸組工法住宅などの在来工法住宅についても取り扱うが、主に工業化住宅や使用材料の要求性能などについて解説する。

長教内容・長教計画：各種住宅の構造形態や構成材料の要求性能について学習する。展示場などの見学も授業に取り入れ、体験する学習方法も取り入れる。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	住宅設計と建築材料1	各種材料と構造形態の特徴について学ぶ。	構造形式、各種材料、詳細図	D2
2	住宅設計と建築材料2	小規模住宅ならびに大規模集合住宅の構造と材料について学ぶ。	構造形式、各種材料、詳細図	D2
3	住宅設計と建築材料3	各部位のディテールと材料について学ぶ。	構造形式、各種材料、詳細図	D2
4	工業化住宅1	工業化住宅の特徴と在来工法住宅との違いについて学ぶ。	軽量鉄骨、2×4工法、ハウスメーカー	D2
5	工業化住宅2	住宅展示場（鉄骨系）の見学を行い、工業化住宅の現状技術について学ぶ。	軽量鉄骨、ハウスメーカー	D2
6	工業化住宅3	住宅展示場（木質系）の見学を行い、工業化住宅の現状技術について学ぶ。	2×4工法、ハウスメーカー	D2
7	工業化住宅4	住宅展示場（在来工法）の見学を行い、工業化住宅の現状技術について学ぶ。	在来工法、ハウスメーカー	D2
8	住宅建築における外装1	木質住宅の外装材の現状技術について学ぶ。	住宅屋根用化粧スレート、スファルトシングル、通気工法、ラスモルタル	D2
9	住宅建築における外装2	RC造あるいはS造の外装材の現状技術について学ぶ。	セラミックタイル、プレキャストカーテンウォール、建築用仕上塗材、	D2
10	住宅建築における外装3	外装材メーカー（屋根材やサイディング）のショールーム見学を行い、外装技術の現状について学ぶ。	サイディング、屋根材	D2
11	住宅建築における外装4	外装材メーカー（左官材料や建築仕上塗材）のショールーム見学を行い、外装技術の現状について学ぶ。	左官材料、建築仕上塗材	D2
12	住宅建築における内装1	木質住宅の内装材の現状技術について学ぶ。	クロス、フローリング、カーペット、ビニル床シート	
13	住宅建築における内装2	RC造あるいはS造の内装材の現状技術について学ぶ。	下地、吸音板、石膏ボード、クロス、カーペット、ビニル床シート	
14	住宅建築における内装3	内装材メーカー（木質系）のショールーム見学を行い、内装技術の現状を学ぶ。	内装材、ショールーム	
15	住宅建築における内装4	内装材メーカー（床材、壁材）のショールーム見学を行い、内外装技術の現状を学ぶ。	内装材、ショールーム	

事前・事後学習の内容：講義前には教科書を参照して学習を行い、講義後には用語の復習をすること。

評価方法：住宅材料の各種性質、各部材における選定・計画方法の考え方や方法の理解度を、レポート（100点）で評価する。

教材：嶋津孝之ほか著「建築材料」森北出版

備考：

科目名：建築設備 I（平成30年度以降入学生対象）／建築設備（平成29年度以前入学生対象）

英語表記：Building Services

担当教員：ファーナム クレイグ

授業形態：講義 単位数：2 開講年度・学期：平成30年度・3年前期

科目ナンバリング：HBENV3302

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：建築物を生き物と見なすと、この講義は医学部における「解剖学」と同様である。建設時だけでなく、完成後に効率よく運用するためにも設備の知識は不可欠である。住宅やビルの重要な系統とその設備「系と内臓」の基礎知識を身につける。「1級建築士」や「設備士」の資格試験のための演習問題を解き、理解を深める。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度						◎						○						○			

科目の主題：居住環境工学I・IIで学んだ知識（負荷、換気といった概念）をもとにして、健康で快適な居住環境を提供するためのハードウェア（装置）に焦点をあてて講義する。

建築設備を衛生設備、空調設備、電気設備、防災設備の4種類に分類し、それぞれについて、建物全体の中で果たす機能、およびシステム構成について概説した上で、重要な構成機器類の役割について説明する。

授業内容・授業計画：1回の講義において、前半は教科書・板書を主体とした説明を行い、その後知識の習得を確実なものとするために演習問題に取り組む。このとき随時質問を受け付ける。提出された演習問題は採点后、次の授業の冒頭で返却され、同時に簡単な説明を受ける。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	概要	建築設備の区別、規則と基準	JIS基準の調べ方、利用	C1
2	給水設備の紹介	給水の需要、水質基準	水頭の小実験、給水方式の種類 水圧、水頭、パイプ許容圧力式	C1 D3
3	給水パイプとシステム	流量とパイプ径、 パイプ径選択、水槽	ベルヌイの定理、連続の原理 水槽練習問題、水頭とポンプ	C1 F2
4	排水の紹介	排水の種類、設備 排水処理方式と水質	排水管系統、便所、トラップ、 雨水管練習問題	C1 D3 F2
5	消火設備	火災の区別、消火設備、火災事例	室内消火栓種類と使い方、スプリンク ラー種類、特別消火設備	C1
6	空調の紹介	ビル省エネ基準、エネルギー交換、効率	給排水と消火設備について復習 比熱、潜熱、顕熱の計算、COP	C1
7	空調のエネルギー 負荷	空調の目標：熱的快適性、 空気線図と空調計算	ビル衛生基準と空調、設定温湿度、 冷暖房のエネルギー需要計算	C1 F2
8	空調設備の基礎	冷凍機、ボイラー、ヒートポンプの種類と 原理	冷凍サイクル、効率とエネルギー消費 の計算、圧縮冷却の小実験	C1
9	空調設備の構成	室内機の種類と構成、熱負荷ゾーン	FCU、AHUなどの概要図作成、FCUデモ 小実験、ゾーニング	C1 F2
10	空調設備システム	空調設備の配置、配管	建物類と空調設備の配置、機械室	C1
11	空調と換気	換気基準、ファン類、圧力の基礎	C02測定小実験、制圧や動圧、換気回 数	C1
12	電気設備の紹介	電気の基礎、制御システムの基礎	直流と交流、電気の危機性、感電、遮 断機、ワイヤー、PID制御	C1 F2

13	照明、電気設備	照明の基礎、照明器具、コンセント類	建築別の電気系統、照明の単位、照度基準と必要な照明器具数	C1 F2
14	搬送設備	エレベーターとエスカレーター	エレベーターのサイズ、数、基準、運動器、非常用システム	C1 F2
15	まとめ	給排水、空調、電気設備のまとめ	各区分の規則の復習	

事前・事後学習の内容：演習をしっかりと解くこと。

評価方法：各回宿題とレポート（20％）定期小テスト（40％）期末試験（40％）により評価する。主にC1，D3について自然科学の原理（水・空気の圧力や流れ、電気の基礎等）をもとに設備の働きと設備の構成・機能を理解しているか、さらにF2については、与えられた居住・建築条件下における設計手順の概要を理解しているかどうかを評価する。

教材：「図説 建築設備」（2016年）（学芸出版社）、必要に応じて配布資料を用いる。

備考：電卓を常備。試験では、参考資料持込可。電卓（携帯電話を除く）を用いてよい。

科目名：建築設備Ⅱ（平成30年度以降入学生対象）

英語表記：Building Services II

担当教員：ファーナム クレイグ

授業形態：講義 単位数：2 開講年度・学期：平成32年度・3年後期

科目ナンバリング：HBENV3305

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：「建築設備Ⅰ」で設備類と重要な機器の機能と必要性を把握してから、「建築設備Ⅱ」で建築設備に関する基準、規則、入居者の要求を満たすために適切な機器類の選択方法、能力、消費の基礎計算を行う。「1級建築士」や「設備士」の資格試験のための演習問題を解き、理解を深める。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度						◎						○						○			

科目の主題：居住環境工学Ⅰ・Ⅱで学んだ知識（負荷、換気といった概念）をもとにして、健康で快適な居住環境を提供するためのハードウェア（装置）に焦点をあてて講義する。

建築設備を衛生設備、空調設備、電気設備、防災設備の4種類に分類し、それぞれについて、建物全体の中で果たす機能、およびシステム構成について概説した上で、重要な構成機器類の役割について説明する。

授業内容・授業計画：1回の講義において、前半は教科書・板書を主体とした説明を行い、その後知識の習得を確実にものとするために演習問題に取り組む。このとき随時質問を受け付ける。提出された演習問題は採点后、次の授業の冒頭で返却され、同時に簡単な説明を受ける。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	建築設備系統	設備の配置と必要なスペース	機械室などについて建築基準	C1 F2
2	衛生設備	給水、排水・通気、給湯設備の機器類	設備の特徴、問題演習	C1 D3 F2
3	衛生設備	給水、排水・通気、給湯設備の実例	水系統に関する見学	C1 D3 F2
4	防災設備	防災設備機器の詳細	火災事件の勉強	C1 D3 F2
5	空調設備の紹介	空調原理の復習	空調の原理、冷却サイクル、効率と温度の影響	C1 F2
6	空調の熱源	冷凍機の構成、ボイラーの構成	媒体の種類、配管系統の特徴と選択	C1 F2
7	空調用の媒体	水、空気、冷媒の役割と選択	媒体の種類、配管系統の特徴と選択	C1 F2
8	空調の負荷	建物の熱負荷、必要な能力	建物の熱負荷計算、TAC2.5などの基準を満たす選択	C1 D3 F2
9	空調と省エネ対策	エネルギー消費について熱源の特徴	熱源の選択の省エネ対策、多様化、損失。効率とCOPの変化	C1 D3 F2
10	換気の詳細	空気質の基準、換気vs.省エネの考慮	換気によるエネルギー損失、熱回収、エコノマイザーなど	C1 D3 F2
11	空調まとめ	空調系統のまとめ	空調系統に関する見学	C1 D3 F2
12	電気設備と制御	制御理論の基礎、制御方法、BEMS	制御システムの実例	C1 D3 F2

13	電気設備の詳細	分電箱と配線、電圧	電気設備の基準	C1 F2
14	発電システム	太陽発電、非常用発電機	太陽発電の基礎計算、能力の予測	C1 D3 F2
15	まとめ	建築設備の配置	系統の配置、図面の実例	C1 D3 F2

事前・事後学習の内容：演習をしっかりと解くこと。

評価方法：各回宿題とレポート（20％）定期小テスト（40％）期末試験（40％）により評価する。主にC1、D3について自然科学の原理（水・空気の圧力や流れ、電気の基礎等）をもとに設備の働きと設備の構成・機能を理解しているか、さらにF2については、与えられた居住・建築条件下における設計手順の概要を理解しているかどうかを評価する。

教材：「図説 建築設備」（2016年）（学芸出版社）、必要に応じて配布資料を用いる。
 備考：電卓を常備。試験では、参考資料持込可。電卓（携帯電話を除く）を用いてよい。

科目名：住居管理・経営論（平成29年度以前入学対象）／居住企画・経営論（平成30年度以降入学対象）

英語表記：Housing Project and Management

担当教員：瀧澤 重志

授業形態：演習 単位数：2 開講年度・学期：平成30年度・3年前期

科目ナンバリング：HBMIS3302

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：本授業は、広い意味での経営（マネジメント）の問題として企画と管理を捉え、それらの全体像、基礎知識、実施プロセスなどの理解と分析技術の会得を到達目標とする。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)			
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)	
関与の程度	○		○	○		○	○						◎	○			◎	○			○	

科目の主題：建物のライフサイクルは、企画>設計>施工>運用・管理というプロセスを経て解体へと至る。この一連のプロセスの中で、本授業では企画と管理について解説する。建物を作る出発点となる企画は種々の実現可能性を考慮した上で提案されるが、現代では運用・管理段階までを見通した企画が求められている。これらのタスクは広い意味での経営（マネジメント）に属しており、その実施には住居学だけでなく、社会・経済動向や不動産など多岐に渡る分野の知識が必要となる。本講義ではこうした企画・管理の全体像を概観するとともに、それらの中で特に重要と思われる概念の基礎を、全体像に位置付けながら解説する。

授業内容・授業計画：講義を主体とし、必要に応じて簡単なレポートを実施する予定である。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	イントロダクション、企画の基礎	講義の進め方についての説明と、建築・住居の企画の概要について解説する。	講義の構成、企画の概要、企画の目的、枠組み、プロセス、主体	A1, A3, D4, F1
2	企画のための思考法	企画段階は扱う対象の抽象度が高い。企画の立案をサポートする思考法を解説する。	分析と統合、演繹と帰納、課題解決、発想支援法	F2, G2
3	不動産の基礎	不動産としての土地・建物に関連する法律や不動産業について解説する。	不動産の定義、特徴、権利、契約、登記	A1, D4
4	不動産の評価	一般に評価が難しいとされる、不動産の価値の評価手法を解説する。	土地の評価、建物の評価	A1, B1, D4
5	市場・立地調査1	建設しようとする建物の機能等を、市場動向を見据えて決定する方法を解説する。	社会・経済動向、市場調査、用途業種選定	A1, A3, C2
6	市場・立地調査2	敷地とその周辺地域の関係の分析法について解説する。	商圏分析、地域構造分析、施設の成立規模	A1, B1, C2
7	敷地調査	敷地の詳細について解説する。	権利関係、敷地形状・境界、接道、都市計画規制、敷地の利用状況	C2, D4, E1
8	コスト計画	建物の概算法や、建物の生涯にわたって必要になるコストについて解説する。	概算と積算、ライフサイクルコスト	B1, D4, F1
9	事業収支計画 1	賃貸事業を例として、事業収支計画の設定条件について解説する。	初期投資、資金調達、収入、支出	B1, D4, F1
10	事業収支計画 2	賃貸事業を例として、事業収支計画の収支計算と事業採算性について解説する。	長期事業収支計算、事業採算性	B1, D4, F1
11	建物管理の基礎	建物の管理の背景、必要性、基礎的な概念について解説する。	管理の基礎、種類、歴史、耐用年数、維持管理の方法	A3, C1, D4
12	マンション管理 1	維持管理が重要なマンションを例にとり、管理に関する基礎的な概念を開設する。	マンションの歴史、関連法規、管理区分、管理組合、管理規約	A3, D4
13	マンション管理 2	マンションの長期修繕計画について解説する。	計画修繕の考え方、長期修繕計画、管理費、修繕積立金	C1, D4, F1
14	マンション管理 3	マンションの大規模修繕について解説する。	大規模修繕の手順。内容	C1, D4, F1
15	BIMと建物マネジメント	Building Information Modelingを活用したこれからの建物マネジメントを解説する。	BIMの概念、FM、これから建物マネジメント	D4, F1

事前・事後学習の内容：配布資料については理解できるまで読むこと。講義内容は広範な分野にわたるが、いずれも基本的な内容なので、教材に示した参考書籍などに目を通して理解を深めること。

評価方法：講義内容の特徴から様々な学習・教育目標と関連するが、主にD4とF1について、レポート（30%）と定期試験（70%）によって評価する。

教材：資料を配付する。参考書として以下の書籍を挙げる。

- ・新建築学大系編集委員会編：新建築学大系 22 建築企画，彰国社，1982
- ・田村 誠邦ほか：都市・建築・不動産企画開発マニュアル入門版2016-17，X-Knowledge，2016
- ・エディス・チェリー：建築プログラミング その手法と実践へのトレーニング，彰国社，2003
- ・堀 公俊：アイデア発想フレームワーク（日経文庫ビジュアル），日本経済新聞出版社，2014
- ・大澤 茂雄：図解いちばんやさしく丁寧に書いた不動産の本，成美堂出版，2016
- ・高橋 照男：これだけは知っておきたい コストプランニングの知識（増補改訂2版），鹿島出版会，1997
- ・石塚 義高：建築経済学とLCC，財団法人経済調査会，2006
- ・図解住居学編集委員会編：図解住居学6 住まいの管理，彰国社，2003
- ・マンション大規模修繕研究会：世界でいちばんやさしいマンション大規模修繕，エクスナレッジ，2010
- ・『BIM その進化と活用』編集委員会：BIM その進化と活用 建築を目指す人、BIMに取り組む人のガイドブック，日刊建設通信新聞社，2016

受講生へのコメント：本授業で学ぶ建物の不動産的な側面やマンション管理などは，専門家以外にとっても関係がある話題なので，生活していくうえで役立つ知識となる。

備考：

科目名：デザインワークショップ

英語表記：Design Workshop

担当教員：小池志保子・（松本 尚子）

授業形態：演習 単位数：（指定科目）演1 開講年度・学期：平成30年度・3年後期集中

科目ナンバリング：HBDRA3301

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：素材に触れること、実物を制作することを通して、素材の特性や物の成り立ちについて実践的に学習することと、与えられた条件の中で、グループ制作を通じてデザインを具現化することを目的とする。原寸を制作するための課題や問題点を明らかにし、実現するための企画力や実行力を養う。グループ制作を通して、コミュニケーション力やプレゼンテーション力の習得を目指す。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度			○					○	○			○		◎	○		◎			○	○

科目の主題：この授業は、建築設計や建築におけるものづくりに取り組む上で必要な基礎的技術や形を具体化するための能力・技術を習得するためのものである。

演習を重ねることで自分の考えをスケッチや言葉、図面で表現し、他者に伝え、考えを具現化していく。

授業内容・授業計画：グループで課題に取り組み、プレゼンテーションを行うことをくり返ししながら、実作を制作する。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	ガイダンス	ものづくりについて、素材についてのガイダンス。	スケジュール、事例紹介。	A3
2	見学	事例や環境について	フィールドワーク。クライアントの要望の整理。環境調査。	D3, C
3	エスキス1	グループに分かれて、テーマを検討する。	ワークショップ形式。与条件の整理。	D3, G
4	エスキス2	グループに分かれて、デザイン案を制作する。	ワークショップ形式。実現可能かどうかの検討。	D3, G
5	図面の制作1	デザイン案の図面化（基本図面）	デザイン案を図面で表現する	E, F1
6	講評会1	シートと発表によるプレゼンテーション、評価	グループで制作したデザイン案をプレゼンテーションする。	E, F1, G
7	図面の制作2	デザイン案の具現化（図面化）	デザイン案に基づいて、実作制作のための図面を制作する。	E, F1
8	図面の制作3	デザイン案の具現化（詳細図）	デザイン案に基づいて、実作制作のための詳細図面を制作する。	E, F1
9	実作の制作1	実物を制作する（図面の読解）	図面を具現化する	E, F1
10	実作の制作2	実物を制作する（材料選定）	材料を選定する	E, F1
11	実作の制作3	実物を制作する（素材特性）	素材の特性を学ぶ。	E, F1
12	実作の制作4	実物を制作する（道具の使用について）	道具の使用方法を学ぶ。	E, F1
13	実作の制作5	実物を制作する（制作手順、安全配慮）	制作手順について学ぶ。安全への配慮を行う。	E, F1
14	講評会2	実物によるプレゼンテーション	グループで制作したデザインをプレゼンテーションする。	E, F1, G

15	講評会 3	使用実験、評価	グループで制作したデザインを実際に使ってみて評価する。
----	-------	---------	-----------------------------

事前・事後学習の内容：よい作品を製作するためには、授業時間外のデザインスタディ（試行錯誤）が重要です。スケッチブックを片手に日々のデザインワーク（作業）をすすめてください。課題締め切りや提出物のスケジュールを各自で把握することもデザインワークの一要素です。

評価方法：デザインの表現方法の理解度を、授業中のレポート、図面の提出によって評価する。諸条件のもとでの、デザインに関する総合的な理解度を授業中のレポート、スケッチおよび創造した作品の提出によって評価する。

教材：『リノベーションの教科書』（学芸出版社）

備考：本演習は実習を行うので、大学側から支給される材料以外は各自の自己負担となる。

科目名：測量学

英語表記：Surveying

担当教員：(山口 武志)

授業形態：講義 単位数：2 学年・学期：3 回生・前期集中

科目ナンバリング：HBMIS3304

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：建物設計や都市計画及び建設現場を進めていくうえで、なくてはならない測量実務に必要な技術及び基礎知識を学習する。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度				○									◎								

科目の主題：建築設計者および施工者などの建築技術者にとって学ぶべき基礎的な知識となる。測量技術の基礎的な内容である距離測量、平板測量、水準測量、そしてトラバース測量などを学習しながら、基本的な測量器械の使い方を学習する。

授業内容・授業計画：測量学の基本事項を解説する。また、レベルやトランシットなどの使用方法も含めて、測量の実習も行う。

基本測量	4	水準測量（昇降式、器高式）について学ぶ	レベルの据付け方、水準測量の方法。	D4
回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	測量の概要	測量の建築との関連性、また測量に必要な数学の知識などを学ぶ。	関数電卓の使い方	D4
2	距離測量	距離測量における使用器械から誤差及び精度について学ぶ。	距離測量におけるの最確値の求め方。測量実習	D4
3	トラバース測量 1	トランシットの据付け方や使用方法を学ぶ。	トランシットの据付け方、使用方法、トラバース計算	D4
4	トラバース測量 2	水平角観測、鉛直角観測の方法を学ぶ。	トランシットの据付け方、使用方法、トラバース計算	D4
5	トラバース測量 3	野外で実測する。	野帳の記入方法、トランシットの据付け方、使用方法、トラバース計算	D4
6	トラバース測量 4	野外で実測する。	トランシットの据付け方、使用方法、トラバース計算	D4
7	トラバース測量 5	最確値の求め方、敷地図作製方法を学ぶ。	最確値の求め方、敷地図作製方法、トラバース計算	D4
8	平板測量 1	平板測量（道線法、放射法）の基本を学ぶ。	平板測量の方法	D4
9	平板測量 2	野外で実測する。	平板測量器具（アリダード）の使用方法	D4
10	平板測量 3	野外で実測する。	平板測量器具（アリダード）の使用方法	D4
11	平板測量 4	誤差調整の方法、敷地図作製方法を学ぶ。	誤差調整、敷地図作製	D4
12	水準測量 1	水準測量（昇降式、器高式）の基本について学ぶ。	水準測量の方法	D4
13	水準測量 2	野外で実測する。	レベルの据付け方	D4
14	水準測量 3	野外で実測する。	レベルの据付け方	D4
15	水準測量 4	測量結果の整理	水準測量	D4

事前・事後学習の内容：配布資料を復習し、次回の講義に備えること。

評価方法：D4については、レポートで評価し、理解度で評価する。

教材：特になし。資料配布

備考：関数電卓及び三角定規、三角スケールを常備

科目名：居住福祉工学

英語表記：Technology of Living Welfare

担当教員：上田 博之

授業形態：講義 単位数：2 開講年度・学期：平成30年度・3年後期

科目ナンバリング：HBPLA3304

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：我が国は高齢化が進み、大きな社会問題となりつつある。このような高齢化は、居住環境を考える場合にも重要視されはじめています。本講義では、高齢社会における高齢者・障害者の居住問題と居住環境整備の課題について学習し、バリアフリー設計の考え方・技術を習得する、ことを目的としている。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度	○	○	○							◎		○	○				◎	◎			

科目の主題：本講義は、単にバリアフリー、ユニバーサルデザインの技術を習得することのみを目的とするものではない。高齢者・障害者の居住に関する理念・考え方を重視する。従って、福祉の知識や高齢者・障害者の身体機能、助成制度など幅広い内容の習得が必要となる。建築計画学・地域施設計画論、住居計画学など計画学や住生活論、建築法規、居住地計画論などを履修しておくことが望ましい。本講義では、まず福祉の概念、居住福祉工学の考え方について解説する。つづいて高齢者の身体機能を解説、理解したうえで、住居の改善について、その留意点、福祉機器・介助器具による補完について解説する。さらに住環境の整備、住宅改修助成などについて、海外事例をまじえて解説する。

授業内容・授業計画：講義内容をプリントにして配布する。講義内容は既に読んでいることを前提として講義する。講義は、プリントの解説を中心に行う。数回のレポート・演習問題を課し、レポート提出を求める。提出されたレポートに対しては、適宜コメントする。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	居住福祉工学の概念	居住福祉工学の概念規定と役割・必要性 福祉と建築の関係	居住福祉工学の概念規定・背景・方向性・必要性 高齢化の状況・福祉の概念・建築と福祉の関係	A1
2	居住福祉工学とは何か	福祉と建築の関係 住宅内事故と高齢者	高齢化の状況・福祉の概念・建築と福祉の関係 住宅内事故・事故の要因・バリアフリー住宅と事故	A3
3	高齢者の身体機能	加齢と身体機能低	加齢と筋力低下・加齢と生理機能低下	A2
4	疾病と身体機能	疾病と身体機能低	加齢と疾患	A2
5	福祉住環境整備	バリアフリーとユニバーサルデザイン	バリアフリーデザイン・ユニバーサルデザイン	D1
6	福祉住環境整備	福祉制度と住環境整備	介護保険・福祉住宅政策・福祉住環境整備の必要性とニーズ	F1
7	福祉住環境整備	福祉住環境整備の進め方	福祉住環境整備の主体、建築家／建築技術者の役割 介護保険制度による住宅改修・バリアフリー法	A1 F1
8	福祉住環境整備	身体機能と住空間整備	身体の機能と住空間の整備	D1
9	福祉住環境整備	福祉住環境整備の基本的技術	住宅改修・建築構造と改修方法・モジュール・設備	D3 F2
10	福祉住環境整備	空間別整備の方法	居室別改修方針・具体的方法／技術 住宅改修と各種機器との関連	D4
11	福祉住環境整備	福祉機器・補助／介助器具の活用 疾患・障害別応用技術	疾患・障害と住宅改修	D4 F2

12	福祉のまちづくり 概論	福祉のまちづくりとは何か 福祉のまちづくりに関する法制度	福祉のまちづくりの必要性と方向性 福祉のまちづくり関連法の経緯と内容	A3 A2
13	福祉のまちづくり	地域施設のバリアフリーと屋外空間のバリアフリー	地域施設／屋外公共空間の考え方	D4 F1
14	福祉国家の方法	福祉国家のまちづくり	デンマーク・スウェーデンの福祉施設・住居の状況	A3 D1
15	福祉先進国の方法	介護保険実施国の住宅改修	オランダ・ドイツの住宅改修	A3 D1

事前・事後学習の内容：配布資料を講義までに読んでおくこと。講義終了後は復習すること。

評価方法：A1, A2, A3については、福祉の概念や建築・まちとの関連、社会政策、高齢者の身体状況などの理解度を、試験により評価する。D1, D4については、高齢者・障害者の居住環境の整備方法の技術の理解・修得度を試験により評価する。D3, F1, F2については、高齢者・障害者の居住環境の問題の発見、問題解決方法その整備課題および整備方法の理解度について試験により評価する。定期試験の解答結果の評価点により行う。

教材：必要な資料（テキスト）を配布する。スライドなどを使用する。

科目名：生活統計学

英語表記：Statistics for Human Life

担当教員：岡田 明

授業形態：講義 単位数：2 開講年度・学期：平成30年度・3年後期

科目ナンバリング：HBMIS2301

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：統計学は数学ではない。ものごとの状態や現象を正しく捉え理解するための有効な道具である。人を説得する強力な武器にもなる。講義では居住環境学科で学ぶ設計や技術に必要な統計学の初歩を習得し、様々な事例に応用できる実践力を養う。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度				◎	◎				○												

科目の主題：居住環境学科が提供する専門基礎科目のひとつである。調査データや実験データの解析など卒業研究等で必要となることの多い統計処理を学ぶため、履修しておくことが望ましい。

居住環境学で必要となる統計学を「代表値を捉える」「関係を捉える」「違いを捉える」の3つのテーマに分け、それぞれに用いられる手法を具体的事例に基づき解説する。

授業内容・授業計画：パソコンの表計算ソフトを用いた演習を交えながら授業を進めていく。また各種統計処理の教材となるデータを得るための簡単な調査や実験も加えながら、実体験を重視した学習を行う。毎回終了時に授業に対するコメントや疑問点等を提出してもらい、次の時間に回答する。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	統計学への招待	居住環境学科で統計学がどう役立つのか、なぜ必要になるのかを日常の具体的事例を用いて紹介する。	様々な統計事例、統計学の目的、エクセルソフトの使い方	C4
2	グラフの作成	エクセルを用いた簡単なデータ処理や各種グラフの作成を演習形式で行う。	学生の通学時間と起床時刻、教室の温冷感	B1, B2
3	代表値を捉える①	データの特性を表す平均値や標準偏差、正規分布の性質などを解説する。	正規分布、標準偏差、偏差値、パーセントイル値、中央値、最頻値	B1, B2
4	代表値を捉える②	様々なデータを用いて様々な統計値を求める演習を行う。	設計値の算定、非正規分布	B1, B2
5	関係を捉える①	出席回数と試験成績など複数の事象間の関係性を見出す手法を解説する。	回帰分析、回帰式、相関係数	B1, B2
6	関係を捉える②	直線回帰以外の様々な関係性の事例を紹介し、回帰分析の演習を行う。	習熟曲線、物理量と感覚量、重回帰分析	B1, B2
7	これまでの復習	代表値を捉える、関係を捉えるの2つの目的のための統計について復習する。	これまでの要点、統計学の理解度達成レベル	B1, B2
8	小テスト①	復習した内容の理解を確認するための簡単な小テストを行う。		B1, B2
9	違いを捉える①	前半に小テスト①の講評を行い、後半に違いを捉えるための統計の紹介を行う。	アンケート集計、円グラフ	B1, B2
10	違いを捉える②	検定の考え方を紹介し、違いを捉えることの意味を解説する。	検定のプロセス、確率、有意差、t検定	B1, B2
11	違いを捉える③	複数のデータの間には差があるといえるのか否かを検定で求める演習を行う。	分布の性質、確率分布	B1, B2
12	違いを捉える④	アンケート集計結果のデータを用いて、各要因間の差を求める演習を行う。	クロス集計、 χ^2 検定	B1, B2
13	違いを捉える⑤	様々な検定方法を紹介し、その限界や可能性について解説する。	分散分析、ノンパラメトリック検定、ベイズ統計学	B1, B2

14	これまでの復習	違いを捉える目的のための統計について復習する.	これまでの要点, 統計学の理解度達成レベル	B1, B2
15	小テスト②	復習した内容の理解を確認するための簡単な小テストを行う.		B1, B2

事前・事後学習の内容：関連する参考書やデータ等を紹介する。

評価方法：各学習・教育目標の理解度と考え方により評価を行う。そのため以下の方法と配分を用いる。小テスト（30%；主としてB1），毎時間の小レポート（70%；主としてB2, C4）

教材：毎回教材プリントを配布。その他、副読本を授業中に紹介。

備考：卒論のアンケート結果や実験データのまとめや処理に統計学は必須の道具となる。
文系・理系を問わず，統計学は様々な分野で用いられている。

科目名：住文化史Ⅱ

英語表記：Cultural History of Housing (Ⅱ)

担当教員：福田 美穂

授業形態：講義 単位数：2 開講年度・学期：平成30年度・3年後期

科目ナンバリング：HBPLA3305

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：世界の住文化を知ることは、建築、都市などの分野において国際的に活躍する上で必須の要件である。本講義では、海外における建築の歴史的展開、都市の形成と住環境の変遷について解説し、それらの基礎的知識の取得と包括的な理解を目指す。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度	◎	◎	◎				○	○	○			○	○		○	○					

科目の主題：建築や都市に対する歴史的理解は、住宅を含む建築一般、都市の設計・施工のあらゆる段階で必要となる。それは、ゆるぎない規範を提示する場合もあれば、新たな可能性を示唆する場合もある。本講義の内容は、設計関連授業はもちろん、広範な領域の授業の基礎的知識としても重要である。東洋、西洋における建築と都市を取り上げ、その形態の変遷と特質、社会的、文化的、技術的背景から分析、考察する。さらに歴史的環境をめぐる今日的課題として、自然環境との共存、景観問題、保存・活用の現状についても検討する。

授業内容・授業計画：講義は、図版資料を示し、必要に応じてビデオなどを使って視覚的な把握を目指す。さらに、現存する建物や町並みを見学し、実物の空間体験を通じて理解を深める。なお、見学の日程は第一回授業で通知する。

回数	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	中国の住居	日本は東アジアの一角を占め中国の影響を受けてきた。中国の住居と住文化について解説する。	先史時代住居跡、四合院、工字殿、住居の構造形式、計画都市、四合院、特色ある民家、窯洞、客家土楼	A1・A2・A3・D3・D4・E2・E3
2	中国の都市	中国の都市、城壁、宮殿区、台榭建築について解説する。	新石器時代後期の城壁集落、宮殿群、戦国時代諸都市、台榭建築	A1・A2・A3・D3・D4・E2・E3
3	中国の宮殿・都市と周辺地域への影響	中国の宮殿・都市とそれが影響を及ぼした周辺地域について解説する。	『考工記』匠人、始皇帝の宮殿と陵墓、礼、天子、日本・朝鮮・ベトナムの宮殿区	A1・A2・A3・D3・D4・E2・E3
4	南アジアの建築	インドを中心とした地域の建築について解説する。	古代都市遺跡、仏教石窟、ヒンドゥー石窟、寺院類型、ムガル帝国の墓廟と宮殿群	A1・A2・A3・D3・D4・E2・E3
5	オリエント・エジプトの建築	オリエント・エジプトの二大文明圏の建築と都市について解説する。	メソポタミア都市、ジグurat、エジプトの墓、ピラミッド、神殿、王墓造営従事者のための都市と住居	A1・A2・A3・D3・D4・E2・E3
6	ギリシアの建築	西洋建築のルーツとされる古代ギリシアの建築と都市について解説する。	エーゲ文明建築、ギリシア計画都市、アクロポリス、アゴラ、神殿、メガロン形式、オーダー	A1・A2・A3・D3・D4・E2・E3
7	古代ローマの建築	古代ローマの建築と都市について解説する。	エトルリア建築、アーチ、ドーム、ヴォールト、コンクリート、ローマ都市、フォルム、オーダー	A1・A2・A3・D3・D4・E2・E3
8	ロマネスク建築	中世の建築文化を代表する教会堂建築様式であるロマネスク建築について考察する。	先行する初期キリスト教建築文化、ビザンチン建築、ロマネスク建築、ペンデンティヴ、ヴォールト	A1・A2・A3・D3・D4・E2・E3
9	ゴシック建築	中世の建築文化を代表する教会堂建築様式であるゴシック建築について考察する。	初期ゴシック建築、尖りアーチ、リブ・ヴォールト、飛梁、盛期ゴシック建築	A1・A2・A3・D3・D4・E2・E3
10	ルネサンス建築	ルネサンスの教会堂および都市住居について解説する。	初期ルネサンス建築、フィレンツェ、建築家の誕生、盛期ルネサンス建築、フランスのルネサンス建築	A1・A2・A3・D3・D4・E2・E3

11	バロック建築	イタリアに始まりヨーロッパに広まったバロック建築、都市について解説する。	サン・ピエトロ大聖堂、ベルニーニ、ボッロミーニ、パリの広場、庭園、ヴェルサイユ	A1・A2・A3・D3・D4・E2・E3
12	近代建築1	産業革命前後の建築を概観し、近代建築の展開とその性格について解説する。	近代建築という概念、産業革命と建築技術、都市計画と都市改造	A1・A2・A3・D3・D4・E2・E3
13	近代建築2	19世紀から20世紀にかけて展開した近代建築について解説する。	産業都市論、アメリカの産業都市、シカゴ派、アヴァン・ギャルド	A1・A2・A3・D3・D4・E2・E3
14	日本における西洋風住宅	神戸に現存する西洋風住宅遺構の見学を通じて、その理解を深める。	歴史的住宅建築、現地調査	A1・A2・A3・C2・C3・C4・D3・D4・E2・E3
15	日本における近代建築	神戸に現存する近代建築群の見学・観察を通じて、その理解を深める。	歴史的住宅建築、現地調査	A1・A2・A3・C2・C3・C4・D3・D4・E2・E3

事前・事後学習の内容：毎回配布する資料により学習内容を自己確認できる。また、参考文献やその探し方を説明するのでさらに発展した学習ができる。

評価方法：学習・教育目標のAを重視し、歴史的建造物に対する基礎的知識を確認し、歴史的環境をめぐる考察力を問う。また、定期試験と見学会の参加によって評価する。

教材：配布資料

備考：参考資料、『東洋建築史図集』彰国社、『西洋建築史図集』同

科目名：防災・安全科学

英語表記：Disaster Management and Safety Science

担当教員：生田 英輔

授業形態：講義 単位数：2 開講年度・学期：平成30年度・3年後期

科目ナンバリング：HBPLA3306

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：建築設計や生活の質を考える場合、快適性、利便性に加えて安全性は欠くことのできない重要な要素のひとつである。本講義では、地震などの自然災害のみならず火災などの日常災害を対象としてそのメカニズムと防災・安全対策について講じ、建築の設計・計画に応用させる。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度			○	○		◎	○				○	○		○							

科目の主題：建物の構造に関する知識を踏まえて本講義を受講すると一層理解が深まる。本講義で得られた知識は、建物の設計や計画においてその安全性確保について具体的に応用される。

住宅を中心とした居住空間における防災・安全の問題について講ずる。対象とするものは、地震をはじめとする各種の自然災害および日常生活において発生する住宅内事故などである。また、犯罪もとりあげコミュニティの中での防犯計画について述べる。

災害・事故のメカニズムを明らかにした上で、その防止策について解説する。とくに被災現象については、理解を深めるためにDVDなど映像を用いる。

授業内容・授業計画：

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	概論	災害のメカニズム、災害と居住環境・居住者	災害論、素因、誘因、脆弱性	A3, C2, D2, D3
2	地震災害1	地震のメカニズム	地震、津波、プレート、断層	A3, B1
3	地震災害2	建物被害	地震時の建物被害、地震動、耐震、免震、制振	B1, C1, D2
4	地震災害3	地震火災・津波	地震火災、津波、避難行動	C2, D2, D3
5	地震災害4	室内被害・人的被害	家具転倒、地震による死傷	B1, C1, D2, D3
6	火山災害・崩壊災害	火山災害、崩壊災害	火山活動の生活への影響、火山災害の特徴、斜面崩壊	A3, C2, D3
7	台風・洪水災害1	台風・水害のメカニズム	台風、高潮、洪水、氾濫	A3, B1, D2
8	台風・洪水災害2	都市水害の対策	気象情報、警報、避難措置、避難計画	C2, D3
9	雪氷災害	降雪のメカニズムと雪氷による被害と対策	豪雪地帯、屋根雪処理、除排雪システム	A3, C1, C2
10	火災1	火災の実態と出火・延焼のメカニズム	火災の原因、出火、延焼	A3, B1, D2
11	火災2	防火計画	防火設備、避難計画	C1, D3
12	日常災害・犯罪1	日常生活のリスクと日常災害	リスク管理、危機管理、人口動態統計	A3, C2
13	日常災害・犯罪2	建築災害と家庭内事故	設備事故、転倒、転落、溺死、ヒートショック	C1, D2, D3

14	日常災害・犯罪3	犯罪と防犯	防犯環境設計、街頭犯罪、防犯設備	C1, C2, D3
15	まとめ			E1

事前・事後学習の内容：国内外の災害・防災・防犯に関する情報を収集し、講義内容と併せて学習すること。

評価方法：A3については、住居・建築における防災技術が社会や人間生活に与える影響についての理解度などを、B1については物理学や地学などの基礎的知識に基づき、各種災害のメカニズムを理解できたか、C1、C2およびD2、D3については住宅・建築の構造・設備・材料的知識や地域の特性に関わる防災・安全性の確保についての理解と評価能力およびそれらに基づく防災・安全計画立案能力などを、またE1については防災・安全性を確保するための空間計画やデザインの能力などを定期試験（70%）およびレポート（30%）によって評価する。

教 材：必要に応じて資料を配布する。
備 考：

科目名：プロダクトデザイン演習

英語表記：Practice of Product Design

担当教員：岡田 明・西岡 基夫・（稲上 義之）

授業形態：演習 単位数：（指定科目）1 開講年度・学期：平成30年度・3年後期

科目ナンバリング：HBDRA3302

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：我々は住宅などの居住空間だけで暮らせるわけではない。そこに住宅設備、家具、生活機器をはじめとするプロダクト製品も加わり初めてハード面での生活の基礎が形作られる。この演習では、こうしたプロダクト製品のデザインについて、その理論から実践までを演習形式で学ぶ。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度		○				○		○			◎	◎			○	○		◎		○	

科目の主題：設計製図の対象となる住宅とは異なるプロダクト製品の設計を扱う。また、3回生前期に提供される「生活機器学」の演習編としての性格も有しているため、「生活機器学」も受講しておくことが望ましい。

プロダクトデザインの理論を学んだ後、特定のプロダクト製品（システムキッチン等）を対象とした企画から設計までのデザイン作業のプロセスを体験する。また、関連施設見学等の学外演習も行う。

授業内容・授業計画：簡単なプロダクト設計による課題の取り組みやプレゼンテーションも交えながら、実践的な演習を遂行する。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	ガイダンス	プロダクトデザイン演習で学ぶ内容の概略を紹介する。	授業の構成，システムキッチンの要素	A2
2	デザイン論	プロダクトデザインについて，その対象や考え方，社会的背景等について論じる。	現代生活とプロダクトデザイン，消費財としての住宅，住宅設備	A2
3	基礎デザイントレーニング	キッチンを対象として，デザインコンセプトやプランニングについて解説する。	キッチン概論，デザインコンセプトの構築，キッチンプラン	C1, C3
4	デザインアイデアの展開①	プランニングとその進め方について解説する。	プランニング，図面，インテリアコーディネート	C1, C3
5	デザインアイデアの展開②	コンセプトの構想と具体化について説明し，パースの描き方等の演習を行う。	生活スタイル，パース	C1, C3, E2, F2
6	デザインアイデアの展開③	コンセプトを具体的に作成する演習を開始する。	デザインコンセプトの作成	C1, C3, E2, F2
7	キッチン工場見学	システムキッチンを製造するメーカーを訪問し，説明を受ける。	見学	C1, C3
8	ショールーム見学	システムキッチンのショールームを見学する。なお，7回目と同日に行う。	見学	C1, C3
9	アイデアの収斂①	デザインコンセプトを具体化するためのアイデアを煮詰めていく。	エルゴデザイン，動作・機器寸法	C1, C3, E2, F2
10	アイデアの収斂②	デザインコンセプトやデザインを表現するための図面やパースを準備する。	図面，パース	C1, C3, E2, F2
11	中間講評会	提案するデザインコンセプト案についての途中経過について講評を行う。	コンセプトシート	G2
12	レンダリング，製図①	最終提出物としてのレンダリング，製図の作成を行う。	図面，パース	C1, C3, E2, F2
13	レンダリング，製図②	レンダリング，製図の作成を継続する。	図面，パース	C1, C3, E2, F2

14	講評会	最終提出物について講評を行う。	コンセプトシート, 図面, パース	G2
15	まとめ	実務でのデザインプロセスとプレゼンテーションについて紹介する。		C1, C3

事前・事後学習の内容：体験可能なデザイン事例を紹介。

評価方法：各学習・教育目標の理解度と考え方により評価を行う。そのため以下の方法と配分を用いる。課題作品（60%；主としてC1, C3, D2, D3, E2, E3, G2），毎時間の課題進捗説明（40%；主としてA2, F2）

教材：必要に応じて教材プリント等を配布。副読本を紹介

備考：履修制限有。

科目名：環境システム設計及び実験

英語表記：Environmental System Design and Experiments

担当教員：永村 一雄・ファーナム クレイグ

授業形態：実験 単位数：(指定科目)実2 開講年度・学期：平成29年度・3年後期

科目ナンバリング：HBENV3303

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：建築設備の進歩でどのような建物でも室内を快適で健全な状態にコントロールすることはほぼ可能であるが、地球環境問題の観点からは建物で消費するエネルギーを最小限に抑えることが望まれる。建築デザインと建物熱負荷は密接に関係しており、快適性と省エネルギー性を両立させるにはシステムとして建物を考える必要がある。一方、実際に建てられた建物が設計通りの室内環境を満たしているかどうかは実験で確かめる必要がある。本講では環境を考慮した建物と設備のシステム設計について学ぶとともに、室内環境計測に関わる機器の知識、操作法、収集されたデータのまとめ方を修得する。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度						○						○						◎		◎	

科目の主題：居住環境工学I, IIと建築設備の知識を活用し、建物デザインと設備システムを総合して考える。さらに実際の室内環境を実測することで、建築と環境との関わりについての理解を深める。

建物の環境設計と設備システム設計を行う。また物理的環境要素の基本的な物理量の計測および、解析方法を学ぶ。

授業内容・授業計画：建物の環境設計および設備システムの計画をエスキースを主として進める。実験に関しては計測機器の使用方法について説明を受けたのち、自ら実験計画をたてる。測定結果を解析したのち、レポートを提出する。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	課題説明	実験とレポート作成の説明	実験方法、記録	C1
2	熱環境測定 1	室内熱環境測定実験、PMV 基準の説明	温度計、湿度計、風速計、グローブ温度計の使い方	D3, G2
3	熱環境測定 2	室内熱環境測定実験結果の分析	データロガーの使用、Excel で分析、理論と実験結果の比較、レポート作成	D3, G2
4	空気環境測定 1	換気の基礎と基準の説明、換気測定実験	ガス濃度測定器やデータロガーの使い方	D3, G2
5	空気環境測定 2	換気測定実験結果の分析	Excel で分析、換気回数、時定数の計算、レポート作成	D3, G2
6	空調システム設計 1	空調機器とシステムの説明、システムの設計	小型蓄熱FCUシステムのデザインと製造	C1, F2
7	空調システム設計 2	空調機器とシステム能力の測定と評価	小型蓄熱FCUシステム能力と電気消費の測定	C1, F2
8	空調システム設計 3	空調機器システム効率を上げる方法の検討と実験	測定結果の分析、測定エラー分析	C1, F2
9	空調システム設計 4	空調機器システムまとめ	測定結果の分析、レポートの作成	C1, F2
10	音環境測定 1	騒音改善策の説明、測定実験	騒音計の使い方、背景雑音	D3, G2
11	音環境測定 2	追加実験	改善策の測定、評価	D3, G2
12	音環境測定 3	実験結果の分析	データ分析、レポート作成	D3, G2

13	光環境測定 1	照度基準の説明、教室の照度測定、改善策の考慮	照度計の使い方、昼光率の計算	D3, G2
14	光環境測定 2	追加実験	改善策効果の測定、評価	D3, G2
15	光環境測定 3	実験結果の分析	データ分析、レポート作成	D3, G2

事前・事後学習の内容:教科書を参照し、予習すること。

評価方法:C1, F2についてはエスキースを通じて設計およびシステム構成のコンセプトを評価する。D3, G2については提出されたレポートにより、客観的なデータの記述と考察がなされているかを評価する。G2については実験に参加し、作業を分担実施することが成績評価の前提である。

教材:建築家のための建築環境デザイン(オーム社), 日本建築学会編「建築環境工学実験用教材I 環境測定演習編」

備考:「居住環境工学Ⅰ・Ⅱ」「建築設備」「生活情報学及び実習」を履修していることを前提とする。自己学習の負担量が多い。また実験に用いる機器の関係もあり、履修制限を行う場合がある。

科目名：感性情報学演習（平成29年度以降入学生対象）

英語表記：Exercises of Kansei Infomatics

担当教員：酒井 英樹

授業形態：講義 単位数：実2 開講年度・学期：平成31年度・3年後期

科目ナンバリング：HBENV3304

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：住空間の積極的快適さや生活機器の使い心地のよさを設計する上で必要となる感性情報学の方法論を演：習を通して学ぶ。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)			
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)	
関与の程度			○		○							◎									○	

科目の主題：感性情報学で学んだ方法論を実践する。

感性情報学に基づく空間設計，機器設計を実践する上で必要となる計測及び統計処理の演習を行う。

授業内容・授業計画：計測及び統計処理のための機器は各自で製作する。演習の最後にプレゼンテーションを行う。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	環境測定：熱	空間設計，機器設計を実践する上で必要となる物性及び心理測定を行う。	精神物理学測定，環境測定	A3, D3
2	環境測定：光	空間設計，機器設計を実践する上で必要となる物性及び心理測定を行う。	精神物理学測定，環境測定	A3, D3
3	情報機器操作：基礎	空間設計，機器設計を実践する上で必要となる情報機器類の操作法を学ぶ。	プログラミング，フィジカル・コンピューティング	B2, D3
4	情報機器操作：応用	空間設計，機器設計を実践する上で必要となる情報機器類の操作法を学ぶ。	プログラミング，フィジカル・コンピューティング	B2, D3
5	立案・設計1	人の動作に反応する空間・機器を立案する。	空間設計，ユーザーインターフェース設計	A3, B2, D3
6	立案・設計2	人の動作に反応する空間・機器を設計する。	空間設計，ユーザーインターフェース設計	A3, B2, D3
7	加工技術	模型製作に必要な加工技術を学ぶ。	空間設計，ユーザーインターフェース設計	A3, B2, D3
8	模型製作1	部品製作を行う。	空間設計，ユーザーインターフェース設計	A3, B2, D3
9	模型製作2	組み立て作業を行う。	空間設計，ユーザーインターフェース設計	A3, B2, D3
10	評価概要	官能評価の概要を学ぶ。	官能評価，統計処理	A3, B2, D3
11	統計処理	官能評価に関する統計処理を学ぶ。	官能評価，統計処理	A3, B2, D3
12	空間評価	空間の快適さの評価を行う。	官能評価，統計処理	A3, B2, D3
13	機器評価	機器の使い心地のよさの評価を行う。	官能評価，統計処理	A3, B2, D3
14	官能評価	評価結果を分析し，まとめる。	官能評価，統計処理	A3, B2, D3
15	発表	製作した模型を紹介する	プレゼンテーション	G2

事前・事後学習の内容：事前に配布する文献を読んだうえで、授業に臨むこと。

評価方法：A3, D3の空間・機器の人への影響に関する理解度、及び、B2, G2の情報処理技術、表現技術の理解度を演習課題（100%）により評価する。

教材：

備考：感性情報学の知識を前提とした科目であるため、感性情報学と併せて履修すること。感性情報学の未履修者は履修不可とする。

科目名：居住環境学 学外セミナーⅢ

英語表記：Housing and Environmental Design Onsite SeminarsⅢ

担当教員：福田 美穂

授業形態：演習 単位数：1 開講年度・学期：平成30年度・3年集中(通年)

科目ナンバリング：HBACA3302

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：居住環境学の領域は幅広く、学外にも、特別講演、学会、展示会、見学会、まちづくりの実践、ワークショップ、インターンシップなど、多彩な学びの場がある。学生提案型の学外演習も含む、学習機会や実践への参加を通して、最先端の専門領域や実務に触れ、現代社会における住宅やコミュニティの課題に対する理解を深めると同時に、主体的に学ぶ姿勢や課題発見能力を養うことは学外セミナーⅠ、Ⅱと同様である。Ⅲでは、さらに、日本語以外の言語によるコミュニケーション能力の向上を目指し、日本以外の世界を自ら理解していく力を養うことも目的とする。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度	○	○				○	○	○	○								○	◎	◎	◎	

科目の主題：都市大阪に立地するメリットを活かし、学外で実施されるセミナー等へ主体的に参加し、学ぶ機会とする。また、教員の提供する海外の大学との合同の授業もしくは見学会に必ず参加して、日本語以外の言語による意思疎通およびディスカッションができるようなコミュニケーション能力を身につけるきっかけとする。

学外で実施されるセミナー等への参加や、学生が主体的に企画、提案する学外演習を含めて課題として取り組み、そこで得られた成果を報告、発表、共有する。なお、海外の大学との合同の活動には必ず参加する。

授業内容・授業計画：教員が指定する、居住環境に関連した学外演習や、学生が主体的に企画、提案する学外演習に指定された回数以上参加し、学んだ成果をまとめ、プレゼンテーションをおこなう。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	ガイダンス	ガイダンス、各自での学習計画の立案、学習計画を遂行する上ですべきステップや、提出物のまとめ方、合同授業の参加について説明する。	演習の目的、概要、履修上の注意、学習計画の立案方法、提出物のまとめ方と提出方法、海外の大学との合同演習への理解と参加	A1, A2, C1-4, F1, F2
2	学外演習と文献リスト	海外合同授業の準備の仕方を説明する。また、自分で決めたテーマについて、その調べ方を習得し、初歩的な参考文献リストを作成し、各自が合同授業の準備を含む学習計画を立案する。	検索サイト(CINII, JSTORなど)および学情の活用、学外イベント・見学会などへの参加、学生提案型学外演習のための参考文献リスト	A1, A2, C1-4, F1, F2
3	学外演習1	計画に沿って学外演習を行い、進捗や問題点を文章化する。参考文献を読み進め、参考文献リストも更新する。	学外自主演習、資料検索・収集・読解、参考文献リストの更新	A1, A2, C1-4, F1, F2
4	学外演習2	学外演習をおこないつつ、とくに海外合同授業のための準備をする。	合同授業参加の準備、収集資料の読解、参考文献リストの更新、外国語の参考文献	A1, A2, C1-4, F1, F2, G1
5	学外演習3と海外合同授業	海外合同授業に参加、参加後に問題点や成果をレポートにする。	合同授業参加の準備、収集資料の読解、参考文献リストの更新、異文化コミュニケーション	A1, A2, C1-4, F1, F2, G1, G2
6	学外演習4	学外演習をおこないつつ、外国語文献に取り組む。	学外自主演習、資料収集・読解、参考文献リスト、外国語文献	A1, A2, C1-4, F1, F2, G1
7	前期の総括	前期遂行した自主演習について、日本語・外国語の参考文献リストを付したレポートを提出、後期の自主演習の計画を策定する。	学外自主演習、レポート作成、参考文献リスト、外国語文献リスト	A1, A2, C1-4, F1, F2, G1
8	学外演習5	学外演習をおこないつつ、読んだ日本語文献のうち重要と考えるものについてメモを書く。	学外自主演習、参考文献リスト更新、読書メモ	A1, A2, C1-4, F1, F2, G1
9	学外演習6	学外演習をおこないつつ、文献リストを更新し、重要な外国語文献についてメモを書きためる。	学外自主演習、参考文献リスト更新、外国語文献読書メモ	A1, A2, C1-4, F1, F2, G1, G2
10	学外演習7	学外演習をおこないつつ、読んだ日本語文献のうち重要と考えるものについてレビューを書く。	学外自主演習、参考文献リスト更新、レビュー	A1, A2, C1-4, F1, G1, G2

11	学外演習8	学外演習をおこないつつ、読んだ外国語文献のうち重要と考えるものについてレビューを書く。	学外自主演習、参考文献リスト更新、外国語文献レビュー	A1, A2, C1-4, F1, F2, G1, G2
12	学外演習9	前期・後期の学外演習について、レポートの第一稿を提出し、改善点について教員と討議する。	学外自主演習、レポート第一稿、問題点の討議	A1, A2, C1-4, F1, F2, G1, G2
13	学外演習10	上記の討議をふまえ、レポートを推敲して完成稿を提出する。	レポート完成	A1, A2, C1-4, F1, F2, G1, G2
14	学外演習11	レポートの内容をプレゼンテーションするための準備をする。	プレゼンテーション準備	A1, A2, C1-4, F1, F2, G1, G2
15	後期成果発表報告	後期成果発表報告会、懇親会	プレゼンテーション、講評、学生・教員による教育改善に向けた意見交換	G2

事前・事後学習の内容：提出物の作成は演習時間外に取り組むことが基本となる。

評価方法：提出物とプレゼンテーションの内容によって評価する。

教材：必要に応じて資料を配付する。

備考：掲示やメールをよく確認すること。指定された期日までに提出物を提出すること。成果発表は授業時間割の都合から、土曜日や平日の夕方以降に開催する場合がある。学生が主体的に企画、提案する学外演習については、事前に担当教員に相談し、学科の承認を得ること。インターンシップの場合は、事前に学生が企業等に了解を得る必要がある。

科目名：研究計画演習（平成27年度以降入学生対象）

英語表記：Seminar on Graduation Study

担当教員：福田 美穂 他

授業形態：演習 単位数：2 開講年度・学期：平成30年度・3年後期

科目ナンバリング：HBACA3303

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：合同ゼミへの参加、4回生の卒業論中間発表会、卒業発表会、修論発表会への参加を通して、卒業研究、卒業制作のテーマ設定、進め方、研究や制作の方法等について学び、学んだ内容を踏まえて、研究計画書を作成する。また、建築・まちづくり・プロダクトデザインの技術者、研究者として心得るべき技術倫理、法規等について理解を深める。こうした演習を踏まえて、ゼミや進路選択の参考とする。

学習・教育目標	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)
関与の程度	◎	○	◎	◎	○	◎	◎

科目の主題：この演習への参加を通して、配属希望のゼミを考える。また学んだ内容は卒業論文または制作へとつながる。また、作成した研究計画書は、配属希望の教員に提出する。
居住環境学における専門領域の研究課題や実践方法、進路の設定について学ぶ。

授業内容・授業計画：演習参加形式で行う。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	概要・進路	演習の進め方およびゼミ配属の概要を説明する。また、就職活動や大学院への進学を含む進路を考えるため、先輩や卒業生等から専門分野等の話を聞く	演習の進め方、ゼミ配属の説明、研究計画書、進学を含む進路選択	A-Gの全て
2	研究活動を学ぶ1	ゼミ配属に向けて、教員から最先端の研究、活動の内容を学ぶ。福祉環境デザイン、三世代居住、子どもの空間、民族住居の人類学的な研究とそれらの倫理性について説明する。	研究室の説明、ゼミ活動、研究、実践の紹介、技術者倫理、研究倫理	A3, CDEF
3	研究活動を学ぶ2	ゼミ配属に向けて、教員から最先端の研究、活動の内容を学ぶ。コミュニティ防災、災害時要支援者の避難行動、災害脆弱性レジリエンス評価モデル、省エネルギー、気候特性、温暖化・ヒートアイランド現象への建物対策、人体の温冷感モデル解明とそれらの倫理性について説明する。	研究室の説明、ゼミ活動、研究、実践の紹介、技術者倫理、研究倫理	A3, CDEF
4	研究活動を学ぶ3	ゼミ配属に向けて、教員から最先端の研究、活動の内容を学ぶ。ミスト蒸発冷却の応用、ヒートアイランド現象への対策、人体の熱収支と温冷感モデルの解明、建物の省エネルギー対策、人間工学に基づく生活機器や空間デザイン、生活機器・住宅設備・公共設備などの使いやすさや操作負担、標識・サインのわかりやすさとそれらの倫理性について説明する。	研究室の説明、ゼミ活動、研究、実践の紹介、技術者倫理、研究倫理	A3, CDEF
5	中間発表	卒業研究中間発表を聴講し、発表内容・発表での質疑・自分で考えたことについてレポートを作成する。	卒業研究中間発表、聴講レポート	CDEFG
6	研究活動を学ぶ4	ゼミ配属に向けて、教員から最先端の研究、活動の内容を学ぶ。建物利用者の行動や感性のセンシングに基づく設計方法、人工知能等のソフトコンピューティング技術を用いた設計方法、災害広域避難者の避難行動や生活実態、住空間の構成とデザイン、建築ストックの再生と利	研究室の説明、ゼミ活動、研究、実践の紹介、技術者倫理、研究倫理	A3, CDEF

		用、リノベーションのデザインとそれらの倫理性について説明する。		
7	研究活動を学ぶ5	ゼミ配属に向けて、教員から最先端の研究、活動の内容を学ぶ。子供の居住環境、伝統的住宅の住生活、中国の都市住宅の近代化と住生活、住み方と住空間、人が造りだしてきた空間の歴史とそれらの倫理性について説明する。	研究室の説明、ゼミ活動、研究、実践の紹介、技術者倫理、研究倫理	A3, CDEF
8	合同ゼミ1	全研究室は5班に分けられ、各班で合同ゼミを行う。本科目の履修生は少なくとも3つの班の合同ゼミに参加し、討論に加わる努力をする。	合同ゼミへの参加、研究活動	CDEF
9	合同ゼミ2	合同ゼミに参加し、討論に加わる。そして自分の考えを文章化する。	合同ゼミへの参加、研究活動	CDEF
10	合同ゼミ3	合同ゼミに参加し、討論に加わる。そして自分の考えを文章化し、さらに調べて考えを深化させ、研究計画書の準備をする。	合同ゼミへの参加、研究活動	CDEF
11	研究活動を学ぶ6	ゼミ配属に向けて、教員から最先端の研究、活動の内容を学ぶ。指向性反射材の開発、光沢を有する素材のつや感評価、有彩色光照明の活用法、景観評価・景観分析手法の開発実践、家具や生活機器の使いやすさや、自転車・車いすなど移動機器、動作・姿勢に関する人間工学的研究とそれらの倫理性について説明する。	研究室の説明、ゼミ活動、研究、実践の紹介、技術者倫理、研究倫理	A3, CDEF
12	研究活動を学ぶ7	ゼミ配属に向けて、教員から最先端の研究、活動の内容を学ぶ。まちづくり、都市計画、木質構造とそれらの倫理性について説明する。	研究室の説明、ゼミ活動、研究、実践の紹介、技術者倫理、研究倫理	A3, CDEF
13	研究活動を学ぶ8	ゼミ配属に向けて、教員から最先端の研究、活動の内容を学ぶ。建物の長寿命化、建生のストックの耐震性能、建物の維持保全、居住システムとそれらの倫理性について説明する。	研究室の説明、ゼミ活動、研究、実践の紹介、技術者倫理、研究倫理	A3, CDEF
14	卒業研究発表会	ゼミ配属に向けて卒業研究発表会に参加、聴講し、討議に参加する。	卒業研究発表会、討議	CDEFG
15	研究計画の作成	研究計画書の作成方法を理解し、実際に作成して提出する。	研究計画書の作成	CDEF

事前・事後学習の内容：各レポート、研究計画書の作成については授業時間内では不足するため、自宅での取り組みを前提とする。また、研究計画書の作成に際しては、関連文献を1つ以上読み、レビューすること

評価方法：ゼミ参加レポート、技術者倫理レポート、卒業研究中間発表会参加レポート、卒業研究発表会参加レポート、修士論文公聴会参加レポート、および研究計画書に基づいて評価する

教材：別途指示する。

備考：所属研究室の決定方法は、別途指示する。ゼミ配属希望者が定員を超えた場合は、研究計画書および参加レポートをもとに選考を決定する場合がある。

科目名：設計製図Ⅲ・第5課題（文化複合施設）

英語表記：Design and Drawing Ⅲ①

担当教員：森 一彦・福田 美穂・（矢田 朝士）・（岸上 純子）

授業形態：実習 単位数：実4 開講年度・学期：平成30年度・3年前期

科目ナンバリング：HBDRA3307

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：RC造による大規模な文化複合施設の計画・設計方法を身につける。特に、大学近郊の地域に敷地を設定し、具体的な計画立案を行う。具体的には、敷地周辺のフィールドサーベイを行って、問題点や求められる条件の整理を行った上で、施設の計画・設計を行う。図面作成段階では、実施図面のトレースと絡ませながら、建築的な構造・納まりなどの検討も行って、完成度の高い図面に仕上げる。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度	○					◎				○				◎			◎			◎	

科目の主題：設計製図Ⅲは、設計製図Ⅱに続くRC造の設計で、複合的な空間計画の方法を習得することに主眼がある。さらに、地域におけるパブリックな視点からの計画立案を行い、設計製図Ⅲ以降の企画型設計の基礎的スキルを身につけられるように進める。

設計課題は敷地周辺地域調査と計画条件整理・施設の計画・設計からなる。具体的には、はじめに指定された敷地周辺のフィールドサーベイ・調査発表、それに基づく企画立案を行い、それらを基礎にして、本設計する。

授業内容・授業計画：それぞれのテーマについて説明を行い、その後に実習する。一通りの実習で十分に身につくものではなく、個人の努力と研鑽によって到達点は異なる。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	課題説明＋フィールド調査	計画敷地の周辺の現状調査を行い、設計条件の整理を行う。物的環境調査、住民へのヒアリング調査の2つの調査を行う。	フィールドサーベイ方法	A1・C1・G2
2	敷地調査発表会＋敷地模型作成 (A2・2mmボード×4枚)	計画敷地の周辺の現状調査を行い、設計条件の整理を行う。物的環境調査、住民へのヒアリング調査の2つの調査を行う。	調査結果のプレゼンテーションの方法	A1・C1・G2
3	グループワーク：デザインテーマ＋ボリュームスタディ	計画条件に基づき、各自が企画案を作成し、発表し、ディスカッションを行う。	企画立案の方法、プレゼンテーションの方法	A1・C1・F1
4	見学会(会費あり)	計画条件に基づき、各自が企画案を作成し、発表し、ディスカッションを行う。	企画立案の方法、プレゼンテーションの方法	
5	居住環境デザインフォーラム(全員出席、課題：OGOB座談会)	昨年度の優秀作品の発表から学ぶ	企画立案の方法、プレゼンテーションの方法	A1・C1・F1
6	即日設計 (1/200)	計画条件に基づき、各自が企画案を作成する。	平面計画の方法、建築法規、構造計画法、ドローイングスキル	A1・C1・D1・E1
7	中間発表(8グループ別＋選抜)	計画条件に基づき、各自が企画案を作成し、発表し、ディスカッションを行う。	企画立案の方法、プレゼンテーションの方法	A1・C1・D1・E1
8	基本図面製作＋模型製作＋エスキスチェック	企画案を基に、最終案に向けて計画を練る。構造計画、建築法規などの調整をとりながら、計画意図を反映した設計図面を作成する。	平面計画の方法、建築法規、構造計画法、ドローイングスキル	A1・C1・D1・E1
9	基本図面製作＋模型製作＋エスキスチェック	企画案を基に、最終案に向けて計画を練る。構造計画、建築法規などの調整をとりながら、計画意図を反映した設計図面を作成する。	平面計画の方法、建築法規、構造計画法、ドローイングスキル	A1・C1・D1・E1

10	基本図面製作+模型製作+エスキスチェック	企画案を基に、最終案に向けて計画を練る。構造計画、建築法規などとの調整をとりながら、計画意図を反映した設計図面を作成する。	平面計画の方法、建築法規、構造計画法、ドローイングスキル	A1・C1・D1・E1
11	基本図面製作+模型製作+エスキスチェック	企画案を基に、最終案に向けて計画を練る。構造計画、建築法規などとの調整をとりながら、計画意図を反映した設計図面を作成する。	平面計画の方法、建築法規、構造計画法、ドローイングスキル	A1・C1・D1・E1
12	基本図面提出(A1+PDF)13時締切	企画案を基に、最終案に向けて計画を練る。構造計画、建築法規などとの調整をとりながら、計画意図を反映した設計図面を作成する。	平面計画の方法、建築法規、構造計画法、ドローイングスキル	A1・C1・D1・E1
13	プレゼン図面製作	設計案を第3者に伝えるためのプレゼンテーション図面の作成を行う。	企画立案の方法、プレゼンテーションの方法	A1・E1
14	プレゼン図面提出(A2+PDF)	設計案を第3者に伝えるためのプレゼンテーション図面の作成を行う。	企画立案の方法、プレゼンテーションの方法	A1・E1
15	講評会・表彰	完成図面を集団で講評会を行う。	企画立案の方法、プレゼンテーションの方法	A1・G2

事前・事後学習の内容：別途指示する。

評価方法：第5課題の提出図面・模型および発表内容を基に評価する。

教材：必要に応じて、資料を配付するほか、スライドなどを用い、前年度作品を展示する。

備考：すべての課題を提出すること。課題の未提出は認めない。実習時間内は実習に集中すること。課題提出による以外の早退は認めない。課題提出は2通りある。「提出」は実習し、理解したことを確認するもので、評価対象としない。ただし、未記入・粗雑など明らかな欠陥がある場合は減点する。「提出・評価」は作品として評価する。授業に30分以上遅れた場合は出席として認めない。(ただし事情がある場合は申し出ること。)

科 目 名：設計製図Ⅲ・第6課題（木造住宅意匠設計）

英 語 表 記：Design and Drawing Ⅲ②

担 当 教 員：松下 大輔・小池志保子・岡本滋史・（広渡孝一郎）・（阿久津友嗣）

授 業 形 態：演習 単位数：実4 開講年度・学期：平成30年度・3年前期

科目ナンバリング：HBDRA3307

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：市街地に建つ都市住宅を木構造で設計する。平面、立面、断面から基礎伏図、床伏図、小屋伏図、軸組図を作成する。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度						○	○	○		○				◎	○	◎	○	○	○	○	○

科目の主題：設計を通して木構造を理解する。さらに、断面図を考えることで空間の持つ意味を捉える。

自分で設計した住宅の完成模型と木構造の軸組みを製作する。平面計画を把握し、木構造について理解する。

授業内容・授業計画：要求される図面それぞれについて、講義・説明をする。グループに分かれてワークショップ形式でそれぞれの考えを発表する。完成模型と木構造の軸組模型を製作することで木造住宅の設計を習得する。

回	テ ー マ	概 要	構 成 要 素	学習・教育目標
1	課題説明	木造で家を作るとは？軸組について 木造住宅の実例	課題説明、スタディ 現代における住宅とは	C, D1, E, F
2	コンセプト	敷地の読み込み、家族構成	コンセプト、テーマ、課題発表と講評、 エスキス、グループワーク	D1
3	建ち方	ボリュームスタディ	建ち方、ランドスケープ、周辺環境、 課題発表と講評、エスキス	C, D1, E, F
4	見学	木造軸組構造、構法	見学、レポート	C, D1
5	平面構成 断面構成	木造のグリッド	通り芯、寸法、課題発表と講評、エス キス	C, D1, E,
6	軸組	木架構	軸組、屋根の構成、課題発表と講評、 エスキス	C, D1, E,
7	基本設計	住宅の構成、デザイン	平面図、断面図、立面図、課題発表と 講評、エスキス	C, D1, E,
8	基本設計発表	計画の表現、プレゼンテーション、図面表 現	発表と講評、基本図面一式	C, D1, E,
9	伏図	構造、基礎、梁	基礎伏図、床伏図、小屋伏図、課題発 表と講評、エスキス	C, D1, E,
10	軸組図	屋根、筋交い	軸組図、課題発表と講評、エスキス	C, D1, E,
11	構造図	構造図一式	伏図、軸組図、軸組模型、建物の骨格	E, G
12	断面詳細図	詳細図、素材、雨仕舞い	詳細図、課題発表と講評、エスキス	E, G
13	図面提出	図面表現、描画方法、建築法規	作図、図面チェック、配置図、断面詳 細図	E, F, G
14	模型提出	模型表現、構造表現	軸組模型、外観模型	E, F, G

15	講評会	発表と講評と記録	プレゼンテーション、図面表現、木造表現	E, F, G
----	-----	----------	---------------------	---------

事前・事後学習の内容：よい作品を製作するためには、授業時間外のデザインスタディ（試行錯誤）が重要です。スケッチブックを片手に日々のデザインワーク（作業）をすすめてください。課題締め切りや提出物のスケジュールを各自で把握することもデザインワークの一要素です。

評価方法：Cについては、住宅を設計することによる居住空間への理解度を評価する。Dについては、住宅の構造及び施工の手順を知ることによって、関連技術の知識の理解度を評価する。Eについては、快適な空間設計をデザインする能力を設計作品によって評価する。Fについては、設計条件の中から、企画・立案・実行を行う能力を設計作品によって評価する。Gについては、設計図面・模型をもとにプレゼンテーションをすることによって評価する。

教材：①『コンパクト建築設計資料集成 第3版』（日本建築学会）
 ②『新装版 初めての建築製図』（〈建築のテキスト〉編集委員会、学芸出版社）
 ③『世界で一番くわしい 13 建築図面』（エクスマレッジ）
 ④『新しい建築の製図』（学芸出版社）
 ①については、必須。②から④はいずれかを1冊選択すること。

備考：

科目名：設計製図Ⅳ 第7課題（即日設計）＋第8課題（集合住宅の設計計画）

英語表記：Design and Drawing IV

担当教員：森 一彦・中野 茂夫・（尾鍋 裕実）・（西田 多美子）・（山本 尚子）

渡部 嗣道・上田 博之・小池 志保子・（竹原 義二）・（吉井 歳晴）・（山隈 直人）

授業形態：演習 単位数：必修 実2 開講年度・学期：平成30年度・3年後期

科目ナンバリング：HBDRA3308

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：設計製図は建築を考える上で最も重要な授業のひとつである。計画や構造・設備など様々な専門科目の講義において学んだ知識を用い、与えられた条件の下で空間に置き換え図面に表現するという総合化の技術をここで訓練する。図面に加えて模型作成の技術も重要な設計製図技術である。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度							○			◎					○	○	◎		◎	◎	◎

科目の主題：この授業では、設計製図Ⅲまでに習得した設計製図に必要な基礎的技術から一歩進んで、設計図面によって自分の考えを表現することに重点がある。即日設計および集合住宅の設計に必要なとされる能力は、建築計画のみならず都市計画、法規、構造、環境、福祉など幅広い分野に及ぶ。即日設計技術を用いた提案、及び集合住宅を課題とし、自己の中で思考した空間を図面で表現し、他者に伝える手段として図面化することを学ぶ。即日設計は、一級建築士設計課題（集合住宅）を題材とする。

授業内容・授業計画：課題を始めるにあたって、これまで学んできたことを生かしながら、生活者の視点に立った各自の提案を伝えるための設計技術を習得する。集合住宅については、現代までの集合住宅計画の発展を資料等により学習し、現代の集合住宅として何を提案するのかというコンセプトを明確にさせる。集合することによって起こる問題点を考えることは、他者との関係において自己との関わりをさぐることから始まる。課題ごとに、先進事例の調査や見学会を行った上で設計を実施し、計画によって自分の考えを表現することを学びとる。またワークショップ形式を取り入れ、考えを他者に伝える訓練をする。

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	即日設計 1	課題説明 設計するための知識・与条件について	配置計画、平面計画、断面計画	C2 G
2	見学	集合住宅を見学することによって、現状の問題点を把握し、今後の提案を考える	使われ方、構造、寸法、材料	D1
3	即日設計 2	模擬試験	構造計画、設備計画	C2
4	即日設計 3	採点、講評	図面の描画、演習	D1
5	即日設計 4	本試験	法的規制	C2
6	即日設計 5	採点、講評	図面の描画、演習	D1
7	集合住宅 1 課題説明 事例を調べる	課題説明、事例研究、敷地研究	発表、条件整理、理論の検討、データ収集	C2
8	集合住宅 2 企画	コンセプト、集合住宅の課題について、ライフスタイル	エスキス、レクチャー、模型制作、作図	C2
9	集合住宅 3 住戸プラン	住戸計画	エスキス、レクチャー、模型制作、作図、平面図	E2, E3, F1
10	集合住宅 4 建ち方	ボリュームスタディ、周辺調査、配置、駐車場、ランドスケープ	エスキス、レクチャー、模型制作、作図、模型表現	E2, E3, F1

11	集合住宅 5 企画講評会	プレゼンテーション	作図、表現、レイアウト、発表と講評	G
12	集合住宅 6 構造	構造計画	エスキス、レクチャー、模型制作、作図、構造表現	D1
13	集合住宅 7 共用部	共用部、コミュニティ	平面図、断面図	E3
14	集合住宅 8 プログラム課題	使い方、住まい方、経年変化	図面と伝達手段、立面図、配置図	C2
15	集合住宅 9 「設計」講評会	プレゼンテーション	作図、表現、レイアウト、発表と講評 詳細図の表現	G

事前・事後学習の内容：よい作品を製作するためには、授業時間外のデザインスタディ（試行錯誤）が重要です。スケッチブックを片手に日々のデザインワーク（作業）をすすめてください。課題締め切りや提出物のスケジュールを各自で把握することもデザインワークの一要素です。

評価方法：Cについては、集合住宅の居住空間が理解できているかで評価する。Dについては、構造及び、施工の手順を知ることによって関連技術の知識を理解できていることで評価する。Eについては、快適な空間設計をデザインする能力を設計作品によって評価する。Gについては、提案内容、設計図面、模型をもとにしてプレゼンテーションをすることによって評価する。

教材：①『コンパクト建築設計資料集成 第3版』（日本建築学会）
 ②『集まって住もう 眼を養い 手を練れ 2』（居住空間デザイン講師室、彰国社）
 ③『事例で読む 現代集合住宅のデザイン』（日本建築学会住宅小委員会、彰国社）
 ①については、必須。②と③はいずれかを選択すること。

備考：

科目名：住宅性能評価法(平成27年度以前入学生対象)

英語表記：Housing performance evaluation method

担当教員：森 一彦・渡部 嗣道・上田 博之・酒井 英樹・ファーナム クレイグ・(延原 理恵) ほか

授業形態：講義 単位数：2 開講年度・学期：平成30年度・3年前期集中

科目ナンバリング：HBMS3303

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：住宅の品質確保の促進等に関する法律に基づいて、様々な住宅の性能をわかりやすく表示する住宅性能表示制度が制定されている。ここでは、性能表示事項、性能表示基準などの学習理解を通して、安全で快適な住宅が備えるべき性能とその評価の仕組みについて学ぶ。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度			○	○		◎		○	○		○	○		○			○	○			

科目の主題：構造・設備に関する評価と技術、安全、福祉機器と高齢者対応といった社会的要請にこたえる住宅やシステム構築技術の習得をめざして関連講義により得られた知識の総合化をはかる。

はじめに住宅性能表示制度の成り立ちについて学ぶ。次いで、新築住宅の性能表示基準10分野について評価方法、評価基準について学ぶ。その後、既存住宅の性能表示事項および検査方法などを学ぶ。また、長期優良住宅の普及の促進に関する法律、構造安全性の評価に関連して耐震診断方法および耐震補強についても学習する。

授業内容・授業計画：各時間の前半部分で学習意図を解説し、ついで、各評価項目に関連した評価方法基準、表示基準を解説し、必要に応じて演習を行い、学習意図の確認を行う。

回	テーマ	概要	学習・教育目標
1	住宅性能評価とは	住宅性能評価とは、授業の進め方と目的	A3, C1, D2
2	地震などに対する強さ（構造の安定）	地震時の倒壊のしにくさや損傷の受けにくさを評価する方法について学ぶ。	B1, C1, D2, E1
3	火災に対する安全性（火災時の安全）	住宅の家事の際、安全に避難できるための、燃え広がりにくさや避難のしやすさ、隣の住宅が火事の際の延焼のしにくさなどを評価する方法について学ぶ。	C1, D2, E1
4	柱や土台などの耐久性（劣化の軽減）	年月を経ても土台や柱があまり傷まないようにするための対策がどの程度されているかを評価する方法について学ぶ。	B1, C1, D2, E1
5	配管の清掃や補修のしやすさ、更新対策（維持管理・更新への配慮）	配管の点検や清掃のしやすさ、万一故障した場合の補修のしやすさなどを評価する方法を学ぶ。	B1, C1, E1
6	省エネルギー対策（温熱環境・エネルギー消費量）	暖・冷房を効率的に行うために、外皮（壁や窓など）がどの程度断熱されているかまた、設備（暖冷房、換気、給湯、照明）や創エネルギー（太陽光発電など）を総合的に評価する方法を学ぶ。	C1, D2, D3, E1
7	シックハウス対策・換気（空気環境）	接着剤等を使用している建材から発散するホルムアルデヒドがシックハウスの原因のひとつとされているため、接着剤を使用している建材などの使用状況の評価する方法を学ぶ。	C1, C3, D3
8	窓の面積（光・視環境）	東西南北及び上方の5方向について、窓がどのくらい大きさを設けられているのかを評価する方法について学ぶ	C1, C3, D3
9	遮音対策（音環境）	主に共同住宅の場合の評価項目で、上の住戸からの音や下の住戸への音、隣の住戸への音などについて、その伝わりにくさを評価する方法について学ぶ。	C1, C3, D3
10	見学会1	これまでに学んだ住宅性能評価を実際の住宅で確認する。	C1, C3, D3, F1, F2

11	高齢者や障害者への配慮（高齢者等への配慮）	高齢者や障害者などが暮らしやすいよう、出入り口の段差をなくしたり、階段の勾配を緩くしたりというような配慮がどの程度されているかを評価について学ぶ。	A3, C1, C4
12	防犯対策	環境設計による犯罪予防の考え方、防犯性の向上のための仕組みについて学ぶ。	A3, C1, C4
13	既存住宅の性能評価・現況調査の方法	既存住宅の性能表示の解説を行い、現況調査方法、検査部位について学習する。	A3, C1, C3, D2, D3, E1, F1, F2
14	見学会 2	現況調査に基づき、検査対象部位、判定基準について学習する。	A3, C1, C3, D2, F1, F2
15	見学会で得た知見を整理しながら、種々の評価法から住宅全体の性能を評価する。	構造、火災、耐久性、エネルギー、空気環境、光環境、音環境を総合して性能評価することを学ぶ。	A3, C1, C3, D2, D3, E1, F1, F2

事前事後学習の内容：演習の自己採点と自己の設計課題図面の性能表示基準における位置づけを行うこと。

評価方法：成績評価はレポートを課し、各項目の内容の60%以上を理解していることを合格点とする。A3, B1, C1, C3, C4, D2及びD3について構造、設備、安全についての基礎知識とその評価能力や構造物や設備等に必要の構造、強度、性能、材料を想定できるかその理解度を問う。レポートの表現を通じてE1, F1, F2についてその理解とプレゼンテーション能力を評価する。

教材：必要に応じてプリント資料を配布する。時事的価値のある新聞記事の配布や、実例を把握するためビデオ視聴を行うこともある。

備考：

科 目 名：構造設計演習及び材料学実験（平成 28 年度以前入学生対象）

英語表記：Structural Design Seminar and Material Experiment

担当教員：渡部 嗣道・酒井 英樹

授業形態：演習＋実験 単位数：2 開講年度・学期：平成 30 年度・3 年後期

科目ナンバリング：HBSTR3303

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：建築物における構造設計は、人的な安全性を確保するための最も重要な生産過程の一つである。また、材料の物理的性質を解明することは、構造安全性や耐久性のみならず、居住環境における快適性を評価する上でも不可欠である。これらの建築構造・材料に関する設計および実験技術を教授する。

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度											◎										

科目の主題：建築材料学、環境材料学、構造力学Ⅰ・Ⅱおよび建築構造学Ⅱの授業で学んだ基礎的な知識の実務的な応用として、材料学実験を行う。コンクリートの調合設計と力学的性質の評価実験、ならびに材料表面物性と質感に関する実験を行う。

授業内容・授業計画：コンクリートの調合設計は、演習形式で学習を行う。これに続くコンクリートの諸性質の測定および材料表面物性と質感については実験形式で学習を行う。

回	テ ー マ	概 要	構 成 要 素	学習・教育目標
1	材料表面物性測定	建築材料表面の反射特性を計算する。	日射反射率，視感反射率	D2
2	材料表面物性測定	建築材料表面の反射特性を測定する。	日射反射率，視感反射率	D2
3	材料表面物性測定	建築材料表面の反射特性を分析する。	日射反射率，視感反射率，JIS	D2
4	材料質感評価実験	建築材料の視覚評価実験を行う。	視感反射率，輝度	D2
5	材料質感評価実験	建築材料の視覚評価の分析を行う。	視感反射率，輝度	D2
6	材料質感評価実験	建築材料の触覚評価実験を行う。	光沢度	D2
7	材料質感評価実験	建築材料の触覚評価の分析を行う。	光沢度	D2
8	コンクリートの調合 1	鉄筋コンクリートの中性化による寿命の概念に関する知識を学ぶ。	コンクリート，中性化	D2
9	コンクリートの調合 2	コンクリートの調合計算の方法を学ぶ。	調合，調合強度，単位重量	D2
10	コンクリートの調合 3	コンクリートの調合計算を行う。	調合，調合強度，単位重量	D2
11	コンクリートの調合 4	コンクリートの調合計算を行う。	調合，調合強度，単位重量	D2
12	コンクリートの物性試験 1	コンクリートの試験体を作製する。	圧縮試験，調合，練混ぜ，脱型	D2
13	コンクリートの物性試験 2	コンクリートの圧縮試験を実施する。	圧縮試験，アムスラー	D2
14	コンクリートの物性試験 3	データ整理を行い、物性値を求める。	圧縮強度，ヤング係数	D2
15	コンクリートの物性試験 4	まとめ		

事前・事後学習の内容：配布資料を使って予習・復習すること。

評価方法：レポート 100%。

教 材：特になし。授業中に資料を配布。

備 考：履修制限を実施することがあるため、履修希望者は初回に必ず出席すること。

関数電卓を常備しておくこと。

科目名：卒業研究
 英語表記：Graduation Study
 担当教員：全教員
 授業形態：演習 単位数：10 開講年度・学期：平成30年度・4年集中（通年）
 科目ナンバリング：HBACA4403
 当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：4年間の学びを論文または制作に集約し、居住空間・環境における課題を発見し、与条件のもとで企画・立案・実行する能力や論理的プレゼンテーション能力等を身につける。

学習・教育目標	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)
関与の程度	◎	○	◎	◎	○	◎	◎

科目の主題：この演習において学部専門教育の集大成を行う。

4年間の集大成として、居住環境学における専門領域の論文や制作に取り組む。

授業内容・授業計画：それぞれの所属研究室におけるゼミ指導のほか、中間発表会等において複数教員の指導を受け、最終的な成果を発表する。

テーマ	回数	概要	構成要素	学習・教育目標
卒業論文・卒業制作にむけた準備・指導	30	卒業論文又は制作を進めるにあたって必要な知識や能力を付与し、居住環境学における専門教育の統合を目指す。研究室でのゼミ、合同ゼミ、中間発表により、途中経過の確認と修正のための指摘を行う。	卒業論文又は制作に向けた準備と実践	A-Gの全て
卒業論文・卒業制作の完成ならびに発表	30	指導を踏まえて、卒業論文または制作を修正、完成させる。さらに、完成後に発表会を行う。	卒業論文又は制作の実施と完成、プレゼンテーション	A-Gの全て

事前・事後学習の内容：時間外の学習を前提とする。

評価方法：中間発表会、卒業研究発表会で発表すること、また中間発表会では2ページ、発表会では4ページの梗概ならびに、研究論文または制作（A1用紙10枚および模型）の提出を条件とする。成績は、梗概、論文または制作ならびにその発表内容を、学習教育目標に対する達成状況に照らして評価する。なお、実施日、提出期日を過ぎたものは評価対象外とするが、病気等の特別な事情がある場合は申し出ること。

教材：別途指示する。

備考：合同ゼミ、中間発表会、発表会の実施日、論文または制作課題の提出期日は、別途指示する。



教職関係科目シラバス

科 目 名：家庭科教育法 I

英 語 表 記：Teaching Method in Family Living and Environment I

担 当 教 員：（北村 由賀）

授 業 形 態：講義

単 位 数：2 単位

開講年度・学期：平成31年度(2年, 3年集中)

科目ナンバリング：KHHOM2201

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：中学校・高等学校家庭科の学習意義や目標・内容の概要を理解し、学習指導案の作成・実践・評価といった家庭科授業を行うための基礎的・基本的な力を身に付ける。

科目の主題：家庭科の意義・目標・内容、学習指導案の作成方法、授業づくりの工夫、家庭科における評価等、授業を行ううえで必要な内容について講義する。また、学習指導案の作成、模擬授業といった演習活動を通して、実践的な力を身に付ける。

授業内容・授業計画：教材、資料に基づいて講義・演習を行う。

回	テ ー マ	概 要
1	オリエンテーション	シラバス, 評価についての説明
2	家庭科教育の意義	家庭科をなぜ学ぶのか, 家庭科教育の意義等
3	家庭科教育の目標と内容	小・中・高等学校の家庭科の目標と内容
4	題材構成と授業づくり 1	題材の設定方法について
5	題材構成と授業づくり 2	題材間のつながりを考慮した題材設定
6	教材研究と授業づくり 1	アクティブ・ラーニングの視点に立った授業
7	教材研究と授業づくり 2	授業のねらい, 振り返りの場面を取り入れた授業
8	学習指導案について	学習指導案の作成方法
9	学習指導案の作成	学習指導案の作成
10	学習指導案と評価	学習指導と学習評価
11	観点別学習状況の評価	目標に準拠した評価
12	模擬授業 1	作成した学習指導案に基づいた模擬授業, 検討会
13	模擬授業 2	作成した学習指導案に基づいた模擬授業, 検討会
14	授業づくりの工夫 1	実践的・体験的な学習活動
15	授業づくりの工夫 2	問題解決的な学習等多様な授業方法及び全体まとめ

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評 価 方 法：授業への出席・課題の作成（50%）学習指導案の作成（20%）模擬授業（30%）

評価観点 1 家庭科の目標と内容について理解している

評価観点 2 家庭科における評価の意義と方法について理解している

評価観点 3 家庭科の授業について理解している

教 材：「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」「高等学校学習指導要領解説 家庭編」

（教科書, その他の資料に関しては各講義時に連絡）

科目名：家庭科教育法Ⅱ

英語表記：Teaching Method in Family Living and EnvironmentⅡ

担当教員：(北村 ^{キタムラ} ^{ユカ} 由賀)

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度（2年，3年集中）

科目ナンバリング：KHHOM2202

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：家庭科の系統性を踏まえたうえで、授業方法、教材についての考察や問題解決型学習への取り組みなど、総合的に家庭科への理解を深めることを目的とする。

科目の主題：新学習指導要領家庭科の内容構成「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」について概説する。また、各々の内容に関する、授業の組み立て方、教材の作成について講義・演習し、教材作成、模擬授業等を行う。

授業内容・授業計画：教材、資料に基づいて講義・演習を行う。

回	テーマ	概要
1	オリエンテーション	シラバス，評価についての説明
2	学習指導要領家庭科	小・中・高等学校家庭科の各内容
3	家庭科の授業づくり1	家庭科の授業の組み立て
4	家庭科の授業づくり2	「育成をめざす資質・能力」を明確にした評価
5	「A 家族・家庭生活」の指導内容	学習内容についての理解，題材設定
6	「A 家族・家庭生活」の教材	指導案作成，指導内容に沿った教材作成
7	「B 衣食住の生活」の指導内容	学習内容についての理解，題材設定
8	「B 衣食住の生活」の教材	指導案作成，指導内容に沿った教材作成
9	「C 消費生活・環境」の指導内容	学習内容についての理解，題材設定
10	「C 消費生活・環境」の教材	指導案作成，指導内容に沿った教材作成
11	「生活の課題と実践」の進め方1	問題解決型学習の理解
12	「生活の課題と実践」の進め方2	問題解決型学習の指導方法
13	作成した教材を用いた模擬授業1	作成した学習指導案並びに教材を使用した模擬授業，検討会
14	作成した教材を用いた模擬授業2	作成した学習指導案並びに教材を使用した模擬授業，検討会
15	振り返り	模擬授業の改善内容を含めたまとめ

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：授業への出席・課題の作成（60%）学習指導案の作成（20%）模擬授業（20%）

評価観点1 発達段階に応じた家庭科の目標と内容について理解している

評価観点2 効果的な家庭科教材について理解している

評価観点3 問題解決的な学習の進め方を理解している

教材：「小学校学習指導要領解説 家庭編」「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」

「高等学校学習指導要領解説 家庭編」

（教科書，その他の資料に関しては各講義時に連絡）

科目名：家庭科教育法Ⅲ

英語表記：Teaching Method in Family Living and Environment Ⅲ

担当教員：(吉井 美奈子)

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成31年度・2年、3年集中

科目ナンバリング：KHHOM2203

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：中学校「技術・家庭」の家庭分野教科書を総括的に理解し、中学校における家庭科の役割を認識することを主要な目的とする。また、高校と系統性を学ぶために、高校の内容についても触れながら、知識や理解を深める。

科目の主題：家庭生活のありようが多様化し価値観も変化する中で、「食生活、衣生活、住生活の見直しと改善」、「命の大切さ、幼児の遊び、子どもと家族、地域の人々とのふれあい、環境や資源を考えた暮らし」等、中学生にどのように教えたら楽しい授業になるかを講義する。

授業内容・授業計画：中学校教科書を中心に講義を行うが、必要に応じてプリントを配布したり、動画を使用したりする。実習も取り入れる。高校の教科書や資料も使用するが、必要な場合はこちらで用意する。指導案や模擬授業、教材づくりなどを通して、具体的に学ぶ。

回	テーマ	概要
1	オリエンテーション	シラバスについて説明。評価の方法など
2	家庭科とは、家庭科教育法とは	歴史、法規など
3	学習指導要領について	改訂のポイント、ねらい。小学校、高校家庭科との関連
4	変容する家族、家庭生活	家族とは、命の大切さ
5	中学生と食生活	健康な食生活
6	中学生の衣生活	衣類の洗濯、片づけなど、中学生らしい服装とは
7	住まいを見直そう	照明、整理整頓を考える
8	家族。幼児と遊び	幼児の遊び。おもちゃとおやつ
9	私と家族、家族と地域	家庭生活と地域との関わり
10	布を使って作品を製作	作品を提出する
11	学習指導案の作成①	学習指導案を作成する
12	学習指導案の作成②	学習指導案を提出する
13	学生による模擬授業①	学生による模擬授業を行う
14	学生による模擬授業②	学生による模擬授業を行う
15	まとめとレポートの作成	レポート提出

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：講義への参加度、熱意及びレポートを総合的に評価します[学習指導案作成(20%) / 模擬授業(20%) / 授業への積極性(20%) / レポート(20%) / 衣生活の作品(20%)]。テストはしません。

評価観点1 家庭科の目標と内容について理解している

評価観点2 家庭科教育の歴史と課題について理解している

評価観点3 家庭科授業について理解している

教材：教員が用意する。第一回目に自分が持っている家庭科の教科書を持参すること。

科目名：家庭科教育法Ⅳ

英語表記：Teaching Method in Family Living and Environment Ⅳ

担当教員：(吉井 美奈子)

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・2年、3年集中

科目ナンバリング：KHHOM2204

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：中学校「技術・家庭」、及び高校「家庭科」の内容を総合的に理解し、中学校・高等学校における家庭科の役割を認識すること、授業展開を実践的に身に付けることを主要な目的とする。家庭科の内容は多岐にわたるため、主な内容を選択し、実際に授業をする際の注意点等を議論しながら進めていく。

科目の主題：既に学んでいる家庭科指導法Ⅰ～Ⅲの内容を振り返り、家庭科の授業を行うための注意点や授業の流れなどを学習したうえで考えつつ、授業の組み立て方などを講義する。その上で、模擬授業を行い、その内容について振り返りをする。

授業内容・授業計画：中学校「技術・家庭」の家庭分野教科書、及び高校の「家庭科」の教科書を用いる。出版社によって違いがあるため、第1回目の授業時に説明する。模擬授業を通して実践的な力を養う。

回	テーマ	概要
1	オリエンテーション	シラバスについて。評価方法の確認。 これまで学んできた内容と教科書等の確認。
2	家庭科を学ぶ意義	家庭科を学ぶ意義、家庭科で学ぶことの意義。他教科との比較。
3	授業を観察し、分析する①	授業の観察、流れのデータを作成する。
4	授業を観察し、分析する②	授業の観察、流れのデータから分析をする。
5	指導案作成	指導案を作成し、授業のめあてを明確にする。
6	年間授業計画作成	学修指導要領と年間指導計画を作成する。
7	教材作成課題①	分かりやすく伝える教材づくりを行う。ICT教材も検討する。
8	教材作成課題②	①で作成した教材を評価し、改善を行う。
9	教材の違いと学び	教材の違いと子どもたちの理解について議論する。
10	科学的視点を育む教材	科学的視点の必要性。教材づくりを行う。
11	多様な価値観の学び	多様な価値観を議論する意義と学ぶ方法。
12	複数の領域との授業	領域と学習課題。領域を繋ぐカリキュラムデザインについて。
13	交流を通して視点を広げる	地域の高齢者、幼児との交流体験を考える
14	学習を評価する	生徒による評価、教師による評価、様々な評価について学ぶ
15	まとめとレポートの作成	まとめと、家庭科の今後の課題について

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：集中講義のため授業中のレポート課題を重視する。

評価観点1 家庭科の目標と内容について理解している

評価観点2 家庭科教育の歴史と課題について理解している

評価観点3 家庭科授業について理解している

教材：各自が家庭科指導法Ⅰ～Ⅲで使用した教科書等を持参する。初日に持参すること。何もない場合は、開隆堂または東京書籍の「高校家庭科・総合」を購入すること。

科目名：生徒指導論

科目英文名：Theory of Guidance

担当者：(松本 ^{マツモト} ^{クニエ} 訓枝)

種別：講義

単位数：2単位

学年・学期：平成30年度・2年集中

科目ナンバリング：KHSTU2201

当学科学生以外の受講：可

講義の目的：生徒指導の意義と原理、指導方法、生徒指導に関連した学校教育の現場におけるさまざまな取り組みの実態を理解する。

講義の概要：生徒指導の意義と原理、指導方法を理解した上で、今日の学校教育における生徒指導の実践をさまざまな側面から検討する。また、生徒指導の役割および今後の課題、これからの生徒指導の展望についての理解を深める。

講義方法：講義の形式を基本とするが、ディスカッションなどを随時取り入れながら進めていく。

授業内容

回	テーマ	概要
1	オリエンテーション	講義の概要・目的・進め方・成績評価の方法など
2	生徒指導とは何かⅠ	生徒指導の意義と内容
3	生徒指導とは何かⅡ	生徒指導の原理と方法
4	生徒指導とは何かⅢ	児童・生徒理解と生徒指導
5	生徒指導のあり方Ⅰ	生徒指導の体制・組織
6	生徒指導のあり方Ⅱ	保護者・地域との連携による生徒指導
7	生徒指導のあり方Ⅲ	生徒指導と教育相談
8	生徒指導の実践Ⅰ	問題行動の理解と対応
9	生徒指導の実践Ⅱ	いじめ問題への対応
10	生徒指導の実践Ⅲ	不登校問題への対応
11	生徒指導の実践Ⅳ	暴力行為、体罰、校則等の問題
12	生徒指導の実践Ⅴ	学級経営と生徒指導
13	生徒指導の実践Ⅵ	事例検討
14	生徒指導の課題と展望Ⅰ	教育問題への対応・予防策の検討
15	生徒指導の課題と展望Ⅱ	教育問題への対応・予防策の検討

事前・事後学習：毎回の授業で指示する。

評価方法：授業参加度（10%）、小レポート（60%）、教育問題への対応・予防策に関するグループ発表（30%）によって総合的に評価する。

評価の観点1 生徒指導の意義と原理を理解している

評価の観点2 生徒指導の方法を理解している

評価の観点3 生徒指導の今日的動向・課題を理解している

教科書：文部科学省『生徒指導提要』教育図書、2011年

参考書：小泉令三編著『よくわかる生徒指導・キャリア教育』ミネルヴァ書房、2010年

久富善之・長谷川裕・山崎鎮親編『図説 教育の論点』旬報社、2010年

備考：進度等に応じて、授業内容を変更する場合がある。

(担当者からの一言)：生徒指導の基本を理解し、生徒指導の実践例をもとにどのような生徒指導が求められるのかを、みなさんと深めていきたいです。

科目名：被服学概論

英語表記：Clothing and Textile Science

担当教員：(村田 ^{ムラタ} ^{ヒロコ} 浩子)

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成31年度・2年、3年集中

科目ナンバリング：KHCCS2201

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：衣服は、人間にとって身体保護、身体衛生の維持において生活必需品であると同時に、審美性、社会性を伴う個性表現の手段である。近年は、手軽に安価な既製品が入手可能であり、あふれる衣料品の中で良質の衣服を選ぶ力が求められてくる。衣服の着用目的及び機能など、また年々市場に送り出される新しい素材について学修し、それらの力を身につけることを目的とする。

科目の主題：被服に対する正しい知識を身につけるため、被服材料学、被服衛生学、被服管理学を中心に解説する。

授業内容・授業計画：講義は基本的にスライドに沿って行い、必要に応じてプリントを配布したり動画を使用する。

回	テーマ	概要
1	はじめに	被服学とは
2	被服材料とその性能	天然繊維の構造と性質
3	被服材料とその性能	化学繊維の構造とその性質
4	被服材料とその性能	糸の構造と性質
5	被服材料とその性能	布の構造と性質
6	被服の機能	衣服の温熱的機能性
7	被服の機能	衣服の着用感
8	被服の機能	衣服の運動機能性
9	被服の管理	衣服の洗浄、漂白、仕上げ、
10	被服の管理	衣服の保管、保存
11	被服の管理	衣服の加工
12	被服の機能とデザイン	衣服のバリアフリー
13	被服の機能とデザイン	衣服におけるユニバーサルデザイン
14	被服の機能とデザイン	子どもから高齢者用の衣服について
15	まとめ	現代生活の衣生活における問題点

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：レポート70%、授業中の提出物30%

教材：教員が用意する。印刷物を配布

科目名：被服構成学

英語表記：Clothing Construction

担当教員：(村田 ^{ムラタ} ^{ヒロコ} 浩子)

授業形態：実習

単位数：1単位

開講年度・学期：平成30年度・2年、3年集中

科目ナンバリング：KHCCC2201

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：被服の着用目的と機能を理解した上で、被服構成の知識や技術を教材の製作を通じて習得させることを目的とする。

科目の主題：人間は数千年も昔から、布を裁ち、縫合する裁縫という営みを続けてきた。その裁縫を科学的に体系化したものが被服構成学である。被服を構成するために必要な諸要因である被服設計、製作、材料、着装の課程を科学的に学修する。

授業内容・授業計画：授業は資料を中心に行うが、必要に応じて動画を使用する。立体構成、平面構成を学習するため甚平とショートパンツを製作課題とする。

回	テーマ	概要
1	はじめに	被服構成学とは
2	人体計測	人体の体型、構造、形状の把握
3	人体計測	人体計測機器について
4	人体計測	採寸方法について
5	デザインの設定	目的、用途に応じたデザイン選択
6	パターンメイキング	原型の製図
7	パターンメイキング	決定したデザインの製図
8	ショートパンツ甚平の製作	型紙の配置、裁断
9	ショートパンツ甚平の製作	印つけ、仮縫い
10	ショートパンツ甚平の製作	試着、補正、試着
11	ショートパンツ甚平の製作	本縫い（ショートパンツ）
12	ショートパンツ甚平の製作	本縫い（甚平身頃）
13	ショートパンツ甚平の製作	本縫い（甚平衿）
14	ショートパンツ甚平の製作	本縫い（甚平袖）、仕上げ
15	講評	完成した作品の着装評価

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：完成作品70%、授業取り組み態度30%

教材：教員が用意する。

科目名：食物学 I

英語表記：Food Science I

担当教員：市川 直樹
イチカワ ナオキ

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・全学年後期

科目ナンバリング：KHFFS1101

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：食べ物（栄養素）がどのように消化、吸収され、体の中で利用されているのかを理解する。

この科目は、QOLプロモーターを目指す生活科学部学生、および居住環境学科の学生で高等学校または中学校家庭科教諭を目指す学生を対象としている（詳細は履修概要を参照のこと）。

科目の主題：人体に必須の栄養素である糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラルなどの消化、吸収、人体での利用のしくみを説明する。

授業内容・授業計画：教科書を用いて講義するほか、補助的にプリントを利用することもある。

回	テーマ	概要
1	栄養とは	栄養のもつ3つの役割について。
2	栄養素の「燃焼」	身体の活動に必要なエネルギーになる栄養素について。
3	エネルギーとATP	栄養素が「燃焼」し、エネルギーになるしくみについて。
4	水は大切な体の成分	体に含まれる水と無機イオンの恒常性について。
5	糖質の消化吸収と利用	糖質の種類とその消化、吸収のしくみ、燃焼のしくみ。
6	脂質の生理機能	脂質にはどのようなものがあるか、脂質の体の中での働き、水に溶けない脂質が血液をどのように輸送されているか、など。
7	脂質の消化吸収と利用	脂質の種類、消化、吸収のしくみ、脂肪組織に脂肪が貯蔵されるしくみ、脂肪の燃焼のしくみなど。
8	コレステロール	何かと悪者にされるコレステロールの体の中での働きと、過剰摂取からくる疾病のしくみについて。
9	アルコールの代謝	飲んだお酒はどこへゆく？ お酒の飲めるひとと飲めないひとはどこが違う？
10	タンパク質の消化吸収	タンパク質、アミノ酸の消化、吸収のしくみ。
11	ビタミンは代謝の潤滑剤	ビタミンにはどのようなものがあり、体の中でどのように利用されているか。
12	無機栄養素としてのミネラル	塩分、カルシウムの摂取、人体での利用について。
13	食物繊維	食物繊維とは何か、なぜ必要かなどについて。
14	運動と栄養	有酸素運動、遅筋と速筋などについて。
15	まとめ	授業を振り返り、自身の食生活について考えて、文章にまとめる。

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：定期試験で評価する。

教材：田川邦夫 著「からだの働きからみる代謝の栄養学」タカラバイオ/丸善

科 目 名：食物学Ⅱ

科目英文名：Food Science Ⅱ

担当教員：マトバ テルヨシ 的場 輝佳

授業形態：講 義

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・全学年前期

科目ナンバリング：KHFFS1102

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：食べ物と生活について、生活者から見た食物の意義を理解する。この科目は、居住環境学科、人間福祉学科の学生で、高等学校または中学校家庭科教諭を目指す学生、および、QOLプロモーターを目指す学生を対象としている（詳細は履修概要を参照のこと）。なお、食物学Ⅰと関連性の強い科目であるが、受講順序はⅠ、Ⅱのどちらからでもよい。

科目の主題：食資源、食べ物の機能（栄養性と嗜好性）、調理・加工、消費生活と食文化などを、食物科学の視点から概説する。

授業内容・授業計画：教科書を用いて講義するほか、補助的にプリントや映像を利用することもある。

回	テ ー マ	概 要
1	食物と生活環境	日本と世界の食資源と地球環境
2	食生活と健康	日本人の食生活と健康
3	食物の嗜好性Ⅰ	食物のおいしさ、色
4	食物の嗜好性Ⅱ	食物の味、食感
5	植物性食材の特徴	穀類、野菜、果実の成分および調理・加工特性
6	動物性食物の特徴	肉、魚介類の成分および調理・加工特性
7	食物の健康増進作用	食物に由来する健康増進機能成分と疾病予防
8	食物の品質変化Ⅰ	食物の調理、加工、保蔵の過程で起こる酸化など
9	食物の品質変化Ⅱ	食物の調理、加工、保蔵の過程で起こる着色、熟成など
10	食物の安全性Ⅰ	食物の天然有害物質、微生物による食中毒、食品添加物の功罪
11	食物の安全性Ⅱ	遺伝子組み換え作物および有機農作物
12	食物と消費者Ⅰ	食物に関する法律（食品衛生法、健康増進法、食品表示法、リサイクル関連法律など）
13	食物と消費者Ⅱ	消費者行動
14	食文化	和食の歴史と魅力、日本料理と世界の料理（中国料理、韓国および東南アジア料理、欧州料理など）の特徴
15	総括	これまでの授業内容を総括し、確認テストを実施する

輔・習得内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：主として定期試験で評価するが、レポート、提出状況を加味して総合評価する。

教科書：的場輝佳 編著『食物科学概論 改訂版』朝倉書店

参考書：『食材図典』小学館、『日本食品成分表』女子栄養大出版部、『日本食生活全集－聞き書き 各都道府県の食事』（全50巻）農山漁村文化協会

科目名：調理実習

英語表記：Food Preparation

担当教員：小島 明子・(佐伯 孝子)

授業形態：実習

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・2年集中

科目ナンバリング：KHFFP2201

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の目的：多くの食品は、調理という過程を経てよりおいしく、消化吸収し易くなり、われわれの健康保持、増進に役立つ食物となる。そこで調理を行う行動の中で、科学的に調理を感じ取り健康的な食生活を送ることを目的とする。

講義の内容：素材の見分け方・扱い方、種々の調理法、配膳方法について、日本料理・西洋料理・中国料理別に調理の基礎から実習する。

到達目標：基本的な調理技術を習得し、献立にそった調理法を組み合わせることで料理を完成することができる。

授業方法：教科書に沿って実習を行う

回	テーマ	概要
1	実習の概要説明	調理実習心得・衛生管理・実習準備、計量・洗浄の方法
2	調理の基礎	包丁の種類と使い方、種々の切り方、鍋を使つての炊飯、出汁の引き方、出し巻き卵の作り方、米粉の使い方
3	日本料理の基礎①	日本料理の特徴・種類・盛り付けかた・配膳の基本・テーブルマナー
4	日本料理の基礎②	魚の三枚おろし、煮物、蒸し料理の種類と方法、卵の調理性、南蛮漬け
5	西洋料理の基礎①	西洋料理の特徴・種類・盛り付けかた・配膳の基本・テーブルマナー
6	西洋料理の基礎②	スープの種類、ブイヨンの取り方、ソースの作り方、サラダ・ドレッシングの種類と作り方、ゼラチンの調理性、
7	中国料理の基礎①	中華料理の特徴・種類・盛り付けかた・配膳の基本・テーブルマナー
9	中国料理の基礎②	湯の取り方、揚げ物調理法、涼拌、寒天の扱い方、魚料理
9	日本料理	すし各種、うしお汁
10	中国料理	桂むきの練習、肉の種類と部位による使い分け、酢豚、炒飯
11	日本料理	もち米、いりこだしのとり方、味噌の種類、天ぶらのコツ、焼きものの種類と方法、松花堂弁当
12	中国料理	点心の種類、発酵、包子の作り方、粥の炊き方
13	西洋料理	ビュッフェ形式の盛り付けかた・テーブルマナー、ポタージュスープ、煮込み料理、スポンジケーキ、マヨネーズの作り方、行事食
14	日本料理	正月料理、串の刺し方、
15	自主献立	自主献立の実施、実技テスト

事前・事後学習：毎回の授業で指示する。

評価方法：授業への取り組みを評価50%、実習時技術到達度・実技テスト30%、レポート20%など総合的に評価する。

教科書：「新版 現代食生活のためのクッキング」現代食生活研究会

備考：

(担当者からの一言)：家庭科教諭をめざす学生対象の内容

科目名：住居学概論

英語表記：Introduction to Housing Study

担当教員：永村 ^{エムラ} 一雄・森 ^{カズオ} 一彦・小伊藤 ^{モリ} 亜希子 ^{カズヒコ} ^{コイトウ} ^{アキコ}

授業形態：演習

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・1年・1年集中（後期）

科目ナンバリング：KHHIH1101

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：この講義は、居住環境学科以外の学生で、高等学校または中学校家庭科教諭を目指す学生のために開講されるものである。教育職員免許法施行規則に定められる内容のうち、主として「住居学」の内容を学ぶためのものである。

科目の主題：住居学全般について演習を含めて教授する。気候・風土との関わりから住居の成り立ちを解説し、住宅の材料と構造が住まいの形態に与える影響について論じる。また、住まいの快適性と安全性を図るための方策について述べる。さらに、日本の住居の発展過程を解説し、現在の到達点と当面する諸問題について論じる。加えて、現代住居の多様な側面、例えば住宅事情、住まい方、集住形態とコミュニティ、居住環境などを取り上げて解説し、未来の居住空間について展望する。製図に関しては、表示記号や木造住宅などの図面について学び、演習を行う。

授業内容・授業計画：

回	テーマ	概要	構成要素	学習・教育目標
1	住まいの発達史	明治以降、日本の住まいの変遷	近代化と洋風化、標準設計、起居様式	A2, C3
2	家族と住まい	現代の住生活と住み方	住要求、世帯構成の変化、ライフスタイルの変化、集住	A2, C4
3	現代住居をめぐる諸問題	住宅問題、住宅事情、住宅政策	持ち家と借家、居住水準、セーフティネット	A2, C4
4	居住環境構造	居住空間を構成する住宅の構造について、力学や耐震、耐久性の観点から学ぶ	木構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造、構法、特性、力学	D1, D2
5	居住環境材料	居住空間を構成する建築材料の基本特性を学ぶ	土、石、木、コンクリート、金属、弾性、塑性、物理的特性、工法	D1, D2
6	居住環境設備	音・光・熱・空気等の環境要素と居住環境へのかかわり、建築防火の基礎を学ぶ	住宅性能評価、環境指標、省エネルギー指標、防火対策、防火器具	D3, D4
7	住宅の計画1	どんな住宅がよいかを考える（設計主旨）	住宅の計画法と構法	C, D, E
8	住宅の計画2	家族構成を考える。	住宅の計画法と構法	C, D, E
9	住宅の計画3	諸室の構成を考える	住宅の計画法と構法	C, D, E
10	住宅の計画4	住宅の平面（部屋のつながりと位置関係）を考える	住宅の平面計画と設計	C, D, E
11	住宅の計画5	計画案を発表する	住宅の平面計画と設計	C, D, E
12	住宅の計画6	投票と評価を行う	住宅の平面計画と設計	C, D, E
13	住宅の計画7	最近の住宅トレンドを知る	住宅の平面計画と設計	C, D, E
14	住宅の計画8	実際の住宅を見学する	住宅の見学と調査	C, D, E
15	住宅の計画9	住宅を比較する	住宅の見学と調査	C, D, E

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：出席とレポート

教材：資料を配布する。

科目名：保育学

英語表記：Childcare Studies

担当教員：(堀^{ホリ} 智晴^{トモハル})

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・2年、3年集中

科目ナンバリング：KHNS2201

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：保育についての理論を学び、保育施設における実践について学ぶ。

科目の主題：保育とは何か、保育の歴史、保育の現行制度、保育実践の意義と研究方法について講義するとともに保育実践現場における事例研究を行う。また、インクルーシブ保育についてその歴史を学び、目的、内容、方法について学ぶ。

授業内容・授業計画：講義方式と演習形式を併用する。保育所における実践事例について検討する。

回数	テーマ	概要
1	オリエンテーション	本講義の目的と予定について述べる。
2	保育とは	保育とは何か、保育の基本的性格について講義する。
3	保育の思想と歴史①	保育の思想と歴史（子育てと保育）について講義する。
4	保育の思想と歴史②	保育機関における保育について講義する。
5	保育所、幼稚園の保育	保育所保育指針と幼稚園教育要領について解説する。
6	こども園の保育	子ども園教育・保育要領について解説する。
7	保育実践研究の方法①	保育実践と子ども理解について講義する。
8	保育実践研究の方法②	保育実践と子どもへの願いについて講義する。
9	保育実践研究の方法③	保育実践と手だてについて講義する。
10	インクルーシブ保育の歴史	インクルーシブ保育の歴史について講義する。
11	インクルーシブ保育の特色	インクルーシブ保育の特色について講義する。
12	インクルーシブ保育事例研究①	一対一の対応のあり方について講義する。
13	インクルーシブ保育事例研究②	子どもどうしの関係づくりについて講義する。
14	インクルーシブ保育事例研究③	クラスづくり、園づくりについて講義する。
15	まとめ	本講義のまとめを行う。

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：授業参加度（50%）、議論への参加（20%）、最終レポート（30%）により評価する。

教材：堀 智晴著『保育実践研究の方法』川島書店。

適宜、実践を記録したDVD、資料を活用する。

備考：

受講生へのコメント：保育実践にふれる機会を持ち、子どもとふれあうボランティア体験をすすめたい。

科目名：学校栄養教育実習

英語表記：Practice in Teaching (Nutrition)

担当教員：上田 ^{ウエダ} 由喜子・添田 ^{ソエダ} 晴雄（文学部教員）・島田 ^{シマダ} 希 ^{シノミ}（文学部教員）

授業形態：実習

単位数：1単位

開講年度・学期：平成30年度・4年集中

科目ナンバリング：KKPRA4403

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：教育実習を通して教職への意義をさらに高めることを目的とする。

科目の主題：大学の教職科目で履修した教育理論を踏まえて、教育実践を実地に体験することを通して教職に関する実践的指導力の基礎を身につける。

授業内容・授業計画：小学校あるいは中学校での実習。
各教育実習校の計画にそって行う。

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：教育実習校での評価を参考にして教育実習担当者会議で評価する。

教材：大阪市立大学編「教育実習の手引き」

備考：教育実習を希望する者は、前年度の教育実習ガイダンスに必ず出席し、教育実習校に対する依頼手続きを進めておかなければならない。栄養教育実習と同時に履修する教職実習事前事後指導のシラバスは、文学部のシラバスを閲覧すること。

受講生へのコメント：実習では、学級担任教諭の指導の下、授業法ならびに児童生徒への声かけ等について実地に学ぶこと。学校教育全体の中に位置づけられる“食に関する指導”について主体的に学修すること。

科 目 名 : 教職実践演習 (栄養教諭)

英語表記 : Practical Seminar on Teaching (Nutrition)

担当教員 : 小島 明子・上田 由喜子・島田 希 (文学部教員) 他

授業形態 : 演習

単 位 数 : 2 単位

開講年度・学期 : 平成30年度・4 年集中

科目ナンバリング : KKSEM4402

当学科・コース学生以外の受講 : なし

授業の到達目標 : 専門的な知識・技能を基に、教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を持って、学校給食経営管理を行いつつ、教科学習における食に関する指導、個別栄養カウンセリング、生徒指導等の職務を実践できる資質能力が身に付いているかを確認する。

科目の主題 : 教職課程の個々の科目の履修および教職に関するさまざまな経験を振り返る。次に、専門的な知識・技能を基に、教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を持って、発育発達期における栄養管理に基づき学校給食経営管理を行いつつ、教科学習における食に関する指導、個別栄養カウンセリング、生徒指導等の職務を実践できる資質能力が身に付いているかについて確認する。さらに、教職キャリアを通しての今後の課題を考える。

授業内容・授業計画 : 主として、演習形式とする。

テーマ	予定回数	概 要
オリエンテーション	2	本科目の意義、目標、進め方、グループ開き (添田・小島・上田)
栄養アドバイザーとしての 栄養教育	2	教職に求められる資質能力について ブレインストーミングの説明と演習 (添田・上田)
学習履歴の振り返りと教職 に求められる資質能力	2	教職課程の個々の科目の履修 (教職課程履修カルテ利用) と教職に関するさまざまな経験を振り返り、それをブレイン ストーミングで検討した教職に求められる資質能力と比較 する演習を行う (小島)
栄養教諭に求められる資質 能力について	2	栄養学、栄養教育論、栄養カウンセリングに関する学術的 知識習得状況、教科学習における食に関する指導能力につ いて自己評価を行い、今後の課題についてディスカッショ ンする (小島・上田)
学級経営、生徒理解、社会 性・対人関係能力育成	2	ゲストスピーカーによる講義、講義に基づくディスカッ ション (上田)
子どもに対する責任	2	ゲストスピーカー講義、講義に基づくディスカッション (上田)
自己評価・今後の課題 (演習)	2	教職に求められる資質能力について自己評価、今後の課題 について (添田・小島)
教職の意義	1	レポート作成 (添田・小島)

評価方法 : 授業中に課す小レポート50%、最終レポート30%、教職課程履修カルテ20%

教職実践演習運営委員会は毎年度初めに教職実践演習の評価に関する申し合わせについて協議し、学
年末において、上記の資料をもとに教職実践演習の評価を行う

教 材 : 配布プリント等による (参考書・参考資料等は授業中に指示する)

科 目 名 : 教育実習事前事後指導 (栄養教諭)

英 語 表 記 : Guidance in Teaching Practice (Nutrition)

担 当 教 員 : 添田 晴雄 (文学部教員) ・ 島田 希 (文学部教員) ・ 上田 由喜子

授 業 形 態 : 講義

単 位 数 : 1 単位

開講年度・学期 : 平成30年度 ・ 4 年集中

科目ナンバリング : KHPRA4404

当学科・コース学生以外の受講 : なし

授業の到達目標 : (1)教育実習に必要な具体的事項を知り、教育実習のための準備を行うことができる。
(2)教育実習に関連する基本的な問題を理解して、教育実習に向けた心構えができる。
(3)学生の視点からではなく、「教師」の視点から学校教育を見ることができるようになる。
(4)教育実習の体験を意義づけ、教職に対する理解を深める。

科目の主題 : 教育実習の事前と事後において、実習の準備と振り返りに関する指導を行う。実習の一般的な心構えと教育現場の教育活動に必要とされる知識・態度について理解を深める。実習後には教育実習の反省や考察を少人数による討論によって行う。

授業内容・授業計画 : 教育実習の前後に、以下の内容について行う。

回	テーマ	概 要
1	栄養教育実習について	母校および協力校での栄養教育実習について (上田由喜子)
2	栄養教育実習の心構え	栄養教育実習に臨む態度と諸注意について (上田由喜子)
3	学校と教育実習の実際	学校と教育実習の実際について (柏木 敦)
4	同和教育・特別支援教育	同和教育と特別支援教育について (島田 望)
5	協力校学校参観-1	授業観察 (柏木 敦・上田由喜子)
6	協力校学校参観-2	授業観察 (柏木 敦・上田由喜子)
7	栄養教育実習の経験交流-1	栄養教育実習報告会 (上田由喜子)
8	栄養教育実習の経験交流-2	栄養教諭としての課題について討議・省察 (島田 望・上田由喜子)

事前・事後学習の内容 :

事前学習 : これまでに教職課程等で学んだ事柄を振り返り、教育実習で取り組む課題を考える。

事後学習 : 各自の教育実習を振り返り、また他の履修者との経験交流を踏まえながら今後の課題を展望する。

評価方法 : 毎回の講義についてのレポートによる。本科目は、教育実習の評価と連動しているので、教育実習の評価と分割して評価しない。

評価観点1 教育実習に必要な具体的事項を理解している。

評価観点2 学生の視点ではなく、教師の視点から学校教育を理解している。

評価観点3 教育実習の体験を意義づけ、教職をより深く理解している。

教 材 : 大阪市立大学編『教育実習の手引き』

受講生へのコメント : 教育実習を行う年次に必ず出席して、教職と教育実習への意識を高めるように心がけること。



QOL プロモーター養成関係科目シラバス

科目名：QOLプロモーション

英語表記：QOLプロモーション

担当教員：^{トコロ}所 道彦・^{ミチヒコ}西川 禎一・^{ニシカワ}清水 由香・^{ヨシカズ}堀口 正・^{シミズ}早見直美・^{ユカ}小池志保子・^{ホリグチ}鵜川重和
^{タダシ}
^{ハヤミナオミ}
^{コイケシ}
^{ホコ}
^{ウカワシゲカズ}

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・1年通年

科目ナンバリング：HQLEC1101

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：QOL（Quality of Life：生活の質）の概念を学ぶ。

科目の主題：自然科学、社会科学の知見を紹介しつつQOLの概念について学ぶ。生活の質を構成する多様な要素について理解し、生活全体を捉える視点の重要性について学ぶ。また、生活の質を向上させるための取り組みの歴史、地域におけるQOL向上の取り組み、これからのQOLプロモーションのあり方について議論する。

授業内容・授業計画：オムニバス形式による講義とディスカッション・グループワークを組み合わせで行う。

テーマ	回数	概要
オリエンテーション	1	生活科学とQOLの概念
生活の多面性	1	生活を多面的に捉えることの意義と方法
QOLプロモーションの展開	1	日本における生活の質の向上をめぐる取り組みの歴史
QOLプロモーションと研究	1	日本におけるQOL研究の歴史
食生活とQOL	1	食生活の質について
居住環境とQOL	1	居住環境の質について
高齢者とQOL	1	高齢者のQOLを考える
障害者とQOL	1	障害者のQOLを考える
災害とQOL	1	日常生活と非日常生活のQOLについて考える
まちづくりとQOL	1	コミュニティデザインと地域住民のQOL
過疎地域の生活問題	1	過疎地域の生活ニーズについて学ぶ
超高齢社会の生活問題	1	超高齢社会におけるQOL研究
持続可能な社会とQOL	1	生活の質と持続可能な社会のあり方
QOLと専門職	1	生活の質と専門職の役割・協働
QOLプロモーションの課題	1	まとめ

事前・事後学習の内容：適宜、授業内で指示する。

評価方法：出席状況・授業中のディスカッションへの参加態度・レポート（授業での課題）などにより総合的に判断する。

教材：適宜、資料を配布する

備考：

目 名：QOLプロモーション演習 I

英語表記：QOL Promotion Fieldwork Practice I

担当教員：所 トコロ 道彦・ミチヒコ 小池志保子・コイケシホコ 西川 コシカワ 禎一・ヨシカズ 早見 ハヤミ 直美 ナオミ

授業形態：演習

単位数：1単位

開講年度・学期：平成30年度・1年集中

科目ナンバリング：HQPRA1101

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：本演習を通じて生活問題を体験し、受講生が「生活者の視点」を体得する糸口とする。

科目の主題：食品、居住環境、地域生活の視点からQOL概念の理解を深める。

授業内容・授業計画：学外演習

テーマ	回数	概要
オリエンテーション	1	QOL演習の目的と実施方法について
農場実習	1	神戸大学食資源センターでの農場実習：農業（春）
援農活動	1	「紀の国大学」援農活動：春
地域拠点の構築	1	和歌山県紀美野町の古民家改修プロジェクト（春）
地域拠点の構築	1	和歌山県紀美野町の古民家改修プロジェクト（春）
援農活動	1	「紀の国大学」援農活動：夏
地域拠点の構築	1	和歌山県紀美野町の古民家改修プロジェクト（夏）
地域拠点の構築	1	和歌山県紀美野町の古民家改修プロジェクト（夏）
地域拠点の構築	1	和歌山県紀美野町の古民家改修プロジェクト：夏
地域生活調査	1	古民家改修と関連して地域の実情と生活資源の状況を学ぶ
農場実習	1	神戸大学食資源センターでの農場実習：畜産（秋）
援農活動	1	「紀の国大学」援農活動：秋前半
援農活動	1	「紀の国大学」援農活動：秋後半
地域生活調査	1	古民家改修と関連して地域の実情と生活資源の状況を学ぶ
まとめ	1	演習のまとめ

事前・事後学習の内容：

評価方法：出席状況・レポート評価

教材：プリントを配布する。

備考：演習では、神戸大学食資源センターでの農場実習や、和歌山大学・大阪府立大学・近畿大学・摂南大学などと協働の「紀の国大学」としての援農活動、和歌山県紀美野町での古民家改修プロジェクトなどに取り組みます。実施時期は不定期で、回数は時間によって変更されます。詳しくはオリエンテーションの際に説明します。

受講生へのコメント：「QOL プロモーション」及び「QOL プロモーション演習 I」を同時に履修すること。

科 目 名：QOLプロモーション演習Ⅱ

英語表記：QOL Promotion Fieldwork Practice Ⅱ

担当教員：所 トコロ 道彦・小池志保子・西川 コシカワ 禎一・早見 ハヤミ 直美 ナオミ

授業形態：演習

単位数：1単位

開講年度・学期：平成30年度・1年集中

科目ナンバリング：HQPRA2201

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：QOLプロモーションⅠに引き続き、把握した生活問題やQOLニーズに対し、どのようにして改善策を検討して立案、実施するか、そのプロセスを体験する。

科目の主題：QOL向上のための生活科学の役割

授業内容・授業計画：学外演習

テーマ	回数	概要
オリエンテーション	1	QOL演習の目的と実施方法について
農場実習	1	神戸大学食資源センターでの農場実習：農業（春）
援農活動	1	「紀の国大学」援農活動：春
地域拠点の構築	1	和歌山県紀美野町の古民家改修プロジェクト（春）
地域拠点の構築	1	和歌山県紀美野町の古民家改修プロジェクト（春）
援農活動	1	「紀の国大学」援農活動：夏
地域拠点の構築	1	和歌山県紀美野町の古民家改修プロジェクト（夏）
地域拠点の構築	1	和歌山県紀美野町の古民家改修プロジェクト（夏）
地域拠点の構築	1	和歌山県紀美野町の古民家改修プロジェクト（夏）
地域生活調査	1	古民家改修と関連して地域の実情と生活資源の状況を学ぶ
農場実習	1	神戸大学食資源センターでの農場実習：畜産（秋）
援農活動	1	「紀の国大学」援農活動：秋前半
援農活動	1	「紀の国大学」援農活動：秋後半
地域生活調査	1	古民家改修と関連して地域の実情と生活資源の状況を学ぶ
まとめ	1	演習のまとめ

事前・事後学習の内容：

評価方法：出席状況・レポート評価

教材：プリントを配布する。

備考：QOLプロモーション演習Ⅰでの経験を基盤に、より高度な課題を設定します。

受講生へのコメント：「QOLプロモーション演習Ⅱ」の履修は「QOLプロモーション演習Ⅰ」を修得していること。

※平成27年度以前入学者は、「QOLプロモーションⅡ」及び「QOLプロモーション演習Ⅱ」を履修すること。

人間福祉学科シラバス
(講義概要)

平成 30 年度
(2018 年度)

大阪市立大学生活科学部

○科目ナンバリングの見方

桁目	1	2	3	4	5	6	7	8	9
項目	提供学部	提供学科等	科目分野			学習段階	対象学年	分野内連番	
共通	H:生科	X:3学科共通	FIR:初年次教育			1:基礎・入門レベル (概論, 予備知識なしで受講可能)	1:1年次以上	0	1
人福	H:生科	C:人福	<共通> ACA:卒論・関連科目 FIR:初年次教育 <社会福祉士関連科目> SWL:講義科目 SWS:演習・実習科目 <公認心理師関連科目> CPL:講義科目 CPS:実習・演習科目 CPE:実験系科目 <上記以外の専門科目> HWL:講義科目			1:基礎・入門レベル (概論, 予備知識なしで受講可能) 2:応用・中級レベル (専門科目のI, 予備知識必要) 3:発展・上級レベル (専門科目のII, 中級レベルの科目の知識が必要) 4:高度・難関レベル (卒論や高度な選択専門科目など, 総合的な知識, 学力が必要)	1:1年次以上 2:2年次以上 3:3年次以上 4:4年次以上	0	1
QOL	H:生科	Q:QOL	<中核科目> LEC:講義 PRA:演習 <関連科目> R:必修 (Required) FN:食品提供科目 (Food Nutrition) E:選択 (Elective) EN:居住提供科目 (environment) WE:人福提供科目 (welfare)			1:基礎・入門レベル (概論, 予備知識なしで受講可能) 2:応用・中級レベル (専門科目のI, 予備知識必要) 3:発展・上級レベル (専門科目のII, 中級レベルの科目の知識が必要) 4:高度・難関レベル (卒論や高度な選択専門科目など, 総合的な知識, 学力が必要)	1:1年次以上 2:2年次以上 3:3年次以上 4:4年次以上	0	1

人間福祉学科シラバス目次

ページ	授 業 科 目	担当者	科目No.
1	人間福祉学概論	堀口 他	H C F I R 1 1 0 0
2	発達臨床心理学 ／発達臨床心理学（福祉心理学）	長濱	H C C P L 2 2 0 1
3	発達心理学Ⅰ／生涯発達心理学Ⅰ ／こどもの臨床心理学	長濱	H C C P L 1 1 0 1
4	発達心理学Ⅱ／生涯発達心理学Ⅱ	後藤	H C C P L 1 1 0 2
5	生涯発達心理学Ⅲ ／障害者・障害児心理学	篠田	H C C P L 1 2 0 2
6	教育臨床学Ⅰ	中井	H C H W L 1 1 0 1
7	教育臨床学Ⅱ	中井	H C C W L 3 3 0 1
8	子ども学	中井	H C H W L 2 2 0 1
9	教育方法学	中井	H C H W L 2 2 0 2
10	社会福祉原理論	所	H C S W L 1 1 0 1
11	社会福祉学	鶴川	H C S W L 1 1 0 2
12	家族社会学Ⅰ／家族社会学	松木	H C S W L 1 2 0 1
13	家族社会学Ⅱ／家族福祉学	松木	H C H W L 2 2 0 3
14	社会保障論Ⅰ	所	H C S W L 2 2 0 2
15	社会保障論Ⅱ	垣田	H C S W L 2 2 0 3
16	児童福祉論	中島	H C S W L 2 2 0 4
17	外書講読	堀口 他	H C A C A 3 3 0 0
18	人格心理学／感情・人格心理学	長濱	H C C P L 3 3 0 2
19	カウンセリング／心理学的支援法Ⅲ	後藤・(小林)	H C C P L 3 3 0 3
20	心理アセスメント／心理的アセスメント	篠田	H C C P L 2 2 0 4
21	心理面接論／心理学的支援法Ⅰ	後藤・(原)	H C C P L 1 1 0 3
22	心理統計法／心理学統計法	篠田・(毛)	H C C P L 2 2 0 5
23	コミュニティ臨床心理学／コミュニティ心理学	三船	H C C P L 3 3 0 4
24	人間関係の心理学	三船	H C C P L 1 1 0 4
25	臨床心理学概論	三船	H C C P L 1 1 0 6
26	医学概論	大西	H C S W L 1 1 0 5
27	ソーシャルワーク原論Ⅰ	(増田)	H C S W L 2 2 0 6
28	ソーシャルワーク原論Ⅱ	大西	H C S W L 2 2 0 7
29	ソーシャルワーク論Ⅰ	鶴浦	H C S W L 2 2 0 8
30	ソーシャルワーク論Ⅱ	野村	H C S W L 2 3 0 1
31	ソーシャルワーク論Ⅲ	清水	H C S W L 3 4 0 1
32	ソーシャルワーク論Ⅳ	岡田進	H C S W L 3 4 0 2

ページ	授 業 科 目	担当者	科目No.
33	地域福祉論 I	野村	H C S W L 2 3 0 2
34	地域福祉論 II	野村	H C S W L 3 2 0 3
35	介護学	(沖田)	H C S W L 2 3 0 3
36	生活経済学	(服部)	H C H W L 2 2 0 4
37	公的扶助論	垣田	H C S W L 2 2 1 0
38	ワーク・ライフ・バランス政策論 I / 就労支援論	垣田	H C H W L 2 3 0 1
39	ワーク・ライフ・バランス政策論 II / 社会政策学	垣田	H C H W L 1 1 0 2
40	福祉社会学 I / 社会病理学	松木	H C H W L 2 3 0 2
41	福祉社会学 II / 家族病理学	松木	H C H W L 2 3 0 3
42	家族関係学	(磯部)	H C H W L 2 2 0 5
44	地域社会学	野村	H C S W L 2 3 0 6
45	共生社会論	大西	H C H W L 3 3 0 2
46	福祉システム学 I	大西	H C H W L 2 2 0 7
47	福祉システム学 II / 福祉システム学 II (精神疾患とその治療)	大西	H C C P L 2 2 0 7
48	精神保健福祉論	清水	H C H W L 2 2 0 6
49	障害者福祉論	清水	H C S W L 2 2 1 4
50	高齢者福祉論	鵜川	H C S W L 2 2 1 5
51	社会福祉行財政論	所	H C S W L 3 4 0 3
52	福祉計画論	鵜浦	H C S W L 3 4 0 4
53	社会福祉運営管理論	所	H C S W L 3 3 0 2
54	医療福祉論	(萬谷)	H C S W L 2 3 0 7
55	社会福祉権利擁護論	鵜浦	H C S W L 2 3 0 8
56	心理学	岡田進	H C S W L 1 1 0 4
57	人間福祉学演習	堀口 他	H C A C A 2 3 0 0
58	卒論演習	堀口 他	H C A C A 3 4 0 0
59	卒業論文	堀口 他	H C A C A 4 4 0 0
60	社会調査法	(神部)	H C S W L 2 2 1 6
61	社会開発学 I	堀口	H C H W L 2 2 0 8
62	社会開発学 II	堀口	H C H W L 2 2 0 9
63	地域経済論 I	堀口	H C H W L 2 3 0 4
64	地域経済論 II	堀口	H C H W L 2 3 0 5
65	共生社会演習 I、II / 共生社会演習	野村・清水・岡田(進) 所・鵜浦・中島	H C H W S 1 1 0 0

ページ	授 業 科 目	担 当 者	科目No.
66	心理学基礎実験Ⅰ	後藤・羽下・(松田)	H C C P E 3 3 0 1
68	心理学基礎実験Ⅱ	篠田・(金岡)	H C C P E 3 3 0 2
69	発達臨床心理学実習	三船・篠田・長濱・後藤	H C C P S 4 4 0 0
70	心理アセスメント実習	篠田・後藤	H C C P S 3 3 0 0
71	心理面接実習／心理学的支援法Ⅱ	篠田・(鈴木)・(南)	H C C P S 1 2 0 0
72	ソーシャルワーク演習Ⅰ	中島・野村・鶴浦・清水	H C S W S 2 3 0 1
73	ソーシャルワーク演習Ⅱ	中島・野村・鶴浦・清水	H C S W S 2 3 0 2
74	ソーシャルワーク演習Ⅲ	中島・野村・鶴浦・清水	H C S W S 3 3 0 1
75	ソーシャルワーク演習Ⅳ	中島・野村 鶴浦・清水・(宮口)	H C S W S 3 4 0 1
76	ソーシャルワーク演習Ⅴ	中島・野村 鶴浦・清水・(宮口)	H C S W S 3 4 0 2
77	ソーシャルワーク実習	中島・所・ 野村・鶴浦・清水	H C S W S 3 3 0 2
78	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	中島・岡田進・所 野村・鶴浦・清水	H C S W S 2 3 0 4
79	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	中島・岡田進・所 野村・鶴浦・清水	H C S W S 2 3 0 5
80	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	中島・岡田進・所 野村・鶴浦・清水	H C S W S 3 3 0 3

QOLプロモーター養成関係科目シラバス目次

ページ	授 業 科 目	担 当 者	科目No.
81	QOLプロモーション	所・西川・清水・堀口 早見・小池・鶴川	H Q L E C 1 1 0 1
82	QOLプロモーション演習Ⅰ	所・小池・西川・早見	H Q P R A 1 1 0 1
83	QOLプロモーション演習Ⅱ	所・小池・西川・早見	H Q P R A 2 2 0 1

上記以外の関連科目シラバスは

QOLプロモーションの履修者に別途配付する。



人間福祉学科シラバス

科 目 名：人間福祉学概論

英 語 表 記：Introduction to Human Development and Welfare

担 当 教 員：堀口 正 他

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成 30 年度・1 年次前期

科目ナンバリング：HCFIR1100

当学科・コース学生以外の受講：生活科学部生のみ可

授業の到達目標：人間福祉学の概論として、学科の全教員が講義を行う。

科 目 の 主 題：人間福祉学科において取り扱う内容のうち、所属教員の指導に従って、各学生が3つの課題（①書籍の内容をまとめる、②地域や特定の対象の問題点をまとめる、③共通の課題について試行・考察し、まとめる）、に取り組み、各回の最後にプレゼンテーションを行う。

授業内容・授業計画：講義形式で行う。

テ ー マ	予定回数	概 要
1 オリエンテーション	1	本講義の意義と講義の予定について知らせる。
2 レポート作成のための基礎知識	1	書籍の選び方やそのまとめ方を講義する。
3 資料・書籍の検索（図書館で）	1	図書館で書籍の検索方法を学び、該当図書を探しに行く。
4 第1回目のレポート作成	1	各教員が課題の説明を行う。
5 書籍の選び方、そのまとめ方	1	図書館などで書籍の検索方法や資料収集の方法を学ぶ。
6 中間報告	1	選択した本をまとめその概要などを発表する。
7 まとめ（最終報告）	1	最終報告会を行う。
8 第2回目のレポート作成	1	各教員が課題の説明を行う。
9 地域や対象の設定など	1	地域や対象の設定について検討する
10 中間報告	1	地域・対象について調べたことなどを発表する。
11 まとめ（最終報告）	1	最終報告会を行う。
12 第3回目のレポート作成	1	各教員が課題の説明を行う。
13 共通テーマの設定	1	共通のテーマを選定し、それについての取り組み方を説明する。
14 中間報告	1	各学生が中間報告を行う。
15 まとめ（最終報告）	1	最終報告会を行う。

事前・事後の学習内容：授業終了時、次回の授業と準備について、指示する。

評 価 方 法：出席（30%）、レポート、プレゼンテーション（70%）により行う。

教 材：各教員が紹介する。

受講生へのコメント：

備 考：人間福祉学科の必修科目なので、1 回生の前期に必ず履修すること。

科 目 名：発達臨床心理学（平成 29 年度以前入学生対象）

／発達臨床心理学（福祉心理学）（平成 30 年度以降入学生対象）

英 語 表 記：Developmental Clinical Psychology

担 当 教 員：長濱 輝代

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2 単位

開講年度・学期：平成 30 年度・2 年次前期

科目ナンバリング：HCCPL2201

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：ライフサイクルの発達段階における発達課題を理解し、生物的・心理的・社会的諸要因によって引き起こされる発達の危機とそれに対する臨床心理学的援助の内容について理解する。

科 目 の 主 題：発達上の困難を抱える本人やその家族の特徴的な課題を概説する。さらに、人間の生涯発達を理解し、その過程で起こりうる種々の課題や問題に対する心理臨床的介入の実際を事例に即して論じる。

授業内容・授業計画：講義内容は理解度や進捗状況により変更することがある。

テ ー マ	予定回数	概 要
オリエンテーション	1	発達臨床心理学とは何かについて解説する。
ライフサイクルと心理臨床	1	乳児期から高齢期に至るライフサイクルの発達段階と発達課題の特徴、主要な発達課題ならびに諸症状と心理臨床的課題を考える。
発達と心理臨床 — 「うまれる」 (1)	1	周産期（妊娠期・胎児期）における「命」をめぐる葛藤について
発達と心理臨床 — 「うまれる」 (2)	1	周産期（産褥期・新生児期）における「命」をめぐる課題について
発達と心理臨床 — 「たべる」 (1)	1	乳幼児期の発達の課題と「食べる」ことをめぐって
発達と心理臨床 — 「たべる」 (2)	1	思春期の発達の課題と「食べる」ことをめぐって
発達と心理臨床 — 「育つ・育てる」 (1)	1	虐待が引き起こす臨床心理学的課題をめぐって
発達と心理臨床 — 「育つ・育てる」 (2)	1	被虐待児への臨床心理学的介入の方法をめぐって
発達と心理臨床 — 「育つ・育てる」 (3)	1	虐待の連鎖とへの臨床心理学的介入の方法をめぐって
発達と心理臨床 — 「発達する」 (1)	1	乳幼児期・学童期における自閉スペクトラム症をめぐって
発達と心理臨床 — 「発達する」 (2)	1	自閉スペクトラム症の子の養育者（中年期）への臨床心理学的介入の方法について
発達と心理臨床 — 「病を生きる」 (1)	1	慢性疾患が発達課題に及ぼす影響について
発達と心理臨床 — 「病を生きる」 (2)	1	うつが発達課題に及ぼす影響について
発達と心理臨床 — 「うしなう」	1	死を含む様々な状況における「うしなう」ことをめぐって
まとめ	1	発達臨床心理学について総括する。

事前・事後学習の内容：各回、学習内容について指示する。

評 価 方 法：平常点（出席、受講態度、講義内に実施する質問への回答等。出席は講義内にて毎回提出するミニレポートで把握）と最終レポートにより評価する。

教 材：必要に応じて講義時に資料配付

受講生へのコメント：一見何もない・なんでもないようにみえるところに、何かを“見出す”力を養っていきましょう。

備 考：①出席回数が基準に達していなければ最終レポートを提出することができないので注意すること。

②詳細な内容、計画、基準については 1 回目の講義時間内に通知します。

③心理学の研究手法への理解を深めるため、講義時間後に各種のアンケート調査等を実施することがありますので、受講生は積極的に参加してほしいと思っています。

科 目 名：発達心理学Ⅰ（平成30年度以降入学生対象）／生涯発達心理学Ⅰ（平成27、28、29年度入学生対象）
／こどもの臨床心理学（平成26年度入学者対象）

英 語 表 記：Developmental Psychology I / Life Developmental Psychology I / Clinical Child Psychology

担 当 教 員：長濱 輝代

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・1年次前期

科目ナンバリング：HCCPL1101

当学科・コース学生以外の受講：可（教室収容定員を上回った場合は、履修制限を実施することがある）

授業の到達目標：赤ちゃんや子どもたちを巡る様々なところの問題について、臨床心理学的観点から理解を深める。

科 目 の 主 題：思春期までの子どもたちを対象として、乳幼児の心の発達の基礎理論を概観した上で、子どもたちの抱える心理的困難に関する現代的なトピックスを取り上げ検討する。

授業内容・授業計画：指定するテキスト教材を中心に、他の資料や教具・教材（DVD・ビデオ資料など）を利用しながら解説する。内容に応じて話し合いや発表の機会をもつ場合がある。なお、講義の内容は理解度や進捗状況により変更することがある。

テ ー マ	予定回数	概 要
オリエンテーション	1	本講義の目的と方針について説明する
こころの発達の基礎理論	1	乳幼児の心理発達に関する基礎理論について学ぶ
援助の理論と実際①～⑥	6	胎生期から思春期までの心理的発達の基礎理論と課題を学ぶ ①胎生期～生後6か月／②生後6～18か月／③18か月～3歳／ ④3～6歳／⑤6～12歳／⑥思春期
こどものこころの諸問題 各論①～⑥	6	子どもにとって大切な環境である“家族”の視点を含め、こどもが抱えるこころの諸問題について学ぶ ①長期入院／②心身症／③Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder／④Autism Spectrum Disorder／⑤被虐待／⑥きょうだい
まとめ	1	こどもの生涯発達について総括する

事前・事後学習の内容：各回、学習内容について指示する。

評 価 方 法：①平常点（出席、受講態度、講義内に実施する質問への回答等。出席は講義内にて毎回提出するミニレポートで把握）20%、②開講中に実施する中間レポート（3回を予定）40%、③学期末レポート40%の総合成績により評価する。ただし、出席回数が10回に満たない場合と③の学期末レポートを提出しない場合は評価の対象にはならない。

教 材：松島恭子他『保育・教育に生きる臨床心理学』光生館

受講生へのコメント：赤ちゃんや子どもの話は実感がわかないことも多いかもしれませんが、しかし、学問としてだけでなく、皆さんが通過してきた道、今も心の中に生きづいている一部として考えると大変興味深い分野だと思います。

また、こころを理解するためには、どのような経験も力になります。身の回りの様々なことに関心を持ち、しっかりじっくり経験してください。

備 考：・詳細な内容、計画、基準については1回目のオリエンテーション内にて通知します。

・3回の中間レポートや講義内での課題もあります。希望者はそのことを理解したうえで受講してください。

・心理学の研究手法への理解を深めるため、講義時間後に各種のアンケート調査等を実施することがありますので、受講生は積極的に参加してほしいと思っています。

科 目 名：発達心理学Ⅱ（平成30年度入学者対象）／生涯発達心理学Ⅱ（平成27・28・29年度入学者対象）

英 語 表 記：Developmental Psychology Ⅱ/Life Developmental Psychology Ⅱ

担 当 教 員：後藤 佳代子

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・1回生後期（平成30年度入学者対象）／2回生後期（平成27・28・29年度入学者対象）

科目ナンバリング：HCCPL1202

当学科・コース学生以外の受講：可（教室収容定員を上回った場合は、履修制限を実施することがある）

授業の到達目標：人間の一生のうち、特に思春期・青年期の心身発達の様相について、生物学的、心理学的、社会学的観点から得られた知見を学んでいく。そのうえで、現代という時代に生きる思春期・青年期の心理的特徴を把握し、時代の推移とともに変遷していく心理的側面を明らかにしていく。

科 目 の 主 題：思春期・青年期の心身の発達について学ぶ。同時に現代社会で生きていくときにどのような心理的問題に直面するかについて考察する。

授業内容・授業計画：講義を中心に進めるが、内容に応じて、学生同士のディスカッションや発表の機会を持つ。なお、講義の内容は進捗状況により変更することがある。

テ ー マ	予定回数	概 要
オリエンテーション	1	本講義の目的と予定について説明する。
大学生のライフサイクル①	1	大学生生活および心理的特徴について学ぶ（入学期）
大学生のライフサイクル②	1	大学生生活および心理的特徴について学ぶ（中間期・卒業期）
思春期・青年期とは①	1	思春期・青年期の特徴について学ぶ
青年期の特徴①	1	青年期の身体的発達について学ぶ
青年期の特徴②	1	青年期の知的発達について学ぶ
青年期の特徴③	1	青年期の心理的発達について学ぶ
青年期における人間関係①	1	青年期における親子関係について学ぶ
青年期における人間関係②	1	青年期における友人関係について学ぶ
青年期における人間関係③	1	青年期における恋愛関係について学ぶ
青年期における進路決定①	1	青年期における職業選択について学ぶ
青年期における進路決定②	1	青年期における就労について学ぶ
現代の青年期について	1	現代の青年期の特徴について学ぶ
青年期における問題と病理、その援助について	1	青年期に見られやすい問題や病理、その援助方法について学ぶ。
まとめ	1	講義のまとめを行う。

事前・事後学習の内容：各回、学習内容について指示する。

評 価 方 法：出席、受講態度、レポートにより評価する。

教 材：適宜、資料を配布する。

受講生へのコメント：

備 考：出席回数が基準に達していなければ最終レポートを提出することができないので注意すること。

詳細な内容計画、基準については、第1回目のオリエンテーション時に通知する。

科 目 名：生涯発達心理学Ⅲ（平成 29 年度以前入学生対象）／障害者・障害児心理学（平成 30 年度以降入学生対象）

英 語 表 記：Life Developmental Psychology Ⅲ

担 当 教 員：篠田 美紀

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2 単位

開講年度・学期：平成 30 年度・2 年次前期（平成 27 年度以降入学生～H29 年度入学生対象）

科目ナンバリング：HCCPL1202

当学科・コース学生以外の受講：可（生涯発達心理学Ⅰまたは生涯発達心理学Ⅱのいずれかの単位を履修したもの。

教室収容定員を上回った場合は、履修制限を実施することがある。）

授業の到達目標：人間の一生を視野に入れた心身発達の様相について、本講義では成人期以降の発達段階に焦点化し、それぞれの段階の発達課題について学ぶとともに、各時期に顕れる障がいの心理的特徴を理解し支援について学ぶ。

科 目 の 主 題：成人期以降の発達段階における心の発達課題について学び、各時期に顕れる障がいの心理的特徴を理解し、その支援の在り方について知見を深める。

授業内容・授業計画：講義を中心に進め、内容に応じて話し合いや発表の機会をもつ。なお、講義の内容は進捗状況により変更することがある。

テ ー マ	予定回数	概 要
オリエンテーション	1	生涯発達心理学とは？ライフサイクル論
ライフサイクル論（1）	1	乳幼児期の発達課題と障がいによる心理的特徴の理解
ライフサイクル論（2）	1	学童期の発達課題と障がいによる心理的特徴の理解
ライフサイクル論（3）	1	青年期の発達課題と障がいによる心理的特徴の理解
ライフサイクル論における成人期（1）	1	成人期の心理的発達と心理的危機について学ぶ
ライフサイクル論における成人期（2）	1	成人期に顕れる障がいの心理的特徴の理解
ライフサイクル論における成人期（3）	1	成人期の心理的危機と障がいによる心理的特徴への支援
ライフサイクル論における中年期（1）	1	中年期の心理的発達と心理的危機について学ぶ
ライフサイクル論における中年期（2）	1	中年期に顕れる障がいの心理的特徴の理解
ライフサイクル論における中年期（3）	1	中年期の心理的危機と障がいによる心理的特徴への支援
ライフサイクル論における高齢期（1）	1	高齢期の心理的発達と心理的危機について学ぶ
ライフサイクル論における高齢期（2）	1	高齢期に顕れる障がいの心理的特徴の理解
ライフサイクル論における高齢期（3）	1	高齢期の心理的危機と障がいによる心理的特徴への支援
死の受容とターミナルケア	1	死の受容とターミナルケアについて学ぶ
まとめ	1	成人期以降の心理的危機への支援について考える

事前・事後学習の内容：講義内に通知

評 価 方 法：出席点（50%）と最終レポート（50%）により評価する

教 材：『ライフサイクルからよむ障害者の心理と支援』田中農夫男・木村進著 福村出版。適宜資料を配布する。
受講生へのコメント：本講義は成人期以降の人生後半の発達段階について知見を深めます。受講の前に、成人期までの発達段階の発達課題と心理的危機について、既に履修した生涯発達心理学Ⅰもしくは、生涯発達心理学Ⅱでの学びを深めておいてください。

備 考：出席回数が基準に達していなければ最終レポートを提出することができないので注意すること。

詳細な内容計画、出席回数の基準については1回目のガイダンスで通知します。

科目名：教育臨床学 I

英語表記：Educational Clinic I

担当教員：中井^{ナカイ}孝章^{タカアキ}

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・1年次後期

科目ナンバリング：HCHWL1101

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：心とは何か、サイコバブル社会とはどのような社会かなど、基本的な問いを踏まえつつ、学校カウンセリングの歴史やその是非について考える。

科目の主題：1990年代以降、阪神・淡路大震災、オウム事件、神戸児童連続殺傷事件をはじめとする数々の凶悪な少年事件などを契機にして「心の闇」が問題化され、その解決策として「心のケア・教育」が喧伝されている。本講義では、私たちの日常の思考や関心が否応なしに「心」や「脳」へと焦点化（還元）される，“心理主義化された社会・学校”の現状を批判的に検討し、この現状から脱出する方法を求めていく。

授業内容・授業計画：テキストを用いた講義方式で行う。

テーマ	予定回数	概要
1. 不登校の正体	1	グラフを通して社会現象としての不登校問題を解説
2. 不登校を生きる	1	『赤ずきん』を通して不登校児の生きづらさを解説
3. 不登校の矯正	1	戸塚ヨットスクールを通して不登校矯正の是非を問う
4. 学校と教育関係	1	戦後の学校の教育関係の変遷と現状及び問題点を解説
5. 教育相談小史	1	学校カウンセリング（＝教育相談）の歴史を解説
6. 教育相談の分析	1	来談者中心療法の実例分析と教育相談の是非を問う
7. 社会の心理主義化	1	社会構築主義の立場から社会の心理主義化を解明
8. 教育相談批判	1	教育学などの立場からの、教育相談への批判を紹介
9. 教育相談の理論 1	1	S.フロイトの精神分析（自我心理学）理論の解説
10. 教育相談の理論 2	1	ポストモダンセラピー・自己心理学理論の解説
11. 教育相談の理論 3	1	ポストモダンセラピー・短期療法と学校事例の分析
12. 教育相談の理論 4	1	ポストモダンセラピー・家族療法と家庭事例の分析
13. 教育相談の理論 5	1	ナラティブセラピーの理論と学校事例の分析
14. 新しい管理技術	1	心理主義社会から環境制御主義社会への移行の解説
15. 講義の総括	1	学校・教育関係，教育相談・心理学理論などを総括

事前・事後学習の内容：本講義は毎回、重要な専門用語が提示されるので、その定義および使われ方を復習し、それを自分の文脈において活用できるようにする。予習よりも常に復習を重視する。

評価方法：出席点（60%）と筆記テスト（40%）によって評価する。

教材：中井孝章『教育臨床学のポストモダン』日本教育研究センター，2010年

備考：上記のテキストは試験終了時まで「貸出」とします。

受講生へのコメント：「自分らしい仕事をしよう」というハローワークの文言も実はサイコバブル社会の象徴であり、こうした「自由の不自由」から解放されることが大切。

備考：「教育相談」とは、スクール・カウンセリングのことを指す（略記）。

科目名：教育臨床学Ⅱ

英語表記：Educational Clinic Ⅱ

担当教員：中井 孝章

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・3年次後期

科目ナンバリング：HCHWL3301

当学科・コース学生以外の受講：不可（ただし、教育臨床学Ⅰを受講した者に限る）

授業の到達目標：教育臨床学Ⅰは、心理主義化された社会における児童生徒の心の問題をどのように考えるかが中心であった。これに対し、本講義は精神病理学や進化心理学や神経科学の立場から精神分析（心理療法）や DSM 中心の精神医学（精神療法）の問題点について講義する。

科目の主題：心の問題を、心理学系 Ψ と神経科学系 Φ という2つに分けて講義する。

授業内容・授業計画：講義そのものはやや難解であるため、少しでも理解しやすいように、DVDを多用する。特に、NHKは「病の起源」を通してうつ病の進化心理学を的確に映像化しているため、講義時に用いる。

テーマ	予定数	概要
1. 心とは何か Ψ	1	「心の開－閉」理論によって心の生成する場面を分析
2. 理解の基準転換 Ψ	1	自分理解＜他者理解を進化心理学の前適応から解説
3. 心理療法の転回 1 Ψ	1	アドラー心理学，特に原因論／目的論について解説
4. 心理療法の転回 2 Ψ	1	ABC分析と理由論を基礎に当事者の心理療法を解説
5. 神経科学の基礎 Φ	1	トロッコ問題を通して脳・心の二重過程理論を解説
6. うつ病の正体 Φ	1	うつ病の究極原因を進化心理学の立場から解説
7. うつ病の治療法 Φ	1	TMSをはじめ，うつ病の最新治療法・診断法を紹介
8. うつ病の心理療法 Φ	1	認知行動療法の心理臨床と福祉臨床（べてる）を解説
9. トラウマの記憶論 Φ	1	トラウマとは何かを分子脳科学の実在的記憶論で説明
10. トラウマの治療 Φ	1	PTSDの自然主義的制御法である EMDR・PEの解説
11. 乳幼児の発達 1 Ψ	1	J.ラカンの想像界・象徴界を中心に発達過程を解説
12. 乳幼児の発達 2 Ψ	1	エディプス・コンプレックスなどの日常的転移を解説
13. 乳幼児の発達 3 Ψ	1	乳児院の観察研究と母子関係の社会学的身体論的説明
14. 乳幼児の発達 4 Ψ	1	解離，特にイマジナリーフレンドの発達心理学的説明
15. ケアと世代間交流	1	ケアとは何かをはじめ，ケアを世代間交流論から提唱

事前・事後学習の内容：本講義は毎回，難しい専門用語が提示されるので，その正確な定義および使われ方を復習することが必要である。復習すべき事柄が多いので，欠席したときは特に注意すること。

評価方法：出席点（60%）と論述試験（40%）によって評価する。

教材：中井 孝章『[心の言葉]使用禁止！：アドラー心理学と行動分析学に学ぶ』日教研，2015年（購入不要）をはじめ，多くの拙著を随時用いる

受講生へのコメント：DSM-5の公表など教育臨床学分野の動きが活発なので，教育臨床学Ⅰで取り上げた分野内容に時間をかける。そのため，ケアや世代間交流等の福祉分野の講義時間がなくなる場合がある。

備考：1回生以上対象の「教育臨床学Ⅰ」を受講しておくこと（必須）。

科目名：子ども学
 英語表記：Philosophy and Science of Children
 担当教員：中井^{ナカイ}孝章^{タカアキ}
 授業形態：講義
 単位数：2単位
 開講年度・学期：平成30年度・2年次前期
 科目ナンバリング：HCHWL2201
 当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：「高度情報社会＝高度消費社会」に暮らす子どもたちの生活世界や生活問題を「生活科学」という学際的な枠組みから分析するとともに，受講者個々人が独自の視点で今日の子どもの生活世界について語るができるようになることが目的である。

科目の主題：明治期から現在に至るまで子どもたちおよび彼らの暮らしを社会史的に理解した上で今日の子どもの生活問題およびその解決策について述べる。具体的には，今日の子どもの食生活問題，住生活問題，家族問題，メディア（遊び）問題，他者関係問題について取り上げる。

授業内容・授業計画：入手不可または入手困難な教材・教具（DVD）を沢山観てもらい，一昔前の子どもの生活状況を実感し，理解する。

テーマ	予定数	概要
1. 子ども学への導入	1	文明問題としての「低体重出生児」問題を解説する
2. 子どもの社会史 1	1	2つの子ども及び古代～近世の子どもを解説する
3. 子どもの社会史 2	1	近代～現代の子どもの生活環境の変容を解説する
4. 子どもの社会史 3	1	高度経済成長期の子どもの生活をDVDで実感する
5. メディア生活 1	1	テレビが子ども像に及ぼす影響について解説する
6. メディア生活 2	1	テレビゲームやインターネットの影響について解説
7. 学校生活	1	子どもの問題行動，特にいじめと非行について解説
8. 新しい子ども像	1	子どもの義務と責任のあり方について解説する
9. 住生活 1	1	子どもの家庭生活をnLDKの観点から解説する
10. 住生活 2	1	郊外や高層住宅における子どもの暮らしを解説する
11. 都市生活 1	1	犯罪機会論の立場から子どもの防犯対策を解説する
12. 都市生活 2	1	子どもの居場所と三世代遊び地域マップを解説する
13. 食生活 1	1	アメリカ小麦戦略の子どもの食生活への影響を解説
14. 食生活 2	1	栄養学の立場から子どもの食育のあり方を解説する
15. 子ども学の総括と今後の課題	1	子どもの社会史・食生活・住生活・メディア生活と家庭・地域・学校・都市生活等々，生活科学の立場から総合的にまとめるとともに，今後の生活課題を考える

事前・事後学習の内容：本講義は毎回，授業トピックが異なるため，復習を中心に授業で学んだ知識を自分で活用できるようにする。

評価方法：出席点（60%）と論述試験（40%）によって評価する。

教材：中井孝章『子どもの生活科学』地研，2010年。 ※購入不要

受講生へのコメント：本講義は，生活科学の立場から「子ども学」の構築を志向している。子どもの問題に興味・関心のある方は必見である。従来の講義とは異なり，活字では理解できない事柄については，要所でビデオ，DVD，写真資料などを観て頂く。

備考：専門科目

科目名：教育方法学

英語表記：Educational Methods

担当教員：中井 孝章

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・2年次前期

科目ナンバリング：HCHWL2202

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：教材を通して児童生徒（学習者）に教えることの楽しさ（快樂）や学ぶことの楽しさを体験するとともに、独創的な教育方法や教育技術を学ぶことを目的とする。学校教育の教育方法（学習指導）に限定せず、さまざまな発達画期の学習者の学びを射程とする。

科目の主題：従来、教育方法学といえ、教授-学習過程で媒介とされる教育内容を捨象することで、教授の一般的枠組みの解明を目指す「教授学」か、その一般的枠組みを捨象することで教育内容の固有性に依拠する「教科教育学」のいずれかであった。本講義ではこうした二分法を超えて教育内容に直面する学習者の固有性から出発して、多くのユニークな教育実践を見ていく中から、教育方法学の一般的枠組みを論じていく。

授業内容・授業計画：配布資料を用いた講義方式で行う（クイズ・質問を多用する）。

テーマ	予定回数	概要
1. 教育学の公準	1	近代教育学の遺産とは何かを教育関係論から解説する
2. 文学作品を読む1	1	宮沢賢治『注文の多い料理店』を分析・解説する
3. 文学作品を読む2	1	宮沢賢治『やまなし』を分析・解説する
4. 言葉と教育1	1	「文字と音の間のドラマ」から言葉の本質を解説する
5. 言葉と教育2	1	鳥山敏子の授業分析を通して言葉の教育を解説する
6. 言葉と教育3	1	詩『春』などの分析を通して言葉の教育を解説する
7. 言葉と教育4	1	文学教育（人間理解）の方法・「解釈／分析」を解説
8. 言葉と教育5	1	『蟻』を教材に「解釈」型授業実践とその分析を行う
9. 言葉と教育6	1	『蟻』を教材に「分析」型授業実践とその分析を行う
10. 言葉と教育7	1	マニエリスム文学教育論の提唱と「言葉と教育」総括
11. 言語教育論争1	1	有名な論争である「出口」の授業分析を行う
12. 言語教育論争2	1	有名な論争である「冬景色」の授業分析を行う
13. 言葉遊びの教育	1	他者理解の契機となる「連句＝スキュグル」実践を解説
14. 児童画と美術教育	1	児童画およびマニエリスム美術教育論を解説する
15. からだそだてと体育	1	学校体育を改善する「からだそだて」を認知科学的に解明

事前・事後学習の内容：本講義は毎回、授業トピックが異なるため、授業内容で学んだ知識や考え方（思考法）を復習するとともに、それを自分で活用できるようにする。毎回、独自の思考法を示すので十分復習することが不可欠である。

評価方法：出席点（60%）と筆記テスト（40%）によって評価する。

教材：配布資料を中心とする。

受講生へのコメント：本講義を通して、感性と言葉を鍛えて頂きたい。

備考：専門科目

科 目 名：社会福祉原理論

英 語 表 記：Principles and Philosophy of Social Policy and Social Work

担 当 教 員：所 道彦

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・1年次前期

科目ナンバリング：HCSWL1101

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：社会福祉とりまく状況や現代の社会問題に関心を向けつつ、社会福祉をとらえる基本的視点と枠組みについて学ぶ。今後、社会福祉、社会保障、ソーシャルワークの各分野を学ぶための基礎を形成する。

科目の主題：社会福祉の構造と機能について、主体と対象、理念、歴史、制度と法体系、学説等の観点から体系的に学ぶ。

授業内容・授業計画：講義を中心に展開する。

テ ー マ	予定回数	概 要
オリエンテーション	1	講義の目的と内容の全体像
社会福祉とは何か1	1	社会福祉の諸原理 1 ニードと資源
社会福祉とは何か2	1	社会福祉の諸原理 2 生活主体と生活環境
社会福祉の歴史 1	1	欧米の社会福祉の歴史 社会福祉の起源
社会福祉の歴史 2	1	欧米の社会福祉の歴史 現代福祉国家の成立
社会福祉の歴史 3	1	日本の社会福祉の歴史 民間社会事業の展開
社会福祉の歴史 4	1	日本の社会福祉の歴史 日本型福祉国家の展開
現代社会と福祉 1	1	生活問題と社会福祉
現代社会と福祉 2	1	社会福祉の組織
現代社会と福祉 3	1	社会福祉と専門職
社会福祉の学問体系	1	福祉国家論とソーシャルワーク論
日本の社会福祉の課題 1	1	超高齢社会と社会福祉のあり方
日本の社会福祉の課題 2	1	少子化と子育て支援
日本の社会福祉の課題 3	1	貧困問題と社会的包摂
まとめ	1	社会福祉の展望

事前・事後学習の内容：各講義の最後に各自が取り組むべき事後学習と事前学習の内容についてアナウンスする。

評 価 方 法：出席・受講態度・試験の内容にもとづいて総合的に評価する。

教 材：資料を随時配付及び指示する。

受講生へのコメント：出席回数が基準に達していなければ試験を受けることができない場合があるので注意すること。

備 考：

科 目 名：社会福祉学

科目英文名：Introduction to Social Welfare and Social Work

担 当 教 員：^{シカワシゲカズ}鶴川重和

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・1年次後期

科目ナンバリング：HCSWL1102

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：社会福祉学およびソーシャルワークにおけるさまざまな理論に関する入門的な知識の習得を行う。

科 目 の 主 題：講義と演習を通じて、社会福祉学やソーシャルワークの基礎となる考え方や理論を学びます。

授業内容・授業計画：講義および演習

- 1：オリエンテーション
- 2：社会福祉士の仕事とは何か
- 3：社会福祉における実習について
- 4：社会福祉学およびソーシャルワークとは何か
- 5：人を理解することとは何か
- 6：社会福祉における面接での基本的な技法
- 7：生活ニーズの構造
- 8：バイステックの原則
- 9：生活ニーズの捉え方
- 10：社会福祉援助のプロセス
- 11：事例を通じて社会福祉援助とは何かを考える
- 12：社会福祉援助における連携とは何か
- 13：ソーシャルワークにおける個別支援
- 14：ソーシャルワークにおける地域支援
- 15：社会福祉学のまとめ

事前・事後学習の内容：適宜、講義中に指示を行う。

評 価 方 法：講義中の小テストまたはレポート（7点×12回 84点）と発表（16点）によって評価する。

教 材：適宜、資料を配布する。

受講生へのコメント：本講義は、社会福祉原理論が前提となる。

備 考：

科 目 名： 家族社会学 I（平成 27 年度以降入学者対象）／家族社会学（平成 26 年度以前入学者対象）

英 語 表 記： Sociology of Family I

担 当 教 員： 松木 洋人

授 業 形 態： 講義

単 位 数： 2 単位

開講年度・学期：平成 30 年度・2 年次前期

科目ナンバリング：HCSWL1201

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：家族社会学による知見に触れることによって、受講者が「家族とはこういうものだ」という固定観念や「昔に比べて親子や夫婦の絆が弱くなった」といった社会に流布している漠然としたイメージから距離を取るとともに、現代社会における家族のありかたやその変化について適切に理解できるようになること。

科目の主題：家族社会学の基礎について学ぶ。具体的には、「近代家族」をキーワードに、戦後の日本でこの近代家族が一般化したプロセスを理解する。続いて、結婚・夫婦関係と親子関係に注目して、戦後日本で一般化した近代家族が現在、どのように変化しつつあるのかを検討する（近代家族の揺らぎ）。

授業内容・授業計画：配布資料を用いた講義を中心に授業を行う。

テ ー マ	回数	概 要
家族社会学の基本概念と核家族論	4	①家族社会学とはどういう学問なのか、②家族社会学の基本概念、③戦後日本における家族制度と家族形態の変化、④事例からみる戦後日本の家族変動
近代家族論と「家族の戦後体制」	3	⑤近代家族とは何か、⑥日本社会における近代家族の成立、⑦日本社会における近代家族の大衆化
現代日本社会における結婚と親子関係	6	⑧結婚・離婚の現代的意味、⑨家族と仕事、⑩子育てと前期親子関係、⑪事例からみる近代家族の結婚と子育て、⑫中期親子関係と成人期への移行、⑬後期親子関係と家族介護
現代日本の家族はどこに向かっていくのか？	2	⑭家族の個人化、⑮親密性の変容と家族の階層化

事前・事後学習の内容：各回の授業の終了時に、予習・復習課題を提示する予定である。

評 価 方 法：出席・授業態度（30%）、中間レポート（20%）、期末試験（50%）

教 材：教科書は特に用いない。参考文献は、毎回の授業のなかでも紹介するが、家族社会学の入門書的な書籍としては、以下の 2 冊を推薦する。

岩間暁子・大和礼子・田間泰子（2015）『問いからはじめる家族社会学——多様化する家族の包摂に向けて』有斐閣。

永田夏来・松木洋人編（2017）『入門 家族社会学』新泉社。

受講生へのコメント：社会学の持ち味のひとつは、「自分にとって身近なものでも、すこし距離をとって見てみる」ということにあり、そうすることで、これまで当たり前だと思っていたことが違った風に見える場合があります。家族はまさにそのことがよく当てはまる例のひとつです。家族社会学がこれまでに蓄積してきた知見に接することで、家族という社会現象のこれまで考えたことがなかったような側面に目を向ける機会にしてもらいたいと思います。

備 考：オフィスアワー 水曜日 13:00～16:00。ただし、研究室を訪問する場合は、念のため、事前に連絡しておいてください。また、これ以外の時間帯での面談を希望する場合も、あらかじめ連絡してもらえれば、その都度、調整して対応します。

科 目 名： 家族社会学Ⅱ（平成 27 年度以降入学者対象）／家族福祉学（平成 26 年度以前入学者対象）

英 語 表 記： Sociology of Family Ⅱ/Clinical Sociology for Family Support

担 当 教 員： 松木 洋人

授 業 形 態： 講義

単 位 数： 2 単位

開講年度・学期：平成 30 年度・2 年次後期

科目ナンバリング：HCHWL2203

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：現代の家族が直面している様々な問題について把握するとともに、それらの問題について家族社会学的な視点から考えることができるようになること。また、家族を対象としたより専門的な議論の内容を理解することができるようになること。

科目の主題：「家族社会学Ⅰ」の授業内容をふまえて、より専門的に家族社会学について学習する。具体的には、家族と暴力、家族の多様性、家族とセクシュアリティなどの現代家族に関連する重要な主題について学ぶことによって、日本社会において家族が直面している問題および家族社会学的な視点とはどのようなものかについて理解を深めていく。

授業内容・授業計画：配布資料を用いた講義を中心に授業を行う。

テ ー マ	回数	概 要
家族と暴力	3	①家族と暴力の密接な関係、②ネグレクトの事例から考える現代家族、③都市社会の子育て環境と児童虐待
家族の多様性と家族を超える実践	6	④シングルマザーとして生きること、⑤事実婚と同棲、⑥血縁のない親子の問題経験、⑦生殖医療技術による出産のグローバルな商品化、⑧シェアハウジングから「家族」を逆照射する、⑨ポリアモリーとポリファミリー
家族とセクシュアリティ	4	⑩セクシュアリティの概念、⑪「性」の多様性と家族、⑫性的マイノリティにとっての「家族」、⑬事例で考える同性カップルの「家族」
現代家族の直面している課題	2	⑭現代家族の変容と近代家族モデルの残存、⑮授業のまとめ

事前・事後学習の内容：各回の授業の終了時に、予習・復習課題を提示する予定である。

評 価 方 法：出席・授業態度（30%）、レポート（20%）、試験（50%）。

教 材：教科書は特に用いない。参考文献は、毎回の授業のなかで紹介するが、特定の用語やトピックなどについて調べるときには、以下の書籍が便利。

野々山久也編（2009）『論点ハンドブック 家族社会学』世界思想社。

受講生へのコメント：社会学の持ち味のひとつは、「自分にとって身近なものでも、すこし距離をとって見てみる」ということにあり、そうすることで、これまで当たり前だと思っていたことが違った風に見える場合があります。家族はまさにそのことがよく当てはまる例のひとつです。家族社会学がこれまでに蓄積してきた知見に接することで、家族という社会現象のこれまで考えたことがなかったような側面に目を向ける機会にしてもらいたいと思います。

備 考：「家族社会学Ⅰ」の単位を取得したうえで受講することが強く望まれる。

オフィスアワー 水曜日 13:00～16:00。ただし、研究室を訪問する場合は、念のため、事前に連絡しておいてください。また、これ以外の時間帯での面談を希望する場合も、あらかじめ連絡してもらえれば、その都度、調整して対応します。

科 目 名：社会保障論 I

英 語 表 記：Social Security I

担 当 教 員：所^{トコロ}道彦^{ミチヒコ}

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・2年次前期

科目ナンバリング：HCSWL2202

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：社会保障制度は、現代社会における生活保障システムの根幹である。

本講義では、社会保障制度の歴史を概観し、現在のわが国の社会保障制度の体系と各制度の基本的構造を理解する。さらに、少子高齢化、家族の多様化、雇用をめぐる状況の変化等が制度にもたらす影響について理解することを目的とする。

科 目 の 主 題：社会保障の歴史の分析を通じて、個人の生活上のリスク、ニードに対して社会的な対応が展開されるようになった経緯を理解するとともに、日本の社会保障制度の体系と特徴を整理する。さらに、各制度の仕組み、現状、課題を論じる。

授業内容・授業計画：講義形式で行う

テ ー マ	予定回数	概 要
はじめに	1	講義の目的と概念の整理
社会保障の歴史1	1	社会問題と救貧行政の展開
社会保障の歴史2	1	貧困観の転換とナショナルミニマムの思想
社会保障の歴史3	1	現代福祉国家の成立
社会保障制度の機能1	1	生活ニーズと資源の分配
社会保障制度の機能2	1	生活保障と社会統合・包摂
社会保障制度の制度設計	1	選別主義と普遍主義、社会保険と税
社会保障制度の体系	1	日本における社会保障制度の体系
年金制度1	1	年金制度の仕組み
年金制度2	1	年金制度の課題
医療保険制度1	1	医療保険の仕組み
医療保険制度2	1	医療保険の課題
労働保険・介護保険制度	1	雇用保険・労災保険の現状と課題・介護保険制度の仕組みと課題
社会の変化と社会保障	1	社会保障制度改革の展開と問題点
まとめ	1	福祉国家の将来

事前・事後学習の内容：毎回、授業中に指示する

評 価 方 法：試験・出席・受講態度に基づいて総合的に評価する

教 材：資料を配布

受講生へのコメント：

備 考：

科 目 名：社会保障論Ⅱ

英 語 表 記：Social SecurityⅡ

担 当 教 員：垣田 裕介

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・2年次後期

科目ナンバリング：HCSWL2203

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：現代の国民生活にとっての社会保障について、その目的や理念を「温かい心 warm hearts」で捉えるのみでなく、社会保障の実際の機能や今日的課題について「冷静な頭 cool heads」で考える視点を養う。

科 目 の 主 題：この授業の目的は、私たちの国民生活に大きく関わる社会保障の役割や意義、いま社会保障が直面する課題や論点について、分析的な考え方を養うことである。社会保障のあり方や制度改正等の動向をリアルに考えるため、政治や経済との関わりで捉える政治経済学的な視点を重視し、今日的な争点や課題について具体的な事実やトピックにもとづいて検討する。

授業内容・授業計画：基本的に講義形式で行う。

テ ー マ	予定回数	概 要
ガイダンス	1	この授業の主題や進め方、具体的な計画など
社会保障を学ぶ①	1	社会保障をめぐる話題、誤解、トピック、争点——年金、生活保護、消費税
社会保障を学ぶ②	1	私たちの生活を支えるもの——社会保障が存在する理由
社会保障を学ぶ③	1	日本の社会保障制度の見取り図
国民生活と社会保障①	1	社会保障の概念と範囲、理念と対象
国民生活と社会保障②	1	社会保障の役割と機能
国民生活と社会保障③	1	社会保障の財源と費用
社会保障と政治経済①	1	福祉供給の担い手と日本の特徴——家族、市場、福祉国家
社会保障と政治経済②	1	社会保障と政治——日本の統治構造と社会保障
社会保障と政治経済③	1	社会保障の予算編成——誰が、どこで、何を決めるのか
社会保障の動向と論点①	1	医療、介護、地域包括ケアと社会保障財政
社会保障の動向と論点②	1	年金、生活保護、ベーシックインカム
社会保障の動向と論点③	1	ホームレス・生活困窮者と社会保障——現金・サービス給付、伴走型支援
社会保障の動向と論点④	1	日本の社会保障のこれから——将来の持続可能性を考える
まとめ	1	この授業の内容の総括、要点のまとめ

事前・事後学習の内容：授業時間中に指示する。

評 価 方 法：出席・受講態度・学期末試験にもとづいて総合的に評価する。

教 材：教科書は特に用いず、授業時間中に資料を配布する。参考文献として、権丈善一『ちょっと気になる社会保障』増補版（勁草書房、2017年）。

受講生へのコメント： あらかじめ社会保障論Ⅰを受講していることが望ましい。

科 目 名：児童福祉論

英 語 表 記：Child Welfare

担 当 教 員：中島 ^{ナカシマ} ^{ナオミ} 尚美

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成 30 年度・2 年次後期

科目ナンバリング：HCSWL2204

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：児童・家庭の生活実態とこれらを取り巻く社会情勢、福祉需要について理解する。また、児童福祉の歴史、基本的考え方、構造を知り、相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度を学ぶ。また、大切な視点として児童の権利についても学ぶことを目的とする。

科 目 の 主 題：児童福祉は社会福祉の分野の中でも最も歴史のある分野である。この講義では、歴史の中から、児童福祉の特性を知り、現代の児童福祉の理念、基本的考え方、構造などを明らかにする。また、児童・家庭福祉制度の発展過程を捉えて、現代社会で求められる施策・サービス等について考える機会とする。

授業内容・授業計画：テキストと資料を活用した講義形式。

テ ー マ	予定回数	概 要
少子高齢社会の姿	1	少子高齢社会の姿 分析指標等
児童福祉の現代的課題	1	子どもと家族の抱える現代的課題（各種統計より）
児童福祉の歩み（日本）	1	日本の児童福祉の歴史
児童福祉の歩み（欧米）	1	欧米の児童福祉の歴史
児童福祉の理念	1	児童の権利 児童福祉法や児童の権利に関する条約の理念 親権
児童福祉の構造	1	児童福祉の基本構造
児童の定義	1	「子ども」とは 法律ごとの児童・少年などの定義
児童福祉の法体系	1	児童福祉に関わる法律の概要
児童福祉の基本制度	1	児童福祉機関、審議機関、行政機構など
児童福祉の財政	1	国および地方財政の仕組み 児童福祉サービスの財政
児童福祉施設	1	児童福祉施設の種類の 職員 サービスなど
社会的養護体制	1	社会的養護体制と施策
社会的養育施策	1	子育て支援から社会的養護まで 社会的養育の方向性と具体的施策
児童福祉サービス	1	児童福祉サービスの類型
児童福祉サービスに携わる専門職	1	児童福祉サービスに携わる専門職とネットワーキング

事前・事後学習の内容：配布資料等を基に、小レポート課題にも関連した学習内容を具体的に毎回指示する。

評 価 方 法：出席、小レポート3回、試験

教 材：『はじめての子ども家庭福祉』遠藤和佳子編著 2017 ミネルヴァ書房

『児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度 最新版』

才村純・芝野松次郎・高橋重宏・松原康雄 編著 ミネルヴァ書房、他、授業でも案内します。

受講生へのコメント：身近なところで起こっている子ども家庭福祉領域のできごとに関心をもってもらえるように、授業の展開を工夫しています。子どもや家庭にまつわることについて考えたい人の参加を希望します。

備 考：上記テキストは入手し、予め読んでおくことができる環境を整えて授業に臨んでください。

オフィスアワー 講義後

科 目 名 : 外書講読

英 語 表 記 : Reading of Original Works

担 当 教 員 : 堀 口 正 他

授 業 形 態 : 講 義

単 位 数 : 1 単 位

開講年度・学期 : 平成 30 年度・3 年次集中

科目ナンバリング : HCACA3300

当学科・コース学生以外の受講 : 不可

授業の到達目標 : 担当教員の指導のもと、専門領域の知識を外国文献の読解を通して習得する。

科 目 の 主 題 : 専門領域の外国文献を購読する。

授業内容・授業計画 : 原則として、演習方式を採る。

テ ー マ	予定回数	概 要
オリエンテーション	1	本講義の目的と予定について述べる。
外国文献の購読	13	ゼミ担当教員が外国文献を選び、それをゼミの学生が購読する。
まとめ	1	まとめを行う。

事前 : 事後の学習内容 : 各回の購読内容について、毎回指示する。

評 価 方 法 : ゼミ担当教員によって異なる。

教 材 : ゼミ担当教員がテキストを選定する。

受講生へのコメント :

備 考 : 本科目は、卒業論文指導の一環として実施する。

科 目 名：人格心理学（平成 29 年度以前入学生対象）／感情・人格心理学（平成 30 年度以降入学生対象）

英 語 表 記：Personality Psychology

担 当 教 員：長濱^{ナガハマ}輝^{テルヨ}代

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2 単位

開講年度・学期：2 年次・後期

科目ナンバリング：HCCPL3302

当学科・コース学生以外の受講：可（教室収容定員を上回った場合は、履修制限を実施することがある）

授業の到達目標：「人格」の成り立ちや心理構造の理解、発達の障害と心理臨床的援助などについて、理論を学ぶと共に実践事例を通してさらにその理解を深める。

科 目 の 主 題：人格心理学の歴史を、主に臨床心理学的視点から見直し講義を行う。各々の理論に関して、それらの理論が成立した背景や意義を含めて検討する。

授業内容・授業計画：講義を中心に進め、内容に応じて話し合いや発表の機会をもつ。なお、講義の内容は理解度や進捗状況により変更することがある。

テ ー マ	予定回数	概 要
人格の理論 ①	1	人格の概念の変遷と研究
人格の理論 ②	1	特性論・類型論
各論：力動論	5	①精神分析の定義・背景、②精神分析各論、③分析心理学の定義・背景、④分析心理学各論、⑤個人心理学
各論：認知・行動主義	3	①学習理論、②認知行動療法、③論理療法
各論：人間主義	3	①ゲシュタルト療法、②来談者中心療法の定義・背景、③来談者中心療法の実際
文化と人格	1	日本における人格心理学の展開
まとめ	1	人格理論について総括する

事前・事後学習の内容：各回、学習内容について指示する。

評 価 方 法：出席点（講義内でのミニレポート提出などで把握）とレポートにより評価する

教 材：適宜、資料を配布する

受講生へのコメント：専門科目になりますので受講生には相応の基礎的な知識が必要となり、自ら学ぶ姿勢が求められます。学習の進め方など相談に応じますので積極的に声をかけてください。

備 考：出席回数が基準に達していなければ最終レポートを提出することができないので注意すること。

詳細な内容、計画、基準については 1 回目のオリエンテーション内にて通知します。

心理学の研究手法への理解を深めるため、講義時間後に各種のアンケート調査等を実施することがあります。

科 目 名：カウンセリング（平成 29 年度以前入学生対象）／心理学的支援法Ⅲ（平成 30 年度以降入学生対象）

英 語 表 記：Counseling

担 当 教 員：後藤 佳代子・（小林 優子）

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2 単位

開講年度・学期：平成 30 年度・3 年次後期

科目ナンバリング：HCCPL3303

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：カウンセリングの基礎と実践に関して、理論的枠組みと実践方法について理解する。

科 目 の 主 題：カウンセリングの主要な理論と技法を論じ、クライアントに対するカウンセリング事例について治療プロセスを説明する。ロールプレイ、グループディスカッションなどを通して、カウンセリングの実際を学ぶ。また、受理から終結までのカウンセリングの過程について学ぶ。

授業内容・授業計画：講義、簡易実習、およびグループディスカッション。なお、講義の内容は進捗状況により変更することがある。

テ ー マ	予定回数	概要
オリエンテーション	1	講義の目的と内容の説明
精神分析療法について	1	精神分析の理論、治療関係について学ぶ
精神分析療法・交流分析について	1	精神分析の理論、技法、交流分析の理論について学ぶ
ユング心理学について	1	ユング心理学の理論とその特徴、夢分析等について学ぶ
クライアント中心療法について	1	クライアント中心療法の理論、セラピストの条件等について学ぶ
行動療法・認知行動療法について	1	行動療法・認知行動療法の理論、方法について学ぶ
ナラティブ・アプローチ、ブリーフセラピーについて	1	ナラティブ・アプローチの理論、ブリーフセラピーの概要と特徴について学ぶ
森田療法・内観療法について	1	森田理論、内観療法の方法、過程について学ぶ
カウンセリングの過程について①	1	カウンセリングを受理するまでに必要なことを学ぶ
カウンセリングの過程について②	1	カウンセリングの過程について学ぶ
カウンセリングの過程について③	1	カウンセリングの終結について学ぶ
カウンセリングの技術について	1	カウンセラーの聴く技術について、ロールプレイ等を通じて学ぶ。
カウンセリングの実際問題	1	受容の本質、転移・逆転移、抵抗等について学ぶ
事例検討	1	具体的な事例について、グループディスカッションにより理解を深める
まとめ	1	授業のまとめと最終レポート提出

事前・事後学習の内容：各回、学習内容について指示する。

評 価 方 法：レポートと出席点

教 材：適宜、資料を配布する

受講生へのコメント：詳細内容、計画、評価基準については 1 回目の講義時間内に通知します。

出席回数が基準に達していなければ不可となるので注意してください。

講義終了後に質問紙調査のご協力をお願いすることがあります。心理学の研究方法の理解を深められると思いますので、積極的にご参加ください。

備 考：

科 目 名：心理アセスメント（平成 29 年度以前入学生対象）／心理的アセスメント（平成 30 年度以降入学生対象）

英 語 表 記：Psychological Assessment

担 当 教 員：篠田 美紀

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2 単位

開講年度・学期：平成 30 年度・2 年次（平成 24 年度以降入学生～平成 29 年度入学生）後期

科目ナンバリング：HCCPL2204

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：臨床心理学的援助技術のうち、心理検査法による人格理解の方法とその理論的背景、臨床実践の実際について学ぶ。

科 目 の 主 題：心理アセスメントの目的と方法について理解した後、心理検査法による心理アセスメントについての理解を深める。まず、心理検査法の発展過程を概観し、心理検査法の種類とそれぞれの検査法の理論的背景および施行の特性について理解する。特に投影法各種検査においては実習にむけて（心理アセスメント実習）実施法等の基礎的な知識を養う。個々の検査法についての理解を深めた後に、事例報告から臨床実践現場での心理アセスメントの実際を学ぶ。

授業内容・授業計画：講義と簡易実習。なお、講義の内容は進捗状況に応じて変更することがある。

テ ー マ	予定回数	概 要
1 心理アセスメントの目的と方法	1	心理アセスメントの目的とその方法について理解する
2 心理検査法の歴史	1	心理検査法のこれまでの発展過程を概観する
3 知能検査法 1	1	知能のアセスメント法 ビネー法による個別知能検査を学ぶ
4 知能検査法 2	1	ウェクスラー法による個別知能検査を学ぶ
5 知能検査法 3	1	高齢者用簡易知能検査 特定領域検査法 神経心理検査法を学ぶ
6 発達検査法	1	乳幼児用発達検査を学ぶ
7 人格検査法 1	1	人格（パーソナリティ）のアセスメント法 人格検査の分類を学ぶ
8 人格検査法 2	1	質問紙法、作業検査法による人格検査を学ぶ
9 人格検査法 3	1	投影法によるアセスメントの特性 投影法による各種心理検査 を学ぶ
10 人格検査法 4	1	主題統覚検査（Thematic Apperception Test :TAT）について学ぶ
11 人格検査法 5	1	ロールシャッハテスト（Rorschach Test）について学ぶ
12 テストバッテリー	1	心理検査の実施の留意点と心理検査の組み合わせ方を学ぶ
13 心理アセスメントの実際 1	1	心理アセスメントの倫理と過程について学ぶ
14 心理アセスメントの実際 2	1	心理面接法と心理検査法による心理アセスメントを学ぶ
15 心理アセスメントの実際 3	1	事例をもとに、臨床実践現場での心理アセスメントの実際を学ぶ

事前・事後学習の内容：講義内に通知

評 価 方 法：最終レポート（50%）と出席点（50%）

教 材：『臨床心理アセスメントの基礎』沼 初枝 著 ナカニシヤ出版（2009）

補足教材はプリント及び各種検査用具、心理検査手引き書など

受講生へのコメント：多様な検査法について学習します。講義中心で進めますが、質問紙法によるいくつかの検
人格検査法は被験者体験を取り入れます。

講義で取り上げた検査法については、各自教科書による復習を怠らずに、習得してください。

備 考：出席回数が基準に達していなければ最終レポートを提出することができないので注意すること。基準につい
ては初回の講義内で通知する。

科 目 名：心理学的支援法Ⅰ（平成30年度入学生対象）／心理面接論（平成29年度以前入学生対象）

英 語 表 記：Psychological Support Methodology Ⅰ／Clinical Psychological interviewing Methodology

担 当 教 員：後藤 佳代子・（原 志津）

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・1年次前期集中

科目ナンバリング：HCCPL1103

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：カウンセリングの基本技術を学ぶ。自分自身のところに焦点を当てる方法を学ぶ。子どもたちのこころのサインに気づく。自我と自己の成長・変化のプロセスを知る。

科目の主題：カウンセリングの実習（ロールプレイ）やフォーカシングの実習、遊べない子どもへの関わりを学べる教材を通して子どもの心が開かれていく過程を知る。一日の講義の終わりには、その日の学びをレポートとしてまとめる。最終の最後の時間は、全体の学びのまとめレポートを提出する。

授業内容・授業計画：

テ ー マ	予定回数	概要
オリエンテーション	1	本講義の概要を説明する
心理面接とは	1	心理面接とは何か、どんなところで行われているのか説明する。
カウンセリングの基礎	1	カール・ロジャーズのクライエント中心療法について知る。
カウンセリングのプロセス	1	カウンセリングのプロセスについて、カール・ロジャーズの理論から学ぶ。
フォーカシングについて	1	カウンセリングの「体験過程」から自分自身の内面を焦点化することを学ぶ。
自分自身のテーマを知る	1	不思議で面白い心理テストを体験し、自分自身のテーマを知る。
こころと身体	1	身体に異常がないのに生じるこころの症状について知る。
いじめの被害者・加害者への理解と対応	1	いじめは学校で学ぶ権利を奪うだけでなく命を奪うことさえある。学校と教育の場でいじめによって辛い思いをする子どもたちを減らすための取り組みについて考える。
特別支援を必要とする子どもたちの支援	1	本人が努力しているにもかかわらず、発達に凹凸があり、できることとできないことの差が大きく、日常生活に困難を抱えている子どもたちを理解し支援する方法を学ぶ。
子どもたちの育つ環境について	1	大人が子どもたちの発達を妨げている方法について学ぶ。
箱庭療法について	1	箱庭療法が生まれた背景と理論について学ぶ。
こころの治癒過程を知る	1	箱庭療法のDVDから、こころの治癒過程についての理論を知る。
遊戯療法について	1	遊べない子どもとおとなとの関わり。アダルトチルドレンについても知る。
さまざまな事例	1	学校現場での事例を聴いて、自分なりの対処法を考える。
まとめ	1	授業での学びをふりかえり、今後の支援に活かすべきことについて考える。

事前・事後学習の内容：各回、学習内容について指示する。

評 価 方 法：出席回数、毎日の終わりのレポート、最終日のレポート、出席態度などをもとに評価します。

教 材：参考図書 「スクールカウンセラーがすすめる112冊の本」 滝口俊子・田中慶江 創元社

「教育相談ワークブック こどもを育む人になるために」 桜井・斉藤・森平 北樹書房

受講生へのコメント：こころについて学ぶための本のリストを配布するので、できるだけ多くの本を手にとって読んでほしいと思っています。出席回数が基準に達していなければ不可となるので注意してください。

備 考：授業内容は、授業の進行状況に応じて変更することがあります。

科 目 名 : 心理統計法

英 語 表 記 : Statistical Methods for Psychological Research

担 当 教 員 : 篠田 美紀・(毛 新華)

授 業 形 態 : 講 義

単 位 数 : 2 単 位

開講年度・学期 : 平成 30 年度・2 年次後期

科目ナンバリング : HCCPL2205

当学科・コース学生以外の受講 : 不可

授業の到達目標 : 心理学的データの整理と分析に関する統計学的手法を概説する。

科目の主題 : 実証科学としての心理学は 19 世紀後半に始まったとされており、他の学問領域に比べてもさほど長い歴史をもっているわけではない。しかしながら、心理学の目的は、一見とらえどころのない心理現象や心理過程を解明することにあるため、それらを厳密に科学的に研究する方法については、とりわけ多くの努力と注意が払われてきた。そして、この一世紀あまりの間に心理学の研究方法は体系的に整備され、また現在も改良・開発・工夫の努力が重ねられている。科学的な実験心理学で用いられる研究方法としては、事例研究、行動観察、質問紙調査、心理テスト、心理学実験などがある。この講義では、このような実験心理学的方法を概観したのち、心理学的データの収集、整理、表現、解析に関連した記述統計学と推測統計学の基礎について論じる。最近では、データ解析に関して便利なコンピュータ・プログラムが広く普及しているが、その誤用・乱用による弊害も少なくない。そこで、具体的な実験データを例にあげながら、基礎的な統計解析の技法の修得をめざす。

授業内容・授業計画 : 講義と簡易演習

テ ー マ	予定回数	概 要
オリエンテーション	1	本講義の目的及び成績評価の概要を説明する。
記述統計 (1)	1	一つの変数の特徴を記述する (1) 尺度水準とデータの図表化
記述統計 (2)	1	一つの変数の特徴を記述する (2) 代表値散布度
記述統計 (3)	1	二つの変数の特徴を記述する (1) 散布図共分散相関係数
記述統計 (4)	1	二つの変数の特徴を記述する (2) 相関係数の性質連関係数
推測統計の基礎 (1)	1	標本から母集団を推測する (1) 母集団と (標準) 正規分布 (表)
推測統計の基礎 (2)	1	標本から母集団を推測する (2) 標本分布不偏性
推測統計の考え方	1	統計的仮説検定の考え方
推測統計 (1)	1	統計的仮説検定の実際 (1) 一つの平均値の検定
推測統計 (2)	1	統計的仮説検定の実際 (2) 相関係数検定カイ 2 乗検定
推測統計 (3)	1	二つの平均値の比較 (1) 独立な 2 群の t 検定
推測統計 (4)	1	二つの平均値の比較 (2) 対応のある 2 群の t 検定
推測統計 (5)	1	三つの平均値の比較 (1) 1 要因被験者間計画
推測統計 (6)	1	市大三つの平均値の比較 (2) 1 要因被験者内計画
まとめと試験	1	これまでの講義で取りあげたテーマをふりかえる。試験を行う。

事前 : 事後学習の内容 : 各回、次回授業の準備等について、指示する。

評 価 方 法 : 試験を行い、その結果を中心に、授業中の確認テストおよび出席状況を加味して評価する。

教 材 : 山田剛史・村井潤一郎 (2004) 『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房 (ISBN4-623-03999-4)

受講生へのコメント :

備 考 : 参考文献については授業中に指示する。授業では講義だけでなく、統計計算や作表・作図に関する簡単な作業も課す。

科 目 名：コミュニティ臨床心理学（平成 26 年度以降入学生対象）

コミュニティ心理学（平成 25 年度以前入学生対象）

英 語 表 記：Community Clinical Psychology

担 当 教 員：三船 直子

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2 単位

開講年度・学期：平成 30 年度・3 年次前期

当学科・コース学生以外の受講：可（教室収容定員を上回った場合、履修制限を実施する場合がある）

授業の到達目標：コミュニティ心理学の基本的理念について理解を深め、臨床心理支援におけるコミュニティ心理学視点に立った支援について、具体的な事例について、その方法とアプローチを理解する

科目の主題：コミュニティ心理学の歴史、基本理念について概説し、考察する。臨床心理支援における具体的な実践事例について提示し、検討を行う

授業内容・授業計画：中心的概念について講義し、各々のテーマについてグループディスカッションを行い、プレゼンテーションを重ねていく。講義とグループディスカッションを重ねながら、講義全体を通してコミュニティ臨床心理学を実感できる講義を目標とする。講義の進捗状況に応じて講義内容を変更することがある。

テ ー マ	予定回数	概 要
コミュニティ心理学のとは 歴史と基本理念	1	コミュニティ心理学の歴史
	2	コミュニティ臨床心理学の概説
	3	基本理念について
現代社会とコミュニティ臨床 心理学	4	現代社会におけるストレスとコミュニティ臨床心理学について考える
	5	日常のなかのコミュニティとその臨床心理的問題・
コミュニティ臨床心理学の実際 グループディスカッション2～4 プレゼンテーション(全体での シェアと討論)	6	スクールカウンセリング事例1 心身症A君
	7	スクールカウンセリング事例2 学校と子ども・地域について考える
	8	子育て臨床支援（親と子、地域の関係、虐待問題について）
	9	学生相談 青年期の課題
	10	予防と危機介入
	11	産業カウンセリング1 職場のメンタルヘルスについて ストレス
	12	産業カウンセリング2 過労問題・過労死と過労自殺
	13	各々のテーマ事例に関する調査と討議とグループでのプレゼンテーション
まとめ	15	まとめとコミュニティ臨床心理学の課題

事前・事後学習の内容：毎回、コミュニティ臨床心理学に関連したコラムの配布とその考察の提出と自学習

授業の進捗に応じて事前学習課題の提示とその事後学習

評 価 方 法：出席点とグループ討議とプレゼンテーション、およびレポートなどを総合して評価をおこなう

教 材：講義資料や参考資料は講義中に適宜配布

受講生へのコメント：

備 考：

科 目 名：人間関係の心理学

英 語 表 記：Psychology of Human Relationship

担 当 教 員：三船 直子

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・1年次後期

科目ナンバリング：HCCPL1104

当学科・コース学生以外の受講：可（教室収容定員を上回った場合、履修制限を実施する場合がある）

授業の到達目標：人間関係におけるさまざまな問題について臨床心理学的視点から考察し、論じていくことを目的とする。臨床心理学の基礎概念を解説し、実際の体験に基づいた人間関係について考えを深めていく

科 目 の 主 題：対人支援の基本的な概念を明らかにし、人が悩み、苦しむことの意味、そして苦痛を癒し、支援をさしにべる癒す人間関係、その営みを身近な問題を取り上げつつ、臨床心理学的観点から考察する。

授業内容・授業計画：主たるテーマについて講義し、これらのテーマに関してグループディスカッションを行っていく。小さなワークなども交える。グループディスカッションではラボラトリメソッドを援用しつつ、関係の中の「私」体験を大切にしていく。なお、講義の進捗状況に応じて講義内容を変更することがある。

テ ー マ	予定回数	概 要
オリエンテーション 日常の人間関係	1	身近な人間関係を振り返る
関係性の発達と関係の雛型	2 3 4	関係のゆりかご 愛着から考える・ウィニコットの 内的ワーキングモデル 相手のところを知る・三者関係の成立 大切な人との関係
人間関係の諸側面 講義とグループディスカッション	5 6 7 8 9 10 11	友人関係（ともに成長していく人間関係の諸相）現代的な友人関係 自己開示と他者理解 現代とバーチャルな人間関係 新たな人間関係について 「私の中の他者」と「他者の中の私」：人間関係の深層 青年期の人間関係の意義 自分を作る・自分を知る ヤマアラシのジレンマとその対処法 人間関係の葛藤 集団と個
グループによる研究みに発表と 討論	12 13 14	・ 各グループでのプレゼンテーション1、2、3、4、5、6 ・ 各グループ45分、15～25分の発表時間、 ・ 20分から30分のディスカッションと各グループのテーマについての講義
まとめ	15	人間関係についてのまとめ

事前・事後学習の内容：毎回、授業の進捗に応じて事前学習課題の提示とその事後学習

グループテーマに応じた事前学習と全体へのシェアと事後学習

評 価 方 法：出席点とレポートによる評価：レポート（講義内にもミニレポートがある）

教 材：講義中に配布

受講生へのコメント：

備 考：

科 目 名：臨床心理学概論（平成30年度以降入学者対象）

英 語 表 記：Introduction to Clinical Psychology

担 当 教 員：^{ミフネ ナオコ}三船 直子

授 業 形 態：講義

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・1年次・後期

科目ナンバリング：HCCPL1106

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標： 臨床心理学について、その基本的なものの見方や考え方について概説し、人のこころを理解し、支援するための根本的な姿勢と考えについて学ぶ。臨床心理学の4つの柱、心理的理解のためのアセスメント、パーソナリティ心理学、心理臨床支援、コミュニティ心理学などを合わせ、考える。

科目の主題： 対人支援の基本的な概念を明らかにし、人が悩み、苦しむことの意味、それへのアプローチの根本的な理念、人を取り巻く社会や文化という環境との相関、人を支援する方法などについて考察していく。

授業内容・授業計画：講義を中心に内容に応じてディスカッションや小さなワークなどを交える。なお、講義の進捗状況に応じて講義内容を変更することがある。

テ ー マ	予定回数	概 要
臨床心理学とは	1	臨床心理学の歴史
	2	洋の東西に見るこころとこころの病についての概念とアプローチの変遷
私の成り立ち	3	私について考える
	4	意識と無意識の観点から
	5	環境と私
発達とこころの病理	6	こころの発達理論 フロイト/ウィニコット/コフート
	7	ストレス
	8	神経症・境界例・精神病
	9	発達と人格の病理
こころを理解することと その心理臨床支援	10	こころへの理解を深めるプロセス 心理アセスメントを支援に生かす
	11	カウンセリング理論
	12	カウンセリング事例 母子・児童期
	13	カウンセリング事例 思春期・青年期
まとめ	14	事例に基づくカウンセリングのプロセス
	15	臨床心理学のまとめ

事前：事後の学習内容：各回、学習内容について指示する。

評 価 方 法：出席点とレポートによる評価：レポート（講義内にもミニレポートがある）

教 材：参考書：「臨床心理学を基本から学ぶ」丸島令子・日比野英子編集，北大路書房
「臨床心理学入門 理解とかわりを深める」氏原寛，杉原保史，培風館

受講生へのコメント：

備 考：

科目名：医学概論
英語表記：Introduction to Medical Science

担当教員：大西 次郎

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・1年次後期

科目ナンバリング：HCSWL1105

当学科・コース学生以外の受講：可（教室収容定員を上回った場合は、履修制限を実施することがある）

授業の到達目標：社会福祉・心理臨床の実践現場では、疾病あるいは障害を持つ人々への対応が即時要請される。人体の構造と機能や健康概念の熟知をもとに、病気の予防、治療を追求する医学の体系への理解を深めていく。

科目の主題：広範な医学の領域から、個人や集団を支える対人援助の実践を展開するために、必要とされる事項を厳選して学ぶ。「医学概論」では、基礎となる各器官の正常像、ライフステージごとの重要な疾病、心身の障害とリハビリテーション、および健康や保健の概念などのテーマを、平板な知識の羅列にとどまらないよう視覚教材を交えながら、自らのこころやからだへの参照（マイ〇〇）を意識しつつ取り上げていく。

授業内容・授業計画：講義形式で行う。

テ ー マ	予定回数	概 要
人の成長・発達と老化 / 身体構造と心身の機能	3	1) 身体の成長・発達 / 精神の成長・発達 / 老化 2) 人体部位の名称 3) 各器官の構造と機能
疾病の概要 / 障害の概要	7	4) 生活習慣病と未病 / 悪性新生物 / 脳血管疾患 / 心疾患 / 高血圧 5) 糖尿病と内分泌疾患 / 呼吸器疾患 / 消化器疾患 / 血液疾患と膠原病 6) 腎臓疾患 / 泌尿器系疾患 / 骨・関節疾患 / 目・耳の疾患 / 感染症 7) 神経難病 / 先天性疾患 / 高齢者に多い疾患 / 緩和ケア 8) 視覚障害 / 聴覚障害 / 平衡機能障害 9) 肢体不自由 / 内部障害 / 知的障害 / 発達障害 10) 認知症 / 高次脳機能障害 / 精神障害
リハビリテーションの概要 / 国際生活機能分類 (ICF) の基本的考え方と概要	3	11) リハビリテーションとは / 障害評価 / リハビリテーションの諸段階 12) リハビリテーションにかかわる専門職 / リハビリテーションの四つの側面 / 国際障害分類 (ICIDH) から国際生活機能分類 (ICF) への変遷 13) 心身機能と身体構造、活動、参加 / 背景因子 / 健康状態と生活機能低下の概念
健康のとらえ方	2	14) 健康の概念 / 日本の人口統計 / 高齢化と医療費 / 国民健康づくり対策 15) 感染症対策 / 労働衛生 / 歯科保健 / 環境保健 / 学校保健

事前・事後学習の内容：事前学習：1回の講義あたりおおむね15ページを目安として教科書を通読のうえ、意味が十分理解できない単語や文章については、それらの概要を調べておく。

事後学習：講義時に「本日のポイント」とする最重要事項は、もろさず説明できるようにしておく。加えて三段階に重み付けのうえ必要～参考点を示すので、到達度に応じて修得の範囲を広げる。

評価方法：筆記試験（1回）と、小レポート（3回）により評価する。

教材：社会福祉士養成講座編集委員会（2015）『新・社会福祉士養成講座 人体の構造と機能及び疾病』（第3版）中央法規

受講生へのコメント：本科目は、このあと引き続き福祉システム学Ⅰを受講することで、さらに理解が深まる構成となっている。もちろん、単独でも受講（かつ納得）できる。医学概論と福祉システム学Ⅰ、福祉システム学Ⅱと共生社会論がそれぞれ医療と社会福祉、精神科医療と心理臨床における医学モデル vs. 生活 / 社会モデルの対置に相当し、これら4科目の履修によってわが国の精神保健・医療福祉システムを概観できる組み立てである。

備考：出席回数が基準に達していない場合は、筆記試験における採点の対象から除外する。

科 目 名：ソーシャルワーク原論Ⅰ

英 語 表 記：Foundations of Social Work Practice Ⅰ

担 当 教 員：増田 和^{マサダ}高^{カズタカ}

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2 単 位

開講年度・学期：平成 30 年度・2 年次前期

科目ナンバリング：HCSWL2206

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：ソーシャルワーク実践の基盤となるソーシャルワークの基本的な価値や理念、実践概念について学ぶ。

科 目 の 主 題：ソーシャルワークの全体像と構造及びソーシャルワーカーという仕事について理解をした上で、ソーシャルワーク実践の基盤となる基本的な価値や理念、その実践概念について理解を深める。

授業内容・授業計画：講義を中心に展開する。

- 1：ソーシャルワークの歴史の変遷と発展①（個人の内面への関心）
- 2：ソーシャルワークの歴史の変遷と発展②（統合化への流れ）
- 3：ソーシャルワークの価値（目的概念と実体概念）
- 4：広義/狭義のソーシャルワーク
- 5：ソーシャルワークの方法
- 6：ソーシャルワークにおけるニーズ論
- 7：ソーシャルワーク援助の原則
- 8：ソーシャルワークにおけるインテーク及びアセスメント
- 9：ソーシャルワークが活用する社会資源の構造
- 10：ソーシャルワークにおけるプランニングと社会資源調整
- 11：ソーシャルワークにおける社会改良・社会資源開発
- 12：ソーシャルワークにおける地域支援
- 13：ソーシャルワーク実践と専門職 グループ・プレゼンテーション
- 14：講義全体のまとめ
- 15：グループ・プレゼンテーション

事前・事後学習の内容：各講義の最後に各自が取り組むべき事後学習と事前学習の内容について説明する。

評 価 方 法：試験及びプレゼンテーションにもとづいて総合的に評価する。

小テスト 2回（各25点×2回）	50点
最終テスト1回	40点
グループ・プレゼンテーション	10点
合計	100点

教 材：適宜、配布する。

受講生へのコメント：必ず試験を受け、プレゼンテーションを行うことが必須である。

備 考：

科 目 名： ソーシャルワーク原論Ⅱ
 英 語 表 記： Foundations of Social Work Practice II
 担 当 教 員： 大西 次郎
 授 業 形 態： 講 義
 単 位 数： 2単位
 開講年度・学期： 平成30年度・2年次後期
 科目ナンバリング： HCSWL2207
 当学科・コース学生以外の受講： 不可

授業の到達目標： 目の前で苦しむ人を、それに気付かない社会を、見過ごせない思いは対人援助の重要な原動力であり大いに好ましい。では、親切なお兄さん・お姉さんの「行為」と、対人援助職による「実践」の違いは何か。実践は福祉システムから影響を受け、時にはそれが制約にすらなる。しかし、多くの福祉システムの存在には相応の背景がある。それらの把握を介して、福祉的活動が私事的な行為から、福祉に付帯する社会性を認識した実践へと展開するのである。利用が中心の「制度」にとどまらず、社会問題を解明し未来を切り開く「政策」の視座を持つ、社会福祉はもちろん心理臨床にも通底した対人援助職としての専門性の基礎を身に付ける。

科目の主題： 「原論」とは「原理論」のことである。「原理論」とは対象の根源を追求しようとする科学の体系であり、そうした蓄積なしに、独立した学問は存在し得ない。社会福祉の中に流れる理念・原理を理解し、社会福祉それ自身が有する主体的価値を見極めるのが社会福祉原理論であるなら、社会福祉に携わる専門職の中に流れる理念・原理を理解し、援助行為に影響を及ぼす内在的価値を見極めるのがソーシャルワーク原論である。なぜなら社会福祉は、社会全体が解決すべき問題への政策的対応と、社会問題が個人の生活に具現化した困難への実践的対応の双方を含むからである。変容する現代の福祉とそれに関わる政策に通暁する「装置の学」と、その政策を時に批判し社会を変革する「抵抗の学」の、両原理論における併存を明確に意識する。

授業内容・授業計画： 講義形式で行う。

テ ー マ	予定回数	概 要
原理論へのいざない	2	1) 対人援助職が意識すべき「実践理論」と「原理論」 2) なぜ援助するのか / 誰 (何) に援助するのか
個別援助と原理論	3	3) 対象把握の方法：固有と共有、主観と客観 4) 個人モデルと環境モデル 5) 物語モデルと文化モデル
集団援助と原理論	2	6) 集団援助の特性と展開過程 7) 「当事者」とは誰 (何) か：セルフヘルプ・グループ、自立生活運動、AA
社会政策とソーシャルワーク	2	8) 公共政策 (秩序政策、経済政策、社会政策) とソーシャルワーク 9) 福祉レジーム：「脱商品化」と「脱家族化」から見る3 (4) 類型
福祉国家とソーシャルワーク	3	10) イギリスの社会福祉政策史：労働 (市場) とソーシャルワーク 11) 「自助」と「公助」の境界 / 貧困、雇用、不況とソーシャルワーク 12) 生活支援・就労支援を超えて：「ワークフェア」と「アクティベーション」
わが国におけるソーシャルワーク	2	13) わが国の社会福祉政策史：「国の公益」と「個人の尊厳」 14) 政策とソーシャルワーク：「装置の学」と「抵抗の学」
ソーシャルワークを取り巻く理念	1	15) QOL、リハビリテーション、エンパワメント

事前・事後学習の内容： 事前学習：1回の講義あたりおおむね15ページを目安として教科書を通読のうえ、意味が十分理解できない単語や文章については、それらの概要を調べておく。

事後学習：授業に関して十分に理解できない内容があった場合は、次回までに各自で見直しておくことが求められる。教員への意見表明も歓迎する。

評価方法： 授業時間内に主として作成を指示するレポート (8回を予定) により評価する。

教材： 稲沢公一、岩崎晋也 (2014) 『社会福祉をつかむ』(改訂版) 有斐閣

受講生へのコメント： 本科目は、あらかじめ社会福祉原理論、社会福祉学およびソーシャルワーク原論Ⅰを受講しておくことで、より理解が深まる構成となっている。もちろん、単独でも受講 (かつ納得) できる。

備考： 出席回数が基準に達していない場合は、レポートにおける採点の対象から除外する。

科 目 名：ソーシャルワーク論Ⅰ

英 語 表 記：Social WorkⅠ

担 当 教 員：^{ウツラ ナオコ}鶴浦 直子

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・3年次前期

科目ナンバリング：HCSWL2208

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：ジェネラリストソーシャルワークの基本である個別援助（ケースワーク）ならびに集団援助（グループワーク）について体系的かつ実践的に習得することを目的とする。

科目の主題：個別援助（ケースワーク）と集団援助（グループワーク）の成り立ちを学ぶとともに、個別援助と集団援助における援助関係や面接技術などの専門技術について学ぶ。

授業内容・授業計画：講義

テ ー マ	予定回数	概 要
ジェネラリストソーシャルワークと個別援助（ケースワーク）	1	ジェネラリストソーシャルワークにおける個別援助の位置づけ
個別援助（ケースワーク）の発展過程	1	個別援助の理論的発展
個別援助（ケースワーク）の定義と要素	1	個別援助の定義、対象者、目的、援助関係
個別援助（ケースワーク）の援助過程	1	個別援助の援助過程の概要
個別援助におけるインテークと情報収集の実際	1	インテークと情報収集の目的、内容、方法
個別援助におけるアセスメントとプランニングの実際	1	アセスメントとプランニングの目的、内容、方法
個別援助と相談面接技術	1	個別援助における相談面接の位置づけ
相談面接技術の構造と面接環境	1	相談面接技術の構造と環境
相談面接技法1	1	「面接を展開する」面接技法
相談面接技法2	1	「感情に接近する」面接技法
ジェネラリストソーシャルワークと集団援助（グループワーク）	1	ジェネラリストソーシャルワークにおける集団援助の位置づけ
集団援助（グループワーク）の発展過程	1	集団援助の理論的発展
集団援助（グループワーク）の実践価値基盤と原則	1	集団援助の実践根拠としての価値
集団援助（グループワーク）の実践的展開	1	「相互援助システム」の形成と活用
個別援助（ケースワーク）と集団援助（グループワーク）の課題	1	個別援助と集団援助の今後の課題

事前・事後学習の内容：毎回の授業時に指示するが、次の授業に向けて指定した課題への取り組み、参考書等に指定したテキストの事前・事後学習をすること。

評 価 方 法：出席（30%）、参加態度（10%）、試験（60%）をもとに判断する。

教 材：F.P.バーステック著/尾崎新・福田俊子・原田和幸訳『ケースワークの原則 [新訳改訂版]』誠心書房、2006年。

岩間伸之『対人援助のための相談面接技術－逐語で学ぶ21の技法－』中央法規出版、2008年。

受講生へのコメント：出席回数が基準に達していなければ試験を受けることができない。

備 考：原則として2年次配当科目「ソーシャルワーク原論Ⅰ・Ⅱ」の履修者が対象となる。

オフィスアワー：講義終了後

科目名：ソーシャルワーク論Ⅱ

科目英文名：Social WorkⅡ

担当 者：野村 恭代

種 別：講義

単 位 数：2単位

学年・学期：3年次・後期

当学科学生以外の受講：不可

講義の目的：地域を基盤としたソーシャルワークは、ケースワークやグループワークと区別されるものではなく、それらを含むさまざまな直接的・間接的援助技術と関連しながら展開されるものである。本講では、ジェネラル（ジェネラリスト）・ソーシャルワークの視点に基づき、地域を基盤としたソーシャルワークについて学ぶことを目的とする。

講義の概要：地域を基盤としたソーシャルワークの展開過程等について、具体的事例や視聴覚教材を用いながら学習する。

講義方法：講義・演習

授業内容

	テ ー マ	概 要
1	オリエンテーション	講義の目的と内容、進め方等
2	地域を基盤としたソーシャルワークの基礎理論	ジェネラル（ジェネラリスト）・ソーシャルワーク
3	地域を基盤としたソーシャルワークの全体像	地域を基盤としたソーシャルワークとはなにか
4	地域を基盤としたソーシャルワークの機能(1)	広範なニーズへの対応
5	地域を基盤としたソーシャルワークの機能(2)	本人の解決能力の向上
6	地域を基盤としたソーシャルワークの機能(3)	連携と協働
6	地域を基盤としたソーシャルワークの機能(4)	個と地域の一体的支援
7	地域を基盤としたソーシャルワークの機能(5)	予防的支援
8	地域を基盤としたソーシャルワークの機能(6)	支援困難事例への対応
9	地域を基盤としたソーシャルワークの機能(7)	権利擁護活動
10	地域を基盤としたソーシャルワークの機能(8)	ソーシャルアクション
11	総合相談の概念	総合相談とはなにか
12	総合相談の展開	総合相談としての地域拠点活動
13	総合相談の課題	理念に基づいた総合相談の展開とその課題
14	援助過程	ジェネラリスト・ソーシャルワークの援助過程
15	ソーシャルワークに求められるもの	半期の授業のまとめ

評価方法：出席・受講態度・期末試験

教科書等：岩間伸之・原田正樹（2012）『地域福祉援助をつかむ』有斐閣

備 考：

オフィスアワー：月曜日の昼休み

担当者からの一言：出席回数が基準に達していなければ試験を受けることができないため注意すること。

科 目 名：ソーシャルワーク論Ⅲ

英 語 表 記：Social Work Ⅲ

担 当 教 員：清水 由香

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・4年次前期

科目ナンバリング：HCSWL3401

当学科学生以外の受講：不可

授業の到達目標：①ソーシャルワーク実践の質をより高めるために必要な教育的・環境的な要素と構造、特性が理解できる。

②実践やプログラムの評価手法や特徴が理解できる。③福祉サービス利用者の体験の語りを聴き、交流を通して、利用者の立場と視点の理解、および共生社会構築に必要なソーシャルワークとは何か理解できる。

科 目 の 主 題：支援の質を担保し、より高めていくために必要な環境のあり方、技法や要素を学習する。さらにそれらの概念を実践で応用できるように、相談支援実践の現場見学と実践者や当事者による臨床講義を通して学ぶ。

授業内容・授業計画：講義と演習（見学）

テ ー マ	概 要
①ソーシャルワーク実践の質とは	講義の概要 学習をすすめていくために重要なキーワードについて
②スーパービジョン・コンサルテーション	スーパービジョンの定義、機能、方法、課題
③スーパービジョンの実際	スーパービジョンの事例
④チームアプローチの構造と特性	チームアプローチの定義、機能、連携の方法
⑤チームアプローチの実際	チームアプローチの類型と特性、実践場面の事例
⑥相談援助における倫理と情報管理	個人情報保護や倫理的配慮について
⑦相談援助における情報通信技術と記録	情報や記録の取り扱い、IT化とその留意点
⑧福祉サービス利用者の視点から学ぶ	障害福祉サービス利用者の病い・障害、生活の語りを聞き、討論
⑨ソーシャルワークとナラティブの意味	当事者のナラティブの意味とソーシャルワーク実践への還元について
⑩EBP とは何か	Evidence-based-practice の定義、ソーシャルワーク実践の評価
⑪ソーシャルワーク実践の評価の実際	実践の評価を事例から理解する
⑫地域における相談支援事業の実際	臨床講話から実践の質の担保と向上の臨床課題を検討する。
⑬病院から地域移行・定着支援の実際	臨床講話から実践の質の担保と向上の臨床課題を検討する。
⑭障害からの回復と生活支援の実践事例	臨床講話から実践の質の担保と向上の臨床課題を検討する。
⑮フィールドワーク学習の共有	⑫～⑭の共有と討論。全体のまとめ

事前・事後学習の内容：講義については、講義ごとに、学習内容を指示する。施設見学では、事前の情報収集による準備、

そして見学後にグループ討議により、討論を深めたうえで、レポートととしてまとめること。

評 価 方 法：レポート2回（80%）、授業態度（20%） *出席数が不足する場合はレポート提出を認めない。

教 材：適宜資料を配布。

参考図書：「ソーシャルワーク・スーパービジョン論」、一般社団法人 日本社会福祉教育学校連盟、中央法規出版 2015、「プログラム評価一対人・コミュニティ援助の質を高めるために」安田節之、新曜社、2011

受講生へのコメント：病院など地域保健福祉関連施設の見学を行うため、見学前の授業内でのオリエンテーションに必ず出席すること。

備 考：ソーシャルワーク論Ⅰ・Ⅱが履修済みであることを履修条件とする。社会福祉士受験資格の必修科目である。

オフィスアワー 火曜日 2限目

科 目 名：ソーシャルワーク論Ⅳ

英 語 表 記：Methods in Social Work Practice IV

担 当 教 員：岡田 進一

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・4年次前期

科目ナンバリング：HCSWL3402

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：ソーシャルワーク論Ⅰ・Ⅱで学んできたことを前提に、ソーシャルワークにおける基礎理論を概観し、さまざまな事例について理論を応用しながらケアマネジメントや相談支援方法について学ぶ。

科 目 の 主 題：ソーシャルワークにおける理論、モデル、アプローチを紹介し、それらの理論やモデルを活用しながら、さまざまな事例における相談支援方法を考えていく。毎回、事例が提示され、グループ・ディスカッションを通じて、事例についての解決方法を見いだすトレーニングを行う。

授業内容・授業計画：講義・演習

- 1：オリエンテーション
- 2：治療モデル・環境モデル・生活モデル
- 3：トレングスモデル
- 4：心理社会的アプローチ
- 5：能的アプローチ
- 6：問題解決アプローチ
- 7：危機介入アプローチ
- 8：行動変容
- 9：認知アプローチ
- 10：エンパワメントアプローチ
- 11：ストレングスとエンパワメント
- 12：グループ・ワーク
- 13：ソーシャルワーク実践展開
- 14：ソーシャルワーク実践の今後の課題
- 15：ソーシャルワーク論のまとめ

事前・事後学習の内容：適宜、講義中に指示を行う。

評 価 方 法：試験3回（60%：20点×3回）・最終レポート（30%）・個人発表（10%）によって評価する。

教 材：適宜、資料を配布する。

受講生へのコメント：本講義は、社会福祉士受験資格の科目（特に、社会福祉原理論、社会福祉学、社会保障論Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワークⅠ・Ⅱなど）を受講していることが前提となる。

備 考：オフィスアワー 金曜日のお昼休み

科目名：地域福祉論 I

科目英文名：Community-based Social Welfare I

担当者：^{ノムラ}野村 ^{ヤスヨ}恭代

種別：講義

単位数：2単位

学年・学期：3年次・前期

当学科学生以外の受講：不可

講義の目的：「地域福祉」とはなにか、理念、内容、現状等について学ぶ。

講義の概要：社会福祉における地域福祉の位置、考え方、実態等について、具体的な地域課題をもとに学ぶ。

講義方法：講義・グループワーク

授業内容

	テ ー マ	概 要
1	オリエンテーション	講義の目的と内容、進め方等
2	現代社会と地域	社会と「地域」
3	現代社会と地域福祉	現代社会における地域福祉の意義
4	地域福祉の理念	地域福祉の歴史と概念
5	地域福祉の実践理念	地域福祉を推進するための理念
6	地域福祉の実践概念	地域福祉を推進するための概念
7	地域福祉の推進	地域社会の組織化と展開
8	地域福祉の実践	地域福祉サービスの実践主体
9	地域福祉の実際	地域福祉サービスの実際と課題
10	地域福祉の取り組み	地域における具体的課題とその支援①
11	地域福祉活動	地域における具体的課題とその支援②
13	地域就労の推進	地域における具体的課題とその支援③
14	地域福祉と居住福祉	福祉の基盤となる居住福祉の概念
15	これからの社会と地域福祉	半期のまとめ

評価方法：個別発表・試験

教科書等：(テキスト) 適宜、指示する。

(参考文献) 適宜、指示する。

備考：

オフィスアワー：月曜日の昼休み

担当者からの一言：出席回数および個別発表がレポートを提出する条件となるため注意すること。

科 目 名：地域福祉論Ⅱ

科目英文名：Community-based Social Welfare Ⅱ

担 当 者：野村 恭代

種 別：講 義

単 位 数：2単位

学年・学期：3年次・前期

当学科学生以外の受講：不可

講 義 の 目 的：本講義では地域福祉実践の現場において、地域福祉の理論がどのように展開されているかを学び、ソーシャルワークにおける地域の位置づけや知識・技術等を深める。

講 義 の 概 要：ソーシャルワークにおける地域の位置づけ、地域福祉の歴史的展開、地域組織化のプロセスと方法等についての基礎理論を踏まえた上で、地域福祉実践の実際、ボランティア活動への支援、社会福祉施設の活動等の実際について学ぶ。

講 義 方 法：講義、フィールドワーク

授 業 内 容

	テ ー マ	概 要
1	地域福祉の歴史	地域福祉の歴史的展開
2	地域福祉の理論	地域福祉の基礎理論
3	地域社会の組織化	地域組織化と福祉組織化
4	フィールドワーク① (地域活動)	地域福祉の実際を学ぶ
5	フィールドワーク② (地域での福祉活動)	地域福祉の実際を学ぶ
6	フィールドワーク③ (社会福祉施設の活動)	地域における社会福祉施設の機能と役割について学ぶ
7	フィールドワーク④ (社会福祉施設における地域福祉活動)	社会福祉施設による地域社会への働きかけの実際について学ぶ
8	福祉専門職の役割	地域における福祉専門職の役割について学ぶ
9	行政の役割	地域づくりにおける行政の役割について学ぶ
10	小地域活動の意義	小地域の地域福祉活動における住民主体の意義
11	市民活動	地域福祉の視点から市民活動について学ぶ
12	NPO	地域福祉の視点から NPO について学ぶ
13	社会福祉施設・事業所と地域福祉	地域における福祉の拠点としての施設・事業所の役割
14	ソーシャルワークと地域	ソーシャルワークにおける地域の意味
15	これからの社会と地域福祉	半期のまとめ

評 価 方 法：レポートと受講態度で総合的に評価する。

教 科 書 等：必要な資料を配布する。

(担当者からの一言)：地域福祉の実際を学ぶため、フィールドワークを行います。

：本科目は、社会福祉士受験資格取得のための必修科目であるため、社会福祉士を目指す学生の受講を希望します。

科目名：介護学

英語表記：Care Work

担当教員：(沖田^{オキタ}裕子^{ユウコ})

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・3年次前期

科目ナンバリング：HCSWL2303

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：ソーシャルワークを行ううえで必要な介護の理念及び介護に関する基本的知識と技術を習得することを目的とする。

科目の主題：講義で学んだ介護の理論について、視覚教材や演習と実習によって理解を深める。介護とソーシャルワークとの関係について学習する。生活支援に必要な介護技術を体の生理的な働きと動きに基づき理解することで、要介護者にとっても介護者にとっても安楽な援助方法を学習する。言語的コミュニケーションの難しい対象への援助に役立てるために、非言語的コミュニケーションの取り方について学習する。

授業内容・授業計画：講義を中心に進める。適宜、演習および実習を取り入れる。

テーマ	予定回数	概要
介護の概念・理念	1	講義の概要説明 介護・ケア・サポート・パートナーとは
介護実技①	1	食事の介助・口腔ケア * 1
介護実技②	1	ボディメカニクス、移動の介助、排泄の介助 * 3
介護実技③	1	入浴の介助、衣服の着脱の介助 * 2
介護技術①	1	健康や生活の観察技法、住環境の整備、福祉用具の活用
介護技術②	1	回想法
介護技術③	1	コミュニケーション * 3
介護実技・移動の介助①	1	ベッドメイキング、腰痛防止体操 * 3
介護実技・移動の介助②	1	おむつの当て方、排泄の自助具 * 3
介護と社会福祉諸制度	1	介護保険や諸制度を合わせた支援のあり方
介護と地域・他職種連携	1	地域や社会のケアシステム、介護従事者と他職種との連携
認知症ケア①	1	認知症の理解
認知症ケア②	1	認知症の人へのサポート
認知症ケア③	1	介護家族へのサポート
介護における今後の課題	1	自立支援とは、終末期ケア

事前：事後の学習内容：毎回、次回授業の準備等について、指示する。

評価方法：レポート・出席

教材：適宜、指示する。

受講生へのコメント：介護をしたり、されたりする体験をとおして学習していきます。遅刻や欠席の場合は、クラスメイトに連絡してください。

備考：介護技術や介護実技では、服装についての指示や用意する物品があるので要確認。

* 1 プリン又はゼリー、タオル、スプーン、タオル、手鏡、歯ブラシ

* 2 介護実技実習 動きやすい服装、スカートをはいてこないこと ジャージの上下持参のこと

* 3 介護実技実習 動きやすい服装 スカートをはいてこないこと

オフィスアワー：授業の前後の時間

科 目 名：生活経済学

英 語 表 記：Household Economics

担 当 教 員：(服部 ^{ハットリ} ^{リョウコ} 良子)

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・2年次前期

科目ナンバリング：HCHWL2204

当学科・コース学生以外の受講：生活科学部学生は可

授業の到達目標：本講義の目的は21世紀市場経済社会における人々の生活（世帯）を、生活水準（質・量）の視点から確認することにある。すなわち労働者、消費者、国民としての人間存在の現状を検討していく。

科 目 の 主 題：現代日本の生活の現状分析と問題の所在を検討し確認する。またその生活に関わる経済政策（社会保障、消費、環境、教育など社会費関連、および財政金融など関連政策も適宜対象とする）の現状と課題を分析する。

授業内容・授業計画：講義形式で、適宜特別ゲスト講義として提供する。

テ ー マ	予定回数	概 要
商品化する生活	1	働いて消費して生きることを理解する(自給自足の終焉＝商品市場経済の確立)
社会経済の構造変化	1	工業化の浸透： 家庭経済と市場経済
技術革新	1	技術革新と生活水準の歴史的変化を知る
人口構造と家族	1	家族が変わった、長寿化、少子化
生活水準と貧困	1	富の偏在と分配原理の迷走を知る
衣の商品化	1	衣の現状と課題を知る・・・グローバル経済化の現在
食の商品化	1	食の現状と課題を知る・・・もう自給自足は夢幻
住まいの商品化	1	住むこと、住まいの確保、地域問題などの現状と課題を理解する
教育の商品化	1	教育の21世紀における意味を理解する
消費の金融化	1	「お金」の意味の変化と現状・・・お金の商品化
エネルギーと地球環境	1	21世紀の物質とエネルギー消費の課題理解
生活の中の国家制度	1	国家と個人の“経済的関係”を知る
生活のなかの労働問題	1	“労働”の役割と意味。ワーク・ライフ・バランス（育児・介護・家事）
生活設計	1	ライフプランとライフマネジメント（人生中长期ビジョン）
生活の展望	1	自らと欲望、そして幸せを考える

事前・事後学習の内容：講義時間中に指示する。

評 価 方 法：本年度は以下の2点を成績評価の対象とする。

- (1) 受講コメント(各講義時間終了時点)講義時間内レポートを課する。
- (2) 特別ゲスト講義受講レポート(講義受講終了時点で提出)

教 材：教科書はとくに指定してしない。ホームページの文献リストを参照。

受講生へのコメント：講義概要に示した各項に関連する事柄の新聞記事・ニュース報道にも関心を持つよう心がけていただきたい。なお、シラバス内容は、特別ゲスト講義の実施等講義進行の必要に応じて変更することがある。

備 考：オフィスアワー 各時間、授業終了時

科 目 名：公的扶助論

英 語 表 記：Public Assistance

担 当 教 員：垣田 裕介

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・2年次後期

科目ナンバリング：HCSWL2210

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：生活保護制度の仕組みを理解するとともに、貧困の実態や生活保護の運用場面の諸課題を分析する視点を養う。社会政策における生活保護制度の位置と役割を理解し、他施策との関連で問題状況を捉える視点を養う。

科 目 の 主 題：公的扶助（生活保護制度）の仕組みを説明するとともに、実際の運用場面における諸問題を取り上げる。さらに、貧困の実態、生活保護の動向をとおして、日本の生活保護や関連制度、ソーシャルワークが直面する今日的な課題について、分析的に考える。

授業内容・授業計画：講義形式で行う。

テ ー マ	予定回数	概 要
ガイダンス	1	この授業の主題や進め方、具体的な計画など
貧困と公的扶助①	1	現代日本の貧困と生活保護——公的扶助論入門
貧困と公的扶助②	1	貧困を見る眼——貧困の原因と、貧困が引き起こすもの
貧困と公的扶助③	1	貧困の把握と測定、貧困率を算出する方法
生活保護制度の仕組み①	1	生活保護の原理と原則、生活保護の受給要件——誰が受給できるのか
生活保護制度の仕組み②	1	保護の方法と基準——保護受給世帯の生活実態を交えて考える
生活保護制度の仕組み③	1	保護基準の考え方と算定——生活保護支給額を実際に計算してみる
生活保護制度の仕組み④	1	生活保護の実施体制、生活保護の申請から受給までのプロセス
生活保護制度の運用と支援現場①	1	生活保護受給世帯の特徴と変化——どういう世帯が受給しているのか
生活保護制度の運用と支援現場②	1	自立助長のソーシャルワーク——目的、意義、内容
生活保護制度の運用と支援現場③	1	生活保護におけるソーシャルワークと自立助長の実際——事例の検討
生活保護制度の運用と支援現場④	1	生活保護の不服申立てと裁判
生活保護の政策動向①	1	生活保護行財政の動向
生活保護の政策動向②	1	2000年代以降における生活保護改革と生活困窮者自立支援制度の登場
まとめ	1	この授業の内容の総括、要点のまとめ

事前・事後学習の内容：授業時間中に指示する。

評 価 方 法：出席・受講態度・学期末試験にもとづいて総合的に評価する。

教 材：授業時間中に資料を配布する。参考文献として、生活保護制度の仕組みや支給額の算定方法などがコンパクトに整理されていて便利なのが、生活保護制度研究会編『生活保護のてびき』（第一法規、平成29年度版は80頁、税込389円）。

受講生へのコメント：あらかじめ社会保障論Ⅰを受講していることが望ましい。

科 目 名：就労支援論（平成 30 年度以降入学生対象）
／ワーク・ライフ・バランス政策論 I（平成 29 年度以前入学生対象）

英 語 表 記：Support for Work and Life (Work-life balance Policy Studies I)

担 当 教 員：垣田 裕介

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2 単位

開講年度・学期：平成 30 年度・3 年次前期

科目ナンバリング：HCSWL2211

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：社会福祉の政策・実践の各領域において、就労支援や自立支援といったフレーズや取り組みが重要な位置を占めている。この授業の目的は、社会福祉における就労支援の位置や意味を把握し、就労支援の実際のプロセスや事例を取り上げて具体的な理解を得ることにある。

科 目 の 主 題：社会福祉における就労支援について、関連する政策や実践における仕組みや意義を整理したうえで、就労支援の基本的な視点と枠組みを提示する。低所得者や母子世帯、障害者等に対する就労支援に関わる制度の把握とともに、実際のプロセスや事例を交えて、具体的な理解を図る。

授業内容・授業計画：基本的に講義形式で行う。

テ ー マ	予定回数	概 要
ガイダンス	1	この授業の主題や進め方、具体的な計画など
社会福祉における就労支援①	1	社会福祉の政策・実践の諸領域における就労支援の展開
社会福祉における就労支援②	1	社会福祉における就労支援の取り組みと目標——政策動向
社会福祉における就労支援③	1	社会福祉における就労支援の取り組みと目標——支援実践の展開
就労支援の枠組みと内容①	1	就労支援の視点と枠組み
就労支援の枠組みと内容②	1	就労支援のプロセスと内容
就労支援の枠組みと内容③	1	日常生活や社会関係の支援
就労支援の実際①	1	生活困窮者への就労支援の枠組み
就労支援の実際②	1	生活困窮者への就労支援の具体的プロセスと事例
就労支援の実際③	1	ホームレスと就労支援
就労支援の実際④	1	生活保護受給者、母子世帯と就労支援
就労支援の実際⑤	1	障害者と就労支援
就労支援と福祉国家①	1	福祉国家の政策潮流としてのワークフェア、アクティベーション
就労支援と福祉国家②	1	福祉国家における社会政策の商品化／脱商品化機能
まとめ	1	この授業の内容の総括、要点のまとめ

事前・事後学習の内容：授業時間中に指示する。

評 価 方 法：出席・受講態度・学期末試験にもとづいて総合的に評価する。

教 材：教科書は特に用いず、授業時間中に資料を配布する。参考文献として、奥田知志・稲月正・垣田裕介・堤圭史郎『生活困窮者への伴走型支援——経済的困窮と社会的孤立に対応するトータルサポート』（明石書店、2014年）。

受講生へのコメント：あらかじめ社会保障論 I・II、公的扶助論を受講していることが望ましい。

科 目 名：社会政策学（平成30年度以降入学生対象）
 /ワーク・ライフ・バランス政策論Ⅱ（平成29年度以前入学生対象）

英 語 表 記：Social Policy (Work-life balance Policy Studies II)

担 当 教 員：垣田 裕介

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・1年次前期

科目ナンバリング：HCSWL1202

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：社会政策とは、広く福祉に関する政策、制度運営、ソーシャルワーク実践を包含するものであり、この授業で社会政策の目的や機能、枠組みや動向を理解することによって、福祉を学ぶうえでの基盤的な視点や考え方を修得することを目指す。

科目の主題：この授業で取り上げる社会政策は、主に、年金や生活保護などの所得保障、介護や障害者福祉、就労支援などの社会サービス、それらに関わる政策、制度運営、ソーシャルワーク実践を想定している。この授業では、社会政策学の視点と枠組みの理解をふまえて、生活と福祉をめぐる今日的課題や社会政策のプロセスを具体的に捉えるとともに、これからの社会政策や福祉のあり方について考える。

授業内容・授業計画：基本的に講義形式で行う。

テ ー マ	予定回数	概 要
ガイダンス	1	この授業の主題や進め方、具体的な計画など
社会政策を学ぶ①	1	現代社会における生活・福祉と社会政策——社会政策学入門
社会政策を学ぶ②	1	社会政策学の守備範囲、社会政策学の考え方、社会政策と社会調査
社会政策を学ぶ③	1	社会政策学で用いる基礎的な概念——必要（ニード）と資源
社会問題と社会政策①	1	今日の多様な社会問題と社会政策、現金給付とサービス給付
社会問題と社会政策②	1	社会政策の目的と機能——権力による統治、生活支援による福祉向上
社会問題と社会政策③	1	福祉資本主義のなかの社会政策——家族、市場、福祉国家
社会政策のプロセス①	1	社会政策の総過程——社会政策と社会行政、財政、供給、機能
社会政策のプロセス②	1	政策過程——社会政策は、なぜ、誰によって、どのように作られるか
社会政策のプロセス③	1	社会政策の実施体制——誰が、どのような仕組みで届けるか
社会政策のプロセス④	1	社会政策の供給と機能——誰に、どのように届けられ、いかに機能するか
社会政策のプロセス⑤	1	社会政策が引き起こすものについて考える——福祉受給とスティグマ、依存
社会政策の歴史	1	社会政策の歴史、発展段階、潮流について大きな流れをつかむ
社会政策のこれから	1	社会政策の政策動向、国際比較からみた日本の社会政策の特徴
まとめ	1	この授業の内容の総括、要点のまとめ

事前・事後学習の内容：授業時間中に指示する。

評 価 方 法：出席・受講態度・学期末試験にもとづいて総合的に評価する。

教 材：教科書は特に用いず、授業時間中に資料を配布する。参考文献として、ポール・スピッカー著、武川正吾ほか訳『社会政策講義——福祉のテーマとアプローチ』（有斐閣、2001年）。

受講生へのコメント：

科 目 名：福祉社会学 I（平成 27 年度以降入学者対象）／社会病理学（平成 26 年度以前入学者対象）

英 語 表 記：Sociology of Welfare I / Clinical Sociology

担 当 教 員：松木 ^{マツキ} 洋人 ^{ヒロト}

授 業 形 態：講義

単 位 数：2 単位

開講年度・学期：平成 30 年度・3 年次前期

科目ナンバリング：HCHWL2302

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：福祉社会学による知見に触れることによって、受講者が福祉についての固定観念や社会に流布している漠然としたイメージから距離を取るとともに、現代社会における福祉のありかたやそれが直面している問題について適切に理解できるようになること。

科目の主題：福祉社会学の基礎について学ぶ。具体的には、まず、福祉社会学とはどういう学問であり、どのような概念を用いて福祉に関わる現象を捉えようとしていうのかを理解する。次いで、福祉国家やそれに関わる現象が近代社会への変化およびその揺らぎとどのように関わっているかを理解する。そのうえで、特に日本社会における少子化を主題として取り上げて、その現状および関連する福祉政策とそれが含んでいる問題点について検討する。

授業内容・授業計画：配布資料を用いた講義を中心に授業を行う。

テ ー マ	回数	概 要
福祉社会学とは何か	1	①2 つの福祉概念
福祉社会学の基本的な視点	6	②必要という考えかた、③貢献原則と必要原則、④必要判定の基準と主体、⑤事例で考える必要判定、⑥専門職にとっての必要判定、⑦選別主義と普遍主義
福祉国家と社会変動	4	⑧近代化と福祉国家、⑨福祉国家の展開と福祉レジーム論、⑩事例で考える福祉レジーム、⑪「小さな政府イデオロギー」は正しいか？
少子社会日本の福祉政策	3	⑫福祉国家の危機論と少子化対策、⑬どういう少子化対策が望ましいのか、⑭子ども手当政策の再検討
現代社会と福祉政策	1	⑮授業のまとめ

事前・事後学習の内容：各回の授業の終了時に、予習・復習課題を提示する予定である。

評 価 方 法：出席・授業態度（30%）、中間レポート（10%）、期末試験（60%）

教 材：教科書は特に用いない。参考文献は、毎回の授業のなかでも紹介するが、福祉社会学の入門書的な書籍としては、以下のものを推薦する。

武川正吾（2012）『福祉社会学の想像力』弘文堂。

福祉社会学会編（2013）『福祉社会学ハンドブック——現代を読み解く 98 の論点』中央法規。

受講生へのコメント：福祉社会学を学ぶことによって、福祉というものをこれまでとは少し違った視点から捉えるための見かたを身につける機会を提供できればと思います。

備 考：オフィスアワー

水曜日 13:00～16:00。ただし、研究室を訪問する場合は、念のため、事前に連絡しておいてください。また、これ以外の時間帯での面談を希望する場合も、あらかじめ連絡してもらえれば、その都度、調整して対応します。

科 目 名：福祉社会学Ⅱ（平成 27 年度以降入学者対象）／家族病理学（平成 26 年度以前入学者対象）

英 語 表 記：Sociology of Welfare Ⅱ/ Clinical Sociology of the Family System

担 当 教 員：松木 洋人

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2 単位

開講年度・学期：平成 30 年度・3 年次後期

科目ナンバリング：HCHWL2303

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：福祉を対象とした社会学研究による知見に接することを通じて、現代の日本社会において福祉に関わる様々な人々がどのような経験をしているかを理解すること。さらに、自分が関心を持っている福祉に関わる人々やフィールドについて、質的データを収集したうえで、社会学的に考えることができるようになること。

科目の主題：「福祉社会学Ⅰ」の授業内容もふまえて、より専門的に福祉社会学について学習する。具体的には、①質的な社会調査に基づいた福祉社会学的研究の成果に接することによって、日本社会における福祉の現状および福祉社会学的な視点とはどのようなものかについてより理解を深めていく。さらには、②受講者が自分たちで福祉の現場を対象としたフィールドワークを行い、その成果を授業内で発表することによって、福祉社会学的研究の簡略的な実践を試みる。

授業内容・授業計画：配布資料を用いた講義、フィールドワークと受講者によるその成果報告

テ ー マ	回数	概 要
イントロダクション	1	①授業の趣旨説明と進めかたの確認
質的調査の基本的な考え方	1	②質的調査の論理と方法
福祉社会学の研究例	9	③「障害者家族」を生きるという経験、④「呆けゆく」体験の参与観察、⑤認知症高齢者の「人間性」と家族介護、⑥介護労働におけるやりがいとその陥穽、⑦子育てを支援するという仕事の理念と現実、⑧ひきこもりとはどのような経験なのか、⑨ひきこもりとはどのような経験なのか、⑩女性ホームレスの生活世界、⑪生活保護ケースワーカーという仕事
フィールドワークの準備と実践	3	グループの形成＋調査テーマの設定、先行研究の検討＋調査対象の選定、調査内容案の作成と発表
フィールドワークの成果報告	1	受講者による調査レポートの報告

事前・事後学習の内容：各回の授業の終了時に、予習・復習課題を提示する予定である。

評 価 方 法：出席・授業態度（30%）、中間レポート（20%）、期末レポート（50%）

教 材：教科書は特に用いない。福祉社会学の入門書的な書籍としては、以下のものを推薦する。

福祉社会学会編（2013）『福祉社会学ハンドブック——現代を読み解く 98 の論点』中央法規。

受講生へのコメント：他の授業にもまして、受講者のみなさんの積極性が必要とされる授業ですので、そのことをあらかじめ理解したうえで履修を検討してください。

備 考：「福祉社会学Ⅰ」の単位を取得したうえで受講することが強く望まれる。

オフィスアワー 水曜日 13:00～16:00。ただし、研究室を訪問する場合は、念のため、事前に連絡しておいてください。また、これ以外の時間帯での面談を希望する場合も、あらかじめ連絡してもらえれば、その都度、調整して対応します。

科 目 名：家族関係学

英 語 表 記：Family Relations

担 当 教 員：(磯部 香)

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・2年次前期

科目ナンバリング：HCHWL2205

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：家庭科教育において必要な家族に関連する現象を学ぶことで、家族を相対化して捉えること、及び問題解決能力を高めることができる。

科 目 の 主 題：少子高齢社会の到来により、現代家族を取り巻く環境が劇的に変化している。そのような中で行政（国）やNPO等がイニシアチブを取り、家族を支える制度・ネットワークを新たに構築し始めている。本講義では、家庭科教育の家族領域において重要なトピックを取り上げ、制度としての家族、家族の意味・意義を再考してもらいたいと考えている。適宜、家族を捉えるために必要な概念、理論、及び統計資料等も使用する。

授業内容・授業計画：講義、ビデオ鑑賞、小グループ・討論、報告、小レポートなど。

	テ ー マ	概 要
1	オリエンテーション	授業の目的と進め方、評価について
2	家族の機能と変遷	家族にはどのような機能が備わっているか、及びその変遷を様々な理論から概観する。
3	家事・仕事と生活	家事と仕事の分担はどうなっているか、よりよい生活を送るためには何か重要なワーク・ライフ・バランスの視点で再考する。
4	結婚の意味	配偶者選択、結婚をする意味、夫婦関係、出産、離婚等についてライフコースの視点から捉える。
5	子育てと家族	「イクメン」現象や子育て支援政策を事例に日本の母親における育児偏重について考える。
6	食育と家族①	学校教育で食育が推進されている経緯、家庭で食育を行うには何が必要なかを考える。
7	食育と家族②	現在、食育において一家団欒で食べることが重視されているが、その背景・意義について資料を読んで討論する。
8	世代・地域社会との交流	家族の私事化・個人化の流れの中で、世代間・地域社会との交流について再考する。
9	子どもが直面している問題①	子どもの生きづらさ、子どもの貧困に焦点を当て、現代の子どもが置かれている状況について捉え、子どもの福祉・権利について検討する。
10	子どもが直面している問題②	青年期に抱える問題、「パラサイト・シングル」、就労問題（フリーター、ニート）から若者の自立について考える。

11	介護と家族	家族の中での介護から地域での取り組み、課題、包括的ケア、QOLについて考える。
12	多様な家族	国際結婚、多様な文化を持つ家族の増加から、日本国内外の家族・子育ての有り様を捉える。
13	共生社会	少子高齢社会の中で誰もが支え合って生きる社会を実現するための、家族、そして家族を超えたネットワークの構築、福祉あり方について一考する。
14	家庭科教育の中の 家族領域①	家庭科の学習指導要領・教科書からどのように家族を教えているのか、教えるべきなのかについて検討・討論する。
15	家庭科教育の中の 家族領域②	グループごとに、家族領域の模擬授業を練り、発表する。

事前・事後学習の内容：毎回、次回授業の準備等について、指示する。

評価方法：出席・授業参加態度（10%）、数回の小レポート（20%）、発表（20%）、期末レポート（50%）

教材：教科書は使用しない。参考図書として下記を読んでおいてください。

長津美代子・小澤千穂子 編著，2014，『新しい家族関係学』建帛社

落合恵美子，2004，『21世紀家族へー 家族の戦後体制の見かた・超えかた（第3版）』有斐閣

受講生へのコメント：家族をめぐる多様な現象を扱いますので、事前に新聞を読んだり、調べたりして授業に臨んでほしいと思います。積極的な態度で授業に参加してください。

備考：

科目名：地域社会学

科目英文名：Sociology of Community and Modern Society

担当者：野村 恭代
ノムラ ヤスヨ

種別：講義

単位数：2単位

学年・学期：4年次・前期

当学科学生以外の受講：不可

講義の目的：人と人とのつながりの基調となる「地域」について、社会学的視点による現状分析を踏まえながら、地域とそこでの生活における課題や地域の持つ意味を探究する。

講義の概要：福祉や教育の場となる「地域」、災害や犯罪に対処する場としての「地域」、コンフリクト発生から合意形成の場となる「地域」など、あらゆる側面から地域を見直し、これからの新しい地域のあり方を構想する。

講義方法：講義、グループワーク、フィールドワーク

授業内容

	テーマ	概要
1	オリエンテーション	講義の目的と内容、進め方等
2	現代社会と地域－「社会」とはなにか－	社会学からの「社会」へのアプローチ
3	現代社会と地域－「地域」とはなにか－	社会学からの「地域」へのアプローチ
4	地域社会と地域の特性	地域特性とその歴史的背景
5	農村と都市	日本及び世界の農村と都市に目を向ける
6	さまざまな特性をもつ地域	エスニックコミュニティを事例に
7	災害と地域社会	災害発生時における地域社会を考える
8	祭りと地域社会	各地域における「まつり」の意味
9	地域社会とコンフリクト（１）	地域社会におけるコンフリクトの発生
10	地域社会とコンフリクト（２）	地域社会におけるコンフリクトの展開
11	コンフリクトと合意形成	地域社会におけるコンフリクトと合意形成
12	地域社会とマイノリティ	地域社会におけるマイノリティの実情
13	新たな地域社会	新しい地域社会とは
14	地域社会の創造	新しい地域社会を創造する
15	これからの地域社会	半期のまとめ

評価方法：試験・レポート

教科書等：(テキスト・参考文献) 適宜、指示する。

備考：

オフィスアワー：月曜日の昼休み

担当者からの一言：フィールドワーク等により、変則的な授業形態になることもあります。

科 目 名： 共生社会論

英 語 表 記： Theory of the Inclusive Society

担 当 教 員： 大西 次郎

授 業 形 態： 講 義

単 位 数： 2単位

開講年度・学期： 平成 30 年度・3 年次前期

科目ナンバリング： HCHWL3302

当学科・コース学生以外の受講： 不可

授業の到達目標：“こころ”であろうと“からだ”であろうと、人々が障害の有無、あるいはその種類や程度、老若男女の別により分けられることなく、今住んでいる地域で、一緒にお互いを尊重しつつ暮らす共生社会の実現へ向けた、精神障害者を取りまく現況と課題を検証する。

科目の主題：「精神障害の理解は難しい」といわれる。それは他の障害、あるいは高齢や貧困の理解とて同じであろう。一方で身体障害は車いすやギブス、杖、人工肛門等が視覚に訴える。手足が動かず、目が見えない、耳が聞こえない状態は一部なりとも体感できる。老化や経済的な困窮も、程度の差はあれ自身や家族の人生の一部に違いない。それに比し精神障害は表に現れず、追体験が難しいため、合点しにくいのだ。さらに福祉・心理という対人援助システム、すなわち被援助者・援助者の枠を超えて構成される共生社会は、誰もがこころの健康を損ない、かつ支えられる両面性を有する。この相補的なかわりも、精神障害により濃く見られる特性といえよう。そこで、本授業では「共生社会の一員として」精神障害者が置かれた環境を把握し、そのうえで、やはり「援助者として」の持ち味が対人関係にもたらす影響への気づきを新たに示す。

授業内容・授業計画： 講義とグループディスカッションを組み合わせで行う。

テ ー マ	予定回数	概 要
オリエンテーション	1	1) 向き合うということ、共にいるということ
対人援助の基本姿勢	1	2) 経験により見えてくるもの
家庭と地域に関する事情	1	3) 「待つ」ということ
しんどくならないために	1	4) すべてを丸く収められない
疾患・状態像から	6	5) 統合失調症 6) 気分障害 7) 認知症 8) パーソナリティ障害 9) アルコール・薬物関連問題 10) ストレス障害
ふたたび援助者論	4	11) 「恨まれる」ということ 12) 援助者の怒り、悔しさ、不快感 13) 責任感と義侠心 14) 相手が「困っている」ということ
電話相談	1	15) 燃えつきないで、相談員

事前・事後学習の内容： 事前学習： 指定された教科書を通読し、事例の経過や著者の臨床的態度を把握しておく。全員による討議を常態とするため、それを前提にした発言の準備と心構えが必要である。

事後学習： 授業に関して十分に理解できない内容があった場合は、次回までに各自で見直しておくことが求められる。教員への意見表明も歓迎する。

評 価 方 法： レポート（1回）と、授業への積極的参加度により評価する。

教 材： 春日武彦（2011）『援助者必携 はじめての精神科』（第2版）医学書院

受講生へのコメント： 本科目は、あらかじめ福祉システム学Ⅱを受講しておくことで、より理解が深まる構成となっている。もちろん、単独でも受講（かつ納得）できる。

備 考： 出席回数が基準に達していない場合は、レポートにおける採点の対象から除外する。

科 目 名：福祉システム学 I
 英 語 表 記：Health Care and Welfare System
 担 当 教 員：^{オオエシ ジロウ}大西 次郎
 授 業 形 態：講 義
 単 位 数：2 単位
 開講年度・学期：平成 30 年度・2 年次前期
 科目ナンバリング：HCHWL2207

当学科・コース学生以外の受講：可（教室収容定員を上回った場合は、履修制限を実施することがある）
 授業の到達目標：ソーシャルワークへ必要とされる視点とスキルは、活躍する場により大きく変わらない。他方、分野に固有の価値やシステムあるいは利用者・家族の特性を認識することなく、的確な対人援助を成すこともまた難しい。今日では、保健医療と全く関わりのない事例を見いだすことが困難な実情を踏まえ、医療ソーシャルワーカーの倫理、実践、職種間連携のあり方への理解を深める。健康かつ文化的な生活を維持・増進させるための医療福祉施策や、それらに基づくサービスの広がりをも具体的に想起できることが目標である。
 科 目 の 主 題：医療ソーシャルワークの援助技術と、それを支える福祉システムについて学ぶ。また、利用者の人権を守り、自己決定を尊重するシステムへの認識を新たにする。傷病に由来する生活問題に対してソーシャルワークを実践するには、利用者の特質を知り、保健医療分野に固有の価値や倫理を踏まえ、目まぐるしく改定される法制度を参照したうえで、組織の中での各専門職の立場や役割を認識しておく必要がある。これらは対人援助の諸領域へあてはまるが、ソーシャルワークと医療の対照を通して概念化がより明確になる。

授業内容・授業計画：講義とグループディスカッションを組み合わせで行う。

テ ー マ	予定回数	概 要
医の倫理とソーシャルワーク	3	1) 医の倫理 / ソーシャルワークの価値と倫理 2) 医の倫理とソーシャルワークの倫理の異同 3) 生命倫理について
生命倫理とソーシャルワーク	3	4) 生命倫理の課題をはらむ医療とソーシャルワーク 5) 医療における人の尊厳と権利 6) 患者の権利を保障する（ソーシャルワーカーによる保健医療分野での貢献）
生活障害とソーシャルワーク	4	7) 障害概念 / 生活障害 / 家族への理解 8) 慢性疾患とソーシャルワーク / 精神障害とソーシャルワーク 9) 救急医療とソーシャルワーク / 在宅医療とソーシャルワーク 10) 高齢者医療とソーシャルワーク / 小児医療とソーシャルワーク
連携・協働	5	11) なぜ連携・協働が必要か / 連携・協働の社会的背景 12) 制度的背景とその展開 / 連携・協働に関する概念整理 13) 保健医療領域における連携・協働 / インフォーマルな資源との連携・協働 14) 医療機関内における連携・協働 / 地域医療における連携・協働 15) 地域やマクロにおける連携・協働

事前・事後学習の内容：事前学習：指定された教科書を通読し、各専門職の実践的態度を把握しておく。全員による討議を常態とするため、それを前提にした発言の準備と心構えが必要である。

事後学習：授業に関して十分に理解できない内容があった場合は、次回までに各自で見直しておくことが求められる。教員への意見表明も歓迎する。

評 価 方 法：レポート（1回）と、授業への積極的参加度により評価する。

教 材：日本福祉士会・日本医療社会事業協会（2011）『改訂・保健医療ソーシャルワーク実践 第2巻』中央法規

受講生へのコメント：本科目は、あらかじめ医学概論を受講しておくことで、より理解が深まる構成となっている。もちろん、単独でも受講（かつ納得）できる。

備 考：出席回数が基準に達していない場合は、レポートにおける採点の対象から除外する。

科 目 名：福祉システム学Ⅱ（平成29年度以前入学生対象）

／福祉システム学Ⅱ（精神疾患とその治療）（平成30年度以降入学生対象）

英語表記：Mental Health and Welfare System

担当教員：大西 次郎

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・2年次後期

科目ナンバリング：HCCPL2207

当学科・コース学生以外の受講：可（教室収容定員を上回った場合は、履修制限を実施することがある）

授業の到達目標：わが国で、医療は長い歴史を持つ社会福祉・心理臨床の活動領域の一つである。その医療は、患者の権利を保障するためのシステムを持たないと、個々の職員の資質によらず専断的対応へ傾く危険性を内包している。例えば「病名の告知、意志決定能力の判定、代理者制度」などの論点である。さらに精神障害者に対しては、精神保健福祉法や医療観察法といった固有の福祉システムがあり、閉鎖的な処遇が取られ得るため「非自発的入院、強制的な治療や行動制限、異議申し立て権」などの事項が加わる。近年、ひきこもり、アルコール依存、薬物乱用、災害や事件後のPTSD、孤独死や認知症などの幅広いメンタルヘルス上の課題が地域で発生している。そこでは、精神科領域に落とし込んで見てしまう問題（主に施設ケア）と、精神科領域に落とし込まないと見えない問題（主に地域ケア）が併存している。両者を福祉システムの立場から把握し、医療一般ひいては社会のなかに普遍化させる前提となる、精神医学・精神科医療への理解を深める。

科目の主題：精神医学、医療史を導入とし、正常と異常、疾病性と事例性等の主題へ焦点をあてる。精神医学に特有の診断法にふれ、具体的な精神障害の病態や治療を取り上げる。さらに精神科に特徴的な医療の構造や人権擁護に関する見識を育む。これらを通し、精神医学・精神科医療が持つ社会との間の多様な接点を確かめる。

授業内容・授業計画：講義形式で行う。

テ ー マ	予定回数	概 要
精神医学概論	1	1) 精神医学、医療の歴史と現状
精神障害の理解	1	2) 精神障害の概念 / 精神疾患の成因と分類
精神疾患の症状と診断	1	3) 精神症状と状態像 / 心理的検査と身体的検査
代表的な精神疾患	7	4) 器質性精神障害 5) 精神作用物質使用による精神および行動の障害 6) 統合失調症 7) 気分（感情）障害 8) 精神症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 9) 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 10) パーソナリティ障害と行動の障害
精神疾患の治療	2	11) 精神科薬物療法 12) 精神療法 / 精神科リハビリテーション
精神科医療機関の治療構造	1	13) 外来診療 / 在宅医療（訪問診療・往診） / 入院医療
精神科医療における人権擁護	1	14) 精神科医療と入院形態 / 隔離・拘束のあり方 / 精神科救急医療システム
精神科医療と関連機関の連携	1	15) 治療の導入に向けた支援 / 再発予防のための支援 / 退院促進の支援

事前・事後学習の内容：事前学習：1回の講義あたりおおむね20ページを目安として教科書を通読のうえ、意味が十分理解できない単語や文章については、それらの概要を調べておく。

事後学習：講義時に「本日のポイント」とする最重要事項は、もらさず説明できるようにしておく。加えて三段階に重み付けのうえ必要～参考点を示すので、到達度に応じて修得の範囲を広げる。

評価方法：筆記試験（1回）と、小レポート（3回）により評価する。

教材：日本精神保健福祉士養成校協会（2016）『新・精神保健福祉士養成講座 精神疾患とその治療』（第2版）中央法規
受講生へのコメント：本科目は、このあと引き続き共生社会論を受講することで、さらに理解が深まる構成となっている。もちろん、単独でも受講（かつ納得）できる。医学概論と福祉システムⅠ、福祉システム学Ⅱと共生社会論がそれぞれ医療と社会福祉、精神科医療と心理臨床における医学モデル vs. 生活 / 社会モデルの対置に相当し、これら4科目の履修によってわが国の精神保健・医療福祉システムを概観できる組み立てである。

備考：出席回数が基準に達していない場合は、筆記試験における採点の対象から除外する。

科目名：精神保健福祉論

英語表記：Policies and Programs for Social Services in Mental Health Settings

担当教員：清水 由香

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・2年次後期

科目ナンバリング：HCHWL2206

当学科・コース学生以外の受講：可（教室収容定員を上回った場合は、履修制限を実施することがある）

授業の到達目標：①精神障害がある人の生活、人権と社会の関係、日本の精神保健福祉の歴史的経緯、およびそれらの課題に潜む背景や問題構造を検討できる。②メンタルヘルス領域のフォーマル／インフォーマルサポートの内容と特性を理解する。③共生社会の構築をめざす一員である自らの課題として、メンタルヘルス問題をとらえることができる。

科目の主題：海外の動向をふまえた日本特有の精神保健福祉の課題を歴史的経緯から学び、また、視聴覚教材を活用し、精神障害のある人の生活に接近し、日本の精神保健福祉施策の現状と課題について論考する。

授業内容・授業計画：講義形式

テーマ	概要
①統合失調症のある人の地域生活	統合失調症のある人の地域生活の概要の理解
②精神障害とスティグマ	スティグマ・偏見・差別、精神障害者観、啓発活動、福祉教育
③社会的入院のはじまり	日本における精神保健福祉の歴史 明治期からライシャワー事件まで
④社会的入院と人権侵害	社会的入院の増加と人権侵害、事件の背景とその問題構造
⑤精神科医療と人権擁護	入院制度・精神保健福祉領域における人権擁護の多様な方策
⑥精神保健福祉施策の概要	現在の精神保健福祉に関する法令・施策体系 行政体系
⑦福祉的支援にかかわる理念、概念	精神保健福祉とエンパワメント、ストレンクス、リカバリー
⑧精神保健福祉における地域ケア	地域ケアとケース（ケア）マネジメント 包括型地域生活支援（ACT）、地域移行・定着支援、チームアプローチにおける専門職の機能と役割
⑨地域生活支援施策の現状と課題	障害者総合支援法 精神障害者に必要な配慮
⑩経済的生活面の現状と支援施策	精神障害者の経済的な問題、所得保障制度
⑪就労支援と社会参加	就労支援と関連施策
⑫精神障害者と家族	精神障害者の家族の置かれた多様な立場の理解
⑬当事者活動 ピアサポート	当事者のエンパワメント、セルフヘルプ、ピア活動
⑭精神障害者と司法	心神喪失者等医療観察法 地域ケアのあり方
⑮メンタルヘルスと福祉の課題	薬物・アルコール障害、学校現場、産業領域のメンタルヘルス

事前・事後学習の内容：各回の講義の前週に、ワークシート形式のレジюмеを配布するので、事前学習に用いること。事後学習は、各回指示する。

評価方法：筆記テスト（60%）：期末に実施。レポート（30%）、授業態度（ワークシートの内容と提出、出席）（10%）。出席回数が基準に満たない場合は、ワークシートの提出、テストを受けられない。

教材：適宜、資料を配布する

（参考図書）：「精神保健福祉白書 最新年版」精神保健福祉白書編集委員会、中央法規出版、「心病める人たち一開かれた精神医療へ」石川 信義、岩波新書、1990年

受講生へのコメント：メンタルヘルスや精神障害者に関するトピックスは多様な側面から課題が生じております。今は自分には関係ないことと思っている人々が多いかもしれませんが、講義を受けることで、無関心から新たなアンテナが伸びていくことを期待します。

備考：履修者は「障害者福祉論」を履修した上で受講することを望みます。社会福祉士受験予定者においては、国家試験受験資格の必須科目ではないが、「障害者福祉論」と「精神保健福祉論」をセットで履修しておくことが望ましい。

オフィスアワー 火曜 2限目

科 目 名：障害者福祉論

英 語 表 記：Social Welfare for People with Disabilities

担 当 教 員：清水 由香

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・2年次前期

科目ナンバリング：HCSWL2214

当学科・コース学生以外の受講：可（教室収容定員を上回った場合は、履修制限を実施することがある）

授業の到達目標：①障害がある人々と社会との関係を多角的にとらえる視点の獲得 ②社会の一構成員として自分自身ができることは何か、身近な課題として認識し、考察できる。

科 目 の 主 題：障害者福祉の歴史や、障害者と社会の関係や支援のあり方を示す理念や概念の理解、そして障害の特性、近年の障害者をめぐる社会福祉の制度政策について学ぶ。

授業内容・授業計画：講義形式

テ ー マ	概 要
①オリエンテーション・障害者福祉の思想・基本的理念・概念	講義の全体の概要、障害者福祉における歴史の概観と重要な理念の概論
②優生思想と社会防衛	人権思想と優生思想、優生思想の背景とその後の展開
③人権と施設化政策・脱施設化政策	施設化と脱施設化のムーブメント、コロニー政策、諸外国と日本の相違、ノーマライゼーション思想の歴史と展開。
④リハビリテーション思想	リハビリテーションの歴史、思想、発展 医学モデルから生活モデル
⑤障害者福祉におけるパラダイムモデル	社会モデル、ICF（国際生活機能分類）エンパワメント・自己決定
⑥障害者福祉をめぐる社会環境構築	インクルージョン、社会意識（スティグマ・差別・施設コンフリクト）、障害者差別解消法、福祉教育
⑦障害者運動、当事者主権	障害者運動、当事者主権、アドボカシー
⑧身体障害の理解	身体障害の生活と特性
⑨知的障害の理解	知的障害の生活と特性
⑩精神障害の理解	精神障害の生活と特性
⑪難病・その他の障害の理解	難病・その他の障害の特性
⑫現代社会における障害者の生活と法制度	障害者基本法・各障害福祉法・障害者総合支援法・障害者虐待防止法・障害者雇用促進法
⑬権利擁護システムと生活支援	権利擁護・権利保障の法制度と障害者虐待防止法、相談支援体制
⑭生活支援にかかわる社会サービス	労働・所得、就労支援サービス
⑮障害者と家族	家族会、家族支援、性教育、結婚、きょうだいの立場

事前・事後学習の内容：各回の講義の前週に、ワークシート形式のレジュメを配布するので、事前学習に用いること。事後学習は、各回にて指示する。

評 価 方 法：筆記テスト1回（50%）、レポート1回（40%）、授業時の参加態度（事前学習の取り組みや出席態度）（10%）を評価に加える。なお、出席回数が基準に満たない場合はテストを受けられない。

教 材：「よくわかる障害者福祉 第6版」ミネルヴァ書房 小澤温 編著

（参考図書）：「当事者主権」岩波新書 中西正司、上野千鶴子 著

受講生へのコメント：平成28年度より担当者変更になっています。自分とは関係ない世界の話、とは思わないということを、講義を通して感じてください。

備 考：社会福祉士 国家試験受験資格の必須科目である。精神保健福祉論の受講者は、障害者福祉論を先に受講しておくことが望ましい。

オフィスアワー 火曜 2限目

科 目 名：高齢者福祉論

英 語 表 記：Social Welfare for the Elderly

担 当 教 員：鶴川重和

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・2年次前期

科目ナンバリング：HCSWL2215

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：高齢者支援に必要な基礎的知識を習得する。

科 目 の 主 題：この講義では、高齢者を取り巻く社会的課題や支援するための社会資源を体系的に説明するとともに、それぞれに関連する話題について体験やディスカッションを行うことで、高齢者支援に必要な基礎的知識の習得を目指す。

授業内容・授業計画：講義を中心に、受講生とディスカッションを行う。

- 1：オリエンテーション、高齢者の特性1：身体的特徴
- 2：高齢者特性2：精神的、社会的特徴
- 3：少子高齢社会と高齢者
- 4：高齢者保健福祉制度の歴史
- 5：高齢者支援の関係法規
- 6：介護保険制度の枠組み
- 7：介護保険制度の仕組み
- 8：介護保険サービスの体系
- 9：高齢者を支援する組織と役割
- 10：高齢者を支援する専門職
- 11：高齢者を取り巻く地域と環境
- 12：介護の概念と介護予防
- 13：認知症ケア
- 14：終末期ケア
- 15：高齢者の権利擁護

事前・事後学習の内容：適宜、講義中に指示を行う。

評 価 方 法：レポート、小テストおよび期末試験の総合評価

レポートまたは小テスト：10回 6点×10回=60点

期末試験：1回 40点×1回=40点

教 材：適宜、プリントを配布する。

受講生へのコメント：社会福祉士の重要な科目であるので、社会福祉士を目指す学生の受講を希望します。

備 考：

科目名：社会福祉行財政論

英語表記：Policy Analysis for Social Services

担当教員：^{トコロ}所 ^{ミチヒコ}道彦

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・4年次後期

科目ナンバリング：HCSWL3403

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：本講義では、パーソナルソーシャルサービス（PSS）に関連する公共政策の仕組み、財政の現状、課題について概観し、マクロの視点から社会福祉を理解することを目的とする。

科目の主題：社会福祉サービスに関する主要な政策の分析を基本に講義を行う。

授業内容・授業計画：担当者による講義に加えて、事例等も踏まえつつ議論する。

テーマ	予定回数	概要
オリエンテーション	1	社会福祉行財政論の位置
社会福祉行政の構造 1	1	福祉国家と社会福祉行政の構造
社会福祉行政の構造 2	1	国際的な視点から見た日本の福祉システムの特徴
日本の社会福祉行財政の展開 1	1	日本型公私関係と措置制度
日本の社会福祉行財政の展開 2	1	準市場と基礎構造改革
日本の社会福祉行財政の展開 3	1	社会保障と税の一体改革
日本の福祉行政の体系	1	社会福祉の専門機関と組織
日本の福祉行政の体系	1	社会福祉行政と専門職
社会福祉行政の論点 1	1	地域包括ケアと福祉行政
社会福祉行政の論点 2	1	子育て支援と福祉行政
社会福祉行政の論点 3	1	雇用と福祉の連携と福祉行政
社会福祉行政の論点 4	1	住民自治と参加
社会福祉の財政問題	1	社会福祉の財源問題と配分
まとめ	1	日本の社会福祉行財政の課題と展望

事前・事後学習の内容：毎回、授業中に指示する

評価方法：出席・試験・受講態度にもとづいて総合的に判断する。

教材：別途資料等を配布する予定

受講生へのコメント：

備考：

科 目 名：福祉計画論

英 語 表 記：Social Planning

担 当 教 員：鶴浦 直子

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・4年次後期

科目ナンバリング：HCSWL3404

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：国や地方公共団体の福祉施策や方針を具体的に推進していくために不可欠な福祉計画の理論や技法について学ぶ。

科目の主題：福祉計画の目的と意義、基本的視点、福祉計画を策定するために必要となるニーズ把握や住民参加の技法、福祉計画の実際等について学び、福祉計画の理論や技法を身につける。

授業内容・授業計画：講義

テ ー マ	予定回数	概 要
福祉計画の目的と意義	1	福祉計画の目的と意義、基本的視点
福祉計画の発展過程	1	福祉施策や方針が福祉計画のもと推進されていく発展過程
福祉計画の実際	1	介護保険計画、障害福祉計画、次世代育成計画、地域福祉計画等
福祉計画における住民参加の意義	1	福祉計画における住民参加の意義とその実際
福祉計画の理論	1	福祉計画の過程モデル
福祉計画の技法	1	ニーズ把握の技法、住民参加の手法
福祉計画における評価の概要	1	福祉計画における評価モデル
福祉計画における評価技法	1	福祉計画における評価技法
福祉計画の策定の実際①	1	福祉計画の策定に向けた準備の検討
福祉計画の策定の実際②	1	福祉計画における目標の検討
福祉計画の策定の実際③	1	福祉計画における現状分析
福祉計画の策定の実際④	1	福祉計画において策定すべき課題の検討
福祉計画の策定の実際⑤	1	福祉計画における課題解決のための取り組み検討
福祉計画の策定の実際⑥	1	福祉計画における評価の検討
福祉計画の今後の課題	1	福祉計画の今後の課題

事前・事後学習の内容：毎回の授業時に指示するが、次の授業に向けて指示した課題への取り組み、参考書等に指定したテキストの事前・事後学習をすること。

評 価 方 法：出席（30%）、参加態度（10%）、レポート（60%）をもとに判断する。

教 材：適宜、指示する。

受講生へのコメント：演習を取り入れた講義を行うため、積極的な参加を求めます。

備 考：本科目は社会福祉士が身につけておかなければならない福祉計画の理論や技法について学ぶため、履修者はソーシャルワーク実習、ソーシャルワーク演習（Ⅰ～Ⅴ）、ソーシャルワーク実習指導（Ⅰ～Ⅲ）を履修していることが望ましい。

オフィスアワー：講義終了後

科 目 名：社会福祉運営管理論

英 語 表 記：Social Administration

担 当 教 員：所^{トコロ}道彦^{ミチヒコ}

授 業 形 態：講義

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・3年次前期

科目ナンバリング：HCSWL3302

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：専門職の実践の前提条件である社会福祉のサービスを提供する組織の現状について学ぶ。組織の形成過程と現状、人事、労務、財務など組織の運営・管理の各領域について学び、近年の制度改革の影響と問題点、今後の社会福祉組織の課題について理解を深める。

科目の主題：福祉制度改革が進行する中での、多様なサービス供給主体、地方自治体など公的機関の組織の現状、社会福祉のサービスを提供する組織の運営・管理における課題、専門職の実践の場における労働環境をめぐる問題、賃金、労働時間、キャリア形成の現状と課題について講義する。

授業内容・授業計画：講義

テーマ	回数	概要
オリエンテーション	1	社会福祉における組織とその運営管理の概念整理
福祉サービス組織の形成と展開①	1	福祉サービス組織の形成と発展
福祉サービス組織の形成と展開②	1	日本における福祉サービス組織の特徴
福祉サービス組織の形成と展開③	1	福祉制度改革と福祉サービス組織
福祉サービス組織の現状分析①	1	社会福祉法人の現状と課題
福祉サービス組織の現状分析②	1	新しい供給主体の現状
福祉サービス組織の現状分析③	1	地方自治体の現状と課題
福祉サービス組織の管理・運営①	1	人事・労務管理：賃金
福祉サービス組織の管理・運営②	1	人事・労務管理：労働時間
福祉サービス組織の管理・運営③	1	人事・労務管理：キャリアパス
福祉サービス組織の管理・運営④	1	サービス管理とリスクマネジメント
福祉サービス組織の管理・運営⑤	1	福祉サービス組織の経営と財務管理
社会福祉運営管理論の課題①	1	福祉サービス組織の課題：利用者との関係
社会福祉運営管理論の課題②	1	福祉サービス組織の課題：地域社会との関係
まとめ	1	まとめ

事前・事後学習の内容：毎回、授業中に指示する

評 価 方 法：試験および出席、受講態度にもとづいて総合的に評価する。

教 材：適宜、資料を配布する

受講生へのコメント：

備 考：

科 目 名：医療福祉論

英 語 表 記：Social Work in Health Settings

担 当 教 員：^{マシタニ}（萬谷 ^{カズヒロ}和広）

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・3年次前期

科目ナンバリング：HCSWL2307

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：クライアントを取り巻く医療環境やサポート体制についての理解を深める。その上で、ソーシャルワーカーが、疾患がももて生じる生活問題を如何に捉え、どうサポートするかに関する考察できるようになることを目的とする。

科 目 の 主 題：相談援助活動に必要な知識や考え方に関する講義

授業内容・授業計画：講義を中心に展開する。

テーマ	予定回数	概 要
医療福祉の概観	1	オリエンテーション、医療福祉の見方・概要
MSW 業務について	1	医療福祉分野とは、医療ソーシャルワーカー (MSW) とは
医療福祉分野の環境と支援 1	1	医療福祉分野の支援の全体像、治療・療養の場について
医療福祉分野の環境と支援 2	1	治療・療養の場の変遷
退院支援について	1	退院支援の概略と支援
受診受療支援について	1	受診受療支援の概略と支援
心理社会的支援について	1	心理社会的支援の概略と支援
経済的支援について 1	1	経済的支援に係る社会制度、社会資源
経済的支援について 2	1	経済的支援の概略と支援、社会的復帰の概略と支援
MSW の支援の実際の検討	1	MSW の支援の実際、レポート
チーム医療	1	医療福祉分野で支援する専門職、チームの概要と支援
患者の権利	1	患者の権利、倫理、価値
がんを巡る状況と支援 1	1	がんとは、がんに係る政策
がんを巡る状況と支援 2	1	がん患者支援、終末期におけるがん患者のサポート
医療福祉分野の支援の実際の検討	1	医療福祉分野の支援の実際、レポート

事前：事後の学習内容：毎回、次回授業の準備等について、指示する。

評 価 方 法：レポート（50%）、参加態度（25%）、出席（25%）

教 材：授業で適宜、配布する

受講生へのコメント：現場では何が起り、どう支援しているのか、その現状を示していきます。その中で、自分自身の意見や考え方が持てるように取り組んでください。

備 考：

科 目 名：社会福祉権利擁護論

英 語 表 記：Social Work Advocacy

担 当 教 員：ウノツブナ 鶴 浦 直 子

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2 単 位

開講年度・学期：平成 30 年度・3 年次後期

科目ナンバリング：HCSWL2308

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：近年、ソーシャルワーク実践において、成年後見制度をはじめとする権利擁護を目的とした制度・施策を積極的に活用していくことが求められている。当然のことながら、そこでは、権利擁護の視点をもった制度利用のあり方が問われてくる。本講義では、成年後見制度をはじめとする権利擁護のための社会資源を学ぶとともに、その基盤となる社会福祉における権利擁護の理念（考え方）を学び、本人のための権利擁護のあり方についての理解を深めていく。

科目の主題：社会福祉における権利擁護の理念、権利擁護と法との関わり、成年後見制度、消費者活動の保護に関する制度、社会福祉実践をめぐる権利擁護の動向と課題について学ぶ。

授業内容・授業計画：講義

テ ー マ	予定回数	概 要
社会福祉における権利擁護の理念	1	社会福祉における権利擁護の理念、日本国憲法、世界人権宣言、国際人権規約、子どもの権利条約、障害者権利条約 等
社会福祉における権利擁護と民法	1	社会福祉と民法
社会福祉における権利擁護と社会福祉法	1	苦情解決、運営適正化委員会、福祉サービス利用援助事業、日常生活自立支援事業
成年後見制度の概要	1	成年後見制度の類型、仕組み、利用状況
成年後見制度の申し立ての実際	1	成年後見制度の申し立て手続き
成年後見人等の職務	1	代理権、同意権・取消権、財産管理、身上監護
成年後見人等の担い手	1	専門職後見人、市民後見人、法人後見
成年後見制度をめぐる動向と課題	1	成年後見制度利用促進法、円滑化法
判断能力が不十分な人への意思決定支援	1	障害者権利条約と成年後見制度 意思決定支援
消費者被害の現状と課題	1	消費者被害の現状と課題
消費者保護に関する制度	1	消費者契約法 特定商取引法
権利擁護の実際 1	1	ソーシャルワークにおけるアドボカシーの理論と実際
権利擁護の実際 2	1	成年後見制度を活用したソーシャルワーク実践
権利擁護の実際 3	1	地域で取り組む権利擁護の実際
社会福祉における権利擁護の課題	1	社会福祉における権利擁護の今後の課題と展望

事前・事後学習の内容：毎回の授業時に指示するが、次の授業に向けて指示した課題への取り組み、参考書等に指定したテキストの事前・事後学習をすること。

評 価 方 法：出席（30%）、参加態度（10%）、試験（60%）をもとに判断する。

教 材：永田祐・堀善昭・生田一郎・松宮良典編『よくわかる権利擁護と成年後見制度』ミネルヴァ書房,2016年。

受講生へのコメント：出席回数が基準に達していなければ、試験を受けることができない。

備 考：社会福祉士受験資格に必要な科目である。

オフィスアワー：講義後

科 目 名 : 心理学

英 語 表 記 : Introductory Psychology

担 当 教 員 : 岡田 進一
オカダ シンイチ

授 業 形 態 : 講 義

単 位 数 : 2 単 位

開講年度・学期 : 平成 30 年度・1 年次前期

科目ナンバリング : HCSWL1104

当学科・コース学生以外の受講 : 不可

授業の到達目標 : 社会福祉士の基礎科目である心理学についての基礎知識を中心に情報提供を行う。

科 目 の 主 題 : 心理学での重要な理論を中心に講義を行う。特に、性格発達を理解するのに欠かすことができない基礎的な理論 (マズローのニーズ階層論、エリクソンの心理・社会的発達理論、ピアジェの認知発達理論など) を説明する。

授業内容・授業計画 : 講義を中心に、心理テストなどを用いた演習も行う。

- 1 : オリエンテーション
- 2 : マズローのニーズ階層説
- 3 : ピアジェの発達理論
- 4 : 健康信念モデル
- 5 : 合理的・計画統合理論
- 6 : エリスのABC理論
- 7 : ベックの自動思考の考え方
- 8 : エリクソンの発達段階説
- 9 : ストレスのプロセス
- 10 : さまざまな精神障がい の 状 況
- 11 : 精神疾患の診断と分類
- 12 : 心理療法のプロセス概念
- 13 : 統合失調症の理解
- 14 : パーソナリティ障がい理解
- 15 : 心理学のこれまでのまとめ

事前・事後学習の内容 : 適宜、講義中に指示を行う。

評 価 方 法 : 試験 : 4 回 25 点 × 4 回 = 100 点

教 材 : 適宜、プリントを配布する。

受講生へのコメント : 学生の主体性が重んじられる講義で、さまざまなディスカッションを講義の中でも行う。また、社会福祉士・公認心理師の重要な科目であるので、社会福祉士および公認心理師を目指す学生の受講を希望する。

備 考 :

科 目 名：人間福祉学演習

英 語 表 記：Tutorial Seminar on Human Development and Welfare

担 当 教 員：堀口 正 他

授 業 形 態：演 習

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・3年次集中

科目ナンバリング：HCACA2300

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：各担当教員の専門領域について学び、卒業論文執筆のための基盤づくりを行う。

科 目 の 主 題：各担当教員の専門領域の研究課題について演習形式で学ぶ。

授業内容・授業計画：演習形式で行う。所属するゼミによって指導方法は異なる。

テ ー マ	予定回数	概 要
オリエンテーション	1	所属するゼミでオリエンテーションを行う。
卒論の基礎的指導	13	卒論の問題意識の明確化と、卒論を書くための準備として、学术论文を読む、教員とフィールド調査を行うなど演習形式による基礎的な指導を行う。
まとめ	1	本演習のまとめと4回生のゼミの進め方に関してガイダンスを行う。

事前：事後の学習内容：各回、レポート及びプレゼンテーションの準備について、指示する。

評 価 方 法：担当者により異なる。

教 材：担当者により異なる。

受講生へのコメント：卒論指導において所属するゼミにおいて、それぞれの領域の基礎的学習を行う。

3年次の前期に所属講座を決定するので、それまでに自分が指導を受けたい教員と相談したり、卒業論文で取り上げたいテーマについて調べるなど準備を進めておくこと。

備 考：

科 目 名：卒論演習

英 語 表 記：Seminar on Graduation Thesis

担 当 教 員：堀口 正 他

授 業 形 態：演 習

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・4年次

科目ナンバリング：HCACA3400

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：卒業論文のための研究方法について学ぶ。

科 目 の 主 題：文献収集、フィールドワークの手法、論文のまとめ方など卒業論文を書くための具体的な方法を学ぶ。

授業内容・授業計画：演習形式で行う。所属するゼミによって指導方法は異なる。

テ ー マ	予定回数	概 要
オリエンテーション	1	本演習の目的と予定について述べる。
卒論指導	13	卒論テーマの設定 研究方法の選択 文献収集、フィールドワークの手法の習得 卒論の執筆と推敲
まとめ	1	本演習のまとめを行う。

事前・事後学習の内容：各回、レポート及びプレゼンテーションの準備について、指示する。

評 価 方 法：卒業論文の提出、主査・副査による論文査読、卒論発表での発表内容により評価する。

教 材：

受講生へのコメント：指導教員との真剣な議論を通じて、より水準の高い卒業論文を目指してもらいたい。

備 考：

科 目 名 : 卒業論文

英 語 表 記 : Graduation Thesis

担 当 教 員 : 堀 口 正 他

授 業 形 態 : 演 習

単 位 数 : 8 単 位

開 講 年 度 ・ 学 期 : 平 成 30 年 度 ・ 4 年 次

科 目 ナ ン バ リ ン グ : HCACA4400

当 学 科 ・ コ ー ス 学 生 以 外 の 受 講 : 不 可

授 業 の 到 達 目 標 : 各 自 の 研 究 テ ー マ を 選 択 し、こ れ ま で に 本 学 科 で 学 ん だ 知 識、方 法 な ど を 生 か し て 卒 業 論 文 と し て ま と め る。

科 目 の 主 題 : 各 自 の 研 究 テ ー マ、研 究 方 法 の 選 択、調 査 の 実 施、卒 業 論 文 の 執 筆 等 に 関 し て 指 導 を 行 う。な お、論 文 提 出 後、卒 業 論 文 の 発 表 会 に お い て 発 表 す る こ と が 義 務 づ け ら れ て い る。

授 業 内 容 ・ 授 業 計 画 : 演 習 形 式 で 行 う。

テ ー マ	予 定 回 数	概 要
卒 業 論 文 の 指 導	14	卒 業 論 文 の 指 導 を 行 な う。
卒 業 論 文 の 発 表 会 で の 発 表	1	卒 業 論 文 の 発 表 会 に 参 加 し、発 表 を 行 い 質 疑 応 答 を す る。

事 前 ・ 事 後 学 習 の 内 容 : 各 回、卒 論 執 筆 に 向 け た 準 備 に つ い て、指 示 す る。

評 価 方 法 : 卒 業 論 文 の 提 出、主 査 ・ 副 査 に よ る 論 文 査 読、卒 論 発 表 で の 発 表 内 容 に よ り 評 価 す る。

教 材 :

受 講 生 へ の コ メ ン ト : 卒 業 論 文 は、大 学 に お け る 研 究 の 集 大 成 で あ る。定 期 的 な 指 導 教 員 の 直 接 指 導 を 受 け な が ら 研 究 を 進 め、個 性 的 か つ 学 術 的 な 卒 業 論 文 を 期 待 す る。

備 考 : 指 導 教 員 と よ く 相 談 し な が ら 研 究 を 進 め る こ と。

科 目 名：社会調査法

英 語 表 記：Methods for Social Research

担 当 教 員：神部 智司

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・2年次後期

科目ナンバリング：HCSWL2216

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：社会調査に必要な基礎知識の提供を目的とする。特に、量的および質的調査についての基礎知識の提供を行う。

科 目 の 主 題：社会調査の技法をわかりやすく説明するとともに、具体的な調査の方法および統計学についても詳しく述べる。

授業内容・授業計画：基本的には、講義が中心となるが、講義においても学生とのディスカッションを行いたい。

- 1：オリエンテーション
- 2：調査とは何か
- 3：量的研究と質的研究
- 4：横断的調査と縦断的調査
- 5：実験計画法と調査設計における内的妥当性
- 6：シングル・システム・デザインと背理法・帰無仮説
- 7：統計学の基礎 代表値の考え方 正規分布など
- 8：母集団と標本 サンプルングの方法
- 9：調査設計における内的妥当性と外的妥当性 カイ2乗検定
- 10：尺度開発・質問紙作成
- 11：尺度の信頼性と妥当性
- 12：統計学：t検定 一元配置の分散分析
- 13：統計学：因子分析・重回帰分析
- 14：質的研究の方法
- 15：社会調査における倫理

事前・事後学習の内容： 適宜、講義中に指示を行う。

評 価 方 法：小試験 2回 30点×2回=60点

最終試験1回 40点×1回=40点

教 材：適宜、資料を配付する。

受講生へのコメント：多角的な視点を持ちながら、講義に出席してもらうことを望みます。

備 考:

科 目 名：社会開発学 I（平成 28 年度以降入学者対象）

英 語 表 記：Social Development I

担 当 教 員：堀口 正

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2 単位

開講年度・学期：平成 30 年度・2 年次前期

科目ナンバリング：HCHWL2208

当学科・コース学生以外の受講：可（教室収容定員を上回った場合は、履修制限を実施することがあります）

授業の到達目標：途上国や日本の貧困問題について紹介し、またその問題解決め向けの知識や方法を理解します

科目の主題：上記問題を具体的な事例にもとづき紹介します。また映像などの資料も活用します。

授業内容・授業計画：毎回レジュメなど配布します。受講生の意見や感想などを参考にして授業をすすめます。

テ ー マ	予定回数	概 要
オリエンテーション	1	講義の概要と評価方法などを紹介します
貧困問題	1	世界と日本の貧困の状況やそれを測る指標を紹介・検討します。
国際援助機関の取り組み	1	国際機関の貧困削減、その課題を紹介・検討します。
日本の援助機関の取り組み	1	日本の援助機関の特徴やその役割を紹介・検討します。
非政府組織の役割	1	NGO・ボランティア活動の役割を紹介・検討します。
PCM 手法など	1	途上国などで活用されている調査手法を紹介・検討します・
フィールドワークの方法	1	フィールドワークの方法を紹介します。
前半のまとめ	1	前半のまとめをします
人口問題	1	世界の人口規模・その推移を紹介し、課題を考えます。
フェアトレード	1	モノの交換・流通の仕組みと問題点を検討します。
ジェンダーアプローチ	1	男性・女性の役割分担・特徴やその課題を検討します。
ノンフォーマル教育	1	教育、特に初等教育の役割について考えます。
生活改善	1	生活者を中心にした生活様式やその改善方法を紹介・検討します。
一村一品運動	1	製品の開発、地域活性化について考えます。
まとめ	1	社会開発学 I についてのまとめをします

事前・事後学習の内容：毎回の講義で参考文献・資料を紹介しますので、それらを読んでおいてください。また課題などもときどき出しますので、事後の学習として取り組んでください。

評 価 方 法：①平常点（出席、リアクションペーパーの内容、課題など）30 点、②学期末レポート 70 点の総合成績により評価します。ただし、出席回数が 10 回に満たない場合、かつ②の学期末レポートを提出しない場合は評価の対象にはなりません。

教 材：ありません（毎回、レジュメを配布します）

受講生へのコメント：貧困の問題は個人的原因、社会的原因によるものなど、決して固定されているわけではなりません。本講義では、その問題を理解するだけでなく、同時に解決する方法を講義を通じて、また受講生の方々との議論を通じて、考えていきたいと思っています。初学者でも、わかるように講義をする予定です。

備 考：・詳細な内容、計画、基準については 1 回目のオリエンテーションにておしらせします。

・講義内容が一部変更になることがあります。

科 目 名：社会開発学Ⅱ（平成28年度以降入学者対象）

英 語 表 記：Social Development II

担 当 教 員：堀口 正

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・2年次後期

科目ナンバリング：HCHWL2209

当学科・コース学生以外の受講：可（教室収容定員を上回った場合は、履修制限を実施することがあります）

授業の到達目標：社会開発学Ⅰで学んだ知識を土台として、より実践的・応用的な開発方法を考えます。

科目の主題：受講生自らが問題を発掘し、それを解決する方法を考えます。

授業内容・授業計画：毎回課題などを出しますので、それを受講生が調べ発表する機会を取り入れます。

テ ー マ	予定回数	概 要
オリエンテーション	1	講義の概要と評価方法などを紹介します
PCM手法の説明	1	PCM手法について説明します
PCM手法の実践	1	実際にPCM手法を使って、問題を考えます
PCM手法の分析結果	1	PCM手法を通じて、導きだされた結果を検討します
フィールドワークの説明	1	フィールドワークの内容について説明します
フィールドワークの実践	1	実際にフィールドワークを行い、その内容を報告してもらいます。
フィールドワークの分析結果	1	フィールドワークを通じて得られた結果を検討します。
前半のまとめ	1	前半のまとめをします
データ分析の説明	1	世界や日本に関する統計データやその内容・特徴を説明します。
データ分析の実践	1	実際にデータを使って、分析・考察を行います。
データ分析の結果報告	1	分析結果を検討します。
書籍・報告書の読み方	1	社会開発に関する書籍や資料を紹介します①
書籍・報告書（具体事例）	1	同上②
書籍・報告書の分析	1	社会開発に関する書籍の内容、上記調査結果の検討をします。
まとめ	1	社会開発学Ⅱについてのまとめをします

事前・事後学習の内容：毎回の講義で参考文献・資料を紹介しますので、それらを読んでおいてください。また課題など
ときどき出しますので、事後の学習として取り組んでください。

評 価 方 法：①平常点（出席、リアクションペーパーの内容、課題など）30点、②学期末レポート70点の総合成績によ
り評価します。ただし、出席回数が10回に満たない場合、かつ②の学期末レポートを提出しない場合は評
価の対象にはなりません。

教 材：ありません（毎回、レジュメを配布します）

受講生へのコメント：社会を開発するとは「モノやサービスの所有の多い少ないから得られる成果や満足の量」を意味す
るのではなく、「それらが人びとに何を可能にしてくれるのか、またその自由をその他の人びとと
分かち合うことができる状態やそれを拡大すること」を意味するのではないかと考えています。

備 考：・詳細な内容、計画、基準については1回目のオリエンテーションにておしらせします。

・講義内容が一部変更になることがあります。時々、ゲストをお招きします。

科 目 名：地域経済論 I（平成 28 年度以降入学者対象）

英 語 表 記：Economic Development I

担 当 教 員：堀口 正

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2 単位

開講年度・学期：平成 30 年度・3 年次前期

科目ナンバリング：HCHWL2304

当学科・コース学生以外の受講：可（教室収容定員を上回った場合は、履修制限を実施することがあります）

授業の到達目標：中国の社会経済問題を学ぶと同時に、日本における同問題を比較します。

科目の主題：受講生自らが中国の状況を理解すると同時に、日本の特徴や課題を考えます。

授業内容・授業計画：毎回課題などを出しますので、それを受講生が調べ発表する機会を取り入れます。

テ ー マ	予定回数	概 要
オリエンテーション	1	講義の概要と評価方法などを紹介します
中国経済の概要	1	中国経済のこれまでの発展状況や特徴を紹介します。
農村経済	1	農村部における（都市部との比較から）状況を紹介します。
地域格差	1	格差の状況を紹介し、そこでの問題点などを検討します。
対中経済協力	1	日本の対中国援助の特徴を紹介します。
開発援助の特徴と課題	1	援助の役割や課題を考えます。
人口問題	1	一人っ子政策やそれが経済社会に及ぼす影響などを紹介します。
前半のまとめ	1	前半のまとめをします
労働問題	1	都市戸籍と農村戸籍、中国女性の主婦化などを紹介します。
中国のものづくり	1	中国と日本のものづくりの特徴を比較します。
中国人の訪日観光と爆買い	1	爆買いの背景と問題点を考えます。
金融と為替人民元の国際化	1	為替・金融システムを紹介し、人民元の国際化の意味を考えます。
中国企業の対外進出	1	中国企業の「走出去」からグローバル企業への道を紹介します。
WTO 加盟後の貿易	1	中国の貿易量の拡大と特徴を紹介します。
まとめ	1	地域経済論 I についてのまとめをします

事前・事後学習の内容：毎回の講義で参考文献・資料を紹介しますので、それらを読んでおいてください。また課題などもときどき出しますので、事後の学習として取り組んでください。

評 価 方 法：①平常点（出席、リアクションペーパーの内容、課題など）30 点、②学期末レポート 70 点の総合成績により評価します。ただし、出席回数が 10 回に満たない場合、かつ②の学期末レポートを提出しない場合は評価の対象にはなりません。

教 材：堀口正著、中国経済論、世界思想社。

受講生へのコメント：中国の経済社会問題を理解することで、日本の同問題の特徴や課題を理解できるかもしれません。社会主義の国である中国は、資本主義の国である日本と意外にも類似の点を持ち合わせています。講義でこれらのことを紹介しますので、是非とも、それらの点について、勉強してみてください！

備 考：・詳細な内容、計画、基準については 1 回目のオリエンテーションにてお知らせします。

・講義内容が一部変更になることがあります。時々、ゲストをお招きします。

科 目 名：地域経済論Ⅱ（平成28年度以降入学者対象）

英 語 表 記：Economic Development II

担 当 教 員：堀口 正

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・3年次後期

科目ナンバリング：HCHWL2305

当学科・コース学生以外の受講：可（教室収容定員を上回った場合は、履修制限を実施することがあります）

授業の到達目標：日本の経済、発展過程、人口減少と持続可能なまちづくりのことなどを理解します。

科目の主題：日本の経済の特徴を理解し、持続可能な発展を考えます。

授業内容・授業計画：毎回レジュメなど配布します。受講生の意見や感想などを参考にして授業をすすめます。

テ ー マ	予定回数	概 要
オリエンテーション	1	講義の概要と評価方法などを紹介します
日本経済の概要	1	日本経済の発展過程を紹介します。
バブル経済と失われた20年	1	低成長時代の日本の課題を探ります。
若者の雇用問題	1	正規・非正規労働、ワークシェアリング等を紹介합니다。
人口減少と持続可能な発展	1	人口減少・過疎問題、低成長時代の生活改善を考えます。
まちづくりの手法	1	具体的なまちづくりの事例を紹介します。
日本の農業と農村問題	1	なぜ農業が必要なのか？農村の役割とは何なのかを紹介します。
前半のまとめ	1	前半のまとめをします
大阪の経済（1）概要	1	大阪経済の概要を紹介します。
同上（2）地域活性化	1	大阪のまちづくりの特徴と課題を紹介します。
同上（3）国際化	1	国際化都市としての大阪の課題を考えます。
ものづくりの技術	1	日本の製造業の衰退と今後の課題について考えます。
日本経済と国際化	1	中国（一帯一路構想）との比較から日本の国際化を考えます。
日経新聞の読み方	1	日系新聞を通じて、日本経済を理解する方法を学びます。
まとめ	1	地域経済論Ⅱについてのまとめをします

事前・事後学習の内容：毎回の講義で参考文献・資料を紹介するので、それらを読んでおいてください。また課題などもときどき出しますので、事後の学習として取り組んでください。

評 価 方 法：①平常点（出席、リアクションペーパーの内容、課題など）30点、②学期末レポート70点の総合成績により評価します。ただし、出席回数が10回に満たない場合、かつ②の学期末レポートを提出しない場合は評価の対象にはなりません。

教 材：堀口正著、中国経済論、世界思想社。

受講生へのコメント：低成長時代の日本経済の仕組みや今後の課題について、一部地域経済論Ⅰの内容を復習しながら学んでいきます。また受講生の方々と議論を通じて、考えていきたいと思っています。初学者（地域経済論Ⅰを履修していなくても）でも、わかるように講義をする予定です。

備 考：・詳細な内容、計画、基準については1回目のオリエンテーションにておしらせします。

・講義内容が一部変更になることがあります。ゲストをお招きする場合もあります。

科 目 名：共生社会演習（平成 26 年度入学生及び平成 29 年度以降入学生対象）／共生社会演習Ⅰ及びⅡ（平成 27 年度及び平成 28 年度入学生対象）

英 語 表 記：Seminar on Inclusive Society／Seminar on Inclusive SocietyⅠ・Ⅱ

担 当 教 員：野村 恭代・清水 由香・岡田 進一・所 道彦・鶴浦 直子・中島 尚美

授 業 形 態：演 習

単 位 数：共生社会演習 2 単位／共生社会演習Ⅰ及びⅡ 各 1 単位

開講年度・学期：平成 29 年度・1 年集中

科目ナンバリング：HCHWS1100

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：社会福祉について広く理解するとともに、地域で活動を展開する事業所の実際をとおして、共生社会について考察を深める。

科目の主題：共生社会とはどのような社会であるのかについて、講義及び活動をとおして理解する。さらに、社会福祉施設の運営と社会福祉施設を運営する法人が、社会のなかで活動を展開するために必要な諸要素や課題の実際について考察する。

授業内容・授業計画：演習及び現場実習

	テ ー マ	概 要
1	社会福祉とはなにか	「社会福祉」を考える
2	地域社会とはなにか	「地域社会」を考える
3	地域共生社会とはなにか	「地域共生社会」を考える
4	生活のしづらさ	「生活のしづらさ」について知る
5	生活上のさまざまな課題	日常生活上のさまざまな課題について考える
6	社会福祉施設とはなにか	社会福祉施設とはなにかを知る
7	社会福祉施設の役割	社会福祉施設の意義と社会的役割を理解する。
8	社会福祉施設の実際	社会福祉施設での活動をとおして、理解を深める。
9	社会福祉施設の活動	社会福祉施設での活動をとおして、理解を深める。
10	課題と支援	支援の実際について学ぶ。
11	さまざまな課題への対応	支援の実際について学ぶ。
12	共生社会を考える	共生社会について理解を深める。
13	地域共生社会を考える	地域共生社会について理解を深める。
14	地域共生社会を創造する	地域共生社会のあるべき姿を考える。
15	これからの地域共生社会	活動分析と半期のまとめ

事前・事後学習の内容：毎回の授業の際に小レポート課題を提出する。

評 価 方 法：参加態度、レポート等をもとに総合的に判断する。

教 材：必要に応じ、適宜指示する。

受講生へのコメント：授業時間外の活動が主になります。そのことを理解したうえで受講してください。

備 考：①「共生社会演習Ⅱ」を履修する前に「共生社会演習Ⅰ」を履修済みであること。

②社会福祉士国家試験受験資格取得希望者は履修することが望ましい。

オフィスアワー 月曜日の昼休み

科 目 名 : 心理学基礎実験 I (平成 24 年度～29 年度入学者対象)

英 語 表 記 : Psychology Practical Experience I

担 当 教 員 : 後藤 佳代子・羽下 飛鳥・(松田 崇志)

授 業 形 態 : 実 習

単 位 数 : 2 単 位

開講年度・学期 : 平成 30 年度・3 年次前期 (集中とペア)

科目ナンバリング : HCCPE3301

当学科・コース学生以外の受講 : 不可

授業の到達目標 : 精神発達についての、実際に臨床現場で使用されている検査方法や検査結果の整理と集計方法や、臨床場面へのより有意義な適用法について学ぶ。また、基礎的な実験を通して、心理学を研究する方法や技術を学ぶ。

科 目 の 主 題 : 乳児から老人にいたる精神発達についての発達臨床心理学的研究法に関する実験・実習を行う。臨床現場で使用されている各種の発達検査や心理検査について、実際に検査道具にふれ、検査場면을体験する。また、心理学の基礎的な実験を体験し、レポートを書く。

授業内容・授業計画 : 実習形式で行う。なお実習内容は進捗状況に応じて変更することがある。

テ ー マ	予定回数	概 要
オリエンテーション	1	心理学基礎実験とは何か学ぶ
質問紙法 1	1	長谷川式知能検査の解説、実施、結果の整理を行う。
質問紙法 2-①	1	TEG について学ぶ
質問紙法 2-②	1	TEG を実施し、結果の整理を行う。
質問紙法 3-①	1	YG 検査について学ぶ
質問紙法 3-②	1	YG 検査を実施し、結果の整理を行う。
質問紙法 4-①	1	MMPI について学ぶ
質問紙法 4-②	1	MMPI を実施し、結果の整理を行う。
質問紙法 5-①	1	MAS、STAY について学ぶ
質問紙法 5-②	1	MAS、STAY を実施し、結果の整理を行う。
作業検査法 1-①	1	内田クレペリン精神検査について学ぶ
作業検査法 1-②	1	内田クレペリン精神検査を実施し、結果の整理を行う。
発達検査 1	1	新版 K 式発達検査 2001 の解説を行う
発達検査 2	1	新版 K 式発達検査 2001 の検査用具の確認を行う。
発達検査 3	1	新版 K 式発達検査 2001 を用い、ロールプレイを行う。
発達検査 4	1	上記ロールプレイでの結果を用い、結果の整理を行う。
知能検査 1	1	ウエクスラー法の解説を行う。
知能検査 2	1	WISC-IV などの検査用具の確認を行う。
知能検査 3	1	WISC-IV を用い、ロールプレイを行う。
知能検査 4	1	上記ロールプレイの結果を用い、結果の整理を行う。
心理学実験 1	1	心理学実験について学ぶ
心理学実験 2-①	1	ミュラー・リヤー錯視について学ぶ
心理学実験 2-②	1	ミュラー・リヤー錯視の実験を行う。
心理学実験 2-③	1	ミュラー・リヤー錯視の実験結果の整理を行う。
心理学実験 3-①	1	認知について学ぶ
心理学実験 3-②	1	認知的コンフリクトの実験を行う
心理学実験 3-③	1	認知的コンフリクトの実験結果の整理を行う
心理学実験 4-①	1	記憶について学ぶ

心理学実験4-②	1	記憶の系列位置効果の実験、実験結果の整理を行う。
心理学実験5	1	科学的レポートの書き方を学ぶ。

事前・事後学習の内容：各回、学習内容について指示する。

評価方法：出席点とレポートにより評価する

教材：なし。教材は各種検査用具

備考：出席回数が基準に達していない場合、または3種類の実験レポートが提出されていない場合、不可となるので注意してください。

基礎実験担当の松田先生（10コマ）は、集中講義です。

詳細内容、計画、評価基準については1回目の講義時間内に通知します。

科目名：心理学基礎実験Ⅱ（平成29年度以前入学生対象）

英語表記：Psychology Practical Experience II

担当教員：篠田 美紀・（金岡 洋子）

授業形態：実験

単位数：1単位

開講年度・学期：平成30年度・3年次集中

科目ナンバリング：HCCPE3302

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：心理療法に関する臨床心理学研究法の実験・実習のうち、箱庭療法や遊戯療法などの表現療法に関する実験・実習を行う。臨床面接場面を体験し、ロールプレイを通してカウンセラーやクライアントの心の流れも体験する。なお、この科目は金岡洋子（非常勤講師）と共担である。

科目の主題：それぞれの基礎知識を学んだ後、実習を中心に体験学習をとおして実践事例についての理解を深める。

授業内容・授業計画：グループ実習

テーマ	予定回数	概要
ガイダンス	1	表現療法の基礎と実習に向けての諸注意
描画法（1）	1	各種描画法についての基礎を学ぶ。なぐり描き法 スクイッグル法の体験実習
描画法（2）	1	MS SM法の基礎を学び、体験実習を行う。
カラージュ療法（1）	1	カラージュ療法の基礎を学び、体験実習を行う。
カラージュ療法（2）	1	カラージュ療法による臨床実践事例についての理解を深める
遊戯療法（1）	1	遊戯療法の基礎を学び、遊戯療法の実際を知る。
遊戯療法（2）	1	遊戯療法による臨床実践事例について理解を深める
箱庭療法実習（1）	1	箱庭療法について 箱庭療法の理論的背景を学ぶ
箱庭療法実習-グループ実習（2）	1	グループに分かれて箱庭療法体験実習—振り返り—
箱庭療法実習-グループ実習（3）	1	グループに分かれて箱庭療法体験実習—振り返り—
箱庭療法実習-グループ実習（4）	1	グループに分かれて箱庭療法体験実習—振り返り—
箱庭療法実習-グループ実習（5）	1	グループに分かれて箱庭療法体験実習—振り返り—
箱庭療法の実際（1）	1	箱庭療法による臨床心理援助実践事例1
箱庭療法の実際（2）	1	箱庭療法による臨床心理援助実践事例2
実習まとめ	1	それぞれの実習で得られた体験についてグループでディスカッションし、自身の体験をまとめる

事前・事後学習の内容：講義内に通知

評価方法：出席（70%）とレポート提出（30%）。実験・実習科目であるので、出席を重視する。

教材：適宜配布する。

受講生へのコメント：グループ実習・ペアリング実習により授業をすすめます。作品制作、体験発表を多く行います。

備考：出席回数が基準に達していなければ最終レポートを提出することができないので注意すること。基準については初回のガイダンスで周知する。

科 目 名：発達臨床心理学実習（平成 29 年度以前入学生対象）

英 語 表 記：Developmental Clinical Psychology Practice

担 当 教 員：三船 直子・篠田 美紀・長濱 輝代・後藤 佳代子

授 業 形 態：実 習

単 位 数：1 単 位

開講年度・学期：平成 30 年度・4 年次前期集中

科目ナンバリング：HCCPS4400

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：臨床現場において、心理的援助の実際を経験する

科 目 の 主 題：個別実習の実習先でそれぞれの期間、プログラムに従って行う。

授業内容・授業計画：

テ ー マ	予定回数	概 要
事前指導	1	実習機関の概要の理解と実習に向けての諸注意
臨床実習		実習機関・実習期間・プログラムについては、例年 7 月に行うガイダンス時に発表する。ガイダンスに欠席した者の実習は認めない。 実習時期は概ね 9 月、実習期間は 4 日または 5 日間とする。
事後指導	1	実習体験について振り返り、自身の体験をまとめる。

事前・事後学習の内容：実習機関に関する事前学習と実習先での実習記録に基づいた事後学習

評 価 方 法：実習参加と実習ノートの提出

教 材：実習先機関からの指定図書

受講生へのコメント：学外での他機関での実習であるから、責任を持って真摯に取り組んでいただきたい

実習先の要請により、別途必要書類を提出することがある。詳細はガイダンスにて説明する。

備 考：

科 目 名 : 心理アセスメント実習 (平成 29 年度以前入学生対象)

英 語 表 記 : Psychological Assessment practice

担 当 教 員 : 篠田 美紀・後藤 佳代子

授 業 形 態 : 実 習

単 位 数 : 1 単 位

開講年度・学期 : 平成 30 年度・3 年次後期

科目ナンバリング : HCCPS3300

当学科・コース学生以外の受講 : 不可

授業の到達目標 : 体験を中心とした実習カリキュラムを通して、臨床心理面接に役立つアセスメント技法の実際を知る。

科 目 の 主 題 : 心理アセスメントの講義で得た知識をもとに、投映法による心理テストの実施・データの整理・解釈の方向性について理解する。

授業内容・授業計画 : 実習形式で行う。なお実習内容は進捗状況に応じて変更することがある。

テ ー マ	予定回数	概 要
1. ガイダンス	1	投映法に関する基礎的知識の習得と実習の心構え
2. 投映法 実習 1-1	1	投映法について・SCT① 実施と解釈法
3. 投映法 実習 1-2	1	SCT② 実施と解釈法
4. 投映法 実習 2-1	1	P-F スタディ① 実施と解釈法
5. 投映法 実習 2-2	1	P-F スタディ② 実施と解釈法
6. 投映法 実習 3	1	バウムテスト 実施と解釈法
7. 投映法 実習 4	1	風景構成法 実施と解釈法
8. 投映法 事例学習①	1	まとめ① 臨床心理実践事例 1
9. 投映法 実習 5	1	ロールシャッハテスト被検者体験
10. 投映法 実習 6-1	1	TAT① テスター体験
11. 投映法 実習 6-2	1	TAT② 被検者体験
12. 投映法 実習 5-2	1	ロールシャッハテスト 解説・実践事例・自己分析①
13. 投映法 実習 6-3	1	TAT 解説・実践事例・自己分析②
14. 投映法事例学習②	1	まとめ② 臨床心理実践事例 2
15. 投映法事例学習③	1	まとめ③ 臨床心理実践事例 3 最終レポート提出

事前・事後学習の内容 : 講義内に通知

評 価 方 法 : 出席点と最終レポートにより評価する

教 材 : 教材は各種検査用具他、手引書など

受講生へのコメント : 自身の被検者体験を通じて 投影法による臨床実践について学びます。出席を重視します。

備 考 : (1) 心理アセスメント(講義)の既履修が受講の条件である。

(2) 出席回数が基準に達していなければ不可となるので注意すること。

(3) 詳細な内容・計画、出席回数基準については 1 回目のガイダンスで通知する。

科 目 名：心理面接実習（平成 29 年度以前入学生対象）／心理学的支援法Ⅱ（平成 30 年度以降入学生対象）

英 語 表 記：Psychological interviewing

担 当 教 員：篠田 美紀・（鈴木 千枝子）・（南 佳明）

授 業 形 態：実 習

単 位 数：1 単位

開講年度・学期：平成 30 年度・2 年次集中

科目ナンバリング：HCCPS1200

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：心理相談の基礎となる面接技法について、特に精神科領域の病院臨床と教育現場の教育相談の観点から初歩的技法と臨床実践の実際を学ぶ。

科 目 の 主 題：面接技法についてのグループ実習を通じて病院臨床の実際を知る。教育相談の現状と実践の実際を知る。

授業内容・授業計画：

テ ー マ	予定回数	概 要
1. 病院臨床の実際（1）	1	病院臨床の心理実践の実際について理解する
2. 病院臨床の実際（2）	1	病院臨床の心理実践の実際について理解する一事例一
3. 面接の設定	1	病院臨床現場における面接設定の具体的な手続や留意点について理解する
4. 面接への導入	1	病院臨床現場における面接の導入の具体的な手続や留意点について理解する
5. インテーク（受理）面接	1	病院臨床現場におけるインテーク（受理）面接の目的とその概要を理解する
6. 継続面接の進め方	1	病院臨床現場における継続面接の具体的な手続と留意点について理解する
7. 被面接者の理解の仕方、他	1	病院臨床現場における継続面接の経過および被面接者の理解の仕方について、その方法と留意点について理解する
8. 教育臨床の実際（1）	1	教育臨床の心理実践の実際について理解する
9. 教育臨床の実際（2）	1	病院臨床の心理実践の実際について理解する一事例一
10. 面接の設定	1	教育臨床現場における面接設定の具体的な手続や留意点について理解する
11. 面接への導入	1	教育臨床現場における面接の導入の具体的な手続や留意点について理解する
12. インテーク（受理）面接	1	教育臨床現場におけるインテーク（受理）面接の目的とその概要を理解する
13. 継続面接の進め方	1	教育臨床現場における継続面接の経過および被面接者の理解の仕方について、その方法と留意点について理解する
14. 被面接者の理解の仕方、他	1	教育臨床現場における継続面接の経過および被面接者の理解の仕方について、その方法と留意点について理解する
15. まとめ	1	実習を振り返り、自分の理解と体験をまとめる

事前：事後の学習内容：毎回、次回授業の準備等について、指示する。

評 価 方 法：出席とレポート提出。グループ実習への参加態度。

教 材：適宜配布する・

受講生へのコメント：グループでのロールプレイを取り入れた実習を行います。

備 考：

科 目 名：ソーシャルワーク演習 I

英 語 表 記：Seminar on Social Work Practice I

担 当 教 員：中島 尚美・野村 恭代・鶴浦 直子・清水 由香

授 業 形 態：演 習

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・3年次前期

科目ナンバリング：HCSWS2301

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：ソーシャルワーク実践に求められる相談援助技術の基礎を習得する。

科目の主題：ソーシャルワーク実践に必要な知識と相談援助技術について演習をとおして学ぶ。

授業内容・授業計画：テーマごとに、演習、振り返り、講義（まとめ）によって展開する。なお、履修生が20名を超えたときは、2クラスに分かれて実施する。

テ ー マ	予定回数	概 要
ソーシャルワーク実践における援助技術の位置づけ	1	本演習の目的と構成について説明するとともに、ソーシャルワーク実践における援助技術の位置づけについて理解を深める
対人援助と自己覚知	1	対人援助を行う上での自己覚知の大切さについて理解を深める。
他者理解と自己覚知	1	他者理解を通して自己理解を深める。自分の所属する組織から俯瞰的に捉える。
コミュニケーション技術の取得	1	基本的なコミュニケーション技術を学ぶ
基本的な面接技法の取得	1	相談援助場面における面接技法を具体的に学ぶ
対人援助における感情理解	1	対人援助における感情のとりあつかいを具体的な事例を通して学ぶ
援助技術を学ぶ①(インテーク)	1	相談援助事例を通して「インテーク」面接技術を習得する
援助技術を学ぶ②(アセスメント)	1	「アセスメント」技術と「プランニング」を実践的に学ぶ
援助技術を学ぶ③(支援の実施)	1	相談援助事例を通して「支援の実施」における援助技術を理解する
援助技術を学ぶ④(モニタリング)	1	相談援助事例を通して「支援の実施」と「モニタリング」の技術の習得をめざす
援助技術を学ぶ⑤(評価等)	1	「効果測定」と「終結」および「アフターケア」に必要な技術を学ぶ
倫理綱領から学ぶ	1	相談援助場面におけるジレンマを倫理綱領・行動規範を通して多角的に理解する
個別面接を学ぶ①(ロールプレイ)	1	相談援助の実践場面を想定したロールプレイを実施
個別面接を学ぶ②(逐語録)	1	相談援助の実践場面を想定したロールプレイの実際と振り返りから学ぶ
振り返りとまとめ	1	演習全体の振り返りとグループディスカッションとまとめ

事前・事後学習の内容：授業内容の振り返り及び事前学習の準備が積極的にできるよう毎回学習内容を指示する。

評 価 方 法：出席、参加態度、小レポート等をもとに総合的に判断する。

教 材：岩間伸之『対人援助のための相談面接技術－逐語で学ぶ21の技法－』中央法規、2008年。

岩間伸之他『ワークブック社会福祉援助技術演習①～⑤』ミネルヴァ書房、2004年。

その他、別途に指示する。

受講生へのコメント：毎回授業の振り返りレポート課題がある。積極的に授業に臨む姿勢を求める。

備 考：①ソーシャルワーク演習（Ⅱ～Ⅴ）、ソーシャルワーク実習指導（Ⅰ～Ⅲ）、ソーシャルワーク実習のすべてを履修することが前提となる。

②ソーシャルワーク演習Ⅱと同学期に履修すること。

③関連科目を履修済であることが前提となる。

④主体的な参加態度で臨むこと。かつ、全回の出席が求められる。

科 目 名：ソーシャルワーク演習Ⅱ

英 語 表 記：Seminar on Social Work Practice I

担 当 教 員：中島 尚美・野村 恭代・鶴浦 直子・清水 由香

授 業 形 態：演 習

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・3年次前期

科目ナンバリング：HCSWS2301

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：ソーシャルワーク実践に求められる相談援助技術の基礎を習得する。

科目の主題：ソーシャルワーク実践に必要な知識と相談援助技術について演習をとおして学ぶ。

授業内容・授業計画：テーマごとに、演習、振り返り、講義（まとめ）によって展開する。なお、履修生が20名を超えたときは、2クラスに分かれて実施する。

テ ー マ	予定回数	概 要
ソーシャルワーク実践における援助技術の位置づけ	1	本演習の目的と構成について説明するとともに、ソーシャルワーク実践における援助技術の位置づけについて理解を深める
対人援助と自己覚知	1	対人援助を行う上での自己覚知の大切さについて理解を深める。
他者理解と自己覚知	1	他者理解を通して自己理解を深める。自分の所属する組織から俯瞰的に捉える。
コミュニケーション技術の取得	1	基本的なコミュニケーション技術を学ぶ
基本的な面接技法の取得	1	相談援助場面における面接技法を具体的に学ぶ
対人援助における感情理解	1	対人援助における感情のとりあつかいを具体的な事例を通して学ぶ
援助技術を学ぶ①(インテーク)	1	相談援助事例を通して「インテーク」面接技術を習得する
援助技術を学ぶ②(アセスメント)	1	「アセスメント」技術と「プランニング」を実践的に学ぶ
援助技術を学ぶ③(支援の実施)	1	相談援助事例を通して「支援の実施」における援助技術を理解する
援助技術を学ぶ④(モニタリング)	1	相談援助事例を通して「支援の実施」と「モニタリング」の技術の習得をめざす
援助技術を学ぶ⑤(評価等)	1	「効果測定」と「終結」および「アフターケア」に必要な技術を学ぶ
倫理綱領から学ぶ	1	相談援助場面におけるジレンマを倫理綱領・行動規範を通して多角的に理解する
個別面接を学ぶ①(ロールプレイ)	1	相談援助の実践場面を想定したロールプレイを実施
個別面接を学ぶ②(逐語録)	1	相談援助の実践場面を想定したロールプレイの実際と振り返りから学ぶ
振り返りとまとめ	1	演習全体の振り返りとグループディスカッションとまとめ

事前・事後学習の内容：授業内容の振り返り及び事前学習の準備が積極的にできるよう毎回学習内容を指示する。

評 価 方 法：出席、参加態度、小レポート等をもとに総合的に判断する。

教 材：岩間伸之『対人援助のための相談面接技術－逐語で学ぶ21の技法－』中央法規、2008年。

岩間伸之他『ワークブック社会福祉援助技術演習①～⑤』ミネルヴァ書房、2004年。

その他、別途に指示する。

受講生へのコメント：毎回授業の振り返りレポート課題がある。積極的に授業に臨む姿勢を求める。

備 考：①ソーシャルワーク演習（Ⅱ～Ⅴ）、ソーシャルワーク実習指導（Ⅰ～Ⅲ）、ソーシャルワーク実習のすべてを履修することが前提となる。

②ソーシャルワーク演習Ⅱと同学期に履修すること。

③関連科目を履修済であることが前提となる。

④主体的な参加態度で臨むこと。かつ、全回の出席が求められる。

科 目 名：ソーシャルワーク演習Ⅲ

英 語 表 記：Seminar on Social Work PracticeⅢ

担 当 教 員：中島 尚美・野村 恭代・鶴浦 直子・清水 由香

授 業 形 態：演 習

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・3年次後期

科目ナンバリング：HCSWS3301

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：ソーシャルワーク実践に求められる援助技術の基礎を習得する。

科目の主題：ソーシャルワーク実践に必要な援助技術について演習をおして学ぶ。

授業内容・授業計画：テーマごとに、演習、振り返り、講義（まとめ）によって展開する。なお、履修生が20名を超えたときは、2クラスに分かれて実施する。

テ ー マ	予定回数	概 要
ソーシャルワーク実習の振り返り(個別)	1	個別スーパービジョンをおして実習内容を振り返る。シート活用
ソーシャルワーク実習の振り返り(発表)	1	個別スーパービジョンをおして実習における学びを振り返り、発表。
実習場面における自己対応の振り返り	1	グループスーパービジョンをおして、お互いの実習内容の振り返りと、共通の学び(ジェネラリストソーシャルワーク)を抽出する。
実習場面における自己対応の考察	1	グループスーパービジョンをおして個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できることをめざす。
実習報告会に向けての準備①(発表内容)	1	実習報告会に向けて、発表内容を構造化する
実習報告会に向けての準備②(レジュメ)	1	実習報告会レポート作成
実習報告会に向けての準備③(プレゼン)	1	実習報告会レポート最終修正と報告会のプレゼンリハーサル
ソーシャルワーク実習報告会 (前半)	1	実習で学んだ知識や技術、体験について全体で共有する報告会を行う。
ソーシャルワーク実習報告会 (後半)	1	実習で学んだ知識・技術・価値について共有し、後輩に伝える。
実習報告会の振り返り	1	自己評価と他者評価を基に、実習報告会の振り返りを行う。
実習で学んだ知識・技術の分析①(分析)	1	実習で学んだ知識、技術をソーシャルワーク理論と照合し分析する。
実習で学んだ知識・技術の分析②(考察)	1	実習で習得した知識、技術をソーシャルワーク理論と照合し考察する。
実習での学びの概念化	1	実習での学びを専門的援助技術として概念化し理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養する。
ソーシャルワーク実習全体の振り返り	1	ソーシャルワーク実習全体の振り返り
ソーシャルワーク実習指導全体のまとめ	1	ソーシャルワーク実習指導全体のまとめ

事前・事後学習の内容:授業内容の振り返り及び事前学習の準備が積極的にできるよう毎回学習内容を指示する。

評 価 方 法：出席、参加態度、小レポート等をもとに総合的に判断する。

教 材：岩間伸之他『ワークブック社会福祉援助技術演習①～⑤』ミネルヴァ書房、2004年。別途指示。

受講生へのコメント：毎回授業の振り返りレポート課題がある。積極的に授業に臨む姿勢を求める。

備 考：①ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワーク実習を履修済みであり、ソーシャルワーク演習Ⅳ・Ⅴを履修することを前提とする。

②ソーシャルワーク実習指導Ⅲと同時に履修しなければならない。

③関連科目を履修済であることが前提となる。

④主体的な参加態度で臨むこと。かつ、全回の出席が求められる。

科 目 名：ソーシャルワーク演習Ⅳ

英 語 表 記：Seminar on Social Work Practice Ⅳ

担 当 教 員：中島 尚美・野村 恭代・鶴浦 直子・清水 由香・(宮口 智恵)

授 業 形 態：演 習

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・4年次前期

科目ナンバリング：HCSWS3401

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：これまでのソーシャルワーク演習を踏まえた発展版としてのソーシャルワーク演習と位置づける。

科目の主題：演習をとおしてより実践的なソーシャルワーク実践の援助技術を学ぶ。また、援助の方向性を導き出すための事例研究のあり方について学ぶ。

授業内容・授業計画：テーマごとに、演習、振り返り、講義（まとめ）によって展開する。なお、履修生が20名を超えたときは、2クラスに分かれて実施する。

テ ー マ	予定回数	概 要
地域を基盤としたソーシャルワークの意義	1	地域を基盤としたソーシャルワークの実際について学ぶ
地域を基盤としたソーシャルワークの実践	1	総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践の援助技術を理解する
事例研究の意義と方法	1	ソーシャルワークにおける事例研究の意義と方法を学ぶ
社会的排除に関する相談事例から学ぶ	1	社会的排除に関する相談事例を活用しながら援助技術を習得する
虐待課題に関する相談事例から学ぶ ①(高齢者)	1	高齢者虐待に関する事例を活用しながら援助技術を習得する
虐待課題に関する相談事例から学ぶ ②(児童)	1	児童虐待に関する事例を活用しながら援助技術を習得する
虐待課題に関する相談事例から学ぶ ③(障害者)	1	障害者虐待に関する事例を活用しながら援助技術を習得する
家庭内暴力に関する相談事例から学ぶ	1	ドメスティック・バイオレンスの相談事例を活用して学ぶ
生活困窮課題の相談事例から学ぶ ①(ひとり親)	1	ひとり親家庭の生活困窮課題に焦点化した相談事例から学ぶ
生活困窮課題の相談事例から学ぶ ②(社会資源)	1	生活困窮者支援に係る社会資源開発を含む事例から学ぶ
ホームレス課題に関する相談事例から学ぶ	1	ホームレス支援についてソーシャルワークの視点で分析する
権利擁護に関する相談事例から学ぶ	1	権利擁護に関する相談事例を活用しながら援助技術を習得する
学校ソーシャルワークに関する相談事例から学ぶ	1	学校という組織のダイナミクスを理解し、相談援助技術を学ぶ
医療ソーシャルワークに関する相談事例から学ぶ	1	病院という組織のダイナミクスを理解し、相談援助技術を学ぶ
事例研究の振り返りとまとめ	1	事例による実践的な学びの振り返りとまとめ

事前・事後学習の内容：授業内容の振り返り及び事前学習の準備が積極的にできるよう毎回学習内容を指示する。

評 価 方 法：出席、参加態度、小レポート等をもとに総合的に判断する。

教 材：岩間伸之『対人援助のための相談面接技術－逐語で学ぶ21の技法－』中央法規、2008年。

岩間伸之・原田正樹『地域福祉援助をつかむ』有斐閣、2012年。

その他、別途指示する。

受講生へのコメント：毎回授業の振り返りレポート課題がある。積極的に授業に臨む姿勢を求める。

備 考：①ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅲ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ～Ⅲ、ソーシャルワーク実習を履修済であること。

②ソーシャルワーク演習Ⅴを履修することが前提となり、同学期に履修すること。

③関連科目を履修済であることが前提となる。

④主体的な参加態度で臨むこと。かつ、全回の出席が求められる。

科 目 名：ソーシャルワーク演習Ⅴ

英 語 表 記：Seminar on Social Work Practice IV

担 当 教 員：中島 尚美・野村 恭代・鶴浦 直子・清水 由香・(宮口 智恵)

授 業 形 態：演 習

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・4年次前期

科目ナンバリング：HCSWS3401

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：これまでのソーシャルワーク演習を踏まえた発展版としてのソーシャルワーク演習と位置づける。

科目の主題：演習をとおしてより実践的なソーシャルワーク実践の援助技術を学ぶ。また、援助の方向性を導き出すための事例研究のあり方について学ぶ。

授業内容・授業計画：テーマごとに、演習、振り返り、講義（まとめ）によって展開する。なお、履修生が20名を超えたときは、2クラスに分かれて実施する。

テ ー マ	予定回数	概 要
地域を基盤としたソーシャルワークの意義	1	地域を基盤としたソーシャルワークの実際について学ぶ
地域を基盤としたソーシャルワークの実践	1	総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践の援助技術を理解する
事例研究の意義と方法	1	ソーシャルワークにおける事例研究の意義と方法を学ぶ
社会的排除に関する相談事例から学ぶ	1	社会的排除に関する相談事例を活用しながら援助技術を習得する
虐待課題に関する相談事例から学ぶ ①(高齢者)	1	高齢者虐待に関する事例を活用しながら援助技術を習得する
虐待課題に関する相談事例から学ぶ ②(児童)	1	児童虐待に関する事例を活用しながら援助技術を習得する
虐待課題に関する相談事例から学ぶ ③(障害者)	1	障害者虐待に関する事例を活用しながら援助技術を習得する
家庭内暴力に関する相談事例から学ぶ	1	ドメスティック・バイオレンスの相談事例を活用して学ぶ
生活困窮課題の相談事例から学ぶ ①(ひとり親)	1	ひとり親家庭の生活困窮課題に焦点化した相談事例から学ぶ
生活困窮課題の相談事例から学ぶ ②(社会資源)	1	生活困窮者支援に係る社会資源開発を含む事例から学ぶ
ホームレス課題に関する相談事例から学ぶ	1	ホームレス支援についてソーシャルワークの視点で分析する
権利擁護に関する相談事例から学ぶ	1	権利擁護に関する相談事例を活用しながら援助技術を習得する
学校ソーシャルワークに関する相談事例から学ぶ	1	学校という組織のダイナミクスを理解し、相談援助技術を学ぶ
医療ソーシャルワークに関する相談事例から学ぶ	1	病院という組織のダイナミクスを理解し、相談援助技術を学ぶ
事例研究の振り返りとまとめ	1	事例による実践的な学びの振り返りとまとめ

事前・事後学習の内容：授業内容の振り返り及び事前学習の準備が積極的にできるよう毎回学習内容を指示する。

評 価 方 法：出席、参加態度、小レポート等をもとに総合的に判断する。

教 材：岩間伸之『対人援助のための相談面接技術－逐語で学ぶ21の技法－』中央法規、2008年。

岩間伸之・原田正樹『地域福祉援助をつかむ』有斐閣、2012年。

その他、別途指示する。

受講生へのコメント：毎回授業の振り返りレポート課題がある。積極的に授業に臨む姿勢を求める。

備 考：①ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅲ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ～Ⅲ、ソーシャルワーク実習を履修済であること。

②ソーシャルワーク演習Ⅴを履修することが前提となり、同学期に履修すること。

③関連科目を履修済であることが前提となる。

④主体的な参加態度で臨むこと。かつ、全回の出席が求められる。

科 目 名：ソーシャルワーク実習

英 語 表 記：Field Work for Social Work Practice

担 当 教 員：中島^{ナカシマ} 尚美^{ナオミ}・所^{トコロ} 道彦^{ミチヒコ}・野村^{ノムラ} 恭代^{キョウダイ}・鶴浦^{ウノウラ} 直子^{ナオコ}・清水^{シミズ} 由香^{ユカ}

授 業 形 態：実 習

単 位 数：3 単 位

開講年度・学期：平成30年度・3年次通年

科目ナンバリング：HCSWS3302

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：社会福祉施設及び社会福祉機関におけるソーシャルワーク実践の実際を学ぶ。

相談援助実習をとおして、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。さらに、関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

科 目 の 主 題：配属される社会福祉施設及び社会福祉機関において180時間以上の実習を実施する。原則7月後半から9月に実施する。配属先の状況によっては、通年による実習を行うこともある。

授業内容・授業計画：配属実習

事前・事後学習の内容：授業内容の振り返り及び事前学習の準備が積極的にできるよう毎回学習内容を指示する。

評 価 方 法：配属実習先の実習評価、自己評価の内容を総合的に評価する。

教 材：別途、指示する。

受講生へのコメント：180時間の実習はソーシャルワークの実践現場に身を置く、大変貴重な体験学習である。

心身とも基礎体力も求められる。

- 備 考：①履修にあたっては、2年次後期に、ソーシャルワーク実習報告会へ出席のうえ仮登録をしておかなければならない。
- ②ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱを履修済でなければ、ソーシャルワーク実習に行くことはできない。
- ③ソーシャルワーク演習Ⅲ～Ⅴ、ソーシャルワーク実習指導Ⅲを履修することが前提となる。
- ④関連科目を履修済であることが前提となる。
- ⑤すべての実習日程をクリアする必要がある。

科 目 名：ソーシャルワーク実習指導Ⅰ

英 語 表 記：Seminar on Field Work for Social Work Practice I

担 当 教 員：中島 尚美・岡田 進一・所 道彦・野村 恭代・鶴浦 直子・清水 由香

授 業 形 態：演習

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・3年次前期

科目ナンバリング：HCSWS2304

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：ソーシャルワーク実習、ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅴの履修者（予定含む）を対象とし、社会福祉施設及び社会福祉機関におけるソーシャルワーク実践の実際を学ぶ。

科 目 の 主 題：ソーシャルワーク実習は、福祉現場との関係で成り立つものであり、職員や福祉サービス利用者等、現場関係者の理解を求めめる必要がある。ソーシャルワーク実習指導Ⅰでは、各ソーシャルワーク実習に取り組むために不可欠な社会福祉施設及び社会福祉機関の基本的な理解を深めていく。また、実習目標の設定と実習計画の作成を行い、実習記録の内容と方法を学習する。

授業内容・授業計画：テーマごとに、演習、振り返り、講義（まとめ）によって展開する。なお、履修生が20名を超えたときは、2クラスに分かれて実施する。

テ ー マ	予定回数	概 要
ソーシャルワーク実習の意義	1	ソーシャルワーク実習の意義について学ぶ
実習分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解	1	実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解をめざす
社会福祉機関の概要	1	実習を行う社会福祉機関の概要を理解する
社会福祉施設の概要	1	実習を行う社会福祉施設の概要を理解する
倫理綱領から学ぶ	1	倫理綱領・行動規範を学ぶ（個人情報保護法の理解も含む）
実践課題から倫理綱領を理解する	1	実習における個人のプライバシーの保護や守秘義務等の理解
実習計画書作成 ① 実習テーマ	1	実習で学びたい内容の抽出及びグループディスカッション
実習計画書作成 ② 実習目標・課題	1	実習テーマに沿った実習目標の決定と実習計画書の作成
実習先領域に関する課題理解	1	実習先領域に関する課題を文献等でまとめ理解する
実習先の地域性についての理解	1	実習先の地域性を理解するために調査し理解する
実習先に関する基礎知識の確認	1	実習先施設・機関の基礎知識をまとめる
実習事前訪問に向けての説明	1	実習先への事前訪問のオリエンテーション、内容確認
実習日誌の書き方についての説明	1	実習に関する記録作成の意義を理解し、書き方を取得する
実習に向けての最終確認	1	実習における契約構造の説明と実習生の意義・権利
実習開始直前オリエンテーション	1	実習における緊急対応や評価等の説明、全体のまとめ

事前・事後学習の内容：授業内容の振り返り及び事前学習の準備が積極的にできるよう毎回学習内容を指示する。

評 価 方 法：出席、主体的・積極的な参加態度、レポート等をもとに総合的に判断する。

教 材：別途、指示する。

受講生へのコメント：実習に向けての準備を確実に段階的に取り組む力が求められる。

- 備 考：
- ①履修にあたっては、2年次にソーシャルワーク実習の仮登録をしておかなければならない。
 - ②ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅴ、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・Ⅲ、ソーシャルワーク実習を履修することが前提となる。
 - ③ソーシャルワーク実習指導Ⅱと同時に履修しなければならない。
 - ④関連科目を履修済であることが前提となる。

科 目 名：ソーシャルワーク実習指導Ⅱ

英 語 表 記：Seminar on Field Work for Social Work Practice I

担 当 教 員：中島 尚美・岡田 進一・所 道彦・野村 恭代・鶴浦 直子・清水 由香

授 業 形 態：演習

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・3年次前期

科目ナンバリング：HCSWS2304

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：ソーシャルワーク実習、ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅴの履修者（予定含む）を対象とし、社会福祉施設及び社会福祉機関におけるソーシャルワーク実践の実際を学ぶ。

科 目 の 主 題：ソーシャルワーク実習は、福祉現場との関係で成り立つものであり、職員や福祉サービス利用者等、現場関係者の理解を求めるとある。ソーシャルワーク実習指導Ⅰでは、各ソーシャルワーク実習に取り組むために不可欠な社会福祉施設及び社会福祉機関の基本的な理解を深めていく。また、実習目標の設定と実習計画の作成を行い、実習記録の内容と方法を学習する。

授業内容・授業計画：テーマごとに、演習、振り返り、講義（まとめ）によって展開する。なお、履修生が20名を超えたときは、2クラスに分かれて実施する。

テ ー マ	予定回数	概 要
ソーシャルワーク実習の意義	1	ソーシャルワーク実習の意義について学ぶ
実習分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解	1	実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解をめざす
社会福祉機関の概要	1	実習を行う社会福祉機関の概要を理解する
社会福祉施設の概要	1	実習を行う社会福祉施設の概要を理解する
倫理綱領から学ぶ	1	倫理綱領・行動規範を学ぶ（個人情報保護法の理解も含む）
実践課題から倫理綱領を理解する	1	実習における個人のプライバシーの保護や守秘義務等の理解
実習計画書作成 ① 実習テーマ	1	実習で学びたい内容の抽出及びグループディカッション
実習計画書作成 ② 実習目標・課題	1	実習テーマに沿った実習目標の決定と実習計画書の作成
実習先領域に関する課題理解	1	実習先領域に関する課題を文献等でまとめ理解する
実習先の地域性についての理解	1	実習先の地域性を理解するために調査し理解する
実習先に関する基礎知識の確認	1	実習先施設・機関の基礎知識をまとめる
実習事前訪問に向けての説明	1	実習先への事前訪問のオリエンテーション、内容確認
実習日誌の書き方についての説明	1	実習に関する記録作成の意義を理解し、書き方を取得する
実習に向けての最終確認	1	実習における契約構造の説明と実習生の意義・権利
実習開始直前オリエンテーション	1	実習における緊急対応や評価等の説明、全体のまとめ

事前・事後学習の内容：授業内容の振り返り及び事前学習の準備が積極的にできるよう毎回学習内容を指示する。

評 価 方 法：出席、主体的・積極的な参加態度、レポート等をもとに総合的に判断する。

教 材：別途、指示する。

受講生へのコメント：実習に向けての準備を確実に段階的に取り組む力が求められる。

- 備 考：
- ①履修にあたっては、2年次にソーシャルワーク実習の仮登録をしておかなければならない。
 - ②ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅴ、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・Ⅲ、ソーシャルワーク実習を履修することが前提となる。
 - ③ソーシャルワーク実習指導Ⅱと同時に履修しなければならない。
 - ④関連科目を履修済であることが前提となる。

科 目 名：ソーシャルワーク実習指導Ⅲ

英 語 表 記：Seminar on Field Work for Social Work PracticeⅢ

担 当 教 員：中島^{ナカシマ} 尚美^{ナオミ}・岡田^{オカダ} 進一^{シンイチ}・所^{トコロ} 道彦^{ミチヒコ}・野村^{ノムラ} 恭代^{ヤスヨ}・鶴浦^{ウノウラ} 直子^{ナオコ}・清水^{シミズ} 由香^{ユカ}

授 業 形 態：演習

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・3年次後期

科目ナンバリング：HCSWS3303

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：ソーシャルワーク実習、ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅴの履修者（予定含む）を対象とし、ソーシャルワーク実習で学んだ知識や技術を専門的援助技術として概念化、理論化し体系化していくことを目指す。

科 目 の 主 題：実習先で学んだ知識や技術、体験について、ソーシャルワーク理論と照らし合わせながら、分析していく。

授業内容・授業計画：テーマごとに、演習、振り返り、講義（まとめ）によって展開する。なお、履修生が20名を超えたときは、2クラスに分かれて実施する。

テ ー マ	予定回数	概 要
ソーシャルワーク実習の振り返り（個別）	1	実習終了直後個別スーパービジョンをとおして実習内容を振り返る。
ソーシャルワーク実習の振り返り（集団）	1	実習自己評価シートを活用してグループディスカッションを実施。
実習記録・実習体験を踏まえた課題整理	1	実習体験や実習記録、巡回指導内容から、課題整理を行う。
実習場面における自己の対応の考察	1	個別的な体験を一般化し実践的な知識と技術としての習得をめざす
実習報告会に向けての準備 ①	1	実習報告会に向けて、発表内容を構造化する
実習報告会に向けての準備 ②	1	実習報告会レポート作成
実習報告会に向けての準備 ③	1	実習報告会レポート最終修正と報告会のプレゼンリハーサル
ソーシャルワーク実習報告会（前半）	1	実習で学んだ知識・技術・価値や体験を共有する報告会を行う。
ソーシャルワーク実習報告会（後半）	1	実習で学んだ知識・技術・価値や体験を共有する報告会を行う。
実習報告会の振り返り	1	自己評価と他者評価を基に、実習報告会の振り返りを行う。
実習総括レポートに向けての課題抽出	1	実習で学んだ知識、技術をソーシャルワーク理論と照合し分析する。
実習総括レポートの内容検討	1	実習で習得した知識、技術をソーシャルワーク理論と照合し考察する。
実習総括レポート内容の共有	1	実習レポートで焦点化した各自の課題について発表し共有化を図る。
実習での学びの概念化	1	実習での学びを専門的援助技術として概念化し理論化し、体系立てる。
ソーシャルワーク実習指導のまとめ	1	実習における評価及び全体の総括

事前・事後学習の内容：授業内容の振り返り及び事前学習の準備が積極的にできるよう毎回学習内容を指示する。

評 価 方 法：出席、参加態度、小レポート等をもとに総合的に判断する。

教 材：別途、指示する。

受講生へのコメント：個人のみならず、グループでの振り返りによる学びを分かち合える授業を目指している。

備 考：①ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワーク実習を履修済であることが前提となる。

②ソーシャルワーク演習Ⅲと同学期に履修すること。

③関連科目を履修済であることが前提となる。

④全回の出席が求められる。

⑤主体的な参加が求められる。



QOL プロモーター養成関係科目シラバス

科目名：QOLプロモーション

英語表記：QOLプロモーション

担当教員：所^{トコロ}道彦・西川^{ニシカワ}禎一・清水^{シメイズ}由香・堀口^{ホリグチ}正・早見^{ハヤミ}直美・小池^{コイケ}志保子・鵜川^{ウカワシ}重和

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・1年通年

科目ナンバリング：HQLEC1101

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：QOL（Quality of Life：生活の質）の概念を学ぶ。

科目の主題：自然科学、社会科学の知見を紹介しつつQOLの概念について学ぶ。生活の質を構成する多様な要素について理解し、生活全体を捉える視点の重要性について学ぶ。また、生活の質を向上させるための取り組みの歴史、地域におけるQOL向上の取り組み、これからのQOLプロモーションのあり方について議論する。

授業内容・授業計画：オムニバス形式による講義とディスカッション・グループワークを組み合わせで行う。

テーマ	回数	概要
オリエンテーション	1	生活科学とQOLの概念
生活の多面性	1	生活を多面的に捉えることの意義と方法
QOLプロモーションの展開	1	日本における生活の質の向上をめぐる取り組みの歴史
QOLプロモーションと研究	1	日本におけるQOL研究の歴史
食生活とQOL	1	食生活の質について
居住環境とQOL	1	居住環境の質について
高齢者とQOL	1	高齢者のQOLを考える
障害者とQOL	1	障害者のQOLを考える
災害とQOL	1	日常生活と非日常生活のQOLについて考える
まちづくりとQOL	1	コミュニティデザインと地域住民のQOL
過疎地域の生活問題	1	過疎地域の生活ニーズについて学ぶ
超高齢社会の生活問題	1	超高齢社会におけるQOL研究
持続可能な社会とQOL	1	生活の質と持続可能な社会のあり方
QOLと専門職	1	生活の質と専門職の役割・協働
QOLプロモーションの課題	1	まとめ

事前・事後学習の内容：適宜、授業内で指示する。

評価方法：出席状況・授業中のディスカッションへの参加態度・レポート（授業での課題）などにより総合的に判断する。

教材：適宜、資料を配布する

備考：

目 名：QOLプロモーション演習 I

英語表記：QOL Promotion Fieldwork Practice I

担当教員：所 トコロ 道彦・ミチヒコ 小池志保子・コイケシホコ 西川 コシカワ 禎一・ヨシカズ 早見 ハヤミ 直美 ナオミ

授業形態：演習

単位数：1単位

開講年度・学期：平成30年度・1年集中

科目ナンバリング：HQPRA1101

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：本演習を通じて生活問題を体験し、受講生が「生活者の視点」を体得する糸口とする。

科目の主題：食品、居住環境、地域生活の視点からQOL概念の理解を深める。

授業内容・授業計画：学外演習

テーマ	回数	概要
オリエンテーション	1	QOL演習の目的と実施方法について
農場実習	1	神戸大学食資源センターでの農場実習：農業（春）
援農活動	1	「紀の国大学」援農活動：春
地域拠点の構築	1	和歌山県紀美野町の古民家改修プロジェクト（春）
地域拠点の構築	1	和歌山県紀美野町の古民家改修プロジェクト（春）
援農活動	1	「紀の国大学」援農活動：夏
地域拠点の構築	1	和歌山県紀美野町の古民家改修プロジェクト（夏）
地域拠点の構築	1	和歌山県紀美野町の古民家改修プロジェクト（夏）
地域拠点の構築	1	和歌山県紀美野町の古民家改修プロジェクト：夏
地域生活調査	1	古民家改修と関連して地域の実情と生活資源の状況を学ぶ
農場実習	1	神戸大学食資源センターでの農場実習：畜産（秋）
援農活動	1	「紀の国大学」援農活動：秋前半
援農活動	1	「紀の国大学」援農活動：秋後半
地域生活調査	1	古民家改修と関連して地域の実情と生活資源の状況を学ぶ
まとめ	1	演習のまとめ

事前・事後学習の内容：

評価方法：出席状況・レポート評価

教材：プリントを配布する。

備考：演習では、神戸大学食資源センターでの農場実習や、和歌山大学・大阪府立大学・近畿大学・摂南大学などと協働の「紀の国大学」としての援農活動、和歌山県紀美野町での古民家改修プロジェクトなどに取り組みます。実施時期は不定期で、回数は時間によって変更されます。詳しくはオリエンテーションの際に説明します。

受講生へのコメント：「QOL プロモーション」及び「QOL プロモーション演習 I」を同時に履修すること。

科 目 名：QOLプロモーション演習Ⅱ

英語表記：QOL Promotion Fieldwork Practice Ⅱ

担当教員：所 トコロ 道彦・ミチヒコ 小池志保子・コイケシホコ 西川 コシカワ 禎一・ヨシカズ 早見 ハヤミ 直美 ナオミ

授業形態：演習

単位数：1単位

開講年度・学期：平成30年度・1年集中

科目ナンバリング：HQPRA2201

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：QOLプロモーションⅠに引き続き、把握した生活問題やQOLニーズに対し、どのようにして改善策を検討して立案、実施するか、そのプロセスを体験する。

科目の主題：QOL向上のための生活科学の役割

授業内容・授業計画：学外演習

テーマ	回数	概要
オリエンテーション	1	QOL演習の目的と実施方法について
農場実習	1	神戸大学食資源センターでの農場実習：農業（春）
援農活動	1	「紀の国大学」援農活動：春
地域拠点の構築	1	和歌山県紀美野町の古民家改修プロジェクト（春）
地域拠点の構築	1	和歌山県紀美野町の古民家改修プロジェクト（春）
援農活動	1	「紀の国大学」援農活動：夏
地域拠点の構築	1	和歌山県紀美野町の古民家改修プロジェクト（夏）
地域拠点の構築	1	和歌山県紀美野町の古民家改修プロジェクト（夏）
地域拠点の構築	1	和歌山県紀美野町の古民家改修プロジェクト（夏）
地域生活調査	1	古民家改修と関連して地域の実情と生活資源の状況を学ぶ
農場実習	1	神戸大学食資源センターでの農場実習：畜産（秋）
援農活動	1	「紀の国大学」援農活動：秋前半
援農活動	1	「紀の国大学」援農活動：秋後半
地域生活調査	1	古民家改修と関連して地域の実情と生活資源の状況を学ぶ
まとめ	1	演習のまとめ

事前・事後学習の内容：

評価方法：出席状況・レポート評価

教材：プリントを配布する。

備考：QOLプロモーション演習Ⅰでの経験を基盤に、より高度な課題を設定します。

受講生へのコメント：「QOLプロモーション演習Ⅱ」の履修は「QOLプロモーション演習Ⅰ」を修得していること。

※平成27年度以前入学者は、「QOLプロモーションⅡ」及び「QOLプロモーション演習Ⅱ」を履修すること。

